

司(同、麟趾門)等。
裡(石欄街)等。

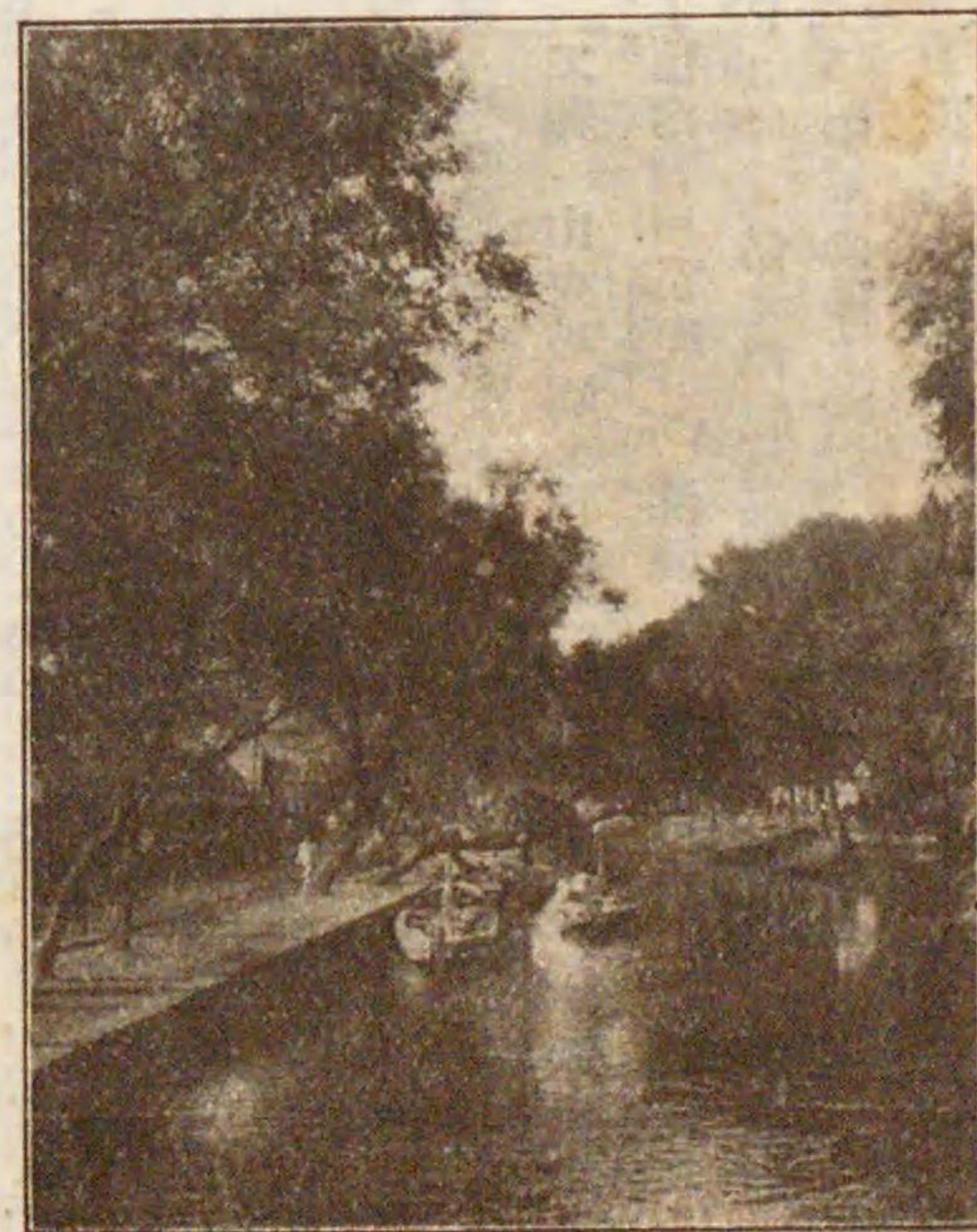
*【山東兵器廠】 主として兵器の製造を目的とし、廠内機器所、火薬所、鎗子(彈丸)所、白薬所、煉鐵所、鑄鐵所、軋銅所、化銅所、木工所、工程所の十所を置き、外に技術者養成機關として高卒藝徒教育所を附設せり。

**【工藝傳習所】 農工商務局の創設に係り、民營工場の模範として營造せられたる當地唯一の官營工場にして、銅鑄廠、毛織廠、織布廠、織布廠、木製廠、洋車廠の六部を置き、就中銅鑄廠規模最も大なり。

新聞 山東日報館(城内寬厚所街)、大東日報館(同、鞭指巷)、齊民報館(同、將軍廟街)、山東實業公報(山東實業司發行)等。

遊覽場所 【商品陳列館】 (B5) 商埠公園内に在り(入場料三仙)。清朝宣統三年實業司の創設に係り、陳列品は農業、林業、鑛業及水産業その他各種製造工業に關する生産品及美術工藝品、特許品等を主とし、他省の生産品及外國製品を參考品として陳列す。

【圖書館】 (G3) 城内大明湖の西南隅に在り(入場料三仙)。面積東西四十五間、南北五十間、前貢院の舊址にして湖面と相對し景致に富む。蓋し公園の性質を併有するものにして、多數の支那古文書を包藏し珍籍尠からず。別に



(頁六五二) 路水河清小

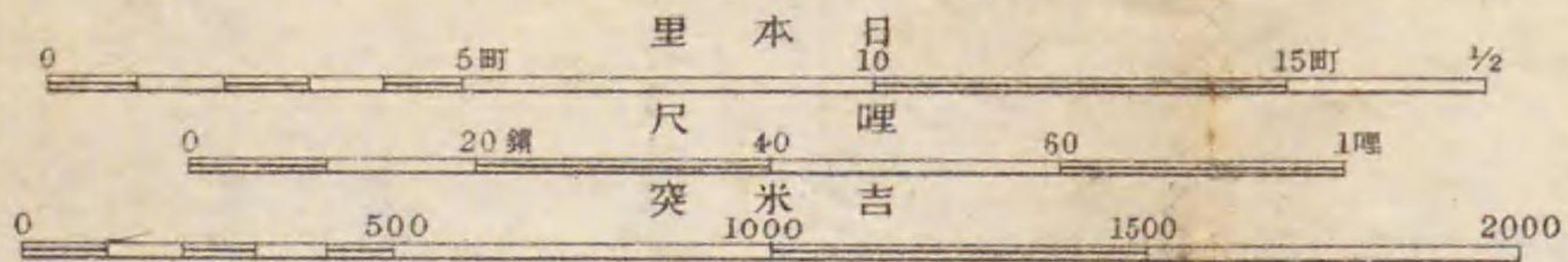
附屬博物館あり、動植礦物、及醫學上の參考品を展列す。
【廣智院】 (G6) 城內西南關山水溝に在り。一種の博物館にして毎日開館、觀覽無料なり。英國宣教師の經營に係り、最初青州府に於て小規模に開設したるものを此地に移せるなり。館内陳列品の主なるものは動植物、礦物の標本、天體運行の模型、各種機械器具その他諸般の學術參考品にして、地方人智の啓發に貢獻する所多しと。



- 1 守軍備司
- 2 軍政
- 3 郵便電
- 4 格ラド
- 5 水先
- 6 軍事
- 7 水道
- 8 千島
- 9 青島
- 10 青島
- 11 青島
- 12 消防
- 13 獨逸

青島

一之分千五万二 尺縮



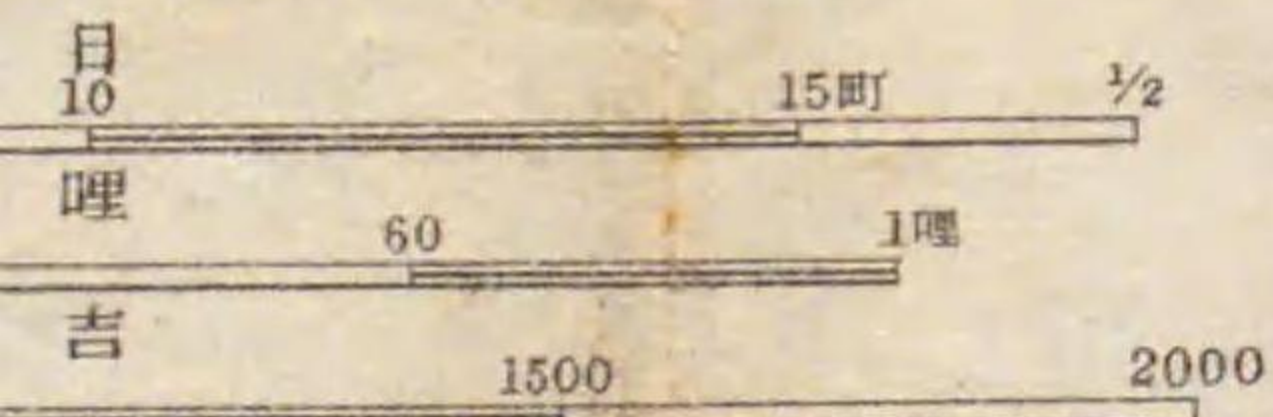
- | | | | | | |
|-----|------------|----|-----|----------|----|
| 7.F | 會教善同西瑞 | 14 | 8.F | 部令司軍備守 | 1 |
| 7.E | 會教督基本日 | 15 | " | 署政軍 | 2 |
| " | 園公山深 | 16 | " | 局話電便郵 | 3 |
| " | 會總務商 | 17 | " | ルテホドンラゲ | 4 |
| " | 行支行銀東山 | 18 | " | 内案先水 | 5 |
| " | 行支行銀國中 | 19 | " | 廷法事軍 | 6 |
| " | 店支行銀口龍 | 20 | " | 部道水 | 7 |
| " | 所張出行銀金正濱橫 | 21 | " | 園公葉千 | 8 |
| " | 場市菜魚局便郵島鮑大 | 22 | " | 隊分兵憲島青 | 9 |
| " | 堂學公人那支 | 23 | " | 社報新島青 | 10 |
| 5.F | 店支行銀海上港香 | 24 | " | 部樂俱會民市島青 | 11 |
| 4.F | 所張出部本部輸運 | 25 | " | 廠防消 | 12 |
| " | 部務港局頭埠 | 26 | " | 會教力持加逸獨 | 13 |



其の各水ま化流して西門外に出で小清

青

方二尺縮



- 部令司軍備守 1
- 署政軍 2
- 局話電、便郵 3
- ルテホドンラゲ 4
- 内案先水 5
- 廷法事軍 6
- 部道水 7
- 園公葉千 8
- 隊分兵憲島青 9
- 社報新島青 10
- 部樂俱會民市島青 11
- 廠防消 12
- 會教力持加逸獨 13



膠

隊備防軍海
場市魚合組産水

山年万
(山ケマスヒ)





隊備防軍海

場市魚合組產水

所電發

場戲

橋粉有

院分鎮西臺

院病島青部理管道鐵東山

校學女等島

部理管道鐵東山

クラブ

院分町新

院病軍備守

院病軍備守

青島病院

會教音福邊獨

校學小常島青二第

場禁囚軍備守

橋牛媽

支那廟

旅順町

東岬

岬性會

山年万

(山ヶアズヒ)

132

山尾神

所信電線無軍海

碑念記鋼古

明

邸官官司令軍

園

有

園

公

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

旭

園

地墓人歐

堂骨納

署務林

營兵旭

青島中學校

所濯洗

海忠

(海アリトクヤ)

灣旭南

【大明湖】^{ターミヌホー} 城内北隅に在り、周廻約四哩景致幽邃なる湖水にして、濟南都人士の好遊歩地たり。試みに鵲華橋^{チヤオホアチヤオ}又は司家碼頭より畫舫^{ホアフナ}(舟賃大船一日約二弗、半)を雇うて湖上に泛ぶれば、舟夫權を操つて葭蓮の間に逍遙し、或は古雅なる古歴史亭を訪うて石摺等の珍品を賞し、或は覺漚亭^{チヤオオウテイヌ}を一覽するに可し。其の他湖畔及湖中の島にも三、四の廟亭散見し夏季の清遊に適す。

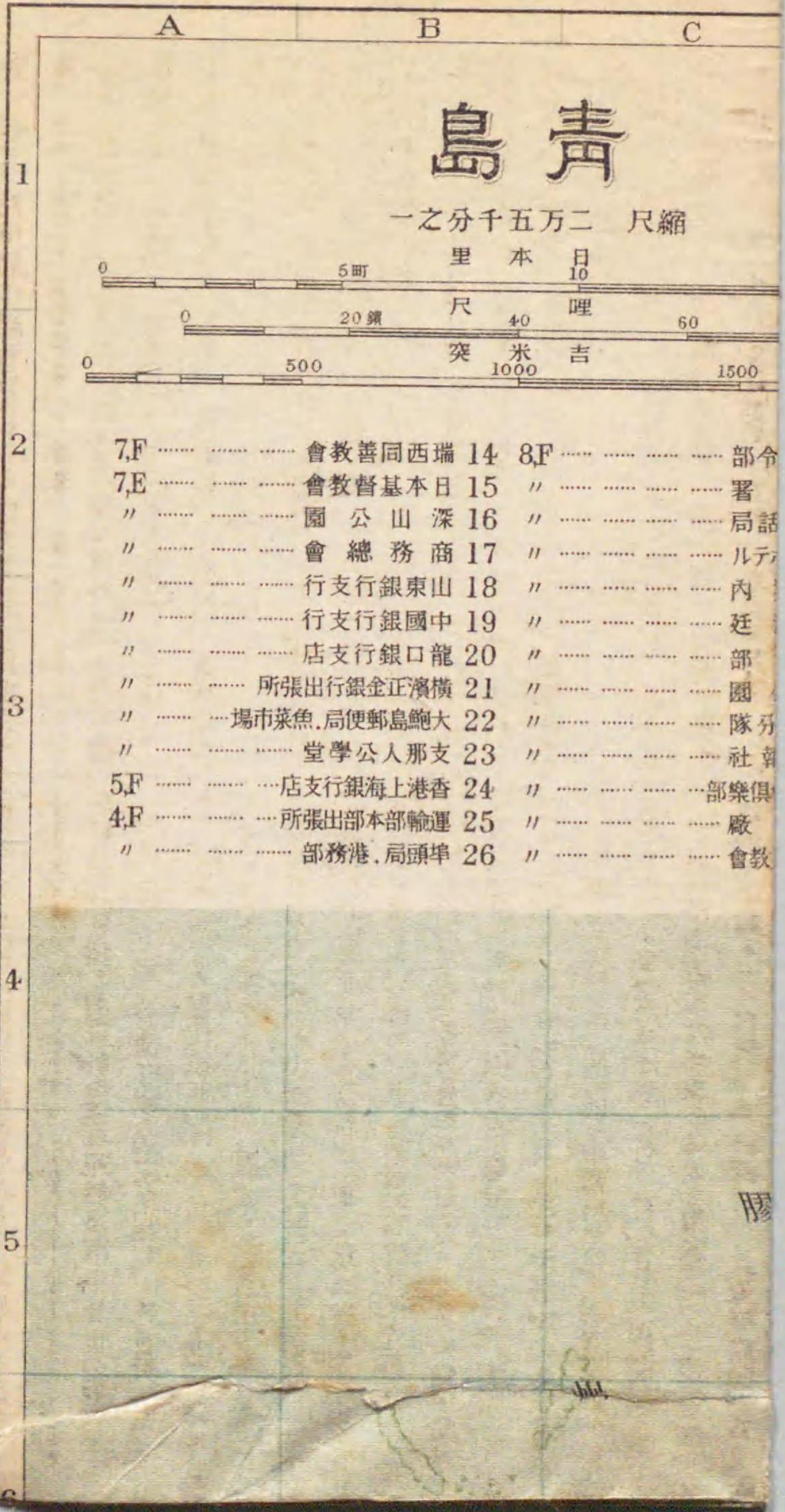
【釣突泉】^{ポイトウチニアン} (F5) 南關呂祖廟内に在り。城内最殷賑の街衢にして、恰も我淺草雷門又は大阪千日前に酷似し、殊に二、七の市日には滿都の子女悉く此處に集まり、肩摩毆擊雜踏を極む。泉は呂祖廟殿の直前に在り、三泉噴湧

【商埠公園】(B5) 商埠三馬路の中央、緯四路の南首に在り。商埠局の經營に係り、東西二百間、南北六十間、正門の西に入場券賣場(入場料三仙)あり。園内中央には大廣間あり、その南に西洋料理店海國春あり、それより稍東南に偏して船形の一家屋あり、内に茶席を設けて客を待つ。その他園内には築山、泉水、運動場、休憩所、音樂堂等あり。

【千佛山】^{チエンフオshan} 濟南府城の南方に在り、往昔舜帝の耕耘せられし處と傳ふる歷山支脈の一にして、其の中腹に隋時代の創建に係る古刹ありて、山頂の展望と共に其名顯はる。岱安門(城市南門)外より山橋を賃して登れば、蒼鬱たる樹林の間透迤たる石磴を辿りつゝ、行々目に觸る、景致雅趣掬すべきものあり。廳て第一門を潜り、更に數層の石磴を進めば第二門に達す。門内には壯麗なる佛閣數座を數ふべく、更に堂宇數棟相連なる一廓に至れば境内後方の巖壁に千二百餘年前の彫刻に係ると傳へらるゝ千餘の石佛あり、是れ千佛山の名ある所以なり。又附近に龍泉洞^{ロウチンアウ洞}と稱する巖窟あり、洞内には四時碧水を湛へて一見凄愴の感を起さしむ。若しそれ山頂の展望に至つては、近く濟南城市及商埠の全景を俯瞰すべく、遠く黄河、小清河上に點々たる白帆、或は濼口、黃臺橋碼頭に戎克輻輳の狀を視界に收むる等正に一幅の畫圖の如し。

【大明湖】^{ターミヌホー} 城内北隅に在り、周廻約四哩景致幽邃なる湖水にして、濟南都人士の好遊歩地たり。試みに鵲華橋^{チヤオホアチヤオ}又は司家碼頭より畫舫^{ホアフナ}(舟賃大船一日約二弗、半)を雇うて湖上に泛ぶれば、舟夫權を操つて葭蓮の間に逍遙し、或は古雅なる古歴史亭を訪うて石摺等の珍品を賞し、或は覺漚亭^{チヤオオウテイヌ}を一覽するに可し。其の他湖畔及湖中の島にも三、四の廟亭散見し夏季の清遊に適す。

【千佛山】^{チエンフオshan} 濟南府城の南方に在り、往昔舜帝の耕耘せられし處と傳ふる歷山支脈の一にして、其の中腹に隋時代の創建に係る古刹ありて、山頂の展望と共に其名顯はる。岱安門(城市南門)外より山橋を賃して登れば、蒼鬱たる樹林の間透迤たる石磴を辿りつゝ、行々目に觸る、景致雅趣掬すべきものあり。廳て第一門を潜り、更に數層の石磴を進めば第二門に達す。門内には壯麗なる佛閣數座を數ふべく、更に堂宇數棟相連なる一廓に至れば境内後方の巖壁に千二百餘年前の彫刻に係ると傳へらるゝ千餘の石佛あり、是れ千佛山の名ある所以なり。又附近に龍泉洞^{ロウチンアウ洞}と稱する巖窟あり、洞内には四時碧水を湛へて一見凄愴の感を起さしむ。若しそれ山頂の展望に至つては、近く濟南城市及商埠の全景を俯瞰すべく、遠く黄河、小清河上に點々たる白帆、或は濼口、黃臺橋碼頭に戎克輻輳の狀を視界に收むる等正に一幅の畫圖の如し。



途路 26 青 島 Ching-tao

附嶗山

【到着】青島は陸面山東鐵道を介して支那内地各方面より鐵路到着の便ある外、海路交通亦至便にして我神戸、門司方面を首め香港、上海又は天津、芝罘、大連等の支那沿岸諸港より定期船の發着又は寄港船便(總論交通條下參照)あり。【停車場】は埠頭區に近き大港停車場(G4 舊大碼頭車站)及青島市街の中樞に近き青島停車場(E8 橋須賀町)の二あり。【埠頭】は市街の北端大港内に在り、二大棧橋を備へ船客の乗降極めて便利なり。

【人力車】停車場、埠頭等には客待するもの多數あり、賃金は市内一五町未滿銀五錢、五町以上五町毎に二錢増、市外一里に付銀十五錢、一日雇切(約十時間)銀八五錢、半日五〇錢、客待一時間五錢、二人曳又は往復は夫々七割増、夜間一割増、泥濘、雨雪の際は一割五分増。【自動車】一時間銀四圓、半日一五圓、一日二五圓。【馬車】一時間七〇錢、半日三圓、一日五圓位。

【通貨】青島及山東鐵道に用ゐらるゝ通貨は軍票、日本圓銀、及橫濱正金銀行發行の銀券を以て本位とし、十錢以下は支那銅貨を混用することを得。

9 海水浴場前、安東館(佐賀)、以上特等旅館にして宿泊料(夏季限營業)

旅館 グランド・ホテル(4F8 舞鶴)、海岸ホテル(I)

銀五圓以上。青島旅館(天津)、吾妻館(深山)、大和ホテル(麻布)、青葉館(治徳)、金水館(上)、松森館(山東)、蓬萊舍(葉櫻)、以上一等旅館、宿泊料銀四圓、晝餐一圓五〇位。その他二等旅館(宿泊料銀三圓)、三等旅館(晝餐八〇錢位)、各十餘軒あり。

料理店 歐風料理店は前記グランド・ホテル兼營のもの一あるのみ。日本料理店には大辰(新)、第一樓(膠州)、桑の家(同)、漣(平度)、三浦家(町)等あり。

領事館 英國領事館(萬年)、米國領事館(赤羽)、露國領事館(米町)。

郵便電信 青島野戰郵便局(佐賀)、青島軍用通信所(同)、大鮑島郵便局(22E F 7 山東)、大港郵便局(F 5 櫻葉)、青島無線電信所(G 7 神尾)、青島電話所(3 F 8 佐賀)。

市街概観 青島は山東省の東南岸に灣入せる膠州灣の東北沿岸に在りて、黃海沿岸より山東内地に入る恰好の咽喉地たり。市中は一般に衛生設備完全し、到處に翠綠麗はしき街路樹を見るべく、道路は個所により幅員に多少の差あれども、概ね廣潤にして車道と歩道を區別し全部「アスファルト」、人造石等を以て疊めり。市街は獨治時代より青島區(歐州人街)及大鮑島區(支那人街)の二區に分てり。

【青島區】南方青島灣の碧波に溢み、背後に青松綠樹を戴く丘陵を負ふ風光明媚の地域を占め、白堊赤壁の大廈高樓連簷櫺比する處、青島守備軍司令部、軍政署を首め諸官衙、官舎、學校、俱樂部等皆此區に集まり全市街の中樞たり。【大鮑島區】青島區及埠頭に隣接し、日支の家雜然として櫛比する處、其の西北方に大港及小港を控へて自ら青島商業の中心地區たり。要するに現在の青島は獨逸人苦心の結晶を邦人の手に繼承して、益々其の長所を發揮し、以て日支交歡の最好適地たらしめたる處とす。若し夫れ郊外の臺東鎮(東北)及臺西鎮(西南)に至つては純然たる支那部(カイトスチエン)落なれども、街衢比較的清潔にして孰れも坦々たる良道により青島市街に通ず。【人口】青島市街の人口は諸外人を通じて約四萬三千五百人(大正六年)を算し、内三割強は邦人なり。埠頭設備 【大港】青島港に於ける航洋船舶碇繋所に於て大鮑島區の西北方に在り、東、西、北の三方に互り總延長四千五百米突、幅員及高各五米突の防波堤を鉤形に築



園 公 櫻 島 青

造し以て灣内の波濤を防ぐ。防波堤の南部には相并行せる二條の突堤あり、その南側なるを第一埠頭(長七二〇米突、幅員一〇〇米突)、北側なるを第二埠頭(長四〇〇米突、幅員一〇〇米突)と稱し、兩者の間に一五〇米突の間隔あり、六千噸級の船十二隻を同時に繋留し得べしと。突堤及防波堤上には鐵軌を敷設して貨物の連絡運輸に便し、又埠頭附近には倉庫及石炭置場を設くる等港灣としての設備略完備せり。【小港】沿岸貿易に使用せらる、小形汽船及民船の碇泊に便するため大港の南隣に築造せられたるものなれども、其の規模設備共に大港に比すべくもあらず。【青島棧橋】大港の構築前當地出入船舶の碇繋に便せしものにして、青島灣内に突出す。陸岸より百米突位迄は幅員約八米突の石造突堤にて、更にその末端に長約二十九米突、幅六米突の棧橋あり。

【沿革】抑も青島なる名稱は青島灣内の一小島(獨逸人は之を「アルコナ」島と呼べり)の名に因めるものにして、夙に東洋方面に完全なる海軍根據地を獲得せんと焦慮し居たる獨逸は此地の自然的要害に著目し、一八六九年より一八七〇年に亘り學者武人の特派して詳細なる實地調査を行はしめ、愈々その有望なるを確むるや只管占領の機會を待ちたり。其の後一八九七年十一月中偶々山東省内に獨逸宣教師發

害事件勃發するや、好機逸すべからずとなし直に支那政府に交渉を開始し、翌年膠州灣の防備に必要な一帯地を九十九年間租借するの條約を締結し、之を總稱して膠州と呼び其市街區に冠するに青島の名を以てせり。爾來獨逸の拮据經營十有六年にして、元の一小漁村は純然たる歐風市街と化し、諸般の文明的施設を具備するに至れり。されど大正三年日獨戰役の結果現に邦人の管理する處たり。

官公署 青島守備軍司令部(1 F 8 通)、青島軍政署(2 F 8 通)、青島憲兵隊(9 E 7 通)、海軍防備隊(D 6 小)、膠海關(F 4 早舟)、山東鐵道管理部(D 8 9 舞鶴)、林務署(J 8 旭)、旭兵營(K 8 上)、若鷓兵營(J 5 若鷓)、陸軍運輸本部(出張) (25 F 4 早舟)、港務部(26 F 4 大和)、埠頭局(26 F 4 大和)、測候所(F 7 八幡)、發電所(D 7 廣島)、水道部(7 F 8 姫路)、消防廠(12 F 7 麻布)、屠獸場(D 7 鎮西)等。

學校 青島中學校(J 9 旭兵)、青島高等女學校(D 8 幸)、青島英學院(馬關)、支那語夜學校、青島公學堂(支那人に對する初)、青島日語學堂(公學堂内に在り、支那人に對する初)、獨逸學校、明德中學校(米國人)。

病院 青島守備軍病院(G 7 萬年)、山東鐵道管理部青島病院(D 8 場通)、青島病院(G 7 萬年)、同上新町分院(G 6 膠州)、同上臺西鎮分院(C 7 鎮西)——以上官設。大正醫院(李村)、鈴木醫院(馬關)、日本醫院(天津)、平川齒科醫院(靜岡)等の外、天主堂同善醫院、福柏醫院(孰れも外して、教會附屬)等あり。

銀行 橫濱正金銀行(出張) (21 E 7 靜岡)、龍口銀行支店(出張) (20 E 7 保定)、中國銀行(分) (19 E 7 上)、山東銀行(分) (18 E 7 河南)、香港上海銀行(支) (24 F 5 葉櫻)、青島信託會社(天津)、日昇銀號(靜岡)等。

會社商店 【邦商】 大日本麥酒株式會社(J 5 長)、大連汽船會社(葉櫻)、江商合資會社(天津)、南滿洲鐵道會社埠頭事務所(葉櫻)、大倉洋紙店(一名大文洋行(靜岡)、神戸棧橋株式會社(早舟)、大阪商船會社(葉櫻)、日本郵船會社(上)、日本棉花會社(北京)、三井物産會社(天津)、山口嘉藏商店(濱松)、鈴木商店(北京)、東亞煙草會社(山東)

東和公司(北京)、原田汽船會社(早霧)、岩城商會(葉櫻)、峰村洋行(上)等。

【支那商】 悅來公司(運送) (北京)、洪泰號(木) (廣島)、復誠號(山東)、大有恒(上) (即)、天誠號(上) (同)、裕昌號(上) (同)、泰生東(北京)、雙盛泰(保定)、恒祥棧(天津)、福和永(通)、天祥永(北京)、通聚成(上) (河南)、鎮昌利(鐵) (大沽)、Jardene Matheson & Co. (葉櫻)、美孚石油會社(出張) (東鎮)、亞細亞石油會社(H 3 上)。

商業 【貿易】 一九一六年中の當地貿易總額は四千七百六十萬海關兩、其内輸入額は二千四百六十七萬海關兩、輸出額は二千二百九十三萬海關兩を算し、逐年増加の趨勢に在り。【輸出入品】 輸出入品に於ては一般住民の日用品たる雜貨を首めとし、各種染料、綿糸、木綿織物、金物類、燐寸、石油、紙類、砂糖等之に亞ぎ、又輸出に在りては落花生(約五十萬擔)、落花生油(三十萬擔)、鹽(八十萬

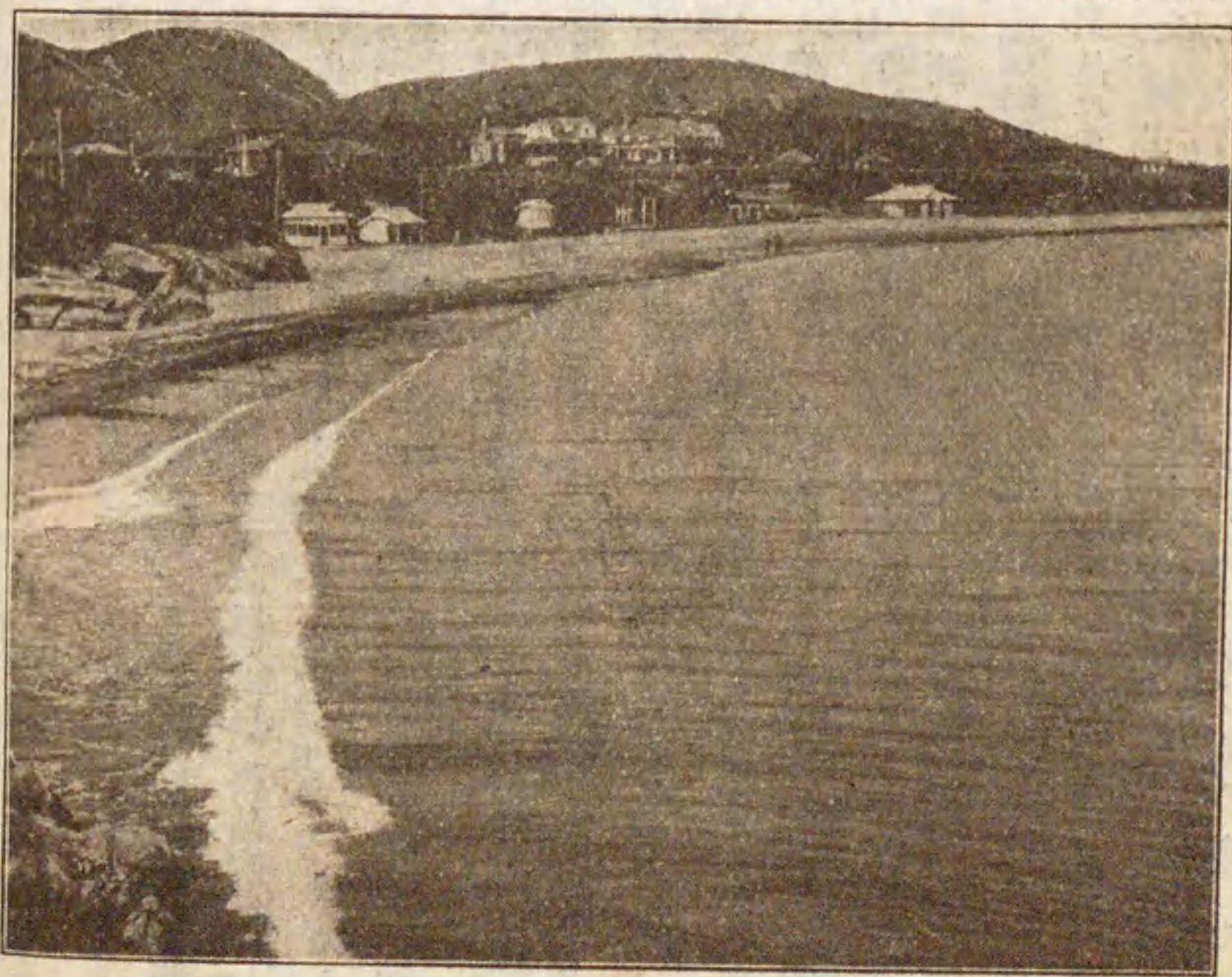
擔)を大宗とし、その他豆油、豆粕、牛皮、生牛、鶏卵、木材(主として桐)、石炭、絹織物等とす。【商業機關】邦人側には青島實業協會、支那人側には商務總會(17E7)あり。

工場 大日本麥酒株式會社青島工場(丁5町長)、罐詰製造株式會社(濟南)、青島製絲工場(鎮東)、青島製粉株式會社(早霧)、内外棉花株式會社(四方)、青島卵粉製造所(大港)、信昌洋行石鹼工場(場通)、ヘモツマイン塗料工場(姫路)、その他小規模の硝子工場、煉瓦工場、鐵工場等市中各所に點在せり。

娛樂場 【劇場】青島座(日本劇大沽)、慶春舞臺(支那劇北京)。

【活動寫眞】樂々館(山東)、旭座(直隸)、演藝館(天津)。

【海水浴場】萬年山(舊名ビスマーク山)の南面綠樹の間に點々たる別荘を背景とし、靜波岸を洗ふ藍碧の海は是れ即ち忠の海(舊名ヅキクトリア灣)にして、海水の清淨支那沿岸中第一の稱あり、海水浴の好適地たり。往年獨逸は此處に脱衣場、音樂堂、各種遊戯場、旅館等を設け、支那内地



青島海水浴場

は勿論遠く濠州方面より外人避暑客を誘致して好評を博したり。海岸ホテル(舊「ストランド・ホテル」、宿泊料第二六〇頁参照)は避暑客の爲夏期中營業す。

【萬年山】(I7) 標高約一三〇米突、青島の背面を遮斷し、東は嶗山と相對し、北は巫山及馬鞍山を望むべく、南方遙に膠州灣外に碁布する青螺を數ふべし。元獨逸が青島防備の中堅として永久砲臺を構築したる處にして、青島戰役の際我軍奮戰の地たり。

【旭山】(K8) 青島市街の東方里餘の地に在り。舊名を「イルチス」山と稱し、膠州灣内を一眸に收め市街を脚下に見る、眺望絶佳なり。山麓に旭兵營あり、山頂及附近各所には激戰の痕歴然たる舊砲臺を見るべし。

【若鶴山】(H5) 標高約八〇米突、舊名を「モルトケ」山と稱し前記二山と共に永久砲臺の在りたる要塞地帯なり。山頂には李村水源地より來る水道に水壓を加へ市街に給水する一大貯水池あり。西方山腹には本邦より神靈を奉遷したる青島神社あり。

【旭公園】(IJ8) 俗に櫻公園と稱し、旭町及櫻大

路を中心とし旭山麓に連なる。公園としての設備未だ完からずと雖も、獨治時代に移植せられたる櫻樹多く、陽春の候燦爛たる萬朶の花を賞すべし。北端に近く納骨堂あり、青島戰役戰死者の遺骨を奉祀す。此他公園の名を冠するものに有明公園(神尾山)、深山公園(16E7町深山)、千葉公園(8E8町佐賀)、新町公園(F6町新)等あり。

【臺東鎮】(タイトスチエン) 青島市街の東端よりの北東約二十町に在り。獨逸が青島經營の當初臺西鎮と共に新設したる純支那市街なれども土地高燥、街衢整然たるを以て他地方に於ける如き陋巷を見ず、主として第二流以下の商賈櫛比し、陸路方面に於ける青島の關門たり。人口約五千を算す。

【李村】(リーツン) 青島の北方九哩餘に在り。人口二千を算する一部落なれども、其の位置恰も青島の頸部を扼し嶗山、沙子口、即墨、膠州等に達する通路の要衝に在り、又附近地味肥沃にして農産に富む。軍政署出張所、憲兵分隊、郵便電信局等あり、青島との間に二條の良道通じ定期自動車(片道五〇錢位)の運行あり。



圖近附山嶗及島青

嶗山の遊覽

嶗山概観 嶗山は膠州灣租借地東方境界線の全部及北方境界の一部に跨る約三里四方の地積に蟠屈する一山系にして、泰山(第二四四頁参照)と共に山東名山の雙壁たり。全山悉く花崗岩質の巉岩を以て蔽はれ、樹林の風致に乏しと雖、清澄玉を欺く溪流到處に潺湲たり、磊砢たる奇岩其の間を點綴して山光水色轉々歎賞するに勝へたり。客若し一度此幽邃なる山中に入らむか、或は連巒重疊山路を挟んで屹立せる斷崖上孤松蟠屈して飛猿の状を呈せるあり。或は崎嶇たる山徑溪底に没する處突兀たる巖巖參差して千態萬狀恰も夏雲の如きあり。或は奇峰亂立して雲表を破り脚下に奔流淙々の響を傳ふる等、神斧鬼鑿の妙景歩を轉するに隨て千變萬化し來るを見む。尙ほ此天然の絶勝に加ふるに古刹、廟觀の鑑賞すべきもの尠からず。登山者の興趣愈々以て盡きざるべし。

【探勝路及準備】青島より臺東鎮、河西を経て李村(九哩餘)に出で、それより張村河を渡り更に猪窩河畔の一部落旱河を過ぎ、同河の流域に沿うてその上游九水に至る行程約十七哩、自動車ならば約五十分にて達すべし。而して嶗山々中の奇勝、舊蹟を悉く巡覽し

時して斷續す。

つ、其の絶頂を極めんとせば、健脚の士と雖尙ほ旬日を要すべく、隨て嶗山の眞價を知るを得べし。此場合登山者は青島出發前に寢具、食料品等諸般の準備を調へ且山中の事情を精通せる案内者を同行するを要す。然れども普通遊覽客は前記九水より柳樹臺(九水より約五哩)を経て北九水に至る探勝を以て一日の清遊を試みれば嶗山の一斑を窺知し得べし。

【車馬賃】青島より九水を経て柳樹臺登山口なる板房迄は自動車、馬車を通すべく、一日備切(孰れも四人乗)自動車銀二五圓、馬車銀五圓。板房より前途の轎子賃は柳樹臺迄四〇仙(往復七〇仙)、北九水迄八〇仙(往復一弗五〇)。但し轎子を用ひず徒歩する場合は案内者(北九水迄三〇仙)を儲ふべし。

九水 猪窩河畔、旱河の上游に在り、嶗山奇勝の第一關とも稱すべき所にして、溪水に菴む處亭々たる老樹の間に瀟瀟たる一洋館あり。是れ獨治時代の休息所にして、現に敷島と稱する邦人經營の旗亭兼旅館(一泊三)なり。此處よの尙ほ溪流に沿うて遡り有名なる彈月橋を渡れば、右方古樹鬱蒼たる山麓に【九水庵】の古刹あり。九水の仙景は此地點に達する稍手前より山溪漸次相整り、岬々たる巉岩、奇峯の涯下に溪流潺湲として流れ、矮松稚樹岩石の間に隠見して歩一步

景致佳境に入り、柳樹臺まで約二里の間猪窩河の兩岸に對

九水を渡して約十五分、自動車の停車する處は即ち柳樹臺の登山口(板房)にして、以往の山路(幅一間半位)は徒歩又は轎子(賃金車馬賃の條参照)に頼る。此處には常に客待の轎子若干あり。板房より臺上に至る約二十五町の阪路兩側には種々の草花咲き亂れ優婉を醸ふ景極亦捨て難し。

柳樹臺 嶗山連峯中眺望冠絶し且最も登山に便なる一高地(海拔一五〇〇尺)にして、山頂には往年獨逸が漫遊客及病者の爲めに巨資を投じて建設したる「メクレンブルヒ」保養院ありたるも、大正三年戦役の兵燹に罹り残骸を止むのみ。その外には邦人經營の茶店泉屋及支那人の營む休憩所等あり、果實、飲料等を賣る。

北九水 柳樹臺上より東北に向つて急坂を下れば、約三十町にして白沙河の上流北九水に達す。左右の山腹に點々たる赤煉瓦の建物は元獨人の別荘にして、現に青島林務署の出張所あり。橋を渡れば【北九水廟】あり、規模宏壯ならずとも雖、廟前を奔流する河底雪白銀河の如き白沙河の清流と相映する雅景は正に俗腸を洗ふに足るべし。更に白沙河の上流に沿うて東南行すれば、河東峙と希望峙の交叉點(海拔二、五

五〇尺)に獨逸青島登山俱樂部の建てたる【イレネー】小舎あり。それより一水、二水等の探勝を試むべし。又北九水より白沙河の下流に出づれば【大嶗觀】、【水清宮瀑布】等の諸勝あり。

嶗頂 嶗山主峯の絶頂にして、舊獨逸租借地外に位し海拔約三、七三〇尺を算す。嶗頂は約半疊敷位の平面岩にして、何等社祠等のあるを見ず、四邊の展望雄大壯絶を極む。青島よりの登山道に二あり。一は前記柳樹臺より(3)道標(道標)道を東南に進み境界線を踏えて達するもの、他は青島より東方海岸に沿うて登臺に出で(7)道を辿るものなり。

太清宮 嶗山々系中東南隅に偏したる山麓に在りて太清宮灣に瀕す。青島よりは水陸二路あり。陸路は前記登臺に出で更に海岸に沿うて嶮峻なる隘路を辿るものなれども、交通至難なれば、嶗山の遠望を賞し且時間を節するには寧ろ海路を採るに如かざるべし。廟は境内廣濶にして宏壯なる丹碧の殿堂多きこと山中第一と稱すべく、庭園花壇ありて古碑老樹は恰も數千歳の昔を語るに似たり。附近風光亦明媚なるを以て海路一日の清遊に値すべし。



九水の巖

白雲洞 是れ亦廟名にして嶗山の東北隅、海岸より約半里、海拔千餘尺の山腹に位置し、山海の勝景に富むこと山中諸廟に冠絶す。廟は大木、巨岩より成る自然の堂宇にして、人工的裝飾に乏しく、却て觀者をして森嚴の感に禁へざらしむ。若し夫れ黎明禱を蹴て巖頭に立たんか、旭日昇天金波を濛へ、紫雲飄飄奇峯に懸り、靈鶴一聲碧空に舞うて思はず快哉を叫ばしむ。白雲洞の東南約一里に【華嚴庵】あり、庭園の風致を以て著はる。

途路 27 青島濟南間 (山東鐵道)

本線は青島を起點として省城濟南に達する幹線約二四六哩三(三九七基)及途中張店より分岐する博山支線約二四哩三(三八基八)の延長を有する廣軌鐵道にして、濟南に於て津浦線に接續の便あり。

【列車便】 青島濟南間直通旅客列車は兩端驛より毎日二回(内一回は夜行列車)あり、約十時間半乃至十一時間を要す。其の他濰縣を中心として區間混合列車各兩三回あり。【賃金】 青島濟南間一等一四圓三〇(寢臺料三圓)、二等七圓二〇。【手荷物】は一切無賃輸送を取扱はず、又一、二等旅客には手荷物の車内携行を許さず。【通貨】 山鐵管理部の通貨は軍票及橫濱正金銀行銀券(但十錢未満は支那銅貨にて可)に限らるるを以て、旅客は豫め構内兩替店に就き準備するを可とす。

【沿革】 山東鐵道の由來は西紀一八九七年獨清間に締結せられたる北京條約に基き、獨人の組織に係る山東鐵道會社之が敷設經營に任じ、一九〇四年中約六箇年にして全線竣工を告げ、續て營業を開始したるに始まる。其の後大正三年(西紀一九一四年)日獨開戦の結果我鐵道聯隊の占領に歸し、翌年之を山東鐵道管理部に引繼ぎ以て今日に至る。沿途概觀 本線沿途一帯地は高山峻嶺に乏しく、纔に百米突乃至百五十米突の丘崗起伏する地點あるに止まるも、大

小河川の線路を横斷するもの多く、隨て夏季出水期には交通を阻害せらる、事稀ならず。又沿線地方の地味は膠州以西に於て肥沃なり、特に濰縣以西鐵路の北方は黃河流域の沖積層なるを以て土地膏腴にして、高粱、粟、大豆、落花生等の耕地綿亘すれども、膠州以東殊に青島附近は土地概して磽确、纔に果樹の成育を見るのみなり。

青島 Chin-tao 車站は市街の西南隅に在り、山東鐵道の起點として乗降客多し。線路は市街の西側に沿ひ斜に北東走して大港に向ふ。

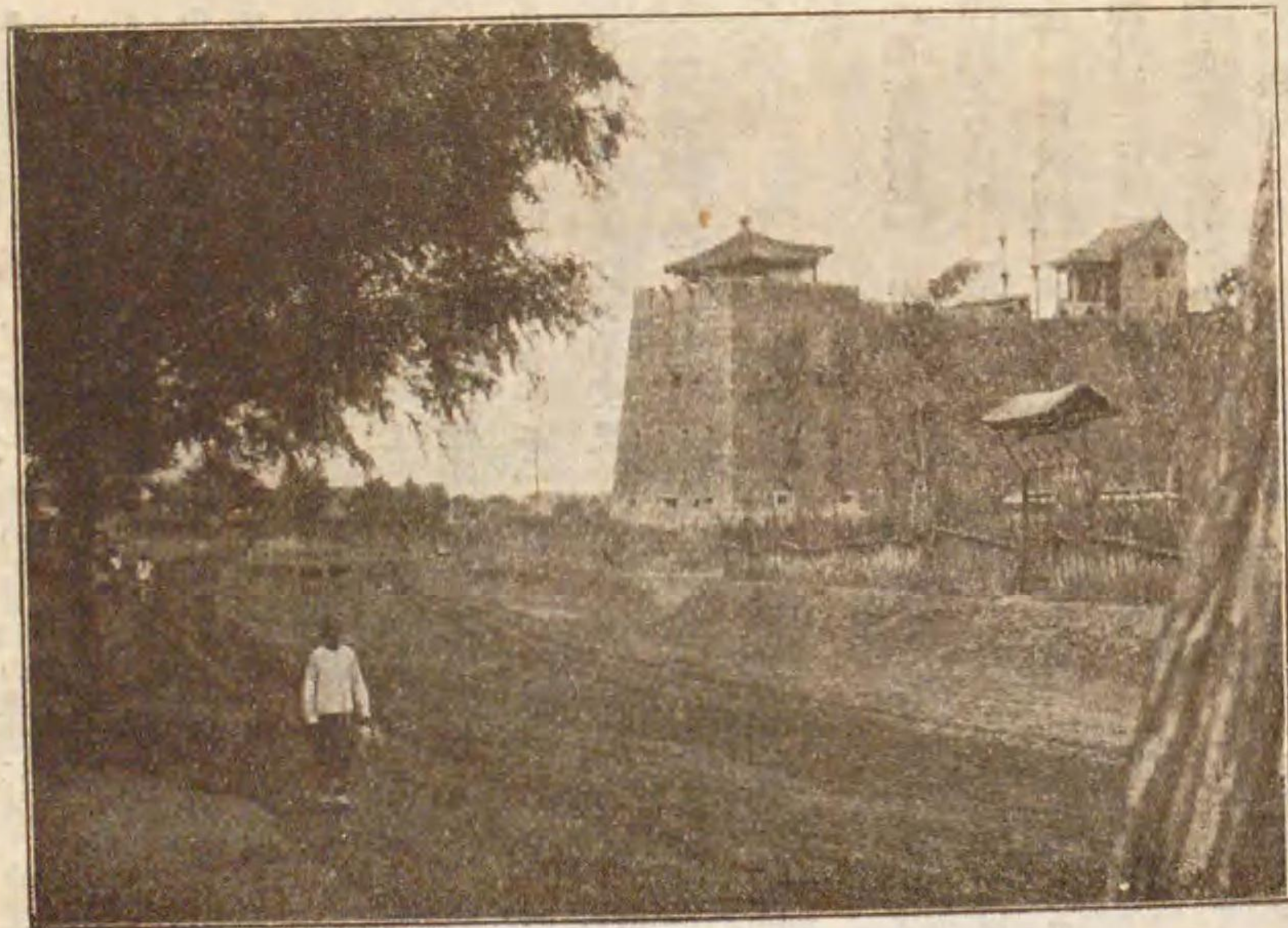
大港 Ta-chiang (一哩八、從青島車站以下皆準之) 市街の北端に在り、もと大碼頭車站と稱せしもの、大港埠頭より貨物連絡線あり。近來青島市街は此方面に發展するの傾向あるを以て、將來市街の中心地たるべし。

四方 Su-tang (四哩三) 車站は線路の西側、海岸の一角に在り。市街は舊名四房と呼ばれし一小寒村に過ぎざりしが山鐵附屬修理工場を首の各種工場設置の餘澤を受け、青島近郊の工業地として益々發展の趨勢あり。附近には日獨戰爭の戦蹟多し。

線路は左側海岸に沿ひ右側に蜿蜒たる丘崗を望みつ、北進し、滄口 Tsang-kow (10哩)、人口二千餘、内邦人約百名)を経て白沙河の鐵橋を渡れば女姑口 Nu-ku-kou (16哩) 2) 陽 Cheng-yang (10哩、人口二千)に至れば漸次北西に轉じ、途中遙に嶗山の雄姿を望み、南 Nan-cl-tan (13哩) 2) 出、藍村 Lan-tsun (13哩) 2) 李哥莊 Li-ko-chuang (16哩) 2) 膠東 Kiao-tung (40哩) を過ぐれば程なく膠州なり。

膠州 Kiao-chou (45哩) 城市は車站の西方に在り、約五町にして外城東門外に達す。膠縣の所在地にして人口約二萬五千を有し、城外東南約七哩、膠州灣沿岸の民船碇泊港塔埠頭と相俟て、附近一帯の民船貿易市場たりしも、山東鐵道開通の結果漸次衰頹の状あり。縣城は二重の城壁を繞らし、東西南北の四關に分る。西關は縣公署を首め諸官衙の所在地にして、東關には富豪軒を連ね、東西に通ずる南北兩關には各種の店舖櫛比す。城外には城隍廟、關帝廟、天后宮、孔子廟等あり。

膠州城を左側窓外に見送り少時平野を駛れば聽て丘崗



城 縣 濰

地帯に入り芝蘭莊 Chih-lan-chuang (5哩) 姚哥莊 Yao-ko-chuang (5哩) を經て高密に入る。高密 Kao-mi (21哩) 高密縣の所在地にして城は車站の東北約二十町に在り。山東岬角の軸部、即ち黃海の斜面と渤海の斜面との分水地帯を占め、風光明媚なること本線沿途中稀に見る處たり。方約一哩の城壁を繞らし四方に各一門を有す。城内には縣公署を首め各種學校、巡警局、郵電局等あり、人口僅に二千餘に過ぎざれども、西は景芝鎮、南は諸城 縣に通じ、此等郡邑に對する地方物資の需給を制し、或は南部炭田地沂州、嶧縣方面への通路を扼するを以て、將來此地よの前記炭田地地方を経て津浦線韓莊に至る豫定鐵路開通の曉には著しき發展あるべく期待せらる。附近一帯地味肥沃にして農産に富む。

高密を出で、棉花の耕園の間を縫ひつ、西北走すること暫時の後、鹽丁又丘崗地帯に入り、蔡家莊 Tsai-chia-chuang (7哩) 塔耳堡 Te-eh-pu (7哩) 文嶺 Chang-ling (7哩) 等を経て、線路は漸く雜河流域に差蒐り、それより昨山 Tso-shan (8哩) 黃旂堡 Huang-peipu (9哩) 南流 Nan-liu (9哩) の諸站を過ぐれば前途の山影視界に色濃くして、路盤の傾斜曲折漸く著し。斯く蝦蟆屯 Ha-ma-tun (10哩) を過れば、聽て前方黒煙抽出する處白聖の洋樓多きを見る。即ち坊子驛なり。坊子 Fang-tzu (16九基八、約106哩) 曾て同名炭礦の所在地として知られし處、即ち往年獨逸の炭礦經營に伴ひ、微々たる一寒村より次第に發展して宏壯なる洋風建築物各所に基布せられ、運炭其他諸設備の整頓と相俟て殷賑なる一市區を形成するに至れるが、大正三年其の廢礦に歸したる後は我守備隊兵舎及山鐵沿線保線上の諸設備等此の地に置かれ、現に尙邦人居住者三百餘を算せり。

【坊子炭田】 坊子車站の西南約三哩に綿亙する丘崗地帯に在り。之が發見は極めて古き時代に屬するもの、如く、古來久しく土民の亂掘に委せられたりしが、膠州灣の租借に依り山東の一角に根據を得たる獨逸は曾て同地方の礦脈研究者として知られし地質學者リヒトホーの踏査報告に端緒を得て、山東礦山會社を起し青島經營と同時に之が開掘に従ひ、一九〇二年始めて九千餘噸の採炭を見たと共に爾來著々大規模の經營を進めて第三年次以後約十年間、毎年平均二十萬内外の出炭を持續したるが、坑道の掘進逐次延長するに従ひ地層の亂掘、

炭質の不純漸く甚しきに會し、始めて當初の豫想に反する事實を發見したるを以て、爾後經營上の利害關係等熟慮の結果、一と先之を廢坑するに決し、而して之が採掘用諸機關、諸設備は漸次淄川炭礦（所謂博山炭礦）方面へ轉用するに至れり。而かも之を以て坊子炭田の炭脈既に盡きたりと爲すは其の早計たる勿論にして、同時に之に對する専門家の所説亦區々なる丈け尙ほ一層考究の餘地多きが如し。

濰縣 Wei-hsien (一六區、約五時間) 縣城は車站の西北一哩弱に在り、驕及驢驕を通ず。地は山東半島の樞軸を占むる商工業の中心都會にして、青島及芝罘の二方面より省城濟南府に至る主路の相交又する處、更に一方羊角溝(第二八一頁參照)を介して渤海水路との連絡ある等交通至便の位置に在り。一九〇六年濟南と共に各國互市場として開放せられたり。

【市街概観】 市街は高さ城壁を繞らせる内城と東西南北の四關より成り、最近人口約七萬と稱せらる。内城は東西約十町、戸數約三千を有し、主として官紳の住宅地にして、商家は其の三分一に足らず。諸官衙、學校、兵營、教會、病院等皆此區に在り。東關は白狼河を隔て、内城と相對して別に廓壁を繞らせり。是れ即ち濰縣の商業區にして豪商巨舖櫛

らる、處、山東内地沃野の中央に位し、南に泰山及沂山の連脈を負ひ、周邊漲河の流域を帶して南の方臨朐縣に連なる形勝の地を占め、省城濟南に亞ぐ都會にして、曾て府稱を冠せしも今は益都縣の所在地たり。絹糸、柞蠶糸、繭紬等の特産物あり青島、上海經由の輸出年額約二百萬兩を算す。

【市街概観】 縣城は是れを分ちて内城及東西南北の四關竝に滿洲城の六區となし、人口約三萬五千と稱せられ、沂河西南より來つて内城と北關とを分つ。就中東、北の兩關最も股賑にして、殊に東關は昌樂、濰縣を経て膠州、芝罘に通じ、北關は駐防八旗の所在地たる滿洲城を経て濟南に達する交通上の要衝に當れり。城内には縣公署、各種學校、病院、コプレスビテリアン、教會等あり。濟南の廣智院(第二五八頁參照)は前記教會の附屬として此地に在りたるを移したるなり。

【青龍寺】 城外約一里に在る大伽藍にして、庭園の閑雅なる景致と共に一覽の價値あらむ。

青州を過ぎ普通 Pu-tung (一五區二) を經て淄河店 Tzu-ho-tien (一五區四) に近ければ、大小丘陵起伏して車窓に迫り、列車は深き切取の間を隱見出没すること數次、聽

比し商取引殷盛を極む。他の三關は共に内城の外側を圍繞すれども多くは雜駁なる陋衢にして見るに足るものなし。**【物産】** 大豆、麥、煙草、落花生等の農産物を主とし、其の外民家婦女の手工に成る綿布、繡箔、漆器、錫器等を合すれば年産額約百萬兩に達し、最近又山東産豚毛及麥稈眞田の集散多し。

濰縣より青州に至る區間は車窓の眺め極めて平凡にして、唯綿々たる耕野の間に大小郷邑の點綴するを見るのみ、その間大圩河 Ta-kan-ho (一四區三)、朱劉店 Chu-liu-tien (一四區二) に次ぐ昌樂 Chang-lo (一五區六) あり。同名縣城の所在地にして、人口約七千を有し生牛、羊毛、家雞、雞卵、豆麵、桐材等の産物あり。殊に生牛市場としては濰縣、青州と伯仲し、毎月六回の定期開市あり。又昌樂は其の北隣壽光縣に對して密接の經濟關係を保ち、相互間貨客の來往頻繁なり。斯くは堯溝 Yao-kou (一三區八)、譚家坊子 Tan-chia-fang-tzu (一三區)、楊家莊 Yang-chia-chuang (一四區) 等の小驛を算へて青州に入る。

青州 Ching-chow (一五區三) 所謂禹貢青州の故地にして支那上古の史籍に著はれ、降ては又明朝發祥の地として知

て淄河鐵橋を渡れば線路南側は逶迤たる連丘を負ひ、北側は一望千里の耕野に連なる。辛店 Hsin-tien (一六區四) を經て間もなく金嶺鎮に達す。

金嶺鎮 Chin-ling-chen (一六區四) 地方の一小驛に過ぎずと雖、驛附近を中心とする金嶺鎮鐵礦は獨人採掘準備の後を繼承し、爾來此より鐵山に至る三哩餘の輕鐵を布設し、著々經營の歩を進めつ、あるを以て、將來開礦の曉には當驛の繁榮期して待つべきなり。

【金嶺鎮鐵山】 金嶺鎮附近一帶地に存する鐵礦は往昔山東炭田地方に火山岩の噴出ありしに因りて發見せられ、爾來土法稼行久しきに互りて未だ大規模の經營を見ざりしが、今や獨治時代より繼續せる實況調査を行ひつ、あるを以て、近く開礦の運に至るべし。鐵脈の所在は山鐵本線上金嶺鎮と張店との中間西南より東北に起伏する四寶山、玉皇山、鐵山、鳳凰山等にして、鐵量は技術者の推定區々なれども、大約一億噸と見て可なるべきか。鐵質は一般に磁鐵礦なるも、褐鐵礦、泥鐵礦をも存し、含鐵量は約六〇パーセント、品位は大冶と釜石との中間に位すと。

に迫り、列車は深き切取の間を隱見出没すること數次、聽

金嶺鎮を後にし、左右連丘起伏の間を進めば、湖田

張店 (Chang-tien) 博山支線の分岐驛にして、

張店の部落は車站の北方數町に在り。人口約二千 (内邦人居住者七、八百)、地は濟南より濰縣に通ずる道程上に位置し、往時交通上の要地として相當繁榮なりしも、山鐵の開通と同時に衰微し更に博山支線の分岐點となるや漸次貨客の輻輳を來し復活の狀あれども、住民の過半は炭坑出稼人の類なり。但將來張店、索鎮間の鐵道完成し、或は金嶺鎮鐵山開鑿の曉には市街の面目亦一新すべし。

博山支線

張店より分岐し博山に至る全長約二四哩三にして、行程約二時間とす。旅客列車は兩端驛より毎日三回、賃金二等八〇仙。沿途一帯は淄川、博山兩縣下に跨り廣大なる炭田地にして、其の間南定 (張店四哩)、淄川、大昆崙 (一八哩) の三中間站あり。

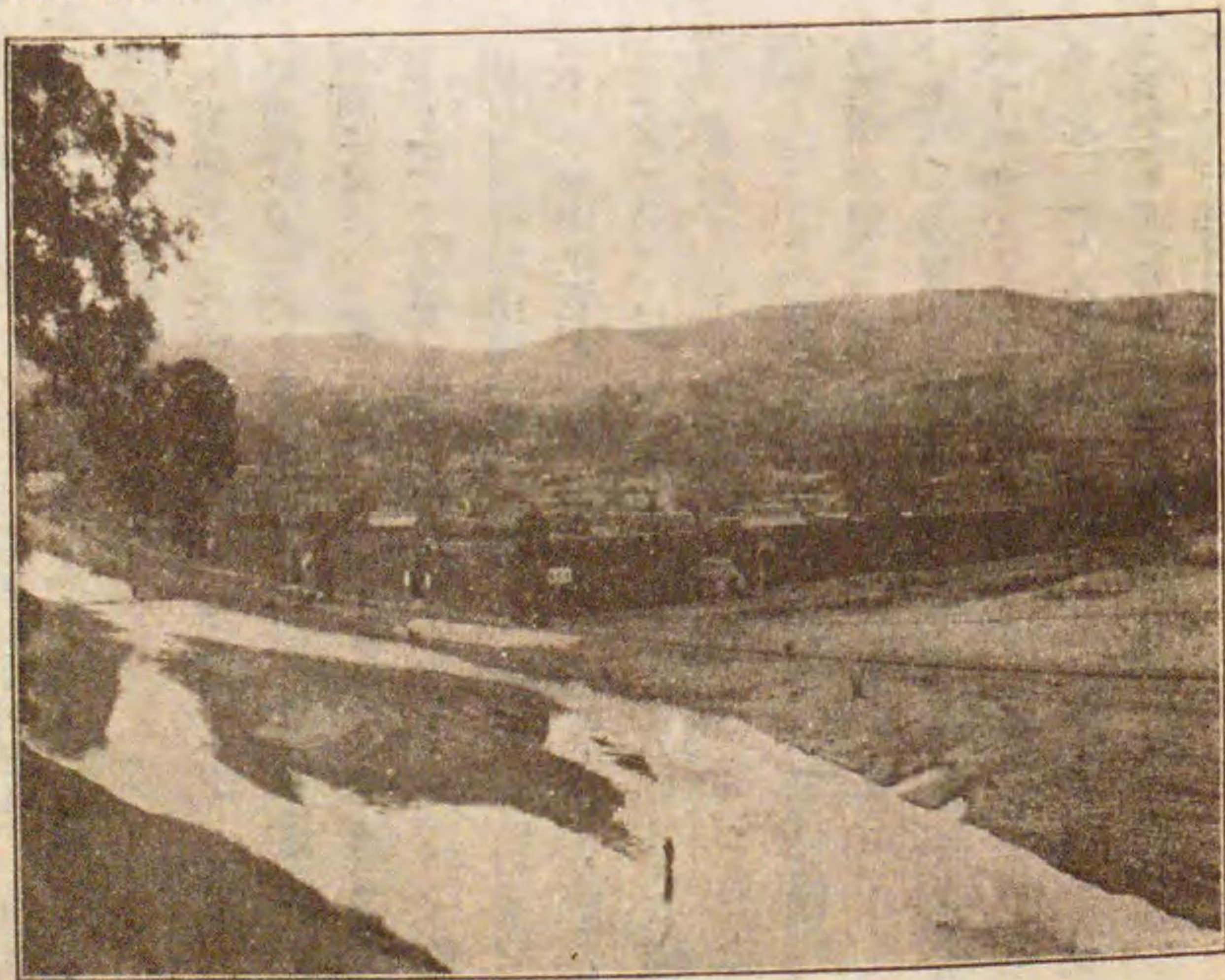
淄川 (Tzu-chuan) 市街は車站の東方十數町なる縣城の外内に在り。淄川城は孝婦河を帶してその盆地に宏壯なる城壁を築き、老樹古木の翠綠を配して古色蒼然たれども、

含灰分適度に且硫黄分多からず、上層は有煙炭にして、中層はコークスに適し、下層は無煙炭なり。若し夫れ全礦區の含炭量に至ては尙精確ならずと雖、前記稼行礦區の外其の既に試掘を経たる礦區百三十平方基に對し獨逸當局者の豫測炭量六億一千餘萬噸を算したりと云へば、其の總含炭量七億乃至八億噸の巨額にも上るべく期待せらる。

博山 (Po-shan) 博山支線の終點驛にして山間の一小縣城に過ぎずと雖、人口約三萬を有し、附近に豊富なる炭田あり、その外硝子工業及陶磁器製造等盛にして、物資の集散力に於ては時に濟南を凌駕せんとし、正に山東省唯一の工業地を以て目すべし。

市街は孝婦河に依つて東西兩圍子 (城壁) に區劃せらる。東圍子は右岸に在り、周圍四哩餘の城壁を繞らし、裡に縣公署其他の官署在り、又其の外廓なる四關の街區には商工業者軒を連ね、市況殷盛なり。西圍子は俗に顔神鎮と稱し博山の舊市街なれども規模戸數共に東圍子の三分一に過ぎず。

【博山炭礦】 淄博炭田の一部に屬し、往年獨逸が淄川方面に獨占礦區を定むるや、此附近一帯を從來の土法採掘



博山城市

數度の兵燹、特に長髮賊の亂に因り甚だしく頽廢し今に至るも恢復せざるに似たり。城内には縣公署その他三、四の官衙あり、人口約六千を算すれども多くは炭礦労働者にして市況甚だ振はず、纔に淄川炭礦に依り維持せらるゝに過ぎず。淄川車站より約四哩の運炭支線あり、混合列車毎日六回三等賃五仙。

淄博炭田 山東鐵路本線の南側、張店附近より孝婦河の盆地に沿ひ延長約四〇基に亙る地域を占め、其の全面積約三百十平方基と推算せらる。但し淄川の南部には石灰岩の露出に依り礦脈の遮斷せらるゝ處あるを以て、是を分界として其の以北の約百八十平方基を淄川礦區 (山鐵專管) とし、以南を博山礦區として私掘稼行に委せらる。

【淄川炭礦】 淄川車站より東南六基五、炭礦支線の終端に在り。從來俗に岔山と呼ばれし處にして、淄川坑、マクタ坑、ヘーテル坑及通風坑の四堅坑あり。既開礦區の面積十六平方基に屬する豫測可採炭量七千二百萬噸にして、一九〇六年著炭以來一九一四年の日獨開戰迄に通計約二百萬噸の出炭あり。我占領後最近一ヶ年の採炭量亦約四十萬噸を算せり。炭層の厚平均六米突にして夾雜物なく、

に委したる所なれども、其の炭質及炭量共優に淄川炭礦のそれ
に對抗し得るものなる事近年に至りて判明せり。目下附近に散
在せる土法又は土洋折衷式の小規模坑口約八十(夏期は出
水の爲約半數に減ざるを常とす)に達す。其の採掘方法極めて
幼稚にして設備等の見るべきものなしと雖、年産額約三十五萬
噸を算し、内約十萬噸は同地方工業用に消費せられ、約二
十萬噸は鐵道に依り沿線各地に搬出せらるる。

* * * * *

張店より沿途に展開せる丘陵を眺めつ、桑の栽培盛なる馬
尚 Ma-shang (二八〇哩五) を過れば周村なり。

周村 Chou-tsun (二八六哩六) 市街は車站より約六町の
城内に在り轎車の便あり。長山縣管内唯一の郷鎮にして人口
約三萬を有し、古來絹絲布市場として屈指の商業地たり。住
民は悉く城内に居住するを以て城外は寂寥たる農村に過ぎざれど
も、一步城内に入れば豪商巨舖櫛比し活氣旺盛せり。就中
大街、絲市街、鳳凰街等殊に殷賑にして、毎月四、九の市日
には肩摩駁擊の盛況を呈す。

周村は濰縣濟南と共に清國自から開放せる互市場にして、

車站と城市東門との中間に面積約四十八萬坪の居留地を有
すれども、未だ何等の設備なく坦々たる耕地の間縁に樹木、墓
地、茅屋の點在を見るのみなり。

周村を出れば次驛大臨池 Ta-lin-chih (一九七哩八) 迄
は地勢概ね波状を呈し、翠巒奇峰車窓に迫り或は深き切取
の間に出没し、更に王村 Wang-tsun (二〇三哩五)、普集
Pu-chi (二〇三哩六)、明水 Ming-shui (二二三哩八) 各驛を
連ぬる處線路南側は遠山に對し、北側亦高丘を望む。驛
て一小河を渡過すれば棗園 Tsao-yuan-chuang
(二二八哩六) あり。以往相尋の龍山 Lung-shan (二三三哩六)、
郭店 Kuo-tien (二三三哩七)、王舍人莊 Wang-she-
jen-chuang (二三三哩八) の各驛を過れば、前途遙に歷山々脈
の連峰を望む。漸く濟南城東門外なる黃臺 Huang-tai
(二四三哩) に差蒐れば綠樹の間教會寺院の雲表に聳ゆるを認む
べし。黃臺よりは黃臺橋に至る約二哩の貨物支線分岐せり。
更に北關 Pei-kuan (二四四哩) を過れば車窓近く濟南城
を望みつ、聽て本線の終端驛たる濟南車站(二四六哩、第二五
三頁以下参照)に達すべし。

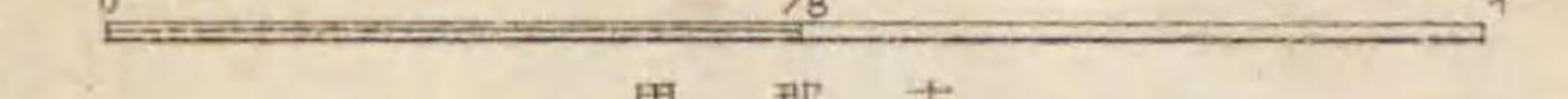


D E F G H I J K L M N O P Q

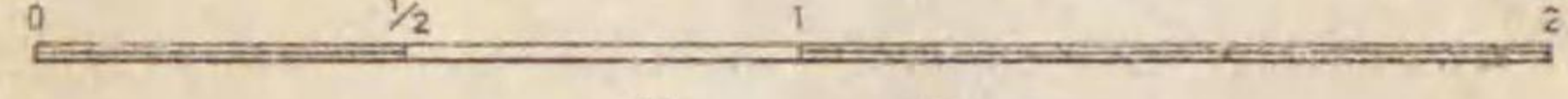
芝罘

一之分万二尺縮

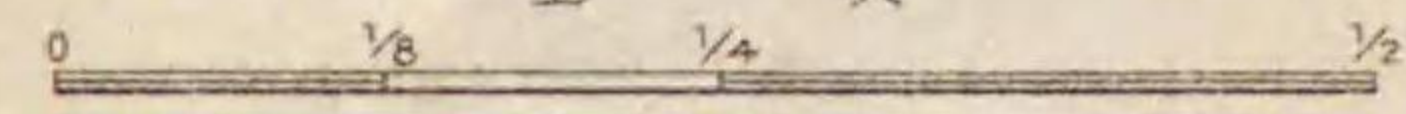
里本日



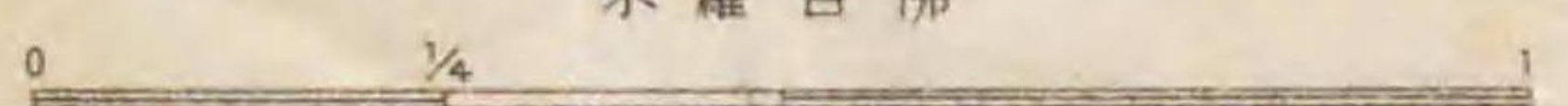
里那支



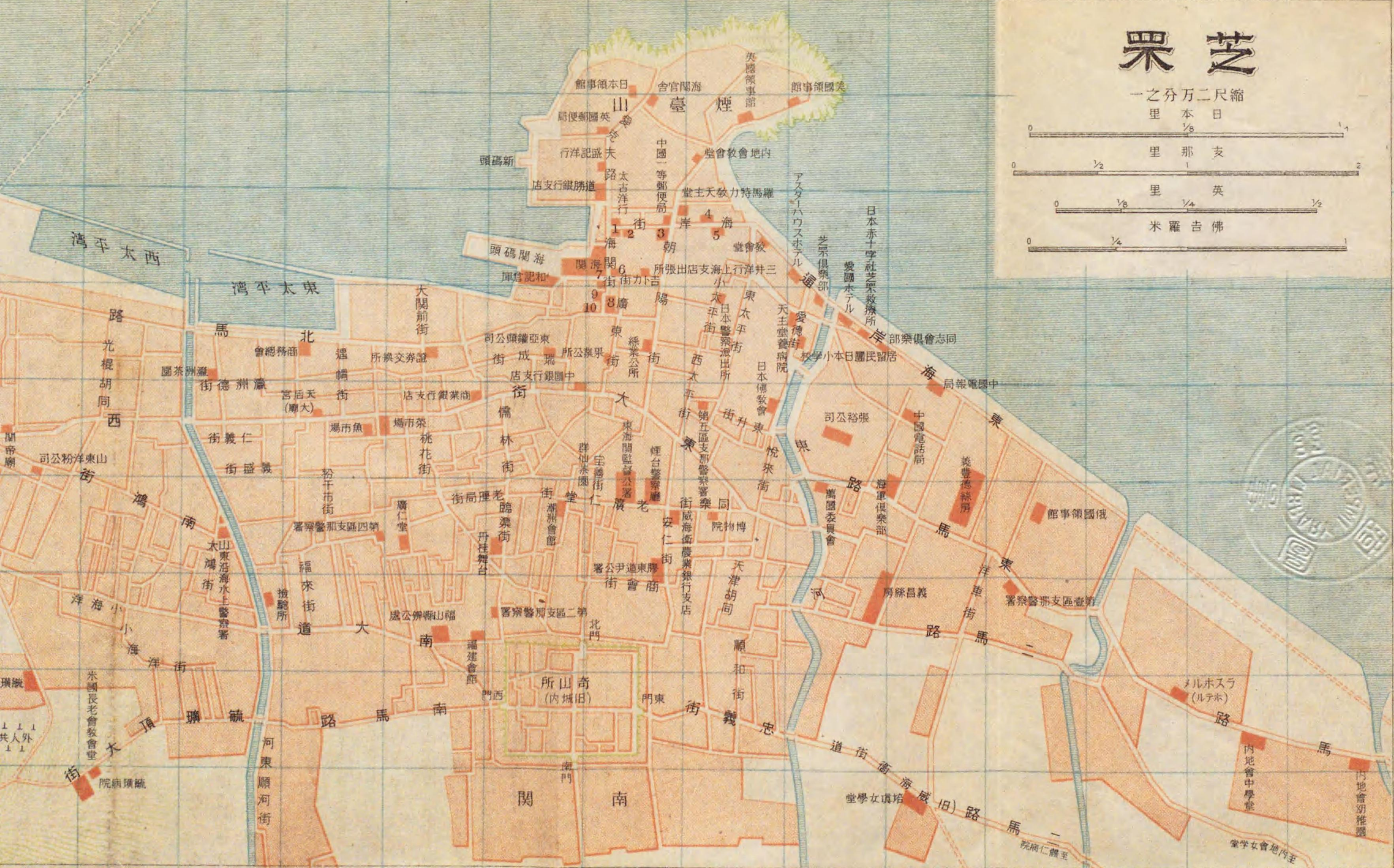
里英



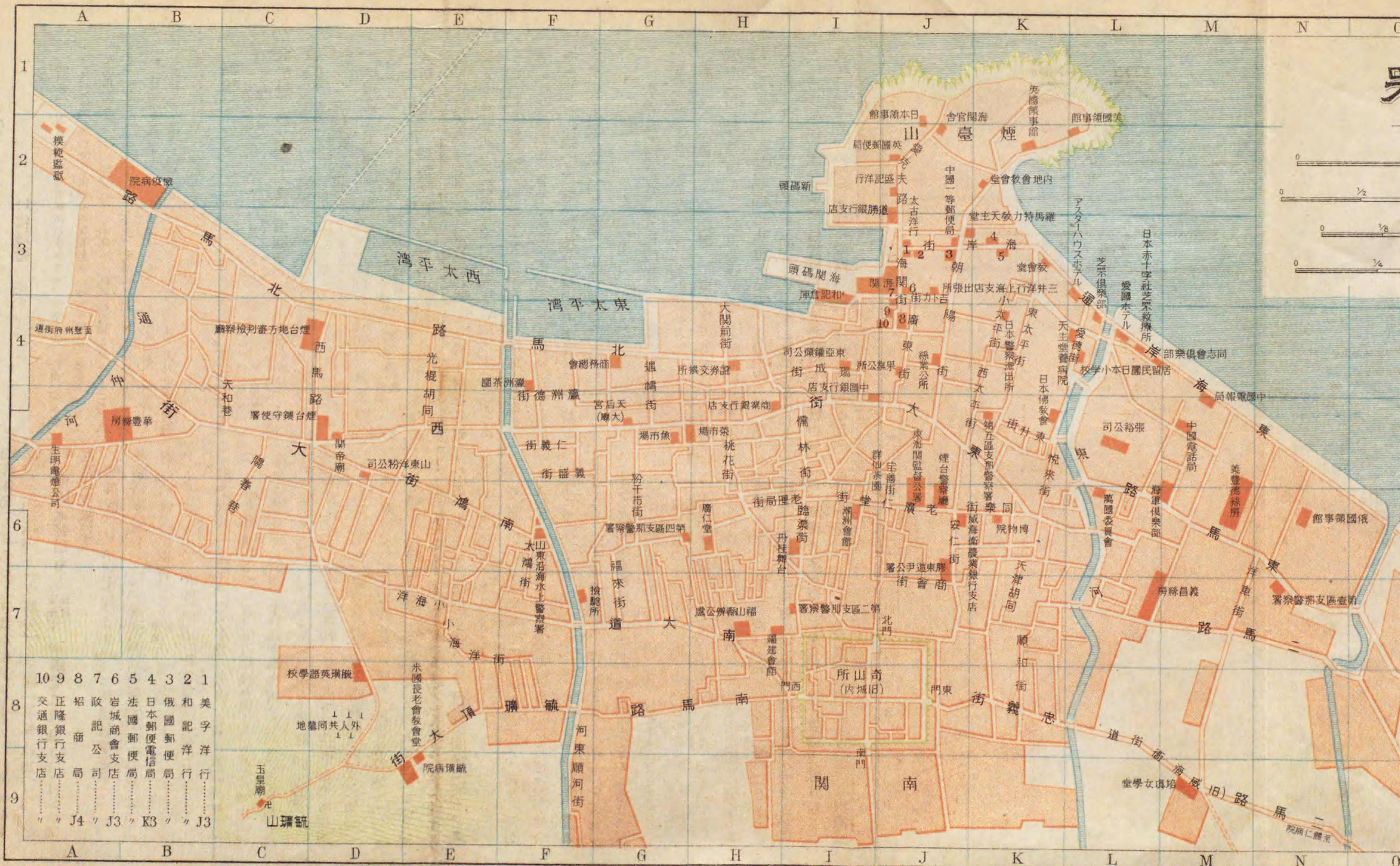
米羅吉佛



1
2
3
4
5
6
7
8
9



D E F G H I J K L M N O P Q



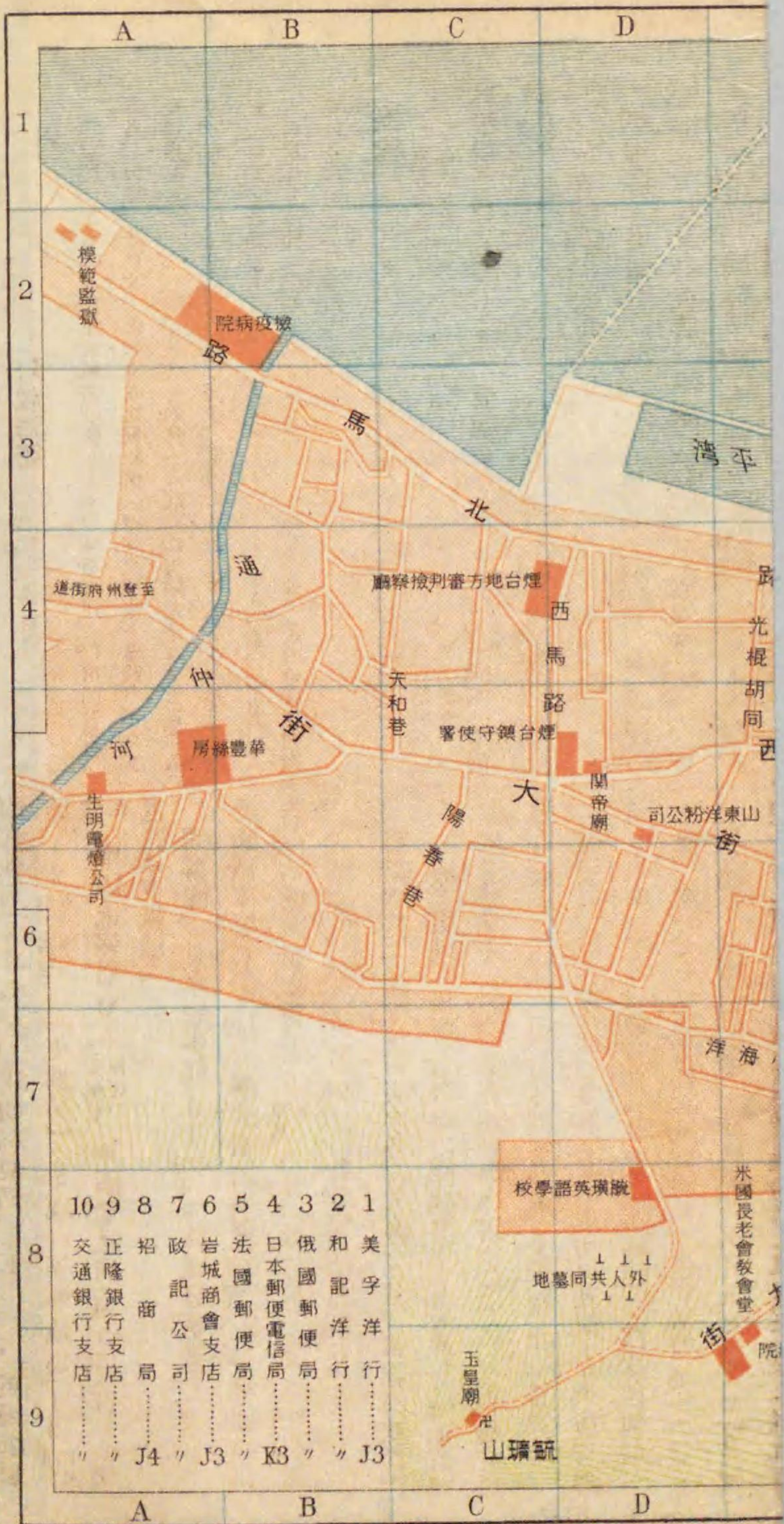
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
交通銀行支店	正隆銀行支店	招商局	政記公司	岩城商會支店	法國郵便局	日本郵便電信局	俄國郵便局	和記洋行	美字洋行
"	"	J4	"	J3	"	K3	"	"	J3

旅館 アスター・ハウス・ホテル Astor House Hotel
 (L 3 東海岸通) ラス・ホルム Ras Horne (O 8 東馬路東端、外人經營)
 宿泊料は孰れも六、七弗。愛國ホテル (L 4 東海岸通) 宿泊料二弗乃至五弗、中料一弗乃至二弗。支那客棧一悅來棧(新開)、榮陸棧(關頭)、保安棧(廣東) 宿泊料一弗乃至三弗。
料理店 愛國亭(前記愛國)、菊水亭(舊電報街)、日丸樓(小平) 以上日本料理店。小洞天(舊電報局街)、渤海春(新開)、會英樓(老廣仁)、瀛海樓(桃花)、廣杏芳(舊電報局街) 以上支那飯莊。西域樓(朝陽街、同)。

芝罘 Che-foo

附威海衛 Wei-hai-wei

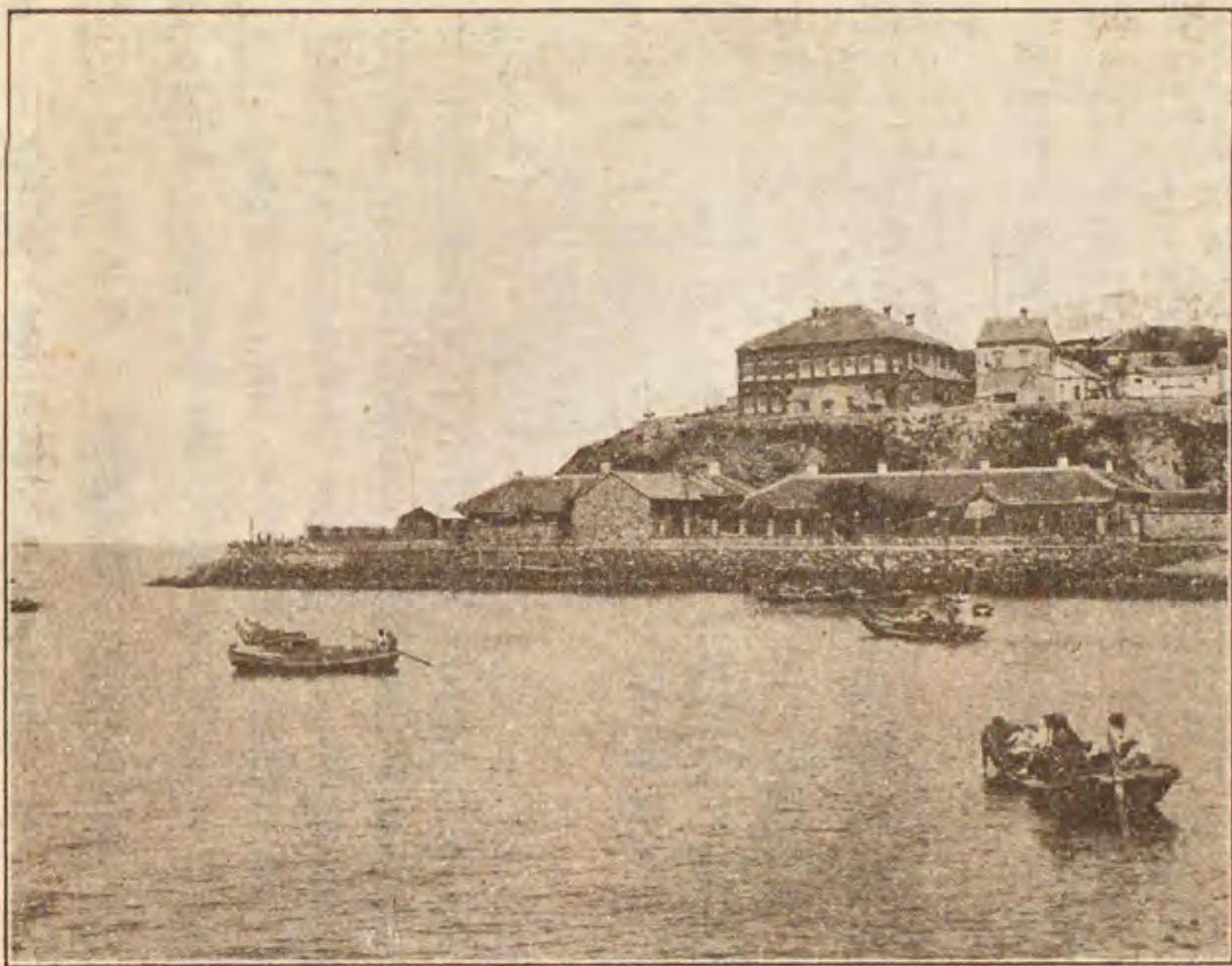
【到着】 芝罘は未だ陸面鐵路の便なきも、海路大連、仁川、安東縣、青島、天津、營口及上海等より定期船便(總論交通條下參照)ありて交通頻繁なり。但し現時此地と本邦との間には直通航路なきを以て大連、青島又は上海にて乗換を要す。當地に下船する旅客は本船より舢舨に移乗し新碼頭(イン)に上陸するものとす。【人力車、苦力】人力車賃は一時間二〇仙、半日八〇仙、一日一弗五〇仙。苦力の荷物運搬賃は埠頭附近一〇仙内外。



郵便電信 【外國局】 日本郵便局(4 K 3 第一區海岸街)、俄國郵便局(3 J 3 上)、法國郵便局(5 K 3 上)、英國郵便局(J 2 第一區愛) 【支那局】 中國一等郵政局(J 3 第一區海岸街)、中國電報局(M 5 東海岸通)、中國電話局(M 5 上)但し公衆電話は取扱はず。

領事館 日本領事館(J 1 煙臺)、英國領事館(K 2 上)、美國領事署(L 2 上)、澳洪國領事署(東海岸、依裕公司)、德國領事署(上)、俄國領事署(N 6 東馬路)、其他瑞典(2 J 3 海岸街、和記洋行内)、諾威(海岸)、荷蘭(東馬路)の各名譽領事署あり。

市街概観 芝罘は山東半島の北面に在り、直隸海峽を隔て、大連、旅順と相對し、渤海の咽喉を扼する要港たり。市街は海岸に沿うて稍長く、中央部は漸次海中に突出して半島形をなす。其の中央北に偏したる處に有名なる煙臺山(標高一七〇呎)あり、外人街は其の頂界より南東方に展開する東海岸通及東馬路に至る一帯の地域を占め、各國領事館及郵便局、旅館、銀行、會社等皆此界限に在り。專管居留地にあつたれども支那行政廳は之を第一區と稱し、又外人團は委員會を組織して街路の修繕、衛生設備、點燈等に任ぜり。更に該區域



芝罘煙臺山

の東方に續く海岸は白砂遠く連なり、海水清澄、夏時外人の海水浴場たり。煙臺山以西の海面は船舶の投錨區域にして、之に沿ひ西南面に展開せる街衢は支那街なり。大小店舗櫛比し東西に走る東大街、南鴻街及此等と交叉する安仁街、儒林街、桃花街等最も殷賑なり。全市の人口支那人約九萬、居留外人約千三百(内邦人四百餘)を算す。

埠頭 芝罘は不凍港にして外人市街の樞軸に近く新碼頭(12)及海關碼頭(13)あり、又西方海岸には民船の繫留に便する東太平洋灣及西太平洋灣あり、港内水深く且廣潤なれども地形彎曲に乏しく、風波の來襲を防ぐ能はざるを遺憾とす。現下防波堤の築造工事進捗中に在れば、完成の後はその効果尠からざるべし。

【沿革】 芝罘の地は往昔の狼煙臺にして、烽火を揚げて倭寇の警備に任ぜし處、支那人間には煙臺と呼はる。昔ては濱海の一漁村に過ぎざりしも、其の位置恰も北支海上通航の要衝に當れるを以て戎克船の一大寄港地として漸次繁榮を來し、西紀一八六二年の天津條約に依り外國互市場として開放せらるゝに至り益殷賑の度を加へしも、輒近大連、青島の經營成り且山東鐵道開通の結果多少衰頹の狀あり。

官公署 膠東道尹公署(76安仁)、警察廳(76老廣仁堂)

街、山東沿海水上警察廳(F6南鴻)、地方審判廳(D4西馬)、地方檢察廳(D4上)、福山縣辦公處(H7南大)、東海關監督公署(J6老廣仁)、海關(IJ3埠頭)、常關(平海)、煙臺鎮守使署(D5西馬)。

銀行 【外國銀行】 正隆銀行支店(9J4泰豐)、道勝銀行 Russo-Asiatic Bank (J23路滋大)、香港上海銀行

Hongkong & Shanghai Banking Corporation (J23路滋大) 代理店、太古洋行 Chartered Bank (2J3同上)、和記洋行、交通銀行支店(10J4泰豐)、山東銀行支店(同上)、威海衛農業銀行支店(J6老廣仁堂)、商業銀行支店(H5東大)。

會社商店 【外國商館】 三井洋行上海支店(J3吉卜力街)、岩城商會支店(6J3同上)、和記洋行 Cornaby, Eckford & Co. (2J3海岸)、太古洋行 Batefield & Swire (J3同上)、美孚洋行 Standard Oil Co. (1J3同上)、克隆洋行 Debenham & Co. (同上)、盛記洋行 Curtis Brothers (J2愛克夫路)、仁德洋行 McMullan & Co. (東馬路)。

【支那商舖】 瑞舛祥(北大街)、雙盛泰(同上)以上綿絲及雜

貨。福順興(北大街)、福昌泰(同上)、德昌盛(同上)以上燐寸、砂糖等。恒興德(北大街)、裕豐德(同上)、同和泰(同上)以上柞蠶絲。裕豐號(埠頭)、豐順祥(同上)、聚成泰(朝陽街)、同德恒(吉卜力街)以上レース。德生源(豆麵街)、恒祥和(麥稈街)、義昌信(鐵器街)、山東大藥房(吉卜力街)、中西大藥房(支那街)、謙和棧(同上)、招商局(8J4泰豐)、政記公司(7J3新關)。

以上船舶業。 商業機關 外人商業會議所 Che-foo General Chamber of Commerce (天主堂街)、商務總會(G4北馬路)、證券交換所(H4同上)、絲業公所(J4朝陽街)、粉干公所(大關街)、漁業公所(瀋州街)、果業公所(J4廣東街)、潮州會館(I6)、福建會館(H7南大)。

工場 義豐德(M6東馬路)、永記(張家)、和聚興(西沙路)、益盛東(同上)、義孚同(張家)以上皆比較的大規模なる柞蠶製絲工場にして、小規模のものを合すれば其數四十を超え、機械總數一萬五千餘臺に達する當地第一の工業たり。張裕公司(L5東馬路)、葡萄酒釀造工場にして硝子器製造を兼營す。生明電燈公司(A5西馬路)、煙臺中舛火柴公司(西沙路)。

東亞罐頭公司 (I 4 瑞成街)、膠東織布工廠 (西沙)、天興福 (德春)、德元號、乾昌號、元和泰—以上皆油房にして製造 (卷)。支那街に在り。億中公司 (愛德)、山東洋粉公司 (D 5 寒天業)、泗興工場 (朝陽)、その外各教會に附屬するレース製造工場多し。

貿易 一九一七年度に於ける當地貿易總額は約三千二百二十餘萬鎊にして、其内輸出價額一千五百三十餘萬鎊、輸入價額約一千六百九十萬鎊、差引百五十餘萬鎊の入超なるも外國品の純輸入額は七百七十餘萬鎊に過ぎず。

而して對本邦貿易は大連、青島等の諸港を介し、又其の他の對外貿易は上海、香港等を経て行はるゝを常とす。主要輸入品—綿織物 (日、英、米産)、綿絲 (日、印産)、砂糖、燐寸 (日本)、石油、石炭、海産物、煙草、麥酒、雜貨等。主要輸出品—柞蠶絲、屑絲、繭紬、果物、落花生、豆素麵、麥稈眞田、髮網、レース等。

病院學校等 日本赤十字社芝罘救療所 (L 4 東海岸)、天堂養病院 L'Hopital général de Tchoufon (L 4 愛德街)、毓璜醫院 Presbyterian Hospital (E 9 毓璜頂大街、米國人師經營)

イ・ハッスに於て撮影し公衆の觀覽に供す。

【山東苦力】 由來山東は一般に礦産の地にして農耕に適せず、加ふるに人口稠密なるを以て、下層民の生活極めて困難なり。此に於て彼等は努力の需要ある滿洲、西比利等の各地に出稼して糊口の資を求む、是即ち山東苦力の稱あるものなり。彼等は主に陽春の候郷關を去り秋季に至つて歸國するを常とし其數年々十萬餘に達すと。故に其期節には彼等の根據地たる芝罘、龍口と浦陽、安東、大連、營口等の諸港間に戎克船及臨時航汽船の往來極めて頻繁なり。

【煙 濰鐵路】 青島經營に對抗し以て芝罘の繁榮を維持せんが爲計畫せられたる豫定線にして、芝罘より登州、黃縣、龍口、萊州、沙河の各地を経て濰縣驛に至り山東鐵道と合する約百七十哩となす。

【登州府】 芝罘の西北方海岸に在り、芝罘羊角溝間航路の寄港地にして人口約四萬を算す。地は三面海に瀕して半島形をなし東端に有名なる成山角あり、大船の出入には不便なれども民船貿易は相當盛なり。

【黃 縣】 芝罘の西方約六十哩、濟南大路に通ずる要衝に當り人口約一萬、山東紳富商の居住する者多し。

【龍口】 黃縣の西方約十四哩に在り、西面港灣を擁して

營)、體仁醫院 Lyly Pouthwaitis Memorial Hospital (東馬路南、英人經營等)。

日本居留團小學校 (L 4 愛德街)、培眞女學堂 (M 9 馬路)、毓璜英語學校 Temple Hill English School (D 8)。内地教會附屬學堂 The China Inland Mission School in Chefoo (東馬路) — 中學堂 (P 8)、女學堂、幼稚園 (Q 8) の三校に分る。新聞紙の主なるもの—芝罘モ— ニングボースト (英文、日刊)、芝罘日報 (漢字、日刊)、進化日報 (上、鐘聲 (上) 等)。

教會寺廟 羅馬加特力天主堂 Eglise Catholique de Ste. Marie (J 3 朝陽街)、内地教會 The China Inland Mission (K 2 煙臺山)、米國長老教會 American Presbyterian Mission (E 9 毓璜頂)、奇山所教會堂 (東馬路)。玉皇廟 (C 9)、關帝廟 (D 5)、天后宮 (G 5)、竹林寺 (市外)。娛樂場所 【俱樂部】 芝罘同志會 (L 4 東海岸、本邦人)、芝罘俱樂部 (L 4 同上)、運動場 (東砲臺附近)、競馬場 (西砲臺山下、毎年十月競馬)、海水浴場 (東海岸)、【支那劇場】 群仙茶園 (I 6 寶善街)、丹桂舞臺 (I 6 臨萊街)。活動寫眞は一週二、三回「アスタ

般盛なる黃縣市場の門戸を扼す。人口約八千を有し虎頭崖、羊角溝等に對する輸出品の集散地として冬季結氷期を除き民船の出入頻繁なれども港内狹隘水淺くして一千噸以上の船舶は港外一哩の地點に投錨す。

【羊角溝】 萊州灣に注ぐ小清河 (第二五六頁参照) の右岸、河口より約十四哩の處に在り。渤海より濟南方面に通ずる唯一の水路たる小清河水運の咽喉を扼する商港にして、市況殷盛なり。殊に山東苦力の出入期には船舶の來往頻繁なれども、冬季 (三ヶ月) 結氷期間は水運杜絶するを以て商業も亦一時殆ど休止の狀を呈す。

威海衛 Wei-hai-wei

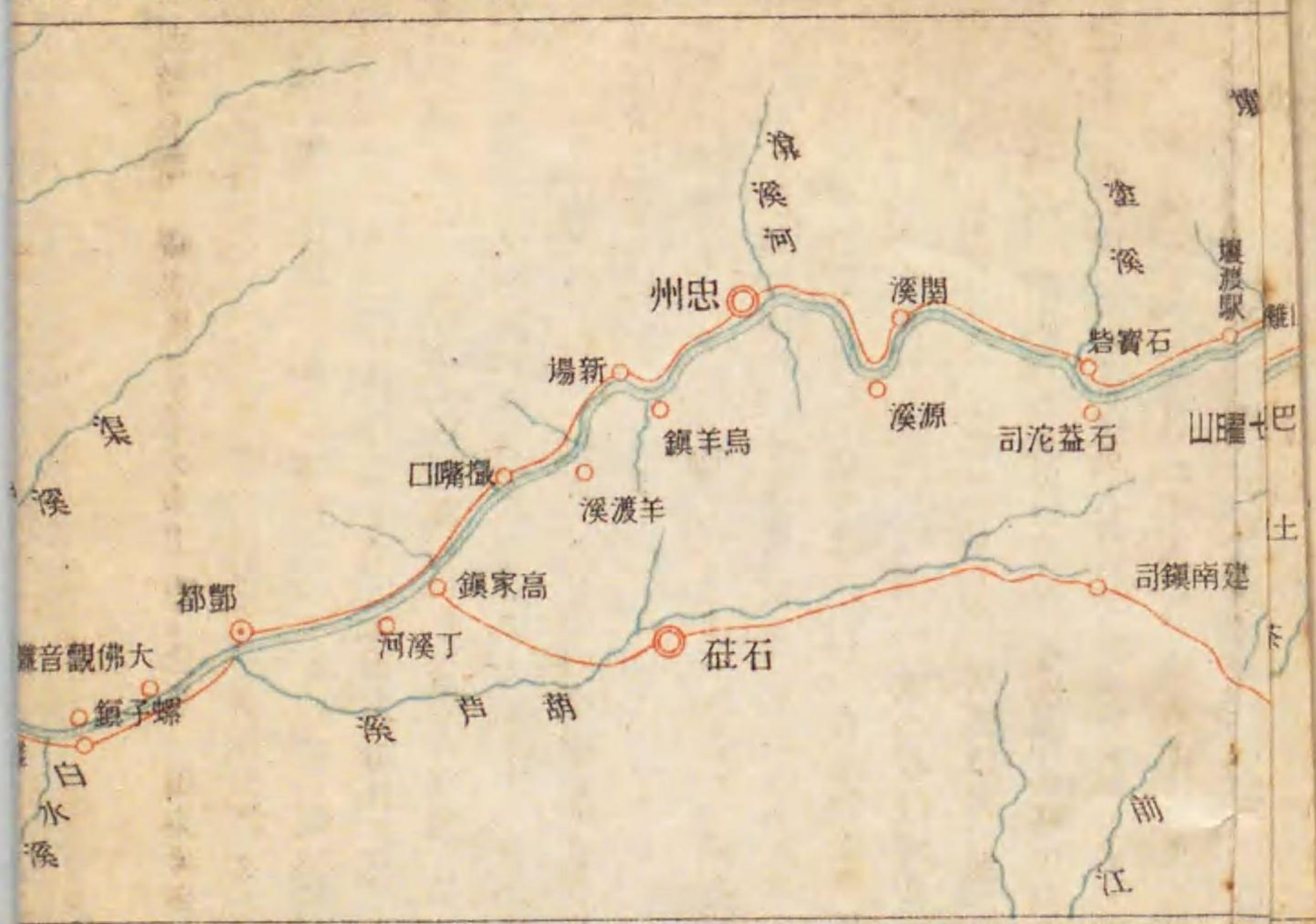
【到著】 芝罘より汽船航程約五時間、港口左方に劉公島の横はるを見つ、港内に入り埠頭に上陸すべし。【車馬船賃】 人力車及馬車一時間一弗内外、市街と劉公島との間には毎日四回の汽艇便あり、片道三〇仙。其の他は隨時船艇を雇用するを得べし (賃金同上)。

旅館 King's Hotel (碼頭東)、唯一の歐風旅館にして宿泊料十弗位。其の外支那飯店及客棧は城の内外に多數あるも孰れも矮小にして設備不完全なり、宿泊

料は五〇仙内外とす。

市街概観 威海衛は芝罘の東方約十四哩、山東岬角に近く其の位置を占め、灣口に劉公島を擁して西南及西北の二面丘陵を負ひ東面海に瀕す。灣内水深くして巨船の碇泊に適し且不凍港なるを以て東洋に於ける英國海軍根據地たり。市街は城内(支那市街)及英國政廳の直轄に屬する碼頭、劉公島の三區とし、人口約六千六百(内英國人約八十、其の他の外人三〇〇)を算す。而して世人の通俗に威海衛と稱するは前記碼頭街を指すものなり。

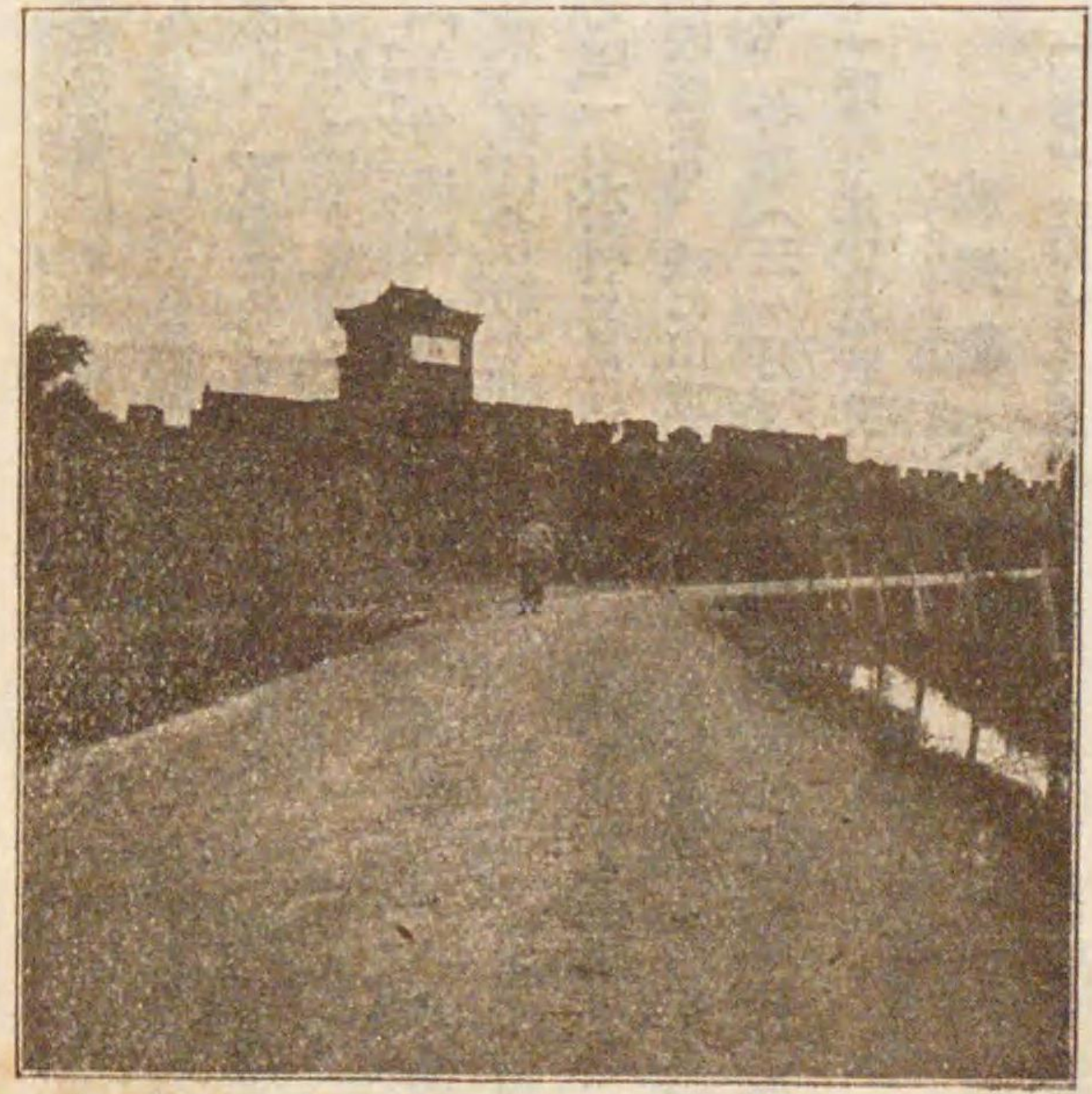
【碼頭街】 ナーシサス灣 Narsissus Bay の西北岸に沿ひ、其の西端は城市の北東角に接す。英人の「エドワード」港 Port Edward と稱する處に於て、日清戦後我軍の駐屯時代には一小漁村に過ぎざりしも、英國の租借地となるに至り諸般の設備完全し面目一新せり。英國政廳、銀行、會社、郵便局、病院等皆此區に在り。又街衢の略中央に埠頭あり、海に沿うて東すれば英人の所謂キング・ホール・ポイント King Hall Point に達すべく、突角上に「キング・ホテル」あり。



20 10 5

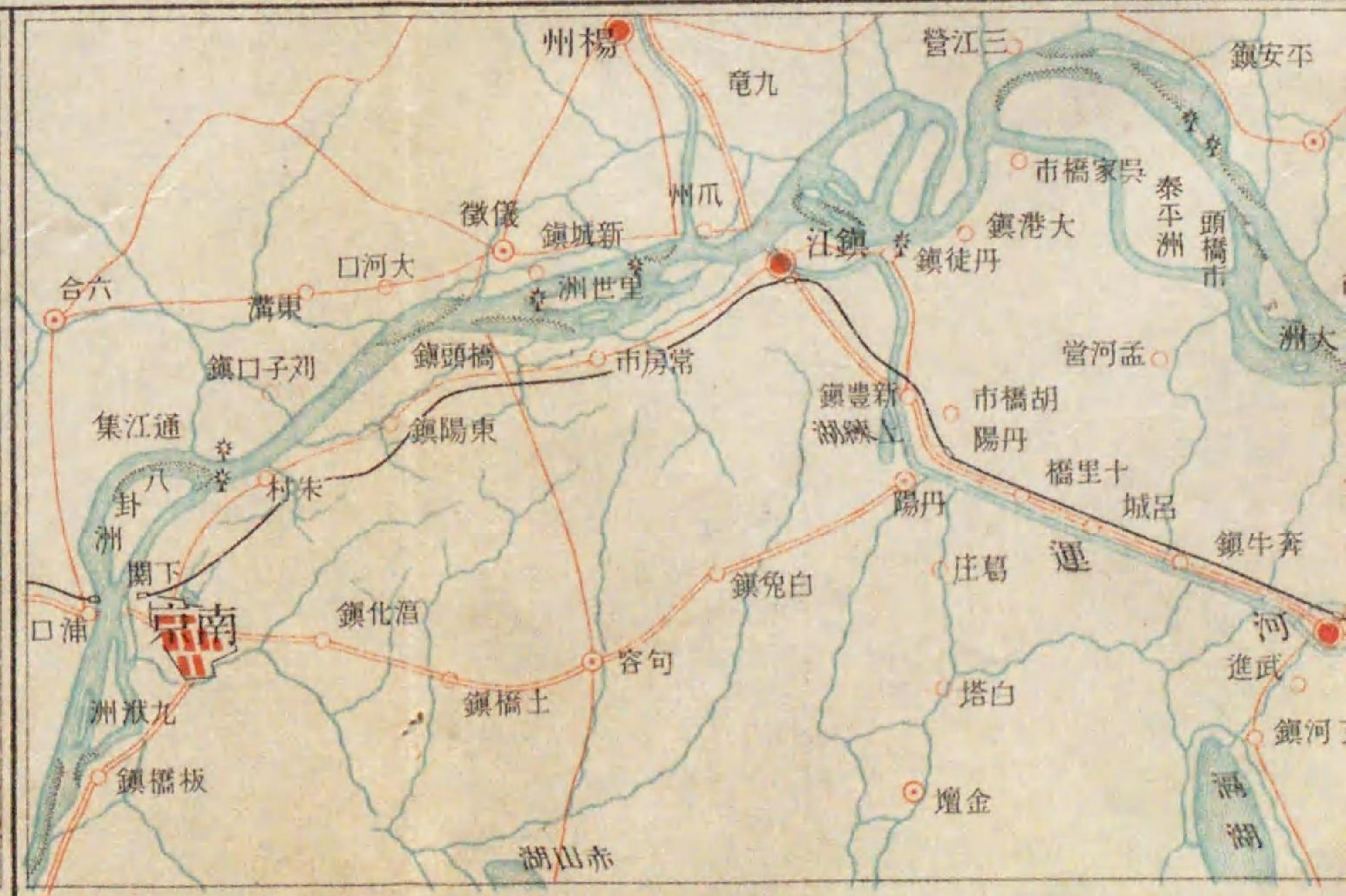
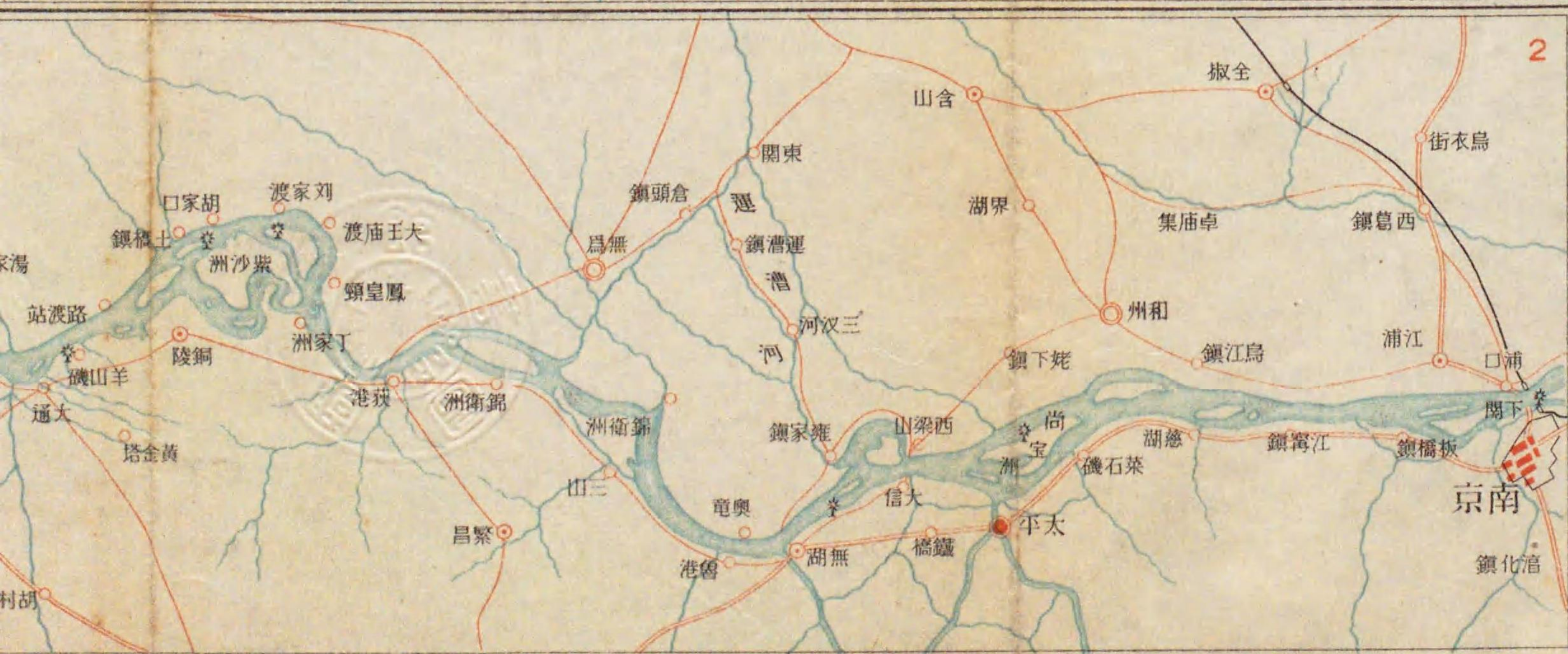
【劉公島】

威海衛灣口に横はる東西二哩、南北約一哩、周圍五哩の小島なり。市街は丘崗を負うて南海岸に在り、軍用及公衆用の二埠頭を有す。西方には海軍廠、海軍病院、海軍俱樂部等の建物あり、就中海軍俱樂部は元北洋海軍公所たりし處にして、往年丁汝昌自盡の遺址なり。



威海衛東門

楊子江沿岸全圖



一之分万十二百尺縮

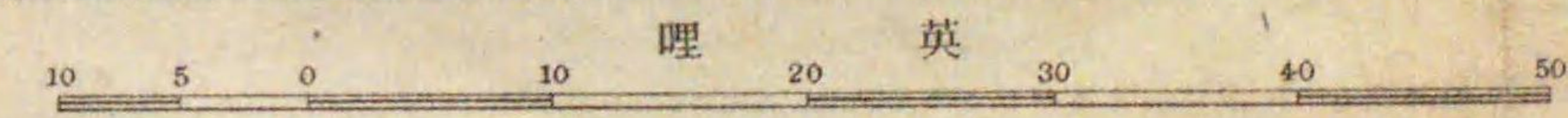
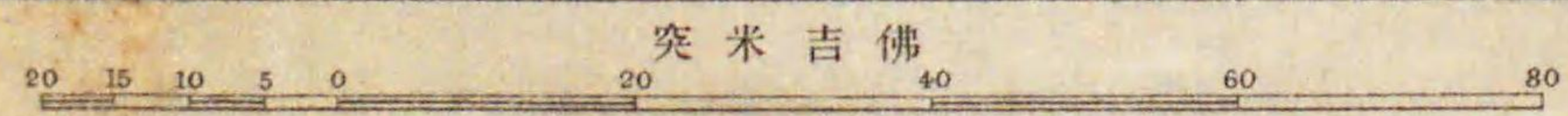
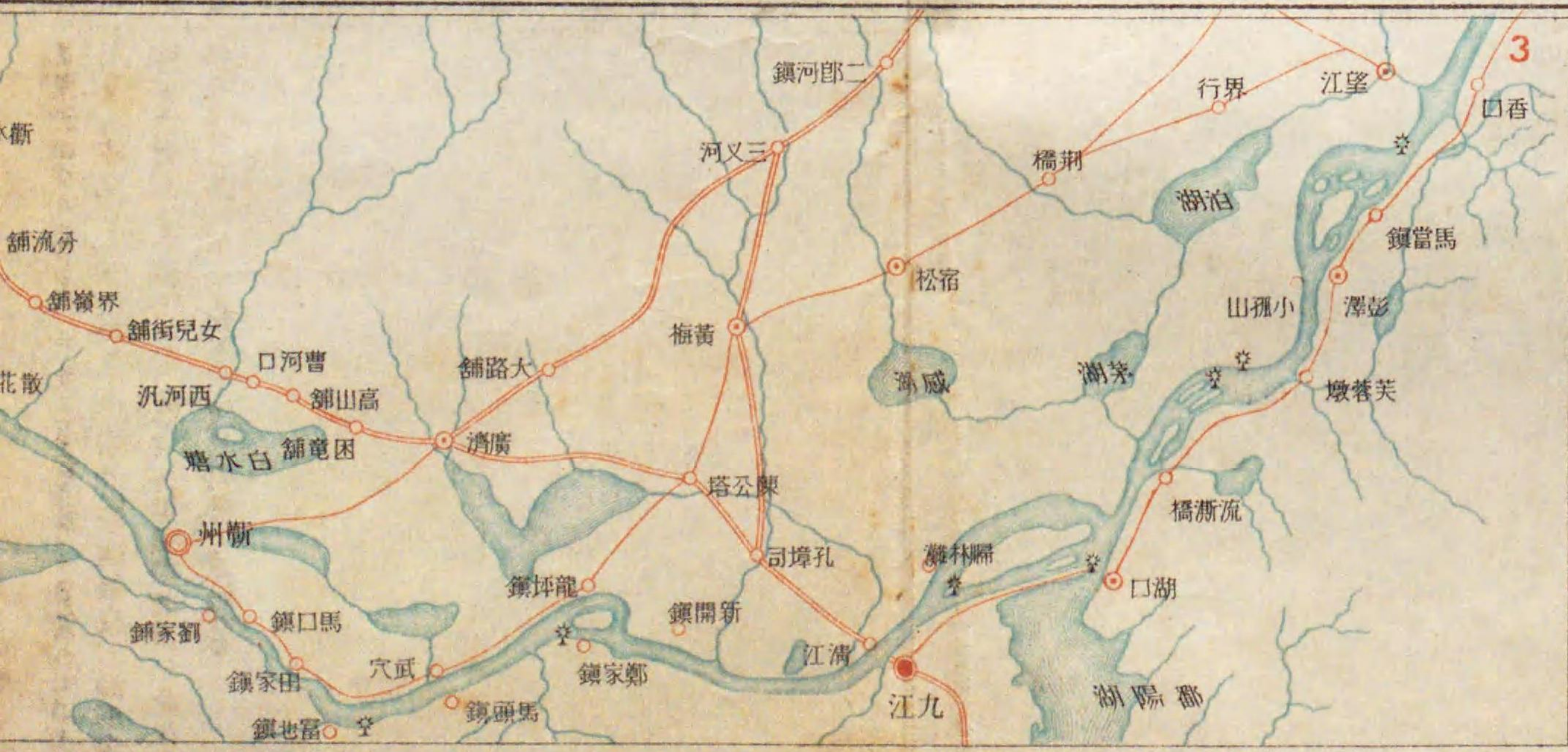
里那支

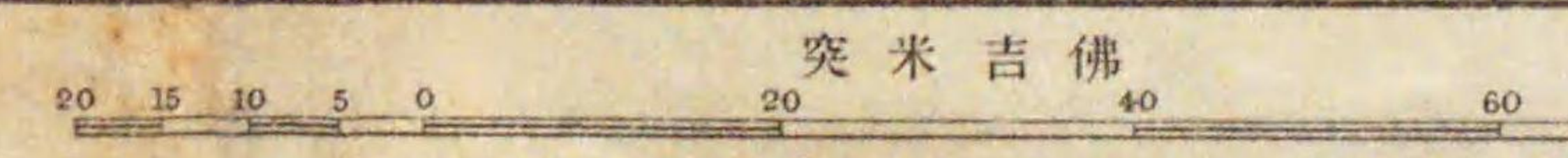
里本日

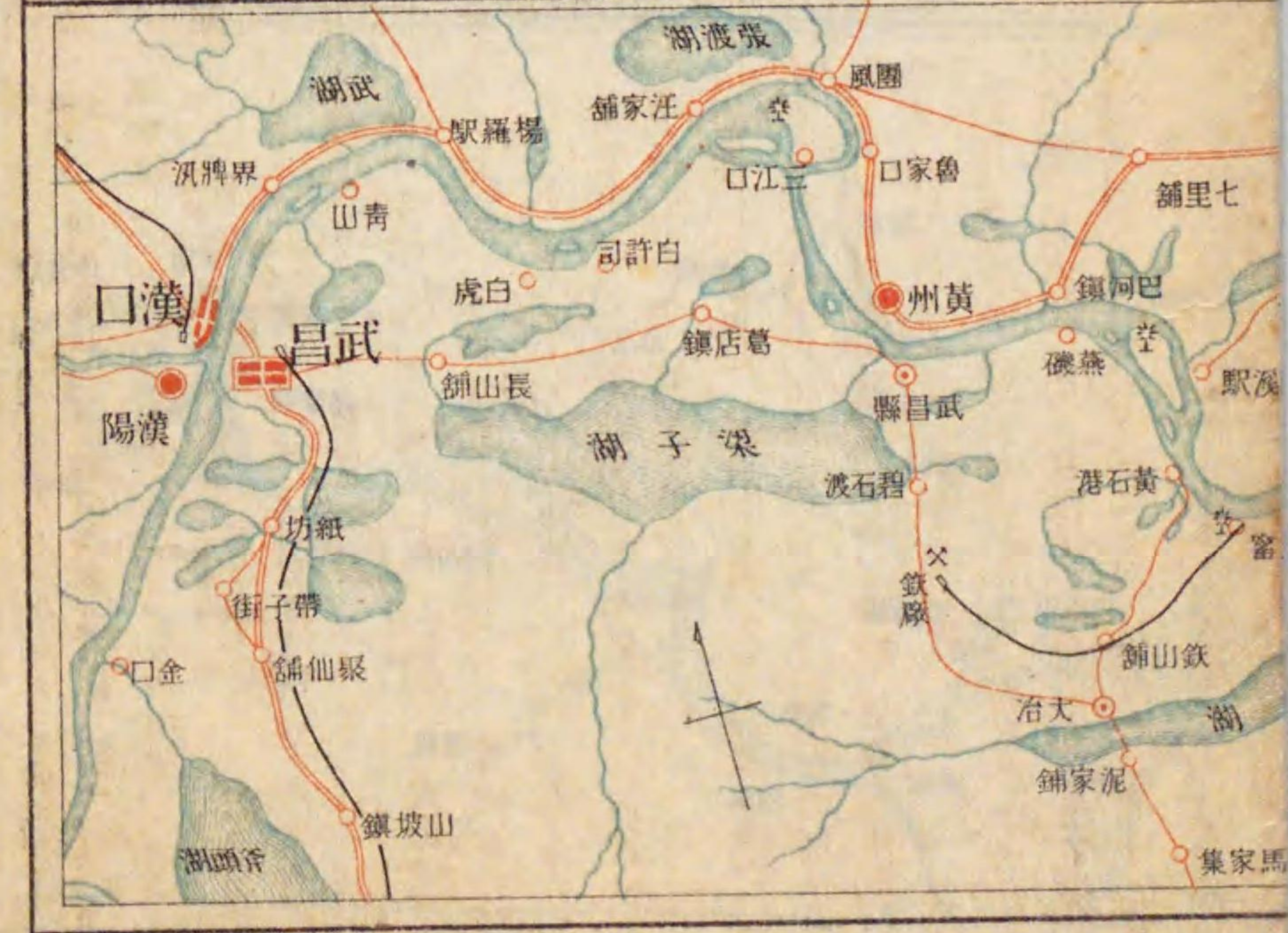
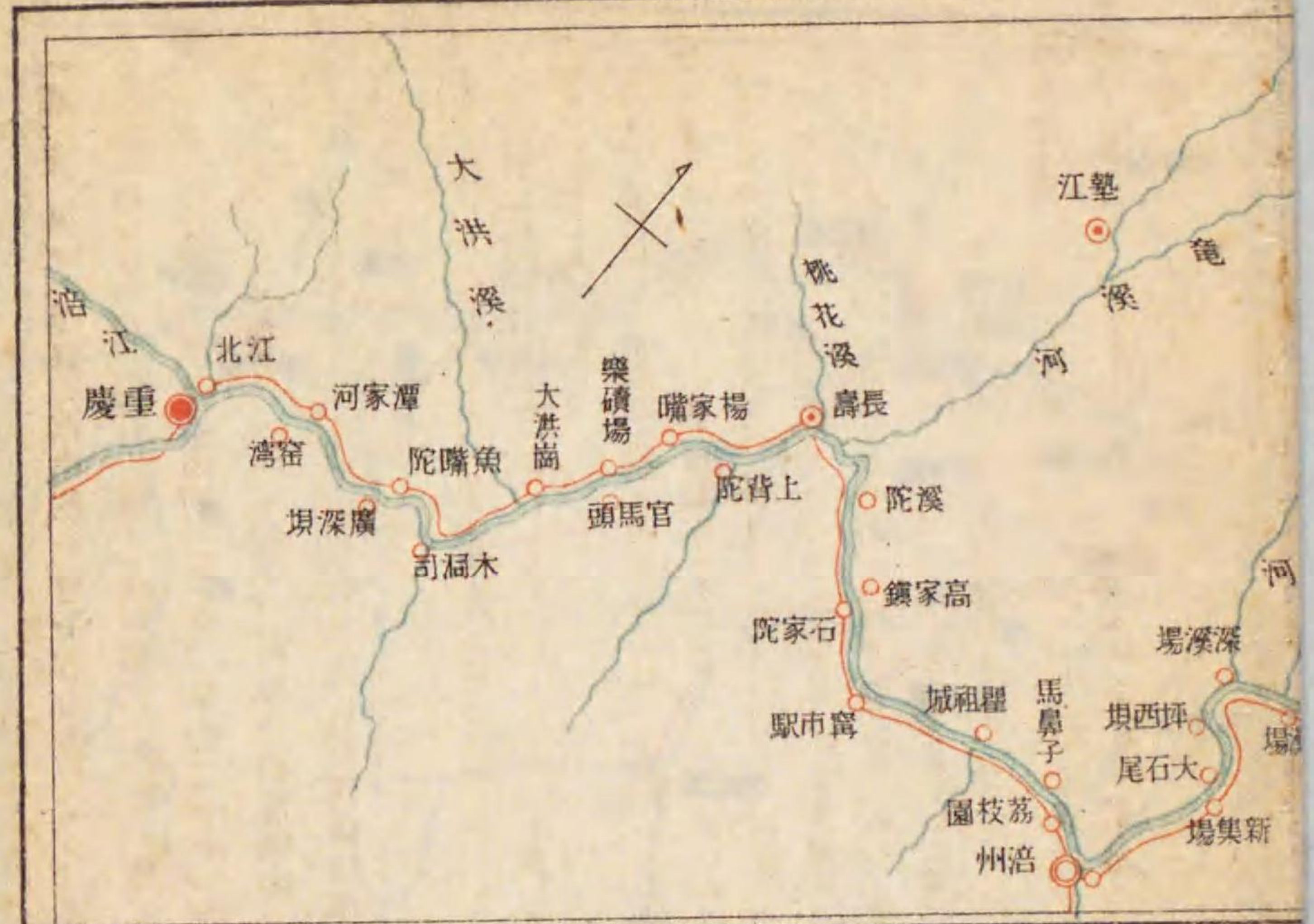
40 50

50 40 30 20 10 0 50 100

5 4 3 2 1 0 5 10 15







【威海城】^{ウエイハイチヨウ} 埠頭の西南約一哩奈古山麓に在り、碼頭街より此に通ずる街路を塙口と稱す。城は明代(西紀一三九八年)の築造に係り、城壁の高約三十呎、厚約二十呎、周圍約三哩あり、東西南北の四門を備ふ。當城は租借條約中の規定に依り支那政府の管轄にして城内東街に威海衛辦事委員公署を置けり。

【英國租借地】 威海衛を中心とする英國租借地は東西二十六哩、南北十八哩總面積約二百五十八方哩にして、裡に三百三十の村落を包含し總人口約十五萬を算す。

【沿革】 本港はもと對岸の旅順と共に北洋水師の根據地として渤海灣の防備に任ぜし處なるが、日清戰役に際し我軍の占領に歸し北洋水師が此處に全滅したるは未だ世人の耳目に新なる所たり。其後償金支拂の擔保として我駐屯軍の手に在ること三年、光緒二十四年(明治三十一年)七月に至り英國は獨逸の膠州灣、露國の旅順租借に對し、勢力均衡を名として此地を租借することとなり、之を東洋艦隊の夏期碇泊港たらしむると同時に自由港として開放し以て今日に及べり。

郵便電信 英國郵便局(碼頭街、康)、大東電報局(East-ern Extension Telegraph Co. (碼頭街)、中國郵政局(城内、北街))。官衙學校 英國政廳 British Government House

(碼頭、海軍廠(劉公)、威海衛辦事委員公署(城内、支)、海軍病院 Naval Hospital (劉公)、公衆病院 Civil Hospital (碼頭街)、Beer School (東海岸、生)、Government School (徒支那人、生)、天主教會堂(口)、プロテスタント教會(上)、ユニオン教會(島)。

銀行會社 香港上海銀行(代理(碼頭街)、威海衛農業儲蓄銀行(口)、商務總會(城内老爺廟内及城外天后宮内)、和記洋行(出張(碼頭街)、太古洋行(出張(上)、三井洋行(出張(上)、泰平洋行(上)、和記洋行以下孰れも芝罘よりの出張所なり。德昌號(口)、仁大盛(口)以上穀類布帛商。

勝地 【溫泉場】 威海城東門に近く海濱に蒞む。硫黄泉にして無色透明、諸病に效驗ありと。内部の設備は之を二區に分ち、海邊に近き部分は英國政廳の官營とし夏季のみ開場し、城壁側は支那人の經營に係れり。

此地は嚴冬の候と雖寒氣凜烈ならず、盛夏亦涼快にして空氣清淨、北支稀に見るの健康地にして、附近には環翠樓、八角樓、望月臺、星石、水龍宮、百石崖等の名勝舊蹟あり。港灣附近の丘陵等には過ぎし激戰の名殘を留むる戰蹟多し。

揚子江沿岸

【揚子江】支那人は其の本流を指して單に江と云ひ或は大長江、又長江とも呼べり。而かも其の呼稱は通過する地方に依て一様ならず。遠く水源地西藏に於ては、布魯楚河 Drechu、布賴楚河 Di-ciu 又は木魯烏蘇河 Murul-usu と呼ばれ、何れも西藏名及蒙古名に係る。四川省の西境巴塘より以下雲南省界に於て金沙江と云へるは唐以來のことにして、此の名は蓋し河底に金沙存せしに由ると傳ふ。江は北東流して再び四川省に入り其の叙州以下を呼ぶに大江或は長江の名を以てす。更に湖北、湖南、江西、安徽の四省を過ぎて江蘇省に入るや、初めて揚子江 Yangtze-Kiang の名あり。蓋「揚」の一字は往昔九州の時、此の地方揚州に屬せしに因り之を冠せしものにして、普通呼稱する揚子江とは實に其の末流の名稱なり。

長江流域 茫々たる中部支那の地を貫流する揚子江は其全流域實に三千二百哩（本流のみに於て民船可航水路、約一、七〇〇哩、其の内一五〇〇哩は小汽艇を通ずべく、又其の二〇〇哩は汽船の通航可能なり）、東洋第一の長江にして、流域地方の面積約七十萬方哩、人口（四川、湖北、湖南、江西、安徽、江蘇の六省及雲南、貴州二省の北部を合す）大約二億の多數を算す。而かも其の本支流に於ては今や上海、鎮江、南

京、蕪湖、九江、漢口、岳州、長沙、沙市、宜昌、重慶の十一通商港あり。又常德、湘潭、武穴、湖口、南昌、吳城、大通、安慶、通州等の如き特別規定の下に貨客を上するを得るもの、並に江陰、張黃港、儀徵、蕪州、黃石港、黃州府、新堤、荊河口、湘陰、芦林潭等の如き外國汽船の停船碼頭ありて、内外通商交通上重要な公道たり。加之其の廣大なる流域は各種物産の豊富なること、殆ど算數の及ばざる所にして、東亞第一の寶庫に擬せられ、現下内外人は之が開發に競進して日亦足らざるの觀あり。以下その流域を地勢の險夷に依り、急流區、準通航區、普通々航區の三大區に分ち、之が水路の概觀を叙述すべし。

【急流區】水源地乃至屏山縣間約一、二五〇哩、その水源地は西藏のマルコポロ山脈の南側に方り、南東に流れて巴顏喀喇山脈の南麓に出づるや、此に三流の會同するありて水勢漸く長大となる。巴塘の附近に於て大豁谷を過ぎ、更に一直南下して四川省の西部を劃する所謂四川アルプスの西方峽道を走り、驪て雲南高原にその進路を梗塞せらる、や、麗江府の北より東に向つて三回の大屈曲（中、甸、永、北、會、理）を爲し去る間、北方より來る鴉龍江の急流をその北岸に容れ、更に武定州の北に於ては古生岩層の峽谷に沿うて前みつ

つ再び四川省に入り、叙州府の上流二十哩の屏山縣に達す。河水の落差は水源地河床の高度約一萬五千七百呎に對し、屏山縣に於ける河床は單に一千呎なるを以て、其の差約一萬四千七百呎即ち一哩に付き平均十呎餘の落差を算すべく、以てその流勢の急激なること略々推測し得べし。

【準通航區】屏山縣乃至宜昌府間約七〇〇哩、屏山縣は四川盆地に在り、即ち江口より約一、七〇〇哩の上流に位し、此處より始めて支那民船を通ずべく、而して其の以下幾多の河流を合す。先づ叙州府に於ては成都盆地より來る岷江をその左岸に容れ、瀘州にて瀘河を、又重慶府の東に至つて秦嶺より發する嘉陵河を合しつゝ、更に前めば合江（一名赤水）及烏江の貴州省より來てその右岸に注ぐあり。斯くて四川省唯一の互市場重慶を過ぎ、湖北省界に近き萬縣に至る迄は河幅五百乃至六百五十碼、水深は季節に由りて一定せずと雖、最低二十呎乃至三十呎を有し、水運の便あり。而かも山脈逶迤として兩岸に連り、岩坡江中に突出して急湍を生じ、舟行の困難なること異常なり。殊に萬縣より湖北省界を越え宜昌に至る間は、片麻岩山岳を横斷流過する處にして、所謂三峽（宜昌峽、巫山峽、風箱峽）の險あり。兩岸の高

峻絶壁は高さ一千乃至一千五百呎に及び、峽江の短きは六哩長きは二十哩に亙る。而かも其の最も狹窄せる處は河幅僅に八十碼に滿たずして、激流急灘到處に船脚を漂はんとする危険あり。されど一度此の峽江に入らんか、その壯觀實に言語に絶す。

【普通通航區】宜昌乃至河口間約一千哩、宜昌は長江汽船定期航路の終點なり。是より少距離を下れば湖廣大盆地に入るを以て水勢大に緩舒し、幾多の曲折を爲して荊州沙市を過ぎ、次で僅に湖南に曲入して岳州の邊に於て洞庭湖の水を右岸に受け、東北に流れては秦嶺山系の水を集めつゝ、襄陽盆地を過ぎて南下し來る漢江をその左岸に容る。即ち漢口漢陽武昌の三大都市は其の合流點に鼎足の形を成せり。是より淮山脈に遮られて稍々南に折れ、江西省に入りては九江に於て鄱陽湖の水を合す。此の邊より東南一帶古生岩の横斷あるを以て河身漸く東北に屈曲し、安徽省の安慶蕪湖の間に於ては崑崙山系を横ぎり、南京を過ぎ鎮江に至り大運河を貫きて東南に流る。斯くて支那第一の通商港上海を其の江畔に有する黃浦江を右岸に收めつゝ、洋乎として海に入る。而してその江口には三稜洲崇明島（面積六十五方哩、人口約二十萬）の水道を二分するあり。又幾多の沙洲水底に沈積して年々その頭角を顯し、島を成せるもの既に七島に及ぶ。特に北部に多く堆積するを以て、海洋方面よりする各種船舶はその南口を出入の門戸とせり。

汽船通航線 揚子江の本流若くは本流を介して支流に至る内外汽船の通航線は、目下上海漢口線、漢口宜昌線、漢口湘潭線、漢口常德線の四線なるも、若し特種淺吃水の構造に成れる汽艇を以てすれば、更に三峡の險灘を洄溯すべき宜昌重慶間の一線を加へ得べし。以下項を逐うて此等各線の航運状態及沿線地方の概況を叙せん。

(1) 上海漢口線 (五八五運)

本航路は上海を起點として黃浦江を下り、吳淞に至つて揚子江に會し本流を溯るものにして上航約八十時間下航約六十時間を以て上海漢口間を往復す。航路は夏季増水時に於て吃水二十七呎を有する大船、或は一萬噸以上の航洋汽船も猶ほ自由に上下し得るも、冬季減水時に際せば特殊淺吃水の船舶にあらざれば通航する能はず。

【定期船便】 本航路に従事せる定期汽船は日清汽船八隻(每週五、六回兩端發航)、太古 C. S. N. 汽船六隻(每週四回)、怡和 I. C. S. N. 汽船五隻(每週四回)、招商局汽船六隻(每週四回) 其他一、二の小會社船等にして、就中日清汽船の鳳陽丸以下五姊妹船(皆陽號を稱せるもの)は三千噸乃至四千噸級の優良なる特殊汽船なれば船

室食堂等の設備他の航洋汽船に譲らず、頗る乗心地佳し。
【寄港地】 鎮江、南京、蕪湖、九江等を定時寄港地とし、其の他は客の需に應じ通州、江陰、儀徵、大通、安慶、華陽、武穴、蘄州、黃石港、及黃州等に臨時停船するを例とす。【賃金】 上海漢口間特別一等(支那人一等との區別上斯く稱す)五〇弗、特別二等三〇弗、往復券其の五割増。但中間港への賃金は以下本文各地名下に挿記すべし。
【乗船碼頭】 上海に於ける本航路乗船場は黃浦灘租界江岸又浦東に各社夫々の専用碼頭あり。溯航發船は概ね夜半なるも、船室の豫約、手廻荷物の搬入等は成べく前廣に運び置くを可とす。但し日清汽船の浦東碼頭へは出帆當日の午前七時乃至午後十一時迄、一時間毎に黃浦灘なる同社支店前より差立てらる、ラヂオに頼り往復するを得べし。

沿江概観 長笛一聲今や上海埠頭を解纜したる本船は燈光船影參差たる黃浦江の水面を徐々に下航しつゝ、吳淞(第三七九頁參照)を過ぐる程より、船首西北に一轉して大江を溯れば濁流汪洋として水天に連なり、四顧寥闊萬響皆絶えて耳朶を打つものは唯江流の船腹に逆ぶ音のみ。此邊南北兩岸の距離は約三、四十裡に及ぶ。漸く江を溯るに従ひ南岸遙に福山を望み、北岸に近く狼山に沿ひて進めば江波洋々として帆檣林立する處、是れ通州なり。

通州 Tung-chou (九二運從上海也以下準之) 江の北岸に位し、直隸省の通州と相對して南通州の稱あり。此處に狼山を控へ、其の地勢雄偉にして入江第一の要衝に數へらる。又支那棉花の產地として知られ、江北各地に至る舟楫の便を有し、市場稍繁華なり。

通州を去り南岸なる福山口を過ぐれば、一群の山脈南岸よら江中に突出して河幅僅一裡に狹窄せらる。江岸に宏壯なる砲臺あり、是れ所謂【江陰砲臺】にして、長江に於ける江防第一の險要となす。

江陰 Kiang-yin (一〇三運) 古の暨州にして一に澄江テスキヤヌの稱あり、運漕縦横の要區に當り、且有名なる米產地なり。

碇泊少時、北岸なる天星橋を過りて前めば、やがて行手に一小島を認むべし。其の形恰も青螺に似て樹木鬱蒼たり。是を蕉山島と稱す。左岸象山と對峙して鎮江府の門戸を扼守し、丘上に砲壘を築けり。

鎮江 Chin-kiang (一六六運、特等運賃) 鎮江は劉宋朝の南徐州、隋代の潤州の地なり。西紀一八六一年天津條約に基ける重要な開港場にして、江の南岸にあり、對岸瓜州と相

面す。其の東西南の三方は丘山障蔽をなせども、府城は揚子江と大運河(第三五四頁參照)との會流口に瀕し、附近一帶平野を控ふ。市街は内外城及城外の三區に分たれ、人口約二十萬を有す。外國居留地は長江に沿ひ、城西の金山を負ひて形勝の地を占め、英、佛、奧、獨四國の領事館、竝に日、獨の郵便局あり。(尙詳細は第三五三頁參照)

【交通】 鎮江は大運河と長江との會流點に在るを以て水路縦横に通じ、埠頭常に帆檣林立す。即ち當地は長江本航路の寄港船ある外、南方蘇州を経て杭州に至る内河航路の發著點となり、又北方江を横りて隋の故都揚州を過ぎ淮鹽の集散地たる清江浦に至るの小汽船便(毎日一回)あり。陸面は滬寧鐵路に依り、上海、南京に通すべし。

碇泊約二時間の後、鎮江を背後に見送り尙も上航すること一時間餘にして、北岸に儀徵 I-cheng (一八一運)あり。別名眞州と呼ぶる、戎克碼頭にして、揚州の管下に屬す。大小民船の夜泊せる様亦是れ江上の一景點たり。其れより以往兩岸處々に山影を望みつゝ、約三十裡を進めば南京の埠頭下關なり。

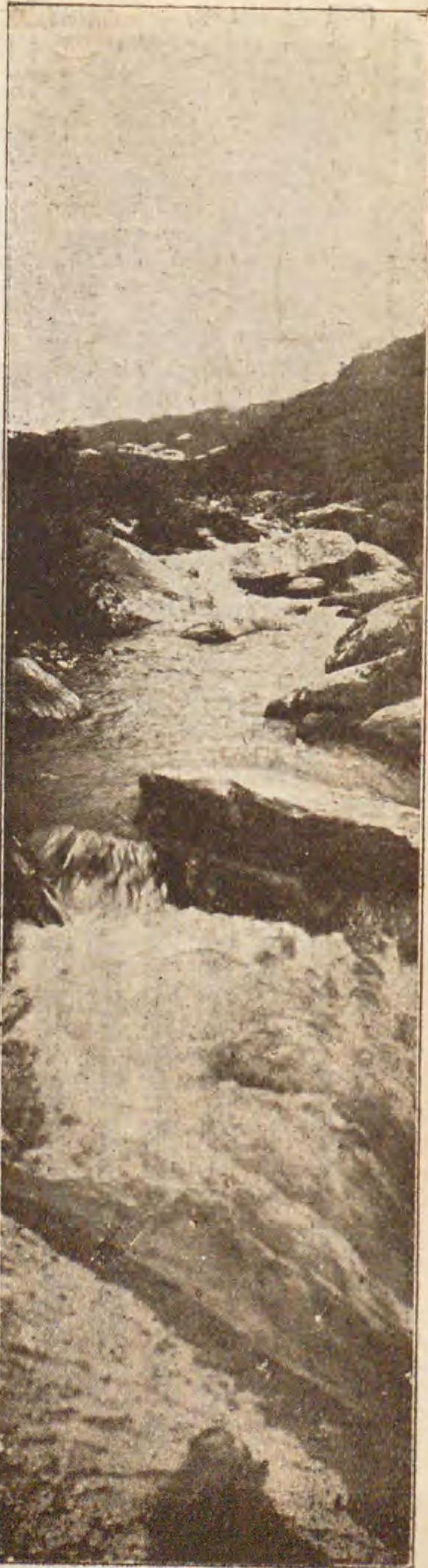
南京 Nan-king (二二〇運、特等運賃) 西紀一八九七年清佛條約に基き開港したる互市場の一なり。汽船の碇泊すべき

ハルク 蕩船の所在地は下關と稱し、城市を距る約五哩に在り。此地よりの城内へは江寧鐵路(八哩)に由るを得べく、滬寧鐵路の南京車站亦少距離に在りて、船車の連絡行はる(第三四一頁南京参照)。

鎮江より以往概ね針路を西に操て進み來れる本船は南京附近より一轉して南々西に向て航進し、江寧鎮を左舷に過れば既に安徽省界にして、行々河道二岐となり水路漸く狹窄する處前方右舷に尙寶洲の燈臺を望むべく、其の東方對岸なる采石磯は古の所謂牛渚にして、三國以來南北渡江の要津として兵事上著名の處なり。次で其の南方江岸に連なる太平府は古昔の淮南郡又南豫州の地にして城内人口約二萬、清末長江水師提督の駐在地たりき。其れより前途右舷に西梁山砲臺を望みつゝ、進めば聽て蕪湖なり。蕪湖 Wu-hu (二五九運 特等船賃) 安徽省太平府下の縣城市にして、一八七六年の英清條約に基き一八九七年以來各國互市場となれる處、又省内水運の要衝にして廬州、寧國、無爲州各方面への小汽船便あり。市は埠頭より江岸に沿うて南方に展開し、其の背後には丘陵連なり、西教各派の寺院、

英國領事館等あり。城内人口約十三萬七千、市況殷賑にして米、麥、茶、棉花、紙、砂糖等の輸出、綿絲布、石油其の他雜貨の輸入を合はして年額約二千五百萬兩の貿易あり。蕪湖を後にして斜に西南に向ひ溯航しつゝ、黑沙洲の南端を過れば荻港あり、桃冲山鐵鑛の搬出地として知らる。其れより江身著しく西に振れ、又南に折れて江中幾多三稜洲の間を左右に交轉しつゝ、進めば聽て大通 Ta-tung (約三三運) にして、附近の銅官山は古來銅鐵の産を以て著はる。安慶 An-king (三三運) 別に晋州或は皖城の名あり。安徽省の首府にして、江の北岸にあり。東西南の三面は長江の水に洗はれ、北面は丘陵障屏を爲す。城内には本省行政諸官衙を首め、師範、法政、陸軍小學堂等あり。人口約四十萬、商勢稍盛なるも、其の市街の大半は西紀一八五三年長髮賊の亂に破壊せられ、舊傷尙ほ未だ癒えざるの觀なき能はず。

安慶より前途船は概ね正南を指し、約五十餘哩を進めば前面に當り一小島現はる、是れ【小姑山】なり。昔時江の左岸に在りしも水勢の變に因て江中に出でたるなりと。附近の兩岸は唯觀る奇峰重疊して壁立千仞、江流の之に激



姑嶺の飛流

して白浪天に沖する處、俗に之を安慶の門戸と呼べり、即ち安徽省西兩省の交界たり。又其の前方南岸には嘗て六朝文學の名家陶淵明の令たりし【彭澤縣】あり。兩岸の景趣亦掬すべきもの多く、或は洲渚平遠の處蘆荻叢生し、或は江流の沈々聲なき處泓然として幽潭を爲す等、頗る行人の遊目を慰む、更に前むこと十餘哩、湖口に達す。

【陶淵明】は晋代(西紀三六五年)に生れて潯陽の柴桑栗里に居り。字は元亮宋代に潜と改む。性恬淡少くして高趣あり。博學不群、晋に仕へて州の祭酒と爲り久しからずして歸る。後召されて彭澤の令と爲る。官に在ること八十餘日、偶々郡督郵を遣はす。吏白す當に束帶して之に見ゆべしと。潛嘆じて曰、我豈能く五斗米の爲に腰を折りて郷

里の小兒に向はんやと。即日印綬を解き去り歸去來辭を賦す。門に五柳樹を植ゑ五柳先生と號す。爾後再び官に就かず。妻子と共に采菊を執り、客到れば酒を設けて飲酌し以て晩年を送れり。宋の元嘉四年(西紀四二七年)卒す。壽六十三。その作る所の詩は冲淡雅遠にして自然の域に近く、就中歸去來辭最も人口に膾炙す。

湖口 Hu-ku (四三三運) 古の大鐘又上甲の地にして、人口約五萬に滿たざる小都邑なれども、江西省石鐘山麓に倚りて鄱陽湖口を扼守し、地勢最も險要なり。乃ち清朝此に水師總兵官を駐せしめ、砲臺を建設して西紀一九一一年革命の役に備へし處。舟楫の便は鄱陽湖を通じて遠く江西省内地に至らざるの地なし。

九江 Kin-kiang (四五里 時等運賃)

【到著】 九江市内の乗物には唯【轎子】あるのみ、但し避暑地として著名なる廬山に至る約八哩間には【自動車】乗合一人に付一弗二〇【人力車】九〇仙(一人曳)、一弗二〇(二人曳)、【轎子】四人昇二弗四〇の便あり。

旅館料理店 日本旅館―大元洋行(租界)、宿泊料二弗五〇乃至三弗五〇。支那客棧―溥陽館、名利棧、中和棧等(以上城外)、宿料三〇仙乃至一弗五〇。歐風料理店―振興番菜館(後街)、日本料理店―田中屋(大碼頭)、支那飯莊―湖山第一樓(湖邊)、廣福隆、品香居(後街)等。
通信官署 日本郵便受取所(租界)、九江電報局(城外)、九江郵政局(廬山街)、九江電話局(城內四巷)。
官公署其他 贛北鎮守使署(城內鎮)、溥陽道尹公署(城內)、九江縣知事公署(城內都)、九江商埠警察廳(城外)、海關監督公署(城內南)、九江地方審判廳(城內下)、日本領事館(租界街)、英國領事館(租界街)、大英巡捕公館(租界街)。
商業機關 九江商務總會(局內)、江西全省保商局(後街)。

九江縣農務分會(西門)、南潯鐵路公司(龍開)、招商局(河)、臺灣銀行(支、英國租界)、中國銀行、交通銀行(以上)、日清汽船會社(出張、大元洋行、齋藤洋行、仁德洋行(以上租界)、怡和洋行、太古洋行、美孚洋行、亞細亞火油公司、英美煙公司(以上英租界))。

九江概観 九江は古の溥陽にして又江州の名あり。西紀一八六二年の天津條約に依て開かれ互市場にして、人口約五萬。北は大江に面し南は天下の秀峯たる廬山を負ひ、城内は往年長髮賊の占據に委せしを以て甚しく荒廢せりと雖、城外西南の支那市街並に城四江岸に在る外人居留地は商舖櫛比して殷賑の區たり。

此の地は又福州、漢口と共に支那茶輸出の三大市場たると同時に、有名なる景德鎮(天下四大鎮の一)産磁器の輸出地たり。更に周圍地方に對しては鄱陽湖上の水運、南潯鐵路の便と相俟ち省城南昌方面との往來頻繁にして、尙ほ附近には探勝に値すべき名所、古蹟等多し。

【景德鎮】は鄱陽湖東岸なる鏡州の東北方に當り、一に昌南鎮の名あり。蓋し昌江の南岸に在るに因る歟。此地方古來磁器の製出盛にして唐初晋て入貢す。宋の景德年間御器を製し、始めて景德の名あり。



姑嶺の三瀑布

元代更に印畫雕花の器を製し、明初には此に密廠を設け官に命じて監造せしむ。其の製品を名けて官磁と云ひ、當時密廠五百有餘に及びたりしもの今や百六十餘に減ぜしむ、尙ほ盛に製出せられ廣く外省に銷售せられつゝあり。但之を往時の製品に比すれば材料頗る粗脆、技工亦大に遜色ありと云ふ。

勝地 【廬山】九江の西南約十三哩に在り。五老峯、香爐峯、雙劍峯等の峻嶺名峯を首め、八百八寺の堂塔、朱子白鹿洞書院等の名勝に富む。就中外人避暑地として有名な【牯嶺】亦實に其の一峯たり。海拔三千五百尺、九江を距る十五哩にあり。其麓蓮花洞に至る約八哩間は現時自動

車及人力車の便あり(九江【到著】條下参照)。牯嶺避暑地は初め英人リットル氏の經營せし所に係り、其の租借地内には約三百棟の洋風別荘あり、又旅館、教會、學校、病院、游泳池、運動場等の設備完成して、毎年夏季各地より集る避暑客實に二千餘名に達すと云ふ。【東林寺、西林寺】とも廬山の麓に在る巨刹にして、就中東林寺は往時慧遠法師等が白蓮社を起して淨土教の普及を道破したりと云ふ著名の巨刹なり。

【琵琶亭】龍開河口に在り、有名なる唐朝の詩人白居易が「琵琶行」を詠ひし處、後人此所に亭を建て琵琶亭と稱せしむ、今は荒廢して纔に宣花宮なる一小廟の遺存せるに過ぎず。【紫桑栗里】府城の西南數歩の地に在り。晋の文豪陶淵明(第二八九頁参照)の居址として知らる。

鄱陽湖 支那本土に於て洞庭湖に亞ぐ一大湖にして、往昔の彭蠡澤なり。今の名は隋代に至りて改めしもの、その南北最長の個處約八〇哩、東西最廣の個處約二〇哩を有す。省内大小の湖澤河川の水悉く之に朝宗し北方湖口に於て揚子江に連る。水深は洞庭湖と同じく時季によりて一定せず、増水

期には吃水十二、三呎の汽船を吳城に通すべく、河用砲艦の如きも時に吳城より贛江を溯りて南昌に至ることあり。されど減水期に至れば數條の水道を残して全湖干出し、吳城迄吃水五呎、南昌迄吃水三呎の汽艇ならでは航行不可能となる。湖中には島嶼多く、康郎山、鞋山等は西北一帯に聳立せる蘆山と相對峙して風光絶佳、頗る心目を娛ましむ。湖上又水路縦横に通じて交通至便なり。(別項【鄱陽湖線】参照)。

【贛江】 鄱陽湖に注ぐ河川の大なるものには鄱江、汝水、信江等あれど贛江を以て最とす。揚子江上汽船航運の開けざる以前に在りて、贛江は實に江西、河南及安徽地方より廣東に達する唯一の水路として、流域一帯繁昌なりし處、今や復昔日の盛觀なしと雖、猶舟楫の上下頻繁なるを見る。沿岸には吳城、南昌、吉安、贛州、南安等の大小市街あり。就中南昌最も繁華なり。

【可航水路】 九江より鄱陽湖を経て南昌迄は冬季極減水期の外四時小汽船の通航あり。之より上流も吉安迄は夏季に於て小汽船を通すべく、其の以上南安迄は地方戎克の通航可能なるのみ。

九江南昌間

【鄱陽湖線】 日清汽船其の他の長江航路汽船諸會社を首め、當地方内外人の經營に係る幾多の小汽船運航業者ありて、九江を中心として湖口(二六哩)より鄱陽湖に入り、吳城(五九哩)を経て贛江を溯り南昌(二〇七哩)に至る間、毎日小汽船の通航頻繁なり。賃金は各會社又船種に依り一定し難きも九江より南昌迄大概一等三弗、二等二弗、三等八〇仙位とす。

【南潯鐵路】 江西全省鐵路の一部にして、我東亞興業會社の借款資金に依り邦人技師の手にて敷設せられしもの、九江より南昌迄七九哩九、毎日二回の列車便あり、行程約五時間半、賃金一等三弗二五、二等二弗〇五なり。

沿途概観 南潯鐵路九江車站は租界の西方、龍開河の左岸に在り。其れより線路は楊林湖の東岸に沿ひ、蘆山の西麓を繞りて南走し、沙河(二〇哩)、黃老門(一九哩)、馬廻嶺(三哩)の諸站を過ぎて德安(三哩七)に至る。九江府管下の縣治にして、鄱陽湖西岸の南康(人口約二萬、内湖の咽喉を扼する要害地なり)と山路を隔て、相對せり。次で到る建昌(四八哩九)は西方湖北省界の山地より來る諸流の修水に會合する處、是れ亦南康府下の縣治たり。其

れよの徐家埠(五哩二)、樂化(七〇哩六)の二站を過ぐれば聽て南昌なり。

南昌 Nan-chang (七九哩九) 車站は贛水の左岸瀛上に在りて、對岸府城に至る約二哩間、其の贛水上には鐵道所屬の小汽船に賴り渡航の便あり。前後の陸路は轎又は人力車通ず。城は贛水の右岸に瀕し、江西の首府にして漢の豫章郡たのし所、南唐の時南昌府の稱あり、歴代改稱を経て明以後今の稱に復す。明の王陽明が討伐せし寧王の叛も此の地に起りしなり。城内人口約三十萬、督軍省長公署、其の他の官公衙、各種學校兵營等あり。街衢清潔ならざれども、豪商、巨賈店舖を列し市況殷盛なり。【勝王閣】府城の贛水江岸に瀕せる一高樓にして、唐の高祖の子元嬰の建つる處、樓上壁面に王勃の作「勝王閣序」を刻せり。

九江を過ぎ、更に溯航する(二)と三十二哩にして武穴 Wu-shieh (三七哩五) あり、地は既に湖北省界にして、市鎮は江の北岸に位し人口約六千、陸鹽の産地として著る。【四祖寺】武穴の北方黄梅縣四祖山に在り、禪宗の四祖

道信が禪道提唱の古刹として知らる。五祖弘忍の駐錫せし五祖寺も亦其の附近に在りと云ふ。【牛邊山】武穴の西方數哩に在り。其の附近江道頗る狹窄し、曾て長髮賊が鐵鎖を以て長江水師の連絡を絶ち大に官軍を惱ませしと云ふ古戰場なり。是れよの尙ほ溯るに従ひ江心逼蹙して風景の變化窮りなく、雞頭山水道を過ぐれば程なく黃石港なり。黃石港 Huang-shih-kang (五一哩、特等運賃) 江の南岸に在り、湖北省武昌府大冶縣の管下に屬し、人口約六千、有名なる大冶鐵礦山に至るべき埠頭として船舶常に輻湊す。又湖北セメント株式會社(湖北水泥廠)あり、一日の製造高約千樽に達すと云ふ。

大冶鐵礦

江岸石灰密より鐵廠所在地に至る十九哩の運鐵用鐵路あり。其の沿線左手に石灰山の連亘せるあり、右手には滿庵、石灰、苦灰等の相交雜せる大鐵山脈を望みつゝ、進めば聽て獅子山麓の終點に達す。

【鐵礦區】 大冶鐵礦とは獅子山外三山の總稱にして、其の鐵脈は厚八十米突、面積約百方里に及び、毎年百萬噸宛採掘するとして尙ほ七百年を持続すべしと稱せらる。採鐵法

亦頗る容易にして、單に上方露頭部より炸藥作業を以て採取すれば足り、而かも斯くして得たる粗鐵百分中の含鐵量は六十五%内外を有し、之を獨、米、瑞等各國の例に比するも遙に優秀なりと云ふ。鐵鑛廠の經營は官民合辦の漢冶萍煤鐵公司に屬し、採掘鑛石の一半は我製鐵所へ買收の特約あり、其餘は漢陽鐵廠へ供給せらる。鑛廠所在地には我製鐵所員の駐在所ありて鑛石の買取、運搬等に執掌せり。

黄石港より湖(二十)里餘の北岸に黃州 Huang-show (五三)運あり。湖北東境の舊府治にして、人口三萬

の都會なるも、江岸水陸連絡の便ならざるより商況振はず。

【赤壁山】府城の西北江岸に連なる幽境にして蘇東坡の赤壁賦は實に此の地の風光を詩化したるものなり。【陽維】

黃州より航程三十餘里の北岸に在り。曾て元の世祖忽必烈が大軍を渡江せしめし要津として有名なり。更に溯航する(二十)餘里、右舷前方煙霧模糊の裡に帆檣林立の盛觀あるは是れ即ち武漢三都の大市場漢口 Han-kow (五八)運一第三二七頁以下参照なり。



(頁八八二) 山 姑 小

(2) 漢口宜昌線 (三八)運

漢口より長江本流を溯り宜昌に至る本航路は前記上海漢口線に比し水深概して淺く、且冬季に於ける減水著しきを以て、其の所用汽船も亦一層淺吃水なる特殊構造のものに係れり。

【定期汽船便】日清汽船二隻(毎月九回)、怡和 I. O. N. 汽船二隻(毎月六回)、太古 T. G. 汽船(毎月三回)、招商局汽船二隻(毎月六回)等にして、我日清汽船は千六百噸乃至千九百噸級の汽船を就航せしめ、漢口宜昌間上航四日、下航三日の航程なり。【貨金】特等四五弗、同往復七〇弗(以上洋貨附)、特官船(支那貨附)上航一五弗一八、下航一一弗六七なり。【寄港地】沙市の外、必要あるときは新堤、岳州に臨時停船す。

沿途概観 漢口を發し、左に武昌の黃鶴樓右に漢陽の晴川閣を眺めつ、溯航すれば、船首に當り古來文人間に有名なる【鸚鵡洲】あるも此の地今は往昔の面影なく、唯見る十里の江岸遠く木材堆積せらるゝを、是れ湖南の山林より切

出し篋に組みて輸送し來りしもの。更に進めば右舷に【沌口】あり江水是より太白湖に通ず。左舷金河々口には【金口】あり、人口約一萬を有する市街にして、北岸大軍山と相對せる要路を占め、沌口、樊口と共に武漢三口の稱あり。是よ

の諸湖水を傳ひ行くを例とす。此の地方一帯は土地の低濕最も甚しく、江堤より低きこと實に二十呎餘に及ぶ處あり。市街の周圍亦堤防を繞らして浸水の難に備ふ。

新堤(九)運(從漢口也以下準之)長江左岸に在り、人口約五萬、一名小漢口の稱あり。市街に接する一小流を内河と謂ひ、沙市に至る捷路として支那民船の多くは之に由り、江北所在の諸湖水を傳ひ行くを例とす。此の地方一帯は土地の低濕最も甚しく、江堤より低きこと實に二十呎餘に及ぶ處あり。市街の周圍亦堤防を繞らして浸水の難に備ふ。

新堤よの南々西を指して航を進むれば右手に湖北の沖積層よの成る平野を望み、左手には洞庭湖邊岳州府界の連山蜿蜒たるを見る、其の風光頗る雄大なり。次で前方の水路左右に岐れ江道三叉を爲す處、右に荊河口(人口二千餘)、左に城陵磯(二三)運、第二二三三頁参照あり。共に岳州の下流六運、長江本流と洞庭湖よりする二水の咽喉を扼する要津たり。——但し本航路に賴り岳州に至る船客は城陵磯にて下船を要す。

城陵磯を去り、岳州(第三三二頁参照)を左舷後尾に目送しつ、船首を西に轉じ、尙ほも大江を溯れば江岸平沙千里に亘り、蘆荻叢中時々村莊の單調を破る外殆ど視界を遮るものなし。此の邊より以往江道は概ね湖北湖南の省界を爲し、水路の紆曲最も甚しくして、船行左轉右折するもの屢次なり。續航約三十哩にして右舷に尺八口塘あり。更に四十餘哩の上游北岸には監利、又七十餘哩を進めば左舷石首あり。共に荊州府下の縣治たり。其の以往江道の彎曲漸く緩く、船は概ね北々西を指して溯り約五十哩にして沙市に達す。

沙市 Shashi (Hubei, 漢口より特等四〇弗)

【到着】汽船は江岸埠頭の躉船に横付けせらるべく、日清汽船の躉船は其の中央に在り。【人力車】賃金一時間二百文、半日八百文、一日一串五百文。【轎子】賃金一時間三百文、半日一串文、一日二串文。

旅館其他 支那客棧—連陞棧(洋碼)、名利棧(上)、宿料五〇仙乃至六〇仙。歐風料理店—吉祥春(興々)。支那飯店—鴻運樓(城隍)、純陽樓(上)、百尺樓(巷)。回々教席館—四海春(巷)。茶樓—純陽樓(城隍)。

沙市概観 一名沙頭又荆沙と稱す。岳州の上流一八三哩宜昌の下流八三哩、長江の北岸に在り。市街は荊州 King-chow 府城と相距る約二哩、兩市街は殆ど相接續せり。埠頭附近には税關、倉庫、領事館等貿易關係の建物あり。日本居留地は其の下流江岸に連なれり。人口約十三萬、馬關條約に基き西紀一八九六年互市場となる。此の地唐宋の頃より繁華の區をなし、其の最殷盛なりしは長髮賊が金陵(南京)を陥れし當時にあり。蓋し巴蜀來往の民船賊亂の危害を恐れて此處より以東に航するを止め、勢ひ百貨集散の衝となりしに因る。最近の貿易年額約四、四二二、八四九兩、主な物産は米穀、棉花、藥種、紋織等の類とす。

【荊州】往時春秋楚國の舊都にして秦代の南郡の地、その荊州の稱は明以降のことなり。府城は蜀漢の名將關羽の築きし處といふ。周圍約十哩、高約三十呎の廓壁を繞らせり。その地勢は古來吳蜀の門戸と稱せられし要路に當り、近く清朝亦此の地に重きを置きて荊州將軍を分駐せしめ、以て當國軍務の要地とせり。人口約三十萬、交通至便にして陸上北方は襄陽を過りて河南各地に入り、南方は江を渡り湖南を經、遠く貴州雲南に至る國道あり。水上は江を溯ること四哩、右岸に大平運河ありて洞庭湖に通じ、北岸亦沮水に面す。隨て百貨常に雲集し商業頗る殷盛なり。

通信官署 日本郵便局(洋碼)。沙市一等郵局(三府)、中國郵政局(荆)、沙市電報局(九)、荊州電報局(荆)。

官公署其他 海關(洋碼)、徵收局(九)、運銷局(三府)、水警局(楊泗)、警察專局(板門)、江陵縣署(荆)、日本領事館(洋碼)。

教會堂學校 天主堂(洪家)、福音堂(巡月)、聖公會(花灣)、神道學堂(荆)、甲種商業學校(絲線)、荊南中學校(荆)、師範學堂(上)。

工場 普照電燈公司(塘)、信義麵廠(子)、雲錦布廠(上)、貧民工廠(荆)。

銀行商舖 中國銀行(劉家)、交通銀行(三府)、殖邊銀行(青石)、邦商—武林洋行(三府)、吉田洋行(上)、日信洋行(大慈)、瀛華洋行(劉家)、安部洋行(夾貴)、三菱公司(洋碼)以上輸出商。日清公司(船舶業大慈)、外商—太古洋行(汽船大慈)、怡和洋行(同上洋碼)、美孚洋行(石油洋碼)、亞細亞公司(同上三府)、英美煙公司(頭)、安利英行(輸出洋碼)、支那商舖—履泰當舖(九)、永康當舖(巷)、同震銀樓(街)、丹鳳銀樓(上)、恒春茂當舖(九)、杜同興

藥舖(街)、義鼎昌綢緞舖(街)、義厚昌綢緞舖(上)、春生全廣貨店(上)、大吉祥廣貨店(上)等。

勝地 【孫叔敖の墓】沙市の北端便河畔にあり。孫叔敖は楚の宰相にして幼時彼の兩頭の蛇を殺せし逸話を以て有名な人。墓表の立てる附近は一帶の丘陵にして、景致亦賞すべきものあり。【承天寺】荊州城内に在り。一名荊南第一禪林と稱す。輪奐の美を極め境内頗る廣潤、元代の遺物なり。【寶塔】沙市々街の西端にあり。七重の塔にして往時一和尚、其の附近の河中に棲める怪魔を捉へ、之を此の塔中に封せしものと傳ふ。【望江樓】沙市城隍廟内に在り。樓閣高く雲表に聳え、建築又精巧を極む。之に登臨すれば眺望絶佳、境内頗る閑寂にして宛然別寰區をなせり。

更に航を進めて江口、松滋、枝江等の郷邑、市鎮を或は右或は左に顧眄しつ、宜都縣を距る約二〇哩の上流に至れば【虎牙灘】の險あり。兩岸俄に緊窄して荊門、虎牙の二山突兀として南北に聳立す。荊門十二峰の勝と稱するもの即ち是れ。行々眉宇に迫り來る奇勝絶景は幾度か人の膽を奪はんとす。此を過ぐれば流勢一轉し聽て宜昌に入る。

宜昌 Ichang (三十三運)

【到着】埠頭は府城南門外の支那市街に接し、江の左岸に連なれり。【人力車】一時間二〇仙、半日一弗以内、一日二弗以内。轎子も亦略同なり。

旅館料理店 支那客棧—略佳旅館(南門外)、正大旅館(南門外)、泰安棧(馬路)、宿料—中食付にて。歐風料理店—萬年春(南門外)、海國春(馬路)、美華(高陞棧)、支那飯莊—萬年春、仙鶴樓、四美春(以上南門外)、新發樓(同正)。茶樓—余新發(南門外)、一新(同後)。

宜昌概観 一名夷陵と稱し、西紀一八七七年芝罘條約に基ける長江貿易港の一なり。人口約五万、外人百餘人を算す。その地勢東北に稍廣き平野を見るも、他は悉く高嶺峻峰を以て障屏と爲し、所謂三峡の咽喉を扼するものなり。府城は周圍約二哩の磚壁を繞らし、市街概ね狹隘家屋亦陋矮にして市況振はざるも、府城南門を距る少程、奎星閣以南の外人居留地附近稍繁盛なり。目下宜昌より一方漢口に他方成都に至るべき川漢鐵路は既に測量を終へて、現に工事中途にあり。其の宜昌車站は埠頭區の南方江岸に設置せらる。地

方産物は米穀の外、棉花、麻、茶、漆、棕梠其の他の木竹材、玉石、水晶其の他の礦物等とし、四川省界及施南地方よりする、油蠟、藥品、麻、絹布の類も亦此地を経て輸出せらるもの尠からず。當地最近の貿易年額約五、六八五、五八九兩なり。

官公署其他 荆南道尹公署(城内府)、税關長公館(南門外)、宜昌關(上)、知事公署(城内縣)、宜昌關監督兼外交署(同)、廳審判(同)、模範監獄(同)、警察總局(同)、英國領事館(南門外)、中華郵政局(南門外)、支那電報局(湖南)。

教會堂其他 天主堂(南門外漢)、聖母堂(同)、內地會(同)、聖公會(城内白)、福音堂(同)、美華中學校(聖公會屬)、華英學校(福音堂屬)、夷陵中學校(城内)、湖北第三師範學校(東門内)、普濟醫院、仁濟醫院(以上福音堂屬)、濟生醫院(日本上)。

銀行商舖 中國銀行(南門外)、交通銀行(上)、殖邊銀行(同)、濬川源銀行(城内所)、外商—亞細亞火油公司(石馬路)、美孚洋行(石油同)、怡和洋行、太古洋行(以石油同)。

(3) 宜昌重慶線 (約三〇運)

本航路は揚子江上流區域に屬するを以て、爾餘の中、下流よりも更に淺吃水の船舶ならでは通航する能はず。加之其の間には所謂三峡の險灘を首め六十餘箇所の急湍ありて、航行頗る困難なるも古來其の雄渾壯大なる風光を以て天下に冠絶し、李白、杜牧の發筆も尚ほ之を描いて至らざるものありと稱せらる。

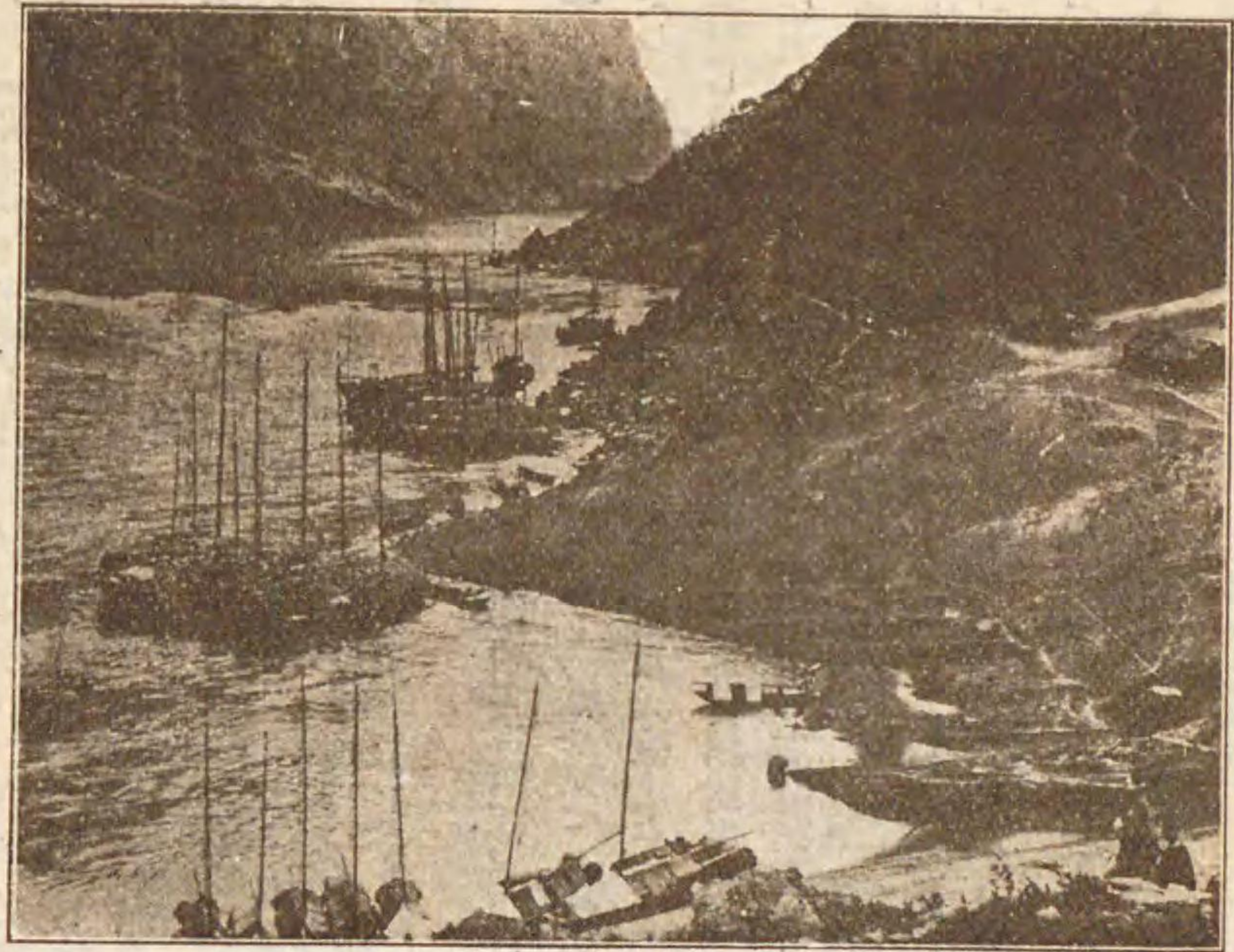
【通航汽船便】抑々本水路汽船航行の自由は一八九五年の下關條約に依て得たるものにして、是れより先各國は同航路の研究に怠りなかりしが、就中之が實行の先鞭を著けたる功は夫の四川通として有名な英人アーチバルト、リットル氏に歸せざるべからず。現下本航路に従事せるもの川江輪船二隻(蜀通、蜀亨)、川路輪船二隻(利川、大川)嘉宜瑞慶輪一隻(慶餘)等、孰れもリ氏の考案に準據し特殊の構造に成れるものにして、平水時に於て毎船一箇月二往復の航漕能率あり。宜昌重慶間上航一週同、下航三日を要し【賃金】上航六〇弗、下航三〇弗とす。

【減水時通航便法】従前本航路は冬季減水時(從十二月下旬)に於て休航するの例なりしも、近來は各區間水路の狀況に應じて適度の配船(最淺水區間には或は民船を介することあり)を爲し、彼此連絡移乗せしむるの方法に依り行客の往來に資せり。平水時に比し航程較延長を免れざるも、航路杜絶の虞なきに至れり。

宜昌

上汽船(南門外)。邦商—日清汽船會社(南門外)、武林洋行(同)、新利洋行(同)、瀛華洋行(城内天)、以上輸出業。齋藤洋行(漆南、南門外)、丸三洋行(賣藥雜貨、同正)。支那商舖—晋昌當舖(城内天)、寶成銀樓(南門外)、採枝軒藥舖(城内天)、裕豐昌綢緞舖(上)、利昌雜貨店(上)。劇場 新々宜舞臺(南門外)、老宜舞臺(東門外)、負郭茶園(上)。

勝地【三遊洞】宜昌より約五裡の上流峽江の入口に位す。洞内に佛寺あり。洞下に清溪淙々の響を立て、景趣掬すべし。唐の元和年間白居易、弟行簡及元微之と共に此に一遊せしよ其の名ありと謂ふ。【龍王洞】宜昌の對岸約二十裡に在り。山上の洞内に佛寺あり。又清水その洞内に滴りて自ら池を爲すあり。附近の風光亦絶佳なり。【姜孝祠】宜昌の上流對岸小口の入口に位す。彼の二十四孝傳中の姜孝子を祀れる祠なり。境内幽邃、眺望亦廣闊。【峽江】峽江を溯りて南沱(宜昌より上流約二十裡)に至れば所謂三峡の險の一斑を窺ふべく、その自然の壯觀は轉々人の心魂を奪はんとするものあり。



新灘の頭

沿江概観 船宜昌を解纜して溯航すれば上流三湮にして江道俄然緊窄し、江幅僅に六十碼を出でず。兩岸には岬嶮相迫り澗水は渦旋を生じて急流となり、涼々たる水聲凄然たる處即ち是れ有名なる三峽の一、宜昌峽（一名西陵峽或は黄牛峽）の峽門なりとす。是より迂紆曲折せる峽中を溯れば、進むに従ひ錯綜せる岩礁江中に突出し、兩岸は怪岩奇石亂列して急湍飛沫を擧げ轉々心膽を寒からしむ。此邊溯航の船舶は竹製の綱（長さ約一、二〇〇呎）に纏はれ、數十百の牽夫曳々の聲を發してその綱を牽き、緩急其險に應じて相進む。時に凸凹極りなき峽間に於ては銅鑼或は太鼓を打ち以て相互の信號と爲す。其の風趣亦一奇觀なり。

黄陵廟 Huang-ling-miao (三湮從宜昌也 人家約百餘戸の水驛にして、同名の古廟村後の山腹に在り、地名の據て起る所。是より上流は奔流益々激湍を生じ、暗礁河底に横りて最も戒心すべき險路に入り、鹿角、虎頭、羊背及文珠等の險灘相尋いで迫り來る。たゞ見る兩岸の絶壁相對峙する處、急湍巖頭に碎けて飛沫千丈、その壯觀殆ど言語に絶するものあり。

【新灘】更に溯航數湮に在る峽中三至險の一たり。老練の舟師をして尙時に逡巡せしむるは即ち此の險灘なり。之を過れば驪て北より流る、一小河の朝宗するを見るべし。舟楫の便輿山縣に至る。漸くにして歸州に達す。

歸州 Kweichow (五湮) 此の地は周の夔國、漢の秭歸にして、江の左岸傾斜地を占め、山岳を負ひ、大江に瀕し、繞らすに廓垣を以てせる峽中の一要鎮として、楚以來の舊蹟多しと稱せらるるも、現在人家數百戸に過ぎずして、市況振はざるが如し。

是れより人鮮 夔の險を経て上流に溯れば峽中三至險の一たる【洩灘】あり。更に溯航約四湮にして【牛口灘】に差蒐れば水勢洶湧して飛沫天に冲する狀頗る壯快なり。

巴東 Patung (六湮) 宜昌府下の一縣治にして、一に信陵とも稱す。江の南岸斜地に據り、東西南の三面連巒に依て圍繞せらる、市街人口三千餘、一路是より南西山地に通ずるものを辿れば四川、湖南との交界施南府に至るべし。

巴東より溯る約十五湮、背石灘に至れば湖北、四川兩省の分界にして、同時に江上の水路茲に宜昌峽を離れて巫

山峽の峽門に入る。【巫山峽】は所謂三峽の一にして、標高千呎以上の有名なる巫山十二峰（望霞、翠屏、朝雲、松巒、集仙、聚鶴、淨壇、上昇、起雲、栖鳳、登龍、聖泉）は恰も屏風の如く江濱に峭立して約二十湮の長峽を爲し、その間の江道は特に狹窄して亭午、夜半にあらざれば日月を見ず。流勢急に旋渦激しくして舟行を遮り、老巧なる舟師尙且寒心に堪えざる處なり。

巫山 Wu-shan (九湮) 一名建平と稱し人家約三千、各種の礦物、藥材を産し、商業亦稍々見るべきの地。城東に一小河大寧河あり、舟楫の便大寧縣に通ず。

是より上流夔州に至る間に有名なる【瞿塘峽】一名風箱峽の險あり。峽道約五湮に互り兩岸は懸崖絶壁相對峙し、冬季減水せば左岸の岩礁露出して江幅愈々逼り、夏季増水して江水岩角を没すれば忽ち勢猛なる大旋渦流と變じ、舟楫最も危険なり。瞿塘峽の上口を【夔門】と稱し兩岸相距る僅に數十間、その門口に一大岩礁の屹立せるあり、是を【滪滪堆】と名く。古來舟客之を以て峽中の水候を驗す。即ち滪滪馬の如く大なれば瞿塘下る可らず、

灘瀆象の如く大なれば壘塘上る可らずとせり。此處を越ゆれば三峽漸く盡き、進むに従ひて平夷寛濶なる地勢を現じ、江流頗る緩漫なり。北岸に一山あり、【白帝城】の故址にして、

三國時代蜀の昭烈帝(劉備)、吳軍の追撃に逢ひ夜身を以て遁れ、この城に入り白帝を改めて永安宮と呼び、停ること一年、終に病みてこの宮に殂せりと傳ふ。山上に帝の廟宇あり。

その西方【魚腹浦】の地は、曾て蜀の軍師諸葛亮(孔明)が八陣を布きたる舊蹟なり。

夔州 Kwei-chow (110運) 蜀漢の固陵郡にして唐代

雲安と稱す。地勢三面は巴山の連脈を負ひ、南面江に臨み、所謂三峽の入口を扼する處古來巴蜀の咽喉と稱せらる。人口約四萬、附近に井鹽を産す。市街商業亦殷盛なり。

【臥龍山】城北に在り、曾て諸葛武侯が屯營せし處。山上に祠あり武侯祠と云ふ。

夔州府を出て、更に上流に溯れば、廟磯子、東洋子の二灘を過ぎて雲陽縣に達す。

雲陽縣 Yun-yang-hsien (16運) 人口約三萬、縣

城は北岸に在り。峽道上下の船舶常に此に碇泊するを以て埠

頭頗る熱鬧を極む。この附近井鹽を産す。江の南岸に一座の廟宇あり、結構壯麗碧瓦燦然たり。蜀漢の猛將張飛の首級を葬る處なりと謂へり。

雲陽縣を後にして、尙ほ溯ること約十五湮の江道に新龍灘と稱する急湍あり。今を去る十六年前の秋潦に北岸の絶壁崩壊して、一時殆ど舟行不可能なるに至らしめしが、爾後外國技師指揮の下に之が浚渫に力を盡し、漸く現状までに成功せり。而かも今尙當時の岩塊を殘し、冬季の航行殊に

危険なりと云ふ。萬縣 Wan-hsien (195運) 此地は宜昌重慶間航行船舶の中繼所にして、且陸路省城成都に入り更に進て蛾眉山登りを試み、或は北蜀雲棧の奇勝を探らむとする旅客の上陸地點たり。縣城は江の北岸に位し、市街は丘阜起伏の間に在りて車馬を連せず。貨物は擔夫に依り、行客の來往總て轎子に頼る。

人口約十五萬、本航路中重慶に亞げる大會にして、商賈櫛比し百貨常に輻輳せり。

【太白岩】縣城の西北に聳立す。曾て詩仙李太白が讀書せし處として名あり。岩上彼が爲に一座の廟を建つ。その風

致亦極めて佳なり。【天仙橋】縣城の西方に當り一河流孛溪あり、大江に注ぐ。溪上巨岩の自然に横りて一橋を爲すもの即ち是れ。

此處より前途は河道の方向俄然一轉して南に折れ、進むに従ひ山開け川汎まりて江流稍々緩漫となる。されど暗礁と淺瀬とは尙處々に隱見點在して、遭難事故の如きは却つて

此の萬縣上流に多しと云へり。彼の西紀一九一一年八月、川江輪船公司所屬の汽船蜀通號、竝に同一九一三年二月獨逸軍艦オッター號の座礁せし處も、等しくその觀音灘附近なりとす。

行手の沿岸に壤渡、武陵碛、西界沱、石寶峯、忠州、羊肚溪の諸市邑を送迎しつ、鄂都縣附近に至れば地勢大に平坦となり。田圃井々として江濱に連り庶民頗る富裕の色あり。

忠州 Chung-chow (111運) 州城は江の北岸に位し、人口五萬有餘、此地所産の竹は有名にして最も靱性に富み、峽江控船の竹索材として好適なり。【四賢堂】城内にあり、劉晏、陸贄、李吉甫及白居易を祀る。四氏皆嘗て此に謫

劉晏、陸贄、李吉甫及白居易を祀る。四氏皆嘗て此に謫



(頁一〇三) 峽山巫

せられしを以てなり。
【鄂都】 Feng-tu (二五運) 縣城は江の北岸に在り。人口約五萬、市街繁華なる一都邑なり。【平都山】市外にあり、古來道教の靈地として成都の青羊宮と併稱せられ、各地よりの參詣者多し。

是よりの上流約三十哩、涪州に至れば【龔灘江】一名涪陵江の水揚子江に會流し、貴州各地に至るべき舟楫の便を通ず。涪州より上流河道又一轉して西微北に向ひ、長壽 Chang-show (三三〇哩) に至る。重慶府下の縣治にして、一に樂温と稱す。南面長江に瀕する處一市街を爲し、人口約一萬商業稍盛なり。

是よりの本航路の終端重慶に到る間約五十哩、樂碛、木洞、潭家河の諸鄉村を點綴し、山姿水容依然として天下の奇觀を極め、俯仰應接に遑なからしむ。

重慶 Chung-king (從宜昌 三七〇哩 從江口 一、三七〇哩)

【到着】 航程將に盡きむとして、船重慶に近ければ其の北西より來る嘉陵江の一水本流と合流して河道此に三岔口を爲す。乃ち彈子石の突角を左舷に見送り、右舷前方水路の北岸に江北の一市鎮を見渡しつ、

ひ、周圍約五哩高約百呎の城壁を繞らし、城内を百四十街二十八巷に區分し、城内外の通路として通遠、南紀、金紫、儲奇、太平、東水、朝天、千廝、臨江の九門あり。城内には各國領事館を首め地方行政官公署、諸學校等より税關其の他の商業機關も備はり、市況殷盛にして、途上繁華の區各方面に在り、四川唯一の中心市場たるの面目躍如たり。

【市外の交通】 陸路四川省の首府成都に達する百六十哩の官道あり。又水路に依れば是より江を溯り瀘州を経て叙州に至り、此處に於て涪江に由て嘉定に至り(此の區間には小汽船便通す)、更に錦江を上れば成都に至る。此の間約三百四十哩とす。又嘉陵江を溯れば四川省内東部に於ける各府縣を過り、陝西省略陽及甘肅省階州に至る舟楫の便あり。

領事館 日本領事館(培德堂巷)、英國(領事)、佛國(同上)、米國(順城)、獨逸(巷)。

郵便電信 佛國郵便局(佛國領事館内)、重慶郵政局(太平門順城街)、郵政分局(陝西街、小梁子、十八梯)、重慶電報局(梁子)。

銀行 中國銀行(商業)、交通銀行(小十街)、濬川源銀行(接聖街)、殖邊銀行籌備所、儲蓄銀行、晉豐銀行(以上陝西街)。

轉舵一番南を指せば、其の右側直前に展開し來るものは是れ重慶の大城市にして、城の東面なる朝天門乃至東水門間一帶の江岸を右舷に望みつ、更に西に轉舵すれば程なく城南太平門外の碼頭に達すべし。【轎子】 城内外とも鋪石道にして、且坂路多く車行に適せざるが故に、轎子に頼るの外なし。賃金一城内中央より各城門迄制錢六十字乃至百十二文(但し制錢と弗銀との比價は時期に依り多少の變動を免れざるも、銀一弗に付千七百五十文内外の割合なり)。一日雇切昇夫一人に付五百文、半日ならば其半額。

旅館料理店 支那客棧—中西旅館(陝西街)、宿泊料一弗乃至三弗。大江東旅館(接聖街)、德順賓館(陝西街)、春申輪船旅館(正街)等。歐風料理店—五大州(商業)、中西旅館(陝西街)。支那料理店—四時春(坊)、陶樂春(巷)、艷陽春(半邊街)等。回々教席館—裕美園(堂)、裕和園(响水橋)等。茶館—王總爺(坊)、文芳齋(坊)、甘大爺(楊柳街)等。

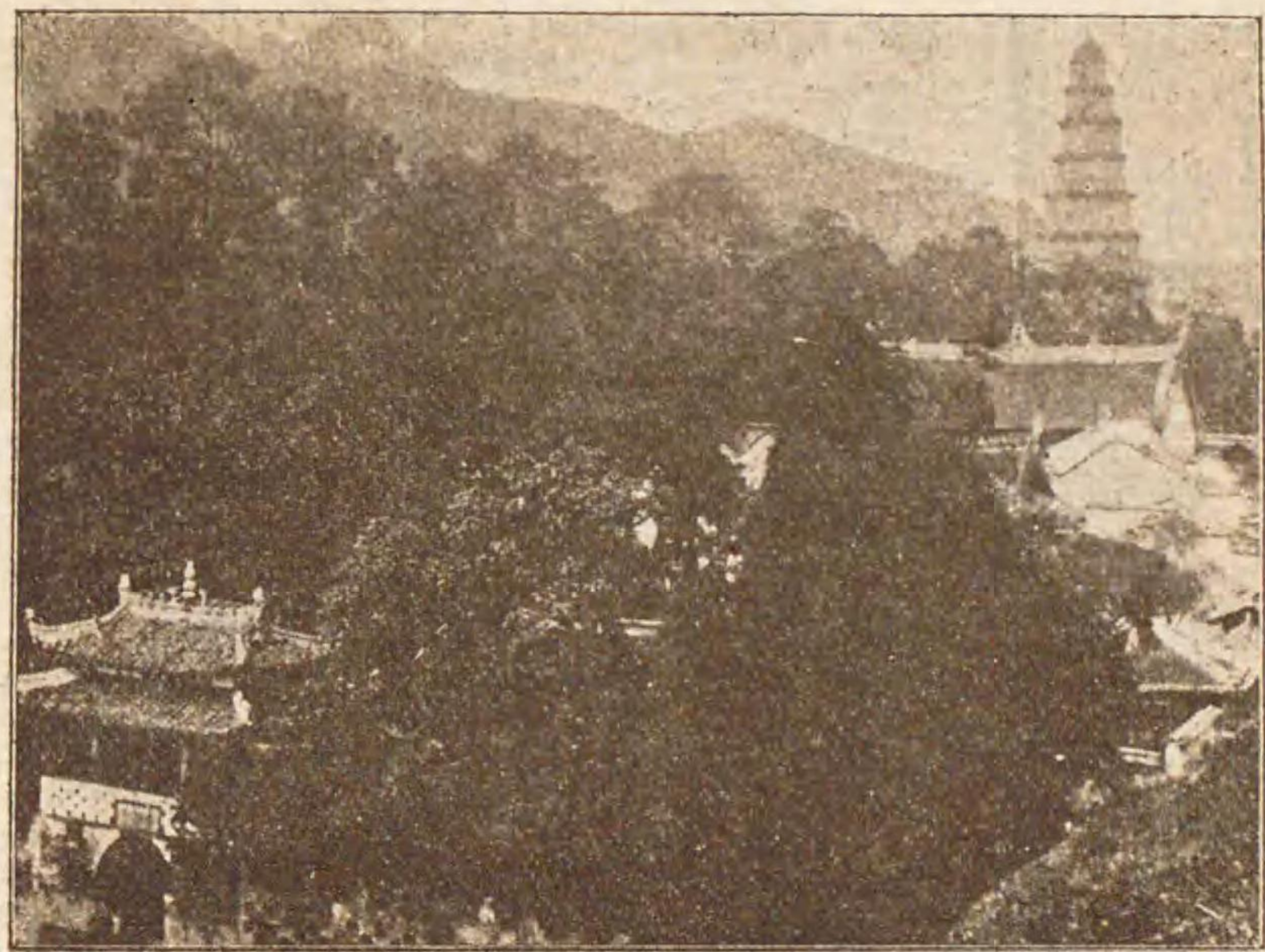
城市概観 重慶は一名渝城と稱し、四川省東川道巴縣管内に在り。長江と嘉陵江との合流點に位し、對岸江北市と合せて人口約三十萬外人二百餘を算す。西紀一八九一年芝罘條約に基ける通商港にして、一年の貿易額三千五百萬兩と稱せらる。市街は三面江流に圍繞せられ一面山坡に沿

鐵道銀行(半邊街)、聚興誠銀行(新豐街)。

官公署 鎮守使公署(金紫門)、重慶關監督公署(大梁子)、東川道尹公署(道門口)、巴縣行政公署(城樓街)、四川陸軍第一師司令部(掛香街)、第五師九旅司令部(尤營街)、重慶警察廳(中街)、巴縣審判廳、巴縣檢察廳(編修街)、四川鹽運使公署(接聖街)、水上警察廳(縣廟街)、重慶海關(太平門)等。

教會堂學校 英美會、內地會、聖公會、公誼會、美以美會—以上城内。天主教附屬正宗小學校、啟明學堂、明倫學堂、廣益書院、廣益兩等小學校、淑德女學校、求精學校—以上は外人經營に係り城外會家岩に在り。省立第二女子師範學校(定遠)、省立第一甲種商業學校(機房)、川東聯合立師範學校(學院街)、同甲種工業學校(會家岩)、重慶聯合立中學校(千廝門)、巴縣立中學校(會府街)—以上は支那人經營に係る。

店舗 【邦商】 新利洋行(三元廟)、武林洋行(千廝門)、三井洋行、大坂洋行(以上白象街)、森村組(望龍門)、若林洋行、瑞華洋行(新豐街)、大和洋行(東華街)。【外國商】 白理洋行、隆茂洋行、瑞記洋行(白象街)、和記洋行(大梁子)、米華藥房(太平門)。



重慶慶覺林寺

城、太古洋行(仁和)、怡和洋行(陝西)、美孚洋行(孫子)、
 安達生洋行(太平)、卜內門公司、太平公司(商業)、禮和洋
 行(萬壽)、【支那商】山貨帮—聚福厚(千斯門)、同茂豐(市
 口)等。綿紗帮—裕增祥(道門)、永裕厚(街)等。雜貨帮
 —利川生(縣廟)、榮記(新豐)等。疋頭帮—致和長(陝西)、
 福康(道門)等。乾菜帮—安記、瑞昌隆(坊)等。藥材帮—
 德記(坊)、長春豐(堂)等。
 商業機關 重慶商務總會(商業)【公所】錢帮(下陝)、
 疋頭帮、米帮(白象)、花帮(千斯)、酒帮、書帮(坎井)、廣東
 (廣東)、乾菜(太平)、藥材帮(段牌)、雲貴公所(舖壁)、河南公
 所(玉帶)【會館】江西(萬壽)、廣東(慶學)、福建(寓內)、湖
 南、湖北(東水)、陝西(廟街)、山西(壽)、浙江(三牌)。
 工場 合辦阜昌練錫廠(野毛)、藝新翻砂廠(大溪)、文華
 翻砂機器廠(上)、重慶銅元局(蘇家)、巴縣教養所(通遠)、
 江北習藝所(對岸)、工藝勸工局(蓮花)、明新織布公廠(大
 溝)、鹿蒿玻璃廠(劉家)、勝家縫機公司(縣廟)、鹿記鋼針
 製造廠(對岸)、燭川電燈公司(壽)、有隣火柴公司(租界)、
 東華火柴公司(兜子)、啓渝印刷局(常安)。

病院 玉城醫院(米亭)、寬仁醫院(藏家)、仁濟醫院(石
 坎)、仁愛醫院(巷)、天主教男女醫院(七星)、陸軍第一
 師醫院(培德)、同第五師醫院(局街)、養疴醫院(老坡)。
 公園劇場 李家花園(城外)、張家花園(同馬)、桂花園
 (同片)、羅家花園(上)、東舞臺(商業)、章華舞臺(大梁)、會
 芳茶園(梅子)、同樂茶園(梅閣)、丹桂茶園(木匠)、悅和茶
 園(機房)、影戲茶園(朝天)。
 勝地 【塗山】南岸に屹立す、曾て禹王が諸侯を會せし
 處、その山西に【老君洞】あり、眺望絶佳、山上に老子廟あ
 り。【巴渝十二景】金碧流香、字水宵燈、龍門浩月、浮
 圖夜雨、海棠煙雨、黃葛晚渡、紅岩滴翠、歌樂靈音、
 楠井峽猿、塗山聳翠、縉嶺雲霞、雲篆風清。其他古刹
 の見るべきもの亦尠からず。

(4) 成都 Cheng-tu

成都への通路 (一) 萬縣より梁山、大竹、渠縣、
 順慶、蓬溪、大和、鎮を経て成都迄の陸路約四三〇哩、
 乘轎に頼り通例十三、四日の行程なり。轎夫及荷物擔夫

賃一日一人に付三百文内外とす。(二) 重慶より永川、
 隆昌、資州及資陽を経て成都に至る陸路約三四〇哩
 前同例乗轎に頼り十一、二日の行程なり。(三) 重慶より
 水路瀘州、叙州を経て嘉定迄(約三〇運)は季節に依
 り小汽艇の溯航便あり。嘉定より上流成都に至る約一二
 〇哩は民船に頼るの外なし。
 【到着】前記第一路に由る者は城の北門より城内に入るべく、第二
 路及第三路に由る者は東門より入城すべし。
 【一輪車】賃金一時間百文乃至二百文、半日二百五十文乃至三百文
 重に下流人士の乗用或は貨物運搬に供せらる。【轎子】賃金一時間二
 百文乃至三百文、半日四百五十文乃至五百文、一日は半日分の倍額を
 要す。中流以上の人士は悉く之を雇用す。
 旅館料理店 【支那客棧】悅來旅館(總府)、宿泊料四
 仙乃至六〇仙。永成旅館(東大)、同二〇仙乃至五〇仙。坤生旅館(湖廣)、同
 四百文乃至五百文。先進旅館(東大)、同三百文乃至
 五百文。【同教席館】鴻恩元(東華)。【茶園】美園(錦華)、茶館
 (公園)、大可樓(提督)、宜春(商業)、陶然亭(總府)。
 郵便電信 四川郵政總局(南署)、同支局(中東大街、南大街、
 通順街、驛馬市街)。

北大街、東門外水津街、成都電報局(慈惠堂街)、成都電話局(華興街)。
城市概観 成都市は四川省平原の中央部、所謂成都盆地に在り。往時蜀漢の帝都にして漢の益州、唐の劍南、南京、西川即ち是れなり。人口約四十萬、外人約百五十。市街は周圍約十哩の廓壁を以て城内及城外の區劃をなし、更に城内を二大別して大城内並に滿洲城内とす。

大城内の中央部は即ち蜀漢皇城の遺廓にして、東西に短く南北に長き長方形を成し、東(東華門)、西(西華門)、南(龍門)、北(後子門)の四門を開く。南門は即ち正門にして、門外一基の大華表あり、中央に「爲國求賢」の四字を題し、技工雅致あり。此の邊一帶は概ね支那官衙の集る處。皇城外繞らずに小濠を以てす、俗に御河の名あり。皇城内に通じ一面城外市街を環流して東門外大碼頭の上游に排出す。蜀漢當時にありては皇城內常に舟を泛べたりと云へり。されど今や城内蜀漢の遺蹟殆ど見るべきものなし。但現存する建物中勸工場、貢院(試験場)は規模稍大にして注目に値す。皇城より東門に到る東大街は市中最も殷賑の區にして、比屋連葦、檐頭に懸る金色招牌は參差として長短相映じ、燦爛人目を眩す。

大城内の西方別に一廓を成し、繞らずに墻壁を以てするは古少城の遺址にして、即ち滿洲城是れ也。清朝以來多く滿洲旗人の駐屯する處たり。

市中街路は概ね平坦にして、もと切石を敷設せるものなれば雨中と雖も泥濘を見ず、他の支那市街に比し稍清潔なるも唯狹隘にして車馬の往來不可能なり。

銀行 中國銀行支店、濬川源銀行(南署)、鐵道銀行(三街)、道生銀行(大東街)。
官公署等 四川督軍署(皇城)、四川省長公署(舊督院)、四川道尹公署(南署)、四川高等檢察廳、同審判廳、成都地方檢察廳、同審判廳(以上正、四川)、省財政廳(科甲)、四川省警務處(華興)、川交涉署(北署)、成都縣公署、成都縣徵收局(署前)、華陽縣公署(正府)、華陽縣徵收局(文聖)、川軍司令部(北較)、其他佛國總領事館(藏脚)、英國總領事館(雙眼)、獨國領事館(西珠)あり。
教會堂學校 天主教會堂(平安橋街)、內地會福音堂(古佛巷)、聖公會福音堂(皮房)、公誼會福音堂(青龍街)、浸禮會福音堂(東昇街)、メソヂスト福音堂(陝西街)、川高等學校(西廟街)、川高

等師範學校(鹽道街)、川高等工業學校(學道街)、省農業專門學校(東門外)、立女子師範學校(文廟街)、江法政專門學校(廟西)、都法政專門學校(西較場)、德文學校(鼓樓北)、華西協合大學校(南臺寺)、華英女學堂(方正街)、外國語專門學校(府街)等。

工場 陸軍製革廠(東門外)、永和製革廠(南門下)、同仁製革廠(西成)、富國機械工廠(南門)、錦江製絲廠(南門)、四川造幣工廠(東嶽街)、將軍署印刷局(西王橋)、財政廳印刷局(南橋)、大昌印刷公司(南橋)、西麥牌機械麵廠(小廟)、合記織造工廠(上等)等。

支那店舖 山貨聚福長(東門外)、新記(同大)、藥材天成公、金生元(東大街)、紡績洪泰裕、肖源昌(牛市)、茶義合全、豐盛和(新街)、薪卓永義、李義發(東門外)、炭一向興發(鎮江寺)、石萬順(津水街)、雜貨慶協泰、馬裕隆(西東)、吳服達記、馬正泰(中東)、織物一元泰水、滙川通(半邊街)、油葉寶山、王成發(東門外)、船楊永發(東門外)、彭華國(珠市街)、陶磁器恒裕厚、萬順榮(東大街)、藥泰記(正府)、德心堂(青龍街)、紙桃花潭(中新街)、玉林長

寫真寶華像館(東御街)、有容像館(皇華街)、染物德記、利川(半邊街)、書籍春明書局、黎照書屋(學道街)、煙草合興號、同益河(北門外)、醬油貽記、利益增(同)、銅器同森榮、福森榮(東御街)、衣裳集益成、榮順福(鼓樓)、金銀飾天成亨、興隆號(中東)、帽子陳瑞祥、楊鴻發(青石街)、筆墨吟香閣、縱雲閣(以上學道街)、輿輻濟藤興公司(長發街)、利行藤興公司(老關)等。

病院 四川陸軍醫院(滿洲城內)、四川警察醫院(警察總局)、成都縣紅十字病院(東桂街)、華陽縣紅十字病院(廟內)、成都苦力病院(東較場)、成都濟貧醫院(安樂寺內)、聖道病院(四聖廟)、聖修病院(平安橋街)。
劇場 悅來(華興街)、群仙(總府街)、可園(會府街)、品香(上陞街)、蜀舞臺(下東街)、萬春(公園口)。
武侯祠 南門外に在り。昭烈帝並に丞相諸葛亮を合祀する處。即ち祠内には劉備(昭烈帝)を首め蜀漢百官の木像を安置し、轉々三國當時の蜀朝を偲ばしむるものあり。庭内は老柏林立し幽邃の境地にして丹壁畫棟の殿宇に配するに古雅なる碑閣、亭榭等を以てしたる頗る趣致あり。中にも丞相祠堂記

碑は蜀中第一の巨碑なり。又正殿内外の壁間には古來名家の題詠筆蹟等多くして、顔真卿草書古栢行、其の他石刻篆書の前後出師表等其の尤なるものなり。

望江樓 舊名を玉女津と云ふ、南門外錦江の流れに沿うて至るべし。園内樹竹參差として幽徑、曲池、柴門、石楹等備さに支那式庭園の趣を極め、高樓低榭その間を點綴せり。江に溢む處に濯錦、吟詩の二樓あり、眺望絶佳、置酒宴を張るに好適なり。

青羊宮 南門外約一哩半に在り。四川道教の大本山にして、明末匪賊に燬かれ、現在の堂宇は爾後の重建に係るものなり。門前に雲龍を刻せる一對の石華表あり。庭内にある八角堂の結構最も典雅にして、基礎悉く礪石より成り、階段八ヶ所に設けられ、八簷を支持せる石柱はその色黝黒にして之に刻するに金升龍を以てす。退いて之を仰げば八龍一時に屋に攀ぢんとするの概あり。堂内に老子騎牛の鑄銅像を安置す。

草堂寺 南門外なる錦江の一部浣花溪或は百花潭と稱する處より羅漢橋を渡り、林路約一町餘にして達す。原名を杜公祠と云ふ、即ち唐の詩聖杜子美が草庵を結びて縦酒高嘯

せる迹なり。寺は宋朝に追ひ詩聖紀念の爲に建立せられし處の、重門、巨殿、廣庭等堂々たる一大伽藍にして、梁清の世數次之が修葺を行ひ、今仍ほ舊態を存す。境内稍闊く、林樹篁竹鬱蒼として頗る幽韻に富む。

雲棧路 (一七哩)

成都より陝西省に通ずる峻険たる山道を稱して雲棧路とす。彼の三峽と共に蜀道奇勝の一たる【雲棧の險】は成都の北東約八十哩、梓潼 Tze-tung を距る更に三哩なる送險亭 Sung-tai-tung より始まり、陝西省寧羌 Ning-kiang に近き七盤嶺 Chi-pang-ling を以て終る。梓潼、寧羌間約百七十七哩、七日六泊の行程なり。此の間に於ける旅客の宿驛としては武連、劍州、大木樹、廣元、朝天、轉頭舖を數ふべし。

沿途概観 梓潼を起點とすれば是より北行約三哩、路の左に【送險亭】あり、往時秦より蜀に入る者、此處に至て雲棧の險漸く盡くるを以て、乃ち送險の名を冠せりと云ふ。更に約二哩、【七曲山】に逢ふ。山中千佛崖あり、崖間數百體の佛像を鑿出せるを見る。山を下れば【上亭舖】あり。是れ昔時唐の玄宗帝南狩の途次、會々此に雨中鈴聲を聞き、曩に

貴妃を馬嵬に失ひたるを悼み、雨聲に諧調して「雨淋鈴」の一曲を作り、以て恨を寄せし處なり。此より又十三哩、瓦子舖を過ぎ盤龍山を踰え、更に武連河を渡れば聽て武連なり。

武連 Wu-lien (二七哩 從梓潼也) 驛北に【覺苑寺】あり。寺中顔真卿の筆なる「逍遙樓」三大字の碑を藏す。尺大の文字鐵畫雄勁なり。

此處を過ぐればやがて【武侯坡】と稱する長坂に蒐る。相傳ふ武侯師を出す時常に此に憩ふと、因て此の名あり。是れより垂泉、鶴鳴、普翠の諸山を踰えて劍州に到る。

劍州 Kien-chow (五哩) 石洞山を登れば山嶺路の經る處平坦削るが如きあり。巖に縁り迂曲して下れば劍關驛に出づ。驛外の一祠は蜀の大將軍姜維を祀れるもの。祠後の山は所謂古の劍閣の所在地にして、之を攀つれば峭壁中斷して相嶽する處に一關あり、是れ蜀の恃で以て外戸と爲せし處、即ち劍關或は劍門と云ふ。

更に約十哩、大木樹に至る間は石を鑿して梁を架し閣を飛ばし、天梯石棧相鈎連する處、所謂劍閣の險是れなり。
大木樹 Tam-shu (八哩) 此處より路は東北に通じ、

約三哩して白衛嶺あり。之を踰れば又一山あり、【牛頭山】と謂ふ。數峰より成り満山殆ど橡樹を以て掩はる。嶺に登りて四顧すれば雲煙漂渺として、紫の群峰その下に朝宗する狀、蓋し蜀道の一偉觀たるを失はず。山麓に天雄關あり。その東約五哩、白水江を渡りて尙十二哩を行けば廣元に達す。
廣元 Kwang-yuan (一〇八哩) 嘉陵江の上流東岸に在る一邑なり。之を距る約三哩、又【千佛崖】あり、古の棧道石櫃閣是れなり。唯見る崖頭巖壁面に幾多の佛像を陽刻して、その相格形態實に異様百出なるを。是れ唐代利州の刺史章杭の鑄工に係ると謂ふ。

千佛崖を出で、七盤嶺に到る間飛仙嶺、朝天峽、朝天嶺等の奇勝絶景行く、雲棧の險路を要して應接に連あらざらむ。
飛仙嶺 峭立千仞削るが如き山にして、頂上一祠あり、飛仙觀と云ふ。
朝天嶺 嘉陵江の東岸に迫り、兩崖高さ數百呎、相對峙して關門の如し。朝天峽即ち是れなり。崖下水に近き處に無數の石竇を穿てるあり、皆昔人崖に縁り棧を架せし跡なり。對岸江を隔て、懸泉數條、相望あは匹練を引

くが如し。嶺を越えて江岸に下れば【朝天】に到る。此地
 よち上游廣元へ、又下游昭化へ舟行の便あり。其の沿途は嘉
 陵江岸中山水美の尤なる處とす。
 【七盤嶺】朝天嶺の東北約八哩に屹立する峻嶺なり。磴
 道百曲せる處架するに棧道を以てす。之に依りて山頂に達すれば
 四望の群山突兀として、宛ながら劍鉞戟牙の聳立せるが如し。
 此の嶺實に雲棧路最終の險に居り、之を踰めれば轉頭舖
 Chian-tow-pou (一五七哩)あり。更に二十哩にして遂に陝西
 省寧 羌の地に到達す。



蛾眉山

蛾眉山深勝

蛾眉山は成都を距る西南約百七十哩、蛾眉縣下に在り。
 大蛾、二蛾、三蛾の三基に成り、大蛾(標高約一萬尺)最
 も挺峻群山を賦す。この山普賢の靈境として名あるのみならず、
 山頂山腹幾多の巨刹大伽藍あり、溪山の奇勝亦實に驚嘆に
 値す。殊に山頂に於ける佛光、佛燈の出現は蛾眉山の靈象と
 して人口に膾炙する處、此に拜賽する支那人無慮數萬、輒近
 又外人の探勝を試むる者漸く多きを加ふるに至れり。

登山順路 【往路】 成都東門外より戎克に乗じて岷江を下り、嘉定
 (成都より約二二〇哩、但重慶よりする場合は水路約三〇〇哩。小汽艇
 に頼るを得べし。第三〇七頁参照)に至りて船を棄て、それより陸行し
 て蛾眉山麓の一市邑蛾眉縣に到り、縣城南門を出で、山路に差蒐る。
 【復路】 專ら陸路に頼り、蛾眉縣城西門よりして夾江縣、眉州、彭山縣、
 双流縣の諸市邑を経て遂に成都城南門に達す。是れ登山者の普通採る
 處の順路なりとす。但し重慶に向ふ場合は前記但書の反路を採るべし。
 【登山準備】 蛾眉山中に於ける大小の寺觀は概ね客間を開きて登山
 者の止宿に便すれども、寢具(毛布、蚊帳、襪衣、雨具等)、炊事具(釜、
 七輪、庖丁、木炭等)、食器(茶碗、皿、匙等)及食料品(野菜、鶏卵、砂糖
 等)の類は各自之を携行するの覺悟を要す。尤も炊具食器食料品の幾
 分は山麓なる蛾眉縣城に於て購ひ得べきも、寢具竝に藥品等に至ては

出彼前豫め之が用意を忘る可からず。【通貨】は蛾眉縣城内錢莊(兩替
 店)に於て一種の紙幣(鈔票)を發行し、以て登山者の携帶に便す。そ
 の種類は千文五百文百文五十文等とす。

登山路諸勝

伏虎寺 蛾眉縣南門外大蛾山の麓に在る巨刹にして、寺
 中等身の維漢像六百二十體を藏す。本堂大雄殿頗る輪奐
 の美を極め、殿前鬘庭砥の如き處一大鐵香爐を安置す。高
 約一丈周圍約八、九尺、古色蒼然たり。殿廊の兩側に樹て
 る碑碣の草體亦頗る奇古老雅なり。

大蛾寺 伏虎寺より約半哩木梯二百餘級の急坂(解脱
 坡)を上り、數個寺の廢寺を過り、更に坂を下れば一小村
 袁家子あり。更に行くと須臾にして大蛾寺の麓に出づれば路
 の左右には巨石壁立して、その面に呂純陽の書「大蛾石」の三
 字、或は蘇東坡の書「雲外流春」の四字等を刻せるを見つ、磴
 道を登れば、即ち大蛾寺山門に入る。寺はもと福壽庵と呼ばれ
 明僧性天の開基に係る、著名の巨梵にして、清朝に至り幾度
 か重修を加へしもの。樓上に客房あり。外人の止宿に便せり。
 寺後に一古松あり、又中和石、婦子石等層々其上巒に

は毘盧殿の背後に在り。即ち磚瓦造にして殿内に普賢騎象の

點在し、山頂を黃帽山となす。

廣福寺 大蛾寺より西行して龍昇岡を越え、更に西北

して到る。別名を慈雲寺と云ふ。寺後に方り巍然として聳ゆ
 るは牛心嶺なり、山門前より一路蛾眉縣城西門に通ずるあ
 り。是れ普通下山者の採るべき要路なりとす。

清音閣 牛心嶺に倚れる高樓にして左方石笋溝に臨み、右

方黑龍溪に瀕す。二水閣前に相會して一流となり、更に數十
 丈の瀑布をなして壑中に落つ。二水各一橋を架す、雙飛橋
 是れなり。

萬年寺 清音閣を出で、樹林、叢竹を左右に點綴しつ、

途中白龍洞金龍寺に憩ひ、更に羊腸幾折の磴道を辿り、木
 梯數百級の峻坂を攀ぢて靈官樓に至り、路を左すれば聽て萬
 年寺に入る。

是は晋代既に普賢寺の大伽藍として知られし處、唐、宋の間
 には白水寺又白水普賢寺の名を以て著はれ、明代以後今の名
 を得たり。もと寺殿合せて七座ありしが其内四殿は兵火に失し、
 現存せるは毘盧殿、磚殿及新殿の三殿のみ。【磚殿】

銅像を奉安す。像は宋初成都に於て鑄造せられたるものにして、實に大蛾山無双の寶物たり。寺房亦外人の宿泊に適す。

萬年寺を後にして更に前めば四望人煙を見ず。山路陰森として愈々峻峻を極む。此に於て背子(苦力にして背に木梯を負ひ、之に人を受けて險路を攀づる者)を備ひ、豪華の士は轎に乗りて登る。漸くにして全山の半腹息心所に到れば人々始めて一息す、即ちその名のある所以なり。是より山愈々深くしてゆく。

峽道あり坦道あり磴道あり、時に又坦道ありて觀音巖、上天梯、華嚴頂、蓮花石等の古蹟名勝其の間に點在し、行客をして宛然南畫の點景人物たらしむ。次は洗象池なり。

洗象池 水深丈餘、六角形を成せる池なり。相傳ふ普賢菩薩象に乘りて此を過ぎる時、その象をして必ず之に一浴せしむと。洗象の名ある所以なり。池畔に一寺宇初喜亭あり、規模小なれども一泊するに足る。此處より又遐に嘉定城を望む。

洗象池を去り 【大乘寺】に至る。寺中鐵碑を建つ、その字體篆籀、古色愛すべし。【白雲寺】寺邊の山中桐花鳳を産す。この鳥は羽翅彩麗にして桐花開くを待ちて來り、花落つれば去る、故に此の名ありと。【雷洞坪寺】寺は漢代の創建

近年地中より發掘せられしものなり。

絶巔諸勝

山頂は地勢稍西南に傾斜し、東、北兩邊は懸崖千仞削るが如し。滿地山骨露出し、蘚苔矮樹の疎生せるを見るのみ。此邊の寒氣甚しく風雨繁し。又飲料水に乏しく、井絡泉、龍泉井の二泉あるも需要に充たず。故に専ら雨水を仰ぎ巨桶を置きて之を貯ふるに便す。此に數個寺あり。

金殿 明の萬曆年間の創建に係り、寺内能く一時に七百人を容るゝに足る大伽藍なり。其初め黄金を以て鑲めたるものと云へど其の蹤今は存せず。屋上の鐵瓦も曾て風の爲めに倒壊せしより之を用はず。その遺瓦今は殿後の空地に堆積して、來訪者の取り去るに任すと云ふ。

蛾眉金頂 金殿の右方に鐵瓦を以て葺ける光相寺あり。其の背後に當り石を疊みて臺となし、上に一殿を建つ、蛾眉金頂是れなり、即ち全山の最高點に位す。金頂は金殿と同時の創建に係り、往時は其の瓦、壁、柱等悉く銅より成り、之に黄金を鍍せりと云へど今は其の痕なく皆木造なり。【古銅碑】金殿と金頂間の空地に在り、明萬曆年間の製作に係り

に係り、寺中鐵佛數體を藏す。寺の右方に陰々たる大壑あり、人恐れて龍雷相會する處となす。

是より山路羊腸として八十四盤廻しつ、登れば太子坪寺あり。路邊に短筵塔松を生ず。【沈香塔】寺中に一浮圖あり、九層にして中に明の通天和尚の法身(木乃伊)を祀ると云ふ。尙前みて天門寺附近に至れば巨石突兀として路を挟み、其の間僅に二人の併行すべき餘地あるのみ。稱して天門石と云ふ。此處を去りて更に七天橋、和尚塔の二寺を過ぐれば漸くにして大蛾山の絶頂に達すべし。



網竹の用航曳克戎

近年地中より發掘せられしものなり。

明月池白龍池 前者は錫瓦殿の下に、後者は華藏菴の下に在り。蜥蜴多く之に棲息せり。長さ數寸、色白く四足微黃にして兩額に豎角花文あり。性馴れ易く俗に呼んで龍子と言ふ。旱天に時雨を禱れば輒ち應ずと。

無地巖 蛾眉金頂を距ること遠からず、巨巖の屹然として聳立せるもの即ち是れ。その右方は懸崖絶壁數百尺、前方縹渺として群山の拱列せるを望む、宛然筭の簇生せるが如し。一名觀光臺と稱す。即ち巖頭平坦にして能く數人を坐せしむべく、蛾眉山の靈象たる佛光佛燈の出現を望むに恰好なればなり。

佛光 出現の時刻は常に午前十時より正午迄とす。其の將に現はれんとするや、日光雲に映じて一面の銀世界を呈す。既にして佛鳥と名くる鳥二三羽雲中に飛鳴すれば、尋で徑數尺に亘る一大圓光の崖下に出現するを見る。是れ即ち佛光なり。その現象は僅に二三分時を出でず。之を観るには前記觀光臺よりせは崖上より俯瞰するの危険少く、且恰も真正面に當りて詳にその全影を看取し得べし。

佛燈 は夜間に現出す。火の一度出づるや、僧殿に觀者を戒めて隻語を發するなからしむ。其初め現はるゝもの兩三點、尋で四五點、果ては漸く其數を増して遂に數百點の多きに至る。その火或は一所に

山 眉 蛾

止りて動かざるあり、動いて趨るものあり、或は疾轉し或は徐行し、その狀宛然萬燈の光の如し。晝間の佛光と相竝びて實に蛾眉山の二大異觀と爲す。

下山路諸勝

金頂より往路を下りて蓮花石に至り、是より右折往路を離れて清音閣に至る間、幾座の寺宇乃至奇勝絶景の路を要するに遇ふべし。

觀音巖

路右に屏立する高數十丈の峭壁にして、飛瀑之に懸り、崖下小潭を湛えて細石磷々たり。

仙峯寺

觀音閣を出で仙峯橋を渡り、仙峯石の傍を過りて至る。寺は南に面して崖上に建てり。高閣廣庭の風致亦蛾眉山の一佳境たるを失はず。

壽星坡

一に九十九倒拐と名く。危磴幾盤旋して後人殆ど前人の肩を蹴らんとす。蛾眉山無双の險路なり。

洪椿坪

もと千佛菴と稱す。殿宇樓閣の結構頗る精巧を極む。山頂より此處に至るは殆ど一日の行程とす。寺後の小院を以て宿泊に便せり。

山王廟

蛇倒退と名くる坡上に在り。廟内虎像を安置す。往昔此邊り最も虎害に苦しみし時、此の廟を建つるに及びて復患害を見ずと。

牛心寺

一名延福寺と云ふ、牛心嶺の上方に在り。寺は宋の繼業三藏の創建に係る。今は狹小なる廢刹なれども遜思邈修練の處として名あり。

清音閣

清音閣より再び往路と合し廣福寺に至る。是より溪水を左すれば全く往路と岐る。途中石船子を過ぎ、下游に架せる鐵索橋(長約二十餘丈)を渡れば【龍門峽】に差蒐る。此に龍門洞あり。壁石凸凹鱗爪の如し。亦山麓に於ける一奇勝なり。更に約半哩、始めて山を出で平路に就き、聖績寺を過れば遂に蛾眉縣城西門に達すべし。

聖績寺

昔時慈福院と稱す、明代の創建なり。大雄殿内康熙中の鑄造に係る普賢騎象全身丈六の銅像あり。その象地に伏す、寺中の一偉觀たり。別殿に古銅塔あり。高二丈總て十二層より成り、其周圍に小佛四千七百尊を鑄出し、各佛像の中間には又華嚴經全卷を鑄りたり。彫工精妙にして眞に無價の珍寶なり。殿外に鐘樓あり、一銅鐘を懸く。高九尺徑八尺、八卦鐘の名あり。



途路 30 漢口 Han-kow

附漢陽、武昌

【到著】京漢鐵路に依る漢口到着は江岸 King-an、大智門 Ta-

chih-men、循禮門 Sun-ly-men 及最終端玉帶門 Yü-tai-men

の四車站とす。而して支那市街に出入する旅客の昇降並に貨物の積卸

は循禮門及玉帶門の二車站に於て行はれ、此處に亦普通列車區間列車

の發着あり。各國租界に出入する旅客の昇降に至便なるは大智門車站

とし、隨て此には車馬自働車の顧客を待つもの勢からず。目下當車站

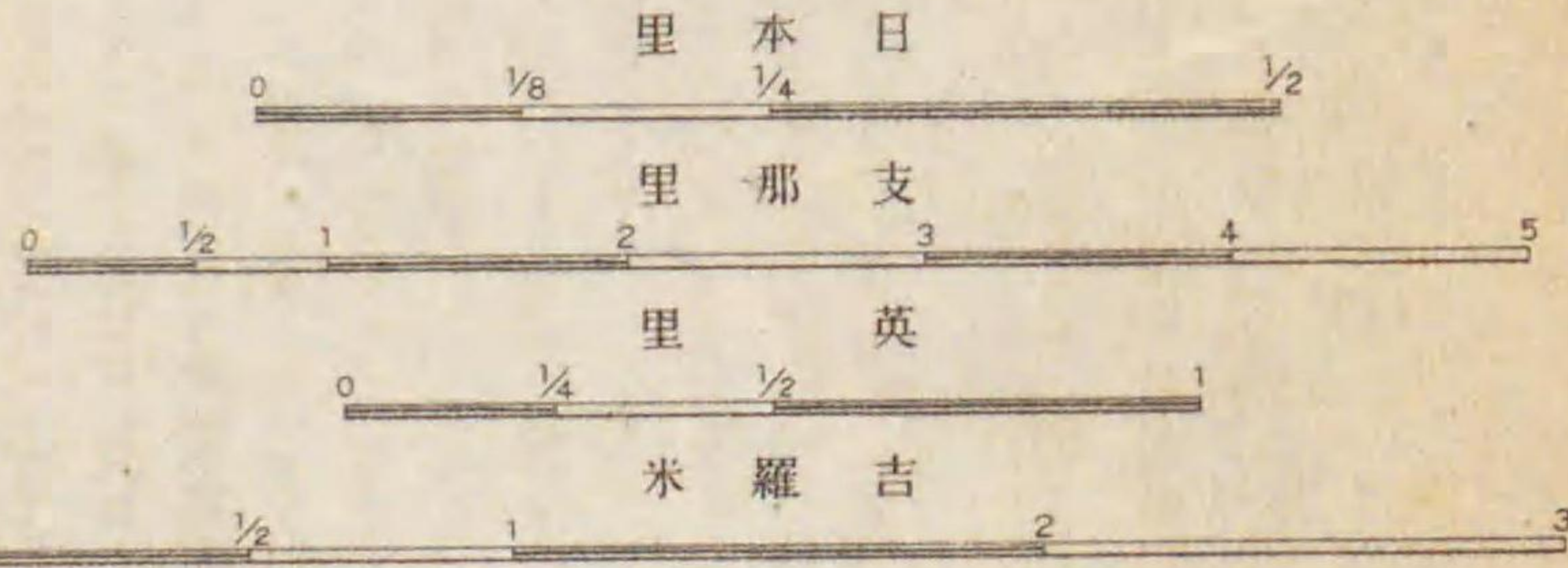
發列車便は直通急行列車毎週一回及直通旅客列車毎日一回あり。

上海方面よりする長江定期汽船は各會社所屬の躉船に横付けせらるべ



漢口 武昌及漢陽

一之分万四尺縮



漢口日清汽



漢口日清汽



【日本旅館】 松廼家(G 2 租界日本)、其の建物は、二層樓にして和洋二様の客室あり、宿泊料三弗乃。其原旅館(租界日本)、宿泊料三弗乃、竹廼家(G 3 租界)、宿泊料二弗乃、富貴館(租界)宿泊料一弗乃以上孰れも三食付とす。【支那客棧】漢口大旅館(頭一碼)、福昌旅館(上)以上宿泊料一弗乃。天保老棧(租界法國)、第二賓館(上)、金臺賓館(上)、迎賓館(門大智)以上宿泊料一弗五十仙乃至。

料理店 【歐風料理店】 普海春(頭一碼)、其他前記の歐風旅館にて之を兼營す。【日本料理店】 三好館、福宮、妻鶴、山月亭、喜樂等(以上日)。
【支那飯莊】 嘉賓樓、襟江樓(城馬路)、群賓樓(大智)、此等各樓共會席一卓に付、上等十二弗乃至二十五弗、普通八弗乃至十弗とす。【茶樓】 九萃(街土瑞)、青蓮閣(城馬路)以上茶一人前十仙位。

領事館 日本總領事館(G 2 租界日本)、比國 Belgian 領事館(租界英國)、法國 French 領事館(門F 3 租界法國)、英國 British 總領事署(F 4 租界英國)、美國 American 總領事府(租界法國)、義國 Italian 總領事署(G 2 租界德國)、和國 Dutch

領事公館(租界英國)、瑞國 Norwegian 副領事府(租界德國)、丹國 Danish 領事府公館(租界法國)、墨國 Mexican 領事府(租界英國)、俄國 Russian 領事衙門(F 4 租界俄國)、瑞國 Swedish 領事府(G 2 租界德國)、西國 Spanish 領事衙門(租界英國)。

稅關 江漢關と稱し、英國租界の西界に近き河街に在り。通信官署 日本郵便局(G 2 租界日本)、中國漢口郵政局(租界英國)、中國漢口電報局(E 4 門大智)、武漢電話局(E 4 門大智)、武昌漢陽との間にも通話の便あり。俄國皇家書信館(F 4 租界俄國)、法國書信館(F 3 租界法國)、大英書信館(租界英國)。

銀行 【外國銀行】 東方滙理銀行 Banque de l'Indo-Chine (F 3 租界法國)、麥加利銀行 Chartered Bank of India, Australia and China (F 4 租界英國)、義品放款銀行 Crédit Foncier d'Extrême Orient (租界法國)、華俄道勝銀行 Russo-Asiatic Bank (F 4 租界俄國)、滙豐銀行 Hongkong & Shanghai Banking Corporation (F 4 租界英國)、花旗銀行 International Banking Corporation (租界英國)。
【本邦銀行】 橫濱正金銀行(F 4)、臺灣銀行、住友銀行(以上英國租界)。
【支那銀行】 中國銀行(分E 4 路)、殖邊銀

行(分租界法國)、湖南銀行(分租界英國)、鄂州興業銀行(漢口)、鹽業銀行(頭一碼)、交通銀行(分里偉英)、浙江興業銀行(分路敬生)、贛省民國銀行(分街黃陂)、黃陂實業銀行(永升)。

通貨 現今漢口市場(武昌及漢陽共)に於ける主なる通貨は左の如し。【銀元】 即ち弗銀は湖北一元銀最信用厚く、之に亞で江南、安徽の銀元及墨銀も亦相應の流通あり。

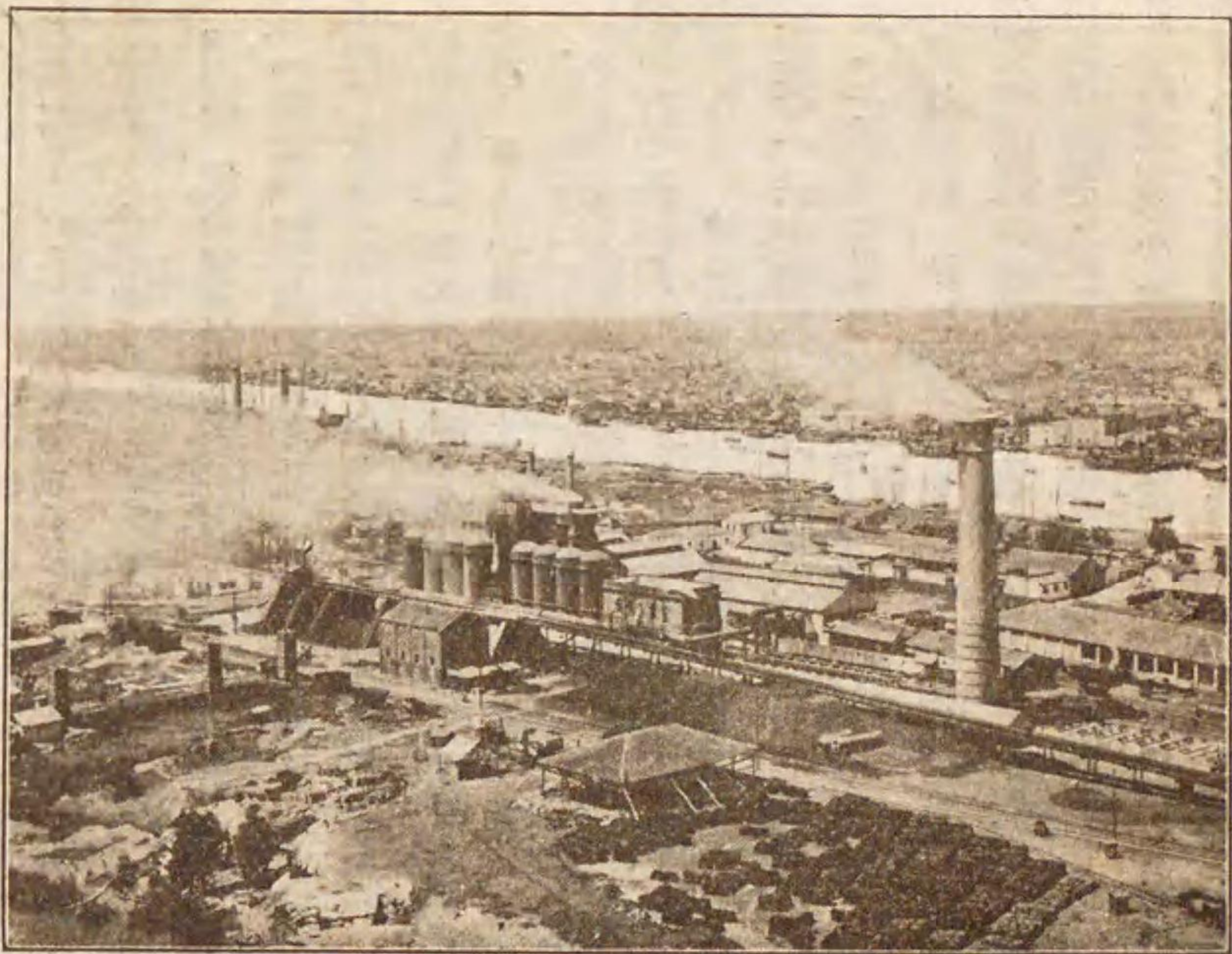
【小銀貨】 即ち小洋銀は武昌及北洋銀元局鑄造のものを主とし、香港小銀貨も亦一般に受授せらる。【兌換券】 銀票としては橫濱正金銀行、滙豐銀行、華俄道勝銀行及麥加利銀行等外國銀行の發行に係る兌換銀券(一弗、五弗、十弗札等)並に湖北銀行局發行の銀票及同官錢局發行の錢票等一般市場に行はれ【銅貨】 は武昌銅元局鑄造のもの主として流通せり。

漢口概觀 漢口は支那中部の地を貫流する巨江揚子江を溯ること五八五哩の上流、漢水の朝宗する又頭に位し、東南は長江を隔て、武昌に、西南は漢水を挾みて漢陽に對し、三市此に鼎立の形を成す。人口約八十七萬、外人約三千五百を算し、長江沿岸に於ける重要な通商港の一たり。市街は之

を大別して支那市街及外國租界となす。

【支那市街】 は其の東北英國租界と相接し、北方舊城址に開かれたる一條の新道路(新馬路)及富豪劉萬順の自開市街地を隔て、京漢鐵路の東西に馳騁するあり。而して上記新馬路の南方に當り之と平行せる橫街にして堤街、中路、正街、河街(漢水沿岸)並びに英國租界の北西循禮門車站に到る散生路等は就中市内繁劇の區にして、官公署、銀行、支那商舖、劇場等櫛比し、行人車馬の來往殷賑を極む。

【外國租界】 支那市街の東北に連なり揚子江沿岸一帯地を占め、英國(約七萬三千坪)、俄國(約六萬二千坪)、法國(約三萬四千坪)、德國(約十二萬六千坪)及日本(約五萬坪)の五租界相接壤す。各租界の整然たる護岸は一望數哩、此處に長江定期航路を經營する各汽船會社の碼頭ありて、出入の貨客熱鬧を極め、又旅館、領事館、官公署、銀行及商舖等の巍然たる建築物江上に反映して頗る偉觀を呈せるあり。而して漢口租界の濫觴地として最も繁華なる英國租界を首め、德國、日本三租界の各江岸には坦々たる大道を通じ、車道(内側)は馬車自動車の往來頻繁にして、人道



漢陽鐵廠

(外側)は芝生路傍樹の綠蔭に行人の三々伍々相携へて遊歩するを見る。又英、德二租界に於て新たに設けられたる支那市街に支那人の雜居せる様、頗る異色あり。俄國租界に於ける磚茶製造所の壯觀亦看過すべからず。

漢陽 Han-yang 漢水を渡りて右岸に上れば附近一帯は工業地にして、有名なる漢陽鐵廠を首め、兵工廠、煉瓦廠、礮藥廠等の諸工場櫛比して煤煙天を焦すの觀あり。その南方に聳ゆるは大別山なり。今此の山を中心として西方を瞰望すれば其の西北方に月湖、其の東南方に華蓮湖の二水漾々として湛え、その南麓には輪奐の美を盡せる晴川閣あり、又其の西南麓に方り一廓を成せるもの、是れ即ち人口四十萬と稱する漢陽府城にして、官公署、學校、教會堂等あり。府城の西郊は河南山林より切出せる木材の堆積地にして鸚鵡州と謂ふ。

武昌 Wu-chang 湖北省の首府にして人口五十萬、長江の右岸に漢口、漢陽と相對し、清末中華革命の第一曉鐘を發せし處、その西南方文昌門外江岸一帯の地は著名なる楚興公司紡紗廠を首め、各工場橋を連ねて自ら盛大なる工業區を成せり。城内—漢口方面よりの入口なる漢陽門内蛇山の上

に黃鶴樓の舊跡あり。汪洋たる長江の彼岸漢陽城外の晴川閣と相對峙して、その江瀕に景情を添へたり。城内最繁劇の巷をなせるは蛇山及花園山下にして、各官衙、學校、教會堂、兵營並に圖書館、故張之洞の創設に係る勸業場等の宏壯なる建築物街頭を壓して、其の狀頗る偉觀を呈せるを見る。

【沿革】 概近西紀一九一一年有名なる支那大革命の勃發地たる武漢三都の地は、往古夏の時代(西紀前二二〇五年—一七六七年)に於ける所謂三苗の故地なり。降て周代(西紀前一一二二年)九州の一として荊州の内に置き春秋戰國には七疆の隨一たる楚に入り、秦天下を統一しては郢の管下に屬し、兩漢の世(西紀二五—二六四年)には「江夏郡」に編せられて今漢口地方行政區域に夏口廳の名を留む。三國(蜀、吳、魏)時代には孫魏の分野に接し、劉備孫權と與に曹操を破り、荊州を三分して江夏は遂に孫權の手に歸す。後孫權が都を武昌(今の武昌城の稍南東に在り)に遷すや、「武昌」は頗る中央支那の要衝となれり。

兩晉南北朝を経て隋朝(西紀五八九年)に至て復江夏郡となり、唐朝(西紀六一八年)には武昌を江南西道の「鄂州」となし、漢陽漢口は淮南道に歸して「河漢」と呼ばれき。宋朝(西紀九六〇年)に入つては武昌漢陽共に荊湖北路に隸し、元朝(西紀一二〇六年)には武昌に荊湖省を置き、更に之を改めて「湖廣」と呼び、今の所謂湖廣四省の首都たらしめたり。次で明初に廣東廣西の二省を設けて、武昌は今の湖南湖北兩省の首都とせり。清朝康熙年間に至り長沙を湖南の首都としたるも、武

昌は尙湖北湖南兩省を管轄する湖廣總督の駐紮地たりき。而かも其の間久しく江夏縣下の一漁村たりし漢口は概近漸く發展して天下四大鎮(廣東の佛山鎮、河南の朱仙鎮、江西の景德鎮、湖北の漢口鎮)の一に擧げらるゝに至りしも、其の繁榮は尙ほ未だ武昌漢陽の比にあらざりしが、西紀一八四三年上海の開港に隨て鎮江南京蕪湖の開港となり、揚子江の沿岸漸く多事となるに迫り、漢口亦經濟的必要に迫られて西紀一八六一年遂に開港場となり、爾來其の發達は實に旭日冲天の勢を示し、忽ちにして武昌漢陽を壓し、今や武漢の主腦を以て目すべき大都となるに至れり。

官公署 【漢口所在】 夏口縣署(E5 巷)、漢口警察廳(E5 街)、漢口地方審判廳(B6 四官)、外交部交涉員公署兼江漢關署(德租界)、漢口鎮守使署(觀音)、武昌所在【督軍署(F10 制署)、省長公署(F8 司門)、江漢道尹署(G9 三道)、湖北警察總廳(F10)、湖北高等審判廳(G9)、湖北財政廳(F9)、武昌縣署(F10)、武昌地方審判廳(G9)等。【漢陽所在】 湖北水警廳(漢陽山頭)、漢陽縣署(C9 城內)等あり。

醫院藥舖 在漢口邦人經營のもの—同仁醫院(F3 租界一碼)、江藤醫院(租界)あり。外人經營のもの—インターナ

シヨナル・ホス・カタル International Hospital, 武昌中華聖公會同仁醫院 Church General Hospital 等。其の他教會の附屬事業として開設せるもの、仁濟醫院 London Mission Hospital (樓後花)、天主堂醫院 Catholic Mission Hospital (租界英國)、普愛醫院 Wesleyan Mission Hodge Memorial Hospital (租界英國)等あり。

又藥舗として、支那人經營のもの一屈臣氏藥舗、中央大藥房、漢口大藥房、南洋振記藥房、良濟藥房等。邦人經營のもの一日華藥舗、若林藥舗、丸三洋行、谷回春堂支、中西藥房、華英藥房等あり。

教會堂 聖公會 American Church Mission. 大英聖書公會 British & Foreign Bible Society. 内地會 China Inland Mission. 湘西北信義會福音堂 Finnish Missionary Society. 倫敦會 London Missionary Society. 蘇格蘭聖經會 National Bible Society of Scotland. 天主堂 Roman Catholic Mission. 循道會 Wesleyan Methodist Missionary (以上漢口)。行道會 Swedish Missionary Society. 宣道會 Christian & Missionary Alliance

Preparatory School. 文華大學校 Bonne University. 博文書院 Wesley College (以上武昌)等。

【支那人經營】 民立法政學校、輔德中學校(C5)以上漢口。高等師範學堂(F9)、第一、二、三師範學校女子第一師範學校(F9)、女子職業學校、省立法政專門學校(G9)、省立外國語學校、甲種農業學校、甲種商業學校、甲種工業學校(H8)、第二中學校(G8)、民立中華大學一以上武昌。漢陽中學校(漢陽)等あり。

交通 【鐵路】 由來漢口は揚子江及漢水の二大河を控ふるを以て、汽船民船等による水運の便は更なり、輓近【京漢鐵路】開通以來、又北京との距離を短縮して此に船車連絡の便を増し、加之對岸の武昌よりは【粵漢鐵路】あり、武昌岳州を經、輓近長沙及株州迄開通せり(路途31參照)。其の他四川省と漢口間を連絡すべき【川漢鐵路】は既に測量を終り、現に工事中途にある有様なり。

【長江水路】 漢口に集中する汽船の主なるものは、揚子江を上下航する漢口上海線、漢口宜昌線、漢口湘潭線及漢口常德線の四航路によるの外(詳しくは第二八四頁以下參

照)又日本直航線に屬するものあり(是は夏期増水の際の荷物船)に、旅客運輸の便を有せず。

【漢水航路】 其の水路を分けて襄河(漢口より油桃鎮迄)及府河(漢口より新溝を經て湖水に入る迄)の二區とす。漢口油桃鎮間には約五、六百噸級の淺吃水小汽艇を通ずべく、毎日午前八時漢口解纜の船便(賃金約一弗)あり。但し冬季減水期に漢口より蔡甸迄(賃金約三〇仙)とす。又貨物は専ら民船によつて運搬せられ、其の航行速度は普通の場合、上航には一日約二〇哩乃至五〇哩、下航には一日約一〇〇哩を通例とす。その搭載貨物の種類は上航に在りては綿糸、綿布、砂糖及雜貨等を大宗とし、下航には其兩岸一帯に産する黄豆、豆粕、胡麻油類、棉花、漆、牛皮、木耳、煙草等の外、山西陝西各省よりの來る多額の農産品なりとす。

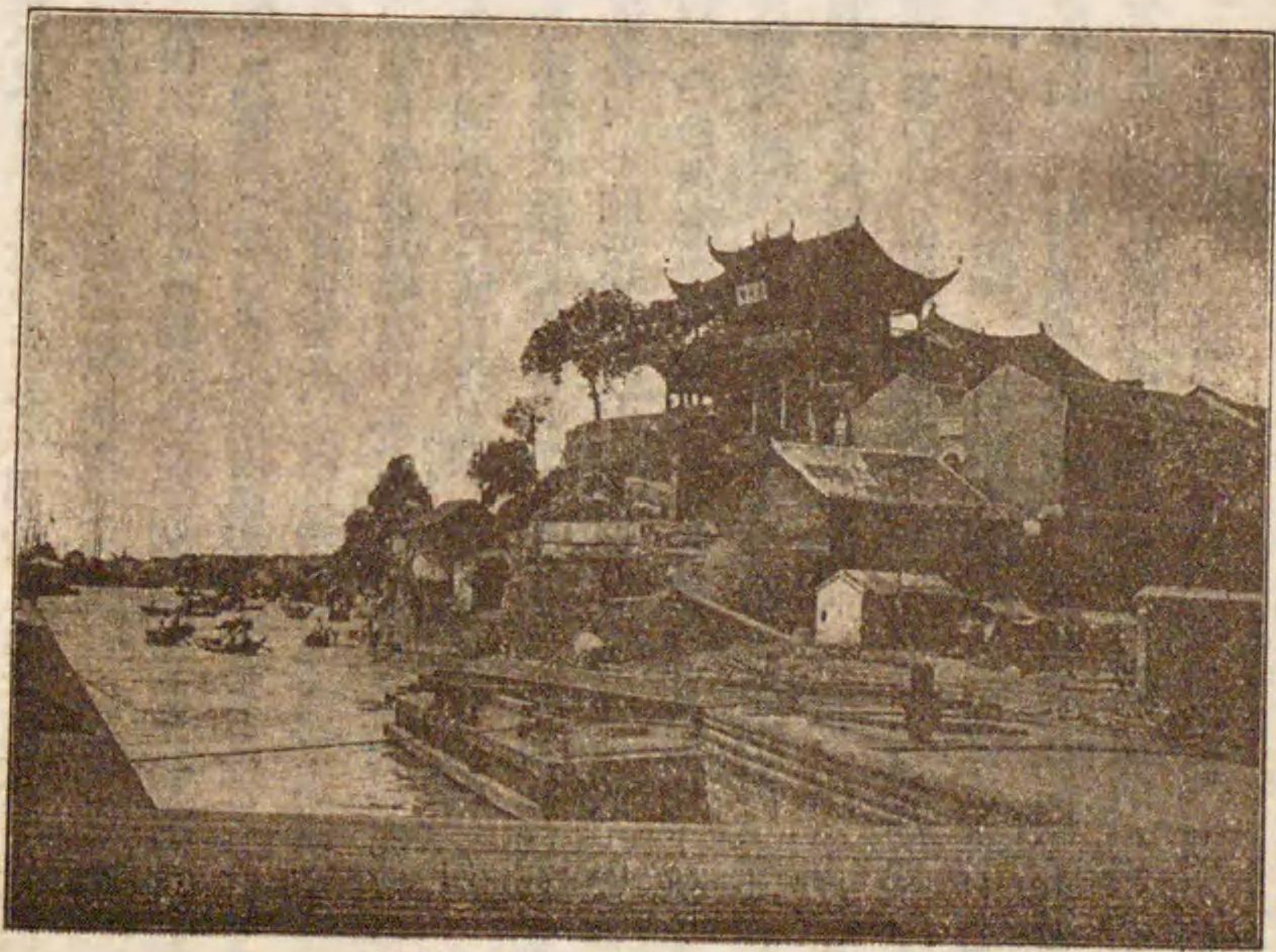
【武漢渡江船】 漢口(租界江岸)より武昌(漢陽門外)迄毎日數十回の渡航小汽艇便あり一水路約二哩、航程約四十分時、賃金十一仙。又漢陽武昌間にも略同様の渡航小汽艇便あり一水路約一哩、航程二十分時、賃金七仙。其の他武漢三鎮の各江岸には隨處支那舢舨を呼備して其の相互間を渡

School for Bible Women. 青年會中學校 Y. M. C. A. Middle School. 慈仁堂 Hankow Roman Catholic Orphanage. 聖公會道書院 Catechetical School. 聖道學堂 All Saints Divinity School. 博學書院 Griffith John College. 大同醫學校 Union Medical College. 倫敦會中學校 London Mission Middle School. 法文高等學校 L'Ecole de Municipalité Française. 聖公會女子師範學校 A.C.M.N. Roman Catholic Middle School for Girls (以上漢口)。三一中學校 Trinity Middle School. 文華中學校 Boone Middle School. 蘭經學校 Bible Training School. 文華大學校 Bonne

航するを得べし。

商業 【貿易年額】 漢口の商業は最近異常の發達を遂げ、西紀一九一七年に於ける貿易總額は一億七千餘萬鎊(輸出額一億百六十萬餘鎊、輸入額六千八百餘萬鎊)を算せり。之を革命當時即ち一九一一年の總額一億八百餘萬鎊乃至一億三千五百餘萬鎊に比すれば、蓋し其發達の尋常ならざるを推するに足る可く、若し此の勢を以て推せば將來終に上海を凌駕するに至るやも亦知るべからず。

抑漢口の位置たる湖北の東部に位し、北隣河南省の黄河以南の地は漢口を介して外洋と商業上の連絡を保てると共に、其の西北甘肅、陝西二省亦漢水に依りて漢口より外貨の供給を仰ぐの外なく、又西には四川の寶庫あり、長江に依りて物資を漢口に輸送し、更に西南には物貨無盡藏なる貴州雲南ありて、長江又は湖南の阮江に依りて有無相通ず。尙ほ南方には洞庭湖及長江を経て相呼應する湖南、江西二省の富源あり。即ち往古より所謂九省の會に當りて、その商圏の廣大なること實に支那十八省中他にその比を見ざる處なれば、其の商勢の隆々乎として逐年盛大を致すも亦寔に偶然ならざるを知るべし。



漢陽晴川閣

首め、雲貴、山西、河南、湖南、江西、福建、湖北、江
南、寧波、潮、廣、香港の諸幫とす。

【市場】 漢口に於ては未だ公設の市場なきも、其の運轉の便、貨物積卸の利に依り、漢水沿岸には自然市場を形成するを見る。而して其の主なるものは棉花市場を首め、油、薪炭、米、雜糧の諸市場なり。棉花は湖北一帶より、油は四川、湖南より、米は湖南より、雜糧は漢水上流より、夫れ々々民船に依りて集るものとす。

主要店舗 【邦商】 大正電氣株式、日華製油株式、

三友電氣公司等(以上日)。三友合資會社、大倉組、古河合資會社

出張、東華公司、瀛華洋行、東亞通商株式會社等(以上法)。

高田商會(以上俄)。富士製紙株式會社、三井洋行(E4)、湯淺株式會社等(以上俄)。

社支店等(國租界)。富士製紙株式會社、三井洋行(E4)、湯淺株式會社等(以上俄)。

洋行支店、伊藤忠社支店、半田棉行出張、鈴木洋行、增田洋

行、阪崎麻行、新利洋行、吉田洋行、齋藤洋行、武林

洋行支店、東洋洋行、小林洋行、黃泰洋行、泰信洋行、安

部洋行、水田漆行、伊藤商行、日本郵船株式會社、住友

洋行、岩井洋行、芝川洋行等(以上英)。芝棉行、小瀨木洋行、丸三洋行等(以上支)。

【重要輸出入品】 最近西紀一九一七年上半年に於ける漢口の重要輸出品は、羊皮の二、五六一、七一四擔を大宗とし、次で大豆及豌豆の八九八、七九二擔、桐油の二六三、四七三擔、胡麻の一九四、八二〇擔、黃牛皮の一七一、七八〇擔、植物性油の二三四、〇七二擔、麻類の七七、八九二擔、茶油の三、二六九擔を數ふべく、更に輸入品に於ては、日英米印各地よりする生金中三七九、一五四擔、雲霧布一六六、九四六擔、ジンス一五七、一六三擔、晒金巾三七〇、三一九擔、天鵝絨及綿天鵝絨一五八、四〇二碼、綿織絲二五八、五二六擔、石油五、五九二、八五一ガロン、砂糖四〇〇、三八〇擔、其他羅紗一〇〇、七三四碼、麻袋類三、九四六、五六〇個、機械類三四二、七二〇輛等を主なるものとす。

商業機關 邦人實業協會(漢口英租界)、英人商業會議所(同上)、支那商務總會(武漢三鎮各一箇所)、其他支那紳及同業者間の機關としては左の諸團體あり。

【會館】 長沙會館、太平會館を首め、香山、中州、湖嘉、江蘇、徽州、廣東、紹興、湖南、大布の諸會館とす。

【公所】 河南公所、淮鹽公所を首め、油帮、蘇江、長春、錢葉、天印、寶慶、雲林、米市、正乙、文昌、寶善、玉器、茶業、培心の諸公所とす。

【帮】 現今漢口に於て有名なるものは、四川帮、陝西帮を

【外商】安利英行 Arnhold, H.E. 亞細亞火油 Asiatic Petroleum, 慎昌 Behrend & Stren Adolph, 德泰 China & Java Export Co, 華昌 Geddes & Co. 怡和 Jardine, Matheson & Co. (F 5) 阜昌 Molchanoff, Pechatnoff & Co. (以上英租界)。立興 Racine, Ackermann & Co. (法租界)。英美煙公司 British American Tobacco Co. 英國煙公司 British Cigarette Co. (以上德租界)。美孚 Standard Oil Co. of New York (俄租界)。太古 Butterfield & Swire (F 5 街河)。

【支那商】濬川源(漢河) 大德通(黃陂) 蔚長厚(法租界) 以上票號(爲替買賣一般金融業)。廣大(前花) 滙通(正) 百川盛(上) 以上錢莊(兩替業)。招商漢局(E 5) 航運業(正)。熙泰昌, 忠信昌, 洪昌隆(紅茶街河)。春源(漢河) 泰豐(集稼) 竹恒(街) 以上油脂類。采章(頭) 鴻彰(街) 絹織物、葆和祥(棉絲街) 謙祥益(街) 德潤(頭) 綿布類。天寶(頭) 鳳祥(街) 金銀細工。公成(質屋租界) 元豐(漢) 天盛(街) 雜穀。陳裕昌(刻煙草頭) 德厚榮(輸出入街) 福中公司(石炭街) 華勝公

司(F 4 外國雜貨路) 福記(石油街) 張萬順(藥材頭) 商務印書局(書籍頭) 蔡同泰(人參街)。
工業 漢口は由來商業地としてのみ知られたるも、輓近水陸交通機關の發達は其の工業の發展をも促し、今や次第に内外人の經營に係る新式工場の勃興を見るに至れり。先その主なるものを左に摘示せむ。

【漢冶萍漢陽鐵廠】大別山の東麓(C D 7)に在り。武漢三都を通じ規模最宏大なる工場にして、南方長江沿岸より、北方約六千呎に亙る地區を以て其の敷地となす。今、長江沿岸の鐵工廠碼頭(漢水河口より上流約六百呎に在り)を登り、此に布設せられたる輕便軌道に沿うて前み行けば、約1/3哩にして銑鐵製造場あり。此には五個の汽罐を裝置し、二基の熔鑪、二個の貯水池及數個の貯炭所、積鑛所等をも有す。更に北方約二町の地點に至れば、又一大方形の工場を見る。場内は二部に分たれ、前記銑鐵塊は悉く此處に送られて鐵板及軌條に精製せられつゝあり。
【楚興公司織布廠】武昌文昌門外(E 10)に在り。場内百一臺の紡績機あり、其中三十六臺は緯系紡績機、他

の六十六臺は經系紡績機とし、五百臺の織布機ありて皆運轉せらる。製品は經系十四手緯系十六手の生金巾の一種にして、幅三十六吋長四十碼を一匹とし、其の品質の精粗に依りて頂印、天印、地印、玄印、黃印の五種に分てり。

【磚茶廠】露國人の經營に係る順豐、新泰磚茶廠(F 4 租界)及阜昌磚茶廠(F 4 英國租界)の三工場あり。就中阜昌は規模最大にして千三百餘名の職工を役し、漢口に於ける磚茶廠の老工場として其信用最も厚く、取引關係亦隨て廣し。原料は湖北、湖南、江西、安徽の粉茶を用る、その製品は春夏兩季に亙りて多くは航洋汽船を以て露國へ送られ、或は北支那若くは浦鹽を経て西比利亞方面へも供給せらる。其他漢口大智門に廣東商の經營に係る興商磚茶廠あり。

爾餘の工業として漢口既濟水電廠、英美紙煙廠(G 2 租界)、燮昌洋火廠(G 2 日本租界)を首め、財政部造紙廠(其家)、揚子機械廠(上)、元豐榨油廠(德國租界)、三井澄油廠(上)、日華澄油廠(日租界)、和記宰生廠(上)、禮和蛋廠(大智門)、嘉利蛋廠(上)等あり。武昌には紡紗廠(E 10 文昌門外)、造幣廠(内城)を首め、白沙州造紙廠(F 11 州)、模範大工廠(街)等あり。

漢陽には兵工廠(C 7 山)を首め、礮藥廠(C 6 山) 寶善碾米廠(山)、天盛榨油廠(漢河)等あり。

【漁業】漢口及其附近に於ける【漁業】は長江一帯殊に江夏縣下金口地方を最盛とし、内河にては沌口、黃沙港、磨子石、黃陵磯(以上漢陽縣所管)等の漁場ありて、各種の魚族を産す。就中、鯉魚及鱖魚は内外人に賞味せられ、殊に鱖魚は長江の特産として著名なり。漁獲の數量及漁舟の隻數等は確數の知るべきなきも、大魚は鹽漬として木桶に詰め、四川省に運搬せらるゝもの尠からずと云ふ。其間屋の主なるものは恒裕公、同興公なりとす。

【農業】にありては湖北湖南の廣漠たる平野及四川、貴州、陝西、山西の各省より各種農産物の漢口に雲集し、更に諸方面に輸出せらるゝ、價額實に毎年六千萬兩を下らざる状態に在り。將來若し川漢、粵漢の二大鐵道開通し、且各地農民の耕作法乃至精選法を改良するに至らば、其の産額は實に莫大の數に上るべきや疑なし。今その主要農産物の種類を擧ぐれば、茶、麻、胡麻、葉煙草、棉花、桐油、小麥、生絲等とす。

娛樂場 【劇場】 楚舞臺(一碼)、怡園(E 4 大智門)、新民(上同)、立大舞臺(華景街)、愛國東園(E 4 歎生路外)、滿春(城馬路)、笑舞臺(張美之巷西口)、劉園(外鐵道)、共和昇平樓(法國租界)、玉壺春(上同)、天生舞臺(上同)、大正會館(日本租界)等。【活動寫真館】樓外樓影戲園(街後花)、百代影戲園(租界法)。【競馬場】外國競馬場 Hankow Race Club & Recreation Ground (F 1 通濟門外)、支那競馬場(B 4 循禮門外)。【俱樂部】日本人俱樂部(租界日本)、波樓 Hankow Club (英國租界)、打毬公司 Han-kow Golf Club (E 2 大智門外)、俄波樓 Russian Club (租界俄國)。



武昌寶通寺

大別山(C 7) 漢口市街の西郊に方り、漢水の流れを隔てし對岸地にあり、一名を龜山クニシヤンと稱し、西よりの東に蜿蜒し長江の滯に至りて盡く。其の山頂は往古禹が濬川の成功を天に告白せし所と傳へ、此に禹王廟あり。又近くは革命軍の之に據りて兵を陣せし處、四望濶如として武漢三都の光景を一眸の下に俯瞰すべし。

*【禹】 姓を姁、名を文命と云ひ、堯舜の朝に歴事せり。堯の時大洪水ありて、人民安居を失ふ。禹の父鯀、堯の命を蒙りて之を治めしも成功を見ず。舜の時再び禹を擧げて之に當らしむ。禹は天資敏活にして父が失敗を傷み、身を勞し思を焦し家を外にすること實に十二年、遂に能く治水の功を奏するに至れり。舜は其の功を嘉し之を薦めて嗣と爲す。後、安邑(山西解州)に都を定めて國號を夏と稱せり。

晴川閣(D 7) 前記大別山の西より來りて長江岸に盡くる處に在り。武昌の黃鶴樓と江を隔て、相對す。其の建築は優雅なる二層樓にして、樓上の眺望は東南二面に於て江漢二水の檻外を洞流するあり。又遙に遠航の水影を望みて風光甚だ明媚なり。唐詩に所謂「晴川歷々漢陽樹、芳草萋々鸚鵡洲」の句は即ち此處を指すなり。樓上卓子等の設備あり。又番僧苦若を煮、茶菓を饗するを以て、遊客は去るに臨み十仙内外を

投するを例とす。

黃鶴樓(F 9) 武昌城漢陽門内に屹立する蛇山一名

黃鶴山の脈端江岸盡くる處、その山頂に在り。多角形の二層樓にして、結構雅麗、樓内喫茶休憩の便あり。但往時の所謂十八丈の五層樓は長髮賊の兵亂に灰土に歸し、今は見る由なしと雖、唐代の詩仙李白が曾て黃鶴樓上その友を送るに際し、「孤帆遠影碧空盡、惟見長江天際流」といへる名吟に依りて、纔に其風光を想見すべし。樓上には諸名家の題聯等多し。

寶通寺 武昌の城東賓陽門外一里許り、洪山の麓に在る巨刹なり。丘上に塔あり、高二十丈、八角形の七重塔にして石及磚瓦を以て築造せられ、塔姿頗る優麗なり。之に登れば武漢の風光を肆にするを得べきも、惜らくは現時兵士屯して登臨を許さず。

古琴臺(B 7) 漢陽鐵廠の西方約二支里、月湖の南畔に在り。地は是れ曾て伯牙琴を弾じ鐘子期之を聽きしと傳ふる古蹟にして、地勢高阜を成し大別山の西麓と相對峙せり。因て琴臺又伯牙臺とも稱せらる。臺上の屋宇今は稍荒廢したれども林景亭榭の風致尙ほ掬すべく、且湖上荷花の勝あるを以て春

夏の交來遊者多し。

歸元寺(B 7) 琴臺の東方數町、大別山の西麓に在り。武漢第一の巨刹を以て目せらる、禪宗寺院にして、寺内の

五百羅漢像特に名高く、内外人の觀拜を許せり。現在僧徒約四百を算す。

抱泳堂(F 9) 武昌城内、蛇山の中腹に稍壯麗なる支那風の庭園あり。園内張之洞の祠碑の外二、三清楚なる房亭の設備あり。春花秋草の時一遊を試むるの値なしとせず。

大軍山 小軍山と共に漢陽府城の西南に在り。吳魏相對峙して兵を兩山の間に練りし處、故に大軍小軍の名あり。里老相傳ふ、元時風雨の際は則ち金鼓の聲を聞くと。この山高さ百餘丈、雲霧蒸出すれば數十里の間皆雨降ると云へり。

石榴花塔 漢陽府城の西北に在り。昔時一婦あり姑に事へて至孝なり。一日鷄を殺して饌に供す。姑之を食ひて死す。姑女之を官に訴ふ、官辯する能はず。刑に臨む時石榴花一枝を折て祝して曰く、妾若し姑を毒せば花即ち死せむ。若し誣に坐して枉殺せられんか花再び生ずべしと。已にして花果して生ず。時人之を哀み塔を立て、其事を表せり。石榴花塔即ち是なり。

路 31 武昌株州間 (粵漢鐵路北段)

附常德、湘潭航路並株萍鐵路

粵漢鐵路 廣東省城西關を起點とし、同省の英德、韶州より湖南省彬州、衡州、長沙、岳州等を経て湖北省武昌に至る全長約七一〇哩、全線開通の曉には其の北端揚子江を隔て、京漢鐵路の南端と連絡し、以て南北支那を一貫する大幹線たるべきものにして、現下既成の部分は廣東韶州間一三九哩三、(廣東の條下參照)を南段とし、武昌株州間二四七哩六を北段とす。以下本項の記述は其の北段即ち湘鄂局(湖北、湖南地方局)の所管線路にして、武昌長沙及長沙株州の二區間に分かれ、其の南端株州に於て萍鄉炭礦に至る株萍鐵路と連絡す。

【沿革】 粵漢鐵路は一八九七年故張之洞、盛宣懷等の主唱に依り兩湖及廣東三省郷紳の商辦敷設を發起せしに創まり、當初千二百萬元の株式を募集し得たるも尙不足なるを以て米國合興公司より米貨四千萬弗の借款を得て敷設工事を其の手に委したり。乃ち公司是先づ三水支線の敷設に著手したるも、工程遅々として進まず、隨て幹線敷設の期測るべからざるより漸く非難の聲あり。時恰も利權回收熾烈の折柄なり

ければ三省の郷紳相會して遂に借款契約の破棄を宣し、結局六百五十萬弗の賠償を以て既成の三水支線及未設幹線の敷設權を回收して、爾後各省分擔法に依り商辦敷設の議を決したり、時に一九〇五年八月なり。斯くて廣東方面は四千四百萬元の株式會社を組織し、邦人鐵道技師董督の下に漸次工を進め、一九〇七乃至一九一五年の間に互り廣東韶州間の開通を見たり。又一方兩湖方面に在ても敷設權の回收後直に民資募集に著手すると同時に、邦人鐵道技術家を聘して測量設計等に當らせしが、資金の調達不如意なるより一九一一年更に資を四國借款に仰ぐこととなり、川漢鐵路と共に官辦敷設の議決せらる、や、次で武漢の革命動亂勃發ありて蹉跎たること又數年、最近漸く武昌株州間の開通を見るに至れり。

武昌長沙間 (武長線)

【列車便】 武昌(通湘門車站)より長沙車站まで二二二哩九、每日一回双方より發車、行程約十六時間、賃金一等一三弗五〇、二等九弗。【手荷物】 無賃制限一、一等客百二十斤、二等客九十斤、三等客六十斤迄とす。

沿線概観 武昌城外東方約三哩、漢口日本租界の對岸に徐家棚あり、是れ京漢線江岸車站に最も近適し、將來京漢、粵漢兩鐵路の連絡地點たるべき要衝にして、此に粵漢鐵路の總事務所、倉庫、車庫及鐵路に關する一切

の修繕工場等今や設置せられつゝあり。

現今武長線の起點通湘門 Tung-siang-men は專ら

武昌市民の乘車に便し、鮎魚塗 Nien-yü-tao (三哩通

湘門也)は自ら漢陽市民の便を計りて設けられしもの。

紙坊 Chih-fang (三哩五) 汽車鮎魚塗を出れば線路の

東西に無數の沼湖を見る。此邊一帶地は自ら灌漑の利を受けて地味肥沃、米及大豆を主産品とす。紙坊は車站附近住

戸七、八戸、人口四、五十に過ぎざる一小部落なり。

土地堂 Tu-ti-tang (三哩五) 紙坊より此に至る間概ね

山岳蜿蜒、樹木鬱蒼の地を縫うて進み、眺望亦佳なり。商家五、六十、住戸十餘、人口三、四百を算す。

是より暫く緩勾配に沿ひ稻田の間を過れば往々山脈

西方に連亘し、林影色濃くして人煙稀薄なる所、一車站の

孤立するを望む。是れ山坡 Shan-po (三哩七)なり。次で

賀勝橋 Ho-sheng-kiau (三哩一) に至る。住戸五、

六戸、人口三、四十の一小部落とす。

官埠橋 Kuan-pu-kiau (四哩六) 人口約二千、戸

數約三百、一小市場にして河水市街に通じ、十數の民船土

貨を載せて來泊するを例とす。

咸寧 Hsin-ning (四哩六) 市街は車站を距る數町に在

り。武昌府下の縣治にして、高約三間の城壁を繞らし戸數千餘、人口約八千、知縣公署あり。此の地水利に富み、西方は

斧頭湖より金口を経て揚子江東流に船便を通ず。有名なる咸寧麻及柏整、馬橋舖一帶地方所産の紅茶等は縣の東南境

より發源せる塗水(流長約三十五哩)に由て此に來集し、更に長江を経て漢口に集散す。

前記官埠橋より南方路口舖に至る間、沿線一帶の丘腹

山麓は處々紅茶畑と爲され、又開墾せられたる平地窪地には

苧麻及米を産するを見る。

汀泗橋 Ting-su-kiau (五哩六) 市街は車站の東方

數町に在り。戸數約五百、人口約三千。市中茶商多く紅茶の取引に於て寧ろ咸寧市を凌駕すべく、新進有望の一市場と稱せらる。

次で官塘驛 Kuan-tang-i (六哩五)あり、住戸十餘、

人口百餘。又中伙舖 Chung-huo-pu (六七哩五)を經、

途中沙河に架せる一大吊鐵橋(本線中最大のものにして、全

長百數十間を渡れば沿線中の一重鎮たる蒲圻市に至る。
蒲圻 P'u-chi (七六四) 蒲圻縣の首府にして市街は車站の西方一哩餘に位し、知縣公署あり。人口約一萬、麻の集散地並に紅茶の取引市場として頗る盛況あり。

蒲圻を去り茶庵嶺 Tsa-an-ling (八三三八)、趙李橋 Chao-li-kiang (九〇三三) を經り羊樓司に至る間、車窓に入るは鬱蒼たる松林或は遠近に蜿蜒起伏せる丘嶺にして、本線中殊に風景に富める。

羊樓司 Yang-lou-si (九七三七) 市街は車站外約六町に在り。人口千餘、戸數百數十、紅茶取引の一市場として知らる。且其市街を距る遠からざる處に紅茶の一大集散地たる羊樓洞を控ふるを以て、當車站の乗降客常に尠からず。

是より五里牌 Wu-li-pai (一〇三三) を過り路口舖 Lu-kou-pu (一一四一) を經れば丘嶺漸く盡きて低地窪地參差たる地勢を現じ、耕地廣潤にして米産豐に、紅茶の産額亦尠からず。次で雲溪 Yun-hsi (一二三三) あり。人口千餘、戸數百數十、一小市街を構成し、茶市場として稍々名あり。

城陵磯 T'en-ling-chi (一二五五) 市街は車站を距る約四哩に在り。開港場岳州の一部分にして、揚子江と洞庭湖口との交叉點たる要衝に位す。人口一萬餘、戸數千餘、岳州税關あり。殷賑なる一市場にして本邦雜貨の賣行高近年十數萬兩を算し、通商地として逐年發展の傾向あり。

岳州 Yo-chow (一三三三) 古の巴陵郡、宋以來岳州の名あり、今巴陵縣の首府たり。戸數約七千、人口約六萬、其の位置湖南北方の咽喉を扼し、揚子江と洞庭湖とを通じて四通八達の便あり。西紀一八九八年開放せられたる通商場にして、税關及居留地あり。古來通商上並に軍事上樞要の一地點を占む。最近一九一六年の貿易額を見るに、外國品輸入額三、一四四、二五六兩、支那品輸入額二、四四八、二六三兩、支那品輸出額二、三八五、九八〇兩、計(純貿易額)七、九七八、四九九兩を計上す、而して其の主要輸出品は桐油、牛皮、水銀、麻、牛油等にして、輸入外國品は綿織物及石油を最とし、綿絲、砂糖、洋傘、石鹼、縫針、紙煙草等之に次ぐ。府城は周圍三哩の廓壁を有し、朝陽(東)、岳陽(西)、鳳

儀(南)、楚望(北)の四門を設く。其の岳陽門外に一堞樓あり、是れ有名なる【岳陽樓】の故址にして唐代の創建に係り、清の乾隆年間修築せしもの。山を枕し湖に面し、迥に君山の翠微を望む。宋の文豪范冲淹の「岳陽樓記」あり、以て其の風景を想見し得べし。

岳陽樓記

范希文

慶曆四年春。滕子京謫守巴陵郡。越明年政通人和。百廢俱興。乃重修岳陽樓。增其舊制。刻唐賢今人詩賦于其上。屬予。作文以記之。予觀夫巴陵勝狀。在洞庭一湖。銜遠山。吞長江。浩浩湯湯橫無際涯。朝暉夕陰。氣象萬千。此則岳陽樓之大觀也。前人之述備矣。然則北通巫峽。南極瀟湘。遷客騷人。多會于此。覽物之情。得無異乎。若夫霪雨霏霏。連月不開。陰風怒號。濁浪排空。日星隱曜。山岳潛形。商旅不行。檣櫓橫攔。薄暮冥冥。虎嘯猿啼。登斯樓也。則有去國懷鄉。憂讒畏譏。滿目蕭然。感極而悲者矣。至若春和景明。波瀾不驚。上下天光。一碧萬頃。沙鷗翔集。錦鱗游泳。岸芷汀蘭。都郁青青。而或長煙一空。皓月千里。浮光躍金。靜影沈璧。漁歌互答。此樂何極。登斯樓也。則有心曠神怡。寵辱皆忘。把酒臨風。其喜洋洋者矣。嗟夫予嘗求古仁人之心。或異二者之爲何哉。不以物喜。不以己悲。居廟堂之高。則憂其民。處江湖之遠。則憂其君。是進亦憂。退亦憂。然則何時而樂耶。其必曰先天下之憂而憂。後天下之樂而樂歟。噫微斯人。吾誰與歸。

丘州より以南に於ける本線は概ね洞庭湖畔に沿へる新開地を貫き、麻塘 Ma-tang (一五三三)、榮家灣 Ying-kiang-wan (一五三三)、黄沙街 Huang-sha-kai (一六〇〇)、桃林寺 Tao-lin-shi (一六三三)、汨羅 Mi-lo (一六三三)、白水 Pai-shui (一六三三)、沙河 Sha-ho (一六三三)、橋頭驛 Kiao-tou-i (一六三三) の諸車站を經り長沙に達す。

長沙 Chang-sha

【車站】長沙に二車站あり、即ち長沙北車站(一名新河一二〇哩四)及長沙南車站(一名長沙東車站一二二哩九三)とす。【人力車】護護輪のもの最多く賃銀は一様ならざるも一哩制錢二百文。【轎子】轎行(轎店)ありて一般の需に應ず。二人三人及四人昇算あり。賃銀昇夫二人に付一時間三、四百文、一日約二車文とす。
旅館料理店 天樂居(城内魚塘街)、一枝香(同洪家井)一支那人經營の歐風旅館にして料理店を兼業す。宿泊料一日三弗乃至六弗(別に食料を要す洋食支那食共に調理す)。日本旅館美乃和(小西門外河街)、料理店を兼ね、宿料一日一弗五〇乃至五弗。東洋旅館(大西門外)、宿料同二弗乃至四弗。支那客棧一湘鄂旅館、名利客棧(西門外)、寰球旅館(坡子街)、共和旅館(白馬巷)、集福旅館(府正街)等、以上食事付宿料四〇仙乃至四弗。支那

料理店—天然臺(魚塘街)、曲園(走馬街)、逸園(南正街)、玉樓東(清石街)、福壽樓(紫荊街)等。同々教席館—徐長興(清石街)。

銀行—株式會社中日銀行(大西門外河街)、湖南銀行(理問街)、湖南實業銀行(樊西巷)、湖南儲蓄銀行(理問街)、中國銀行(支洪家巷)、交通銀行(支南正街)、贛省銀行(支樊西巷)。

郵便電信—日本郵便局(大平門外)、中國郵政局(西長街)、中國電報局(織機巷)、湖南電話局(督軍署側)。

長沙概観 長沙は湖南の省城にして湘江の右岸に瀕せり。西紀一九〇四年の開港に係り、人口約五十萬、在留外國人四百餘を算す。城は東西約一哩、南北二哩餘に互る廓壁を繞らし、大小十三門あり其の一半は城西邊に點在す。城内中央より較、北に偏して督軍署其他の官公衙あり。市街の清潔なるは支那諸都城中稀に見る處、就中大西門外一帶は商埠地なるを以て幾多の碼頭江瀨に連なり、貿易商館等多くして市況殷賑を極む。又南門外一帶には鑛物製煉業其他の工場櫛比して數十の煙突林立の盛況を呈す。【物産】—當地方産物の主なるものは米、茶、紙、煙草、漆、麻、木棉、桐油、磁器、木材、石炭、鐵、アンチモニー等とし、一九一七年度貿易總額約二千七百五十萬兩に上れり。



湖北地方の鶴飼

官公署 湖南督軍公署(上轅門)、湖南省長公署(上同)、湖南交涉公署(如意街)、湖南財政廳(議正街)、湖南高等檢察廳(議正街)、湖南地方檢察廳(上同)、湖南省會警察廳(司門)、湖南全省水上警察廳(學院街)、長沙縣知事公署(府門)、長沙海關(洋碼頭)等。其他日(北門外平)、英(水陸州)、米(草湖門)、各國領事館あり。

教會學校等 美國聖經會(北門外)、美國長老會(上同)、宣道會(南正街)、內地會(南門外)、基督復臨安息日會(府正街)、基督教青年會(西牌樓)、天主堂(北門外)、法政專門學校(駝子橋)、商業專門學校(荷花池)、工業專門學校(落星橋)、以上公立。第一師範學校(城南)、第一女子師範學校(古稻)、第一中學校(荷花池)、第一甲種農業學校(北門外)、第一甲種工業學校(駝子橋)、第一藝徒學校(樂古巷)以上省立。日本仁東醫院(藥正街)、日華同仁醫院(路邊)、湘雅醫院(草湖門內)、湖南紅十字醫院(東茅巷)、中華醫院(茶館)。

商業機關店舖 長沙商務總會(泉倉後街)、工業總會(東長街)、礦商公所(南門外)、湖南木商公會(營盤街)、商船公會(白鶴巷)。

模範勸工場(白馬巷)等。大倉洋行(南門外)、三菱公司(上同)、鈴木洋行(小西門外)、三井洋行(上同)以上輸出入業。日清汽船公司(小西門外)、三合洋行(硝子器、南門外娘)、古河公司(礦業上)、大石洋行(雜貨、小西門外)、亞細亞洋行、美孚洋行(以上石油、輸出入門外)、太古洋行(小西門外)、怡和洋行(大門外)、慎昌洋行(南門外)以上輸出入業、英美煙公司(煙草、北門外)、乾亨利(洋雜貨、八角)、太和豐(吳服上)、文元樓(金銀細工、紅牌)、乙海春(賣藥、府正街)。

主要工場 大同煉廠(北門外)、第一紡紗廠(上同)、湖南陸軍工場機械廠(興漢門外)、華昌公司煉廠、黑鉛提煉廠、德記鍊廠、三合玻璃廠(以上南門外)等。

劇場 豫園(織機巷)、新劇社(育嬰街)、湘舞臺(馬王街)、湘春園(高井街)、同春園(織機巷)等。

名勝 【岳麓山】長沙の對岸約半里、湘江を距て、長沙城に對し風景自ら佳なり。山中に自卑亭、愛晚亭、萬壽寺、白鶴泉、禹王碑、朱子碑、雲麓宮、望湘亭等あり。最近黃興、蔡鍔二人の遺骸國葬を以て此の山中に埋葬せられ、墳塋の造營、山道の修築等土工大に興り、名勝の因縁と

遊覽の便宜亦大に加はるに至れり。山下の【岳麓書院】は昔日朱熹天下四大書院の一にして、現今師範學校たり。

【城内諸勝】 長沙は由來史上有名なる城市なれば城内名勝古蹟に富み、殊に諸名士の祠廟多し。今其の主なるものを擧ぐれば賈太傅祠(太平)、定王臺(劉陽)、曾國藩祠(小異門内)の忠死者を祠り、曾國荃祠(司馬)、左宗棠祠(北門)、文廟(南門内學堂街)、城隍廟(新開)、其他天心閣(城の東)亦舊蹟の一にして登臨すれば長沙城内外の風光を一眸に收むべく、樓内茶館あり登客の便に資す。

【瀟湘八景】 古來文墨騷客の間に高唱せらるゝ八景は本省の南境永州以下洞庭湖間約三百哩に跨る湘江流域の絶勝を抜けるものにして、各其の所在左の如し。

瀟湘夜雨(永州)、平沙落雁(衡州)、洞庭秋月(岳州)、山市晴嵐(長沙附近)、遠浦歸帆(湘陰)、烟寺晚鐘(衡山)、江天暮雪(岳麓山)、漁村夕照(桃源)。

長沙株州間 (長株線)

長沙北門外新河を起點とし、湘江の上流右岸なる株州に達する全長

株萍鐵路

本鐵路は主に萍鄉炭坑の石炭輸送を目的として布設せられ、傍ら旅客の運輸に供しつゝあり。湖南省湘潭縣株州より江西省萍鄉縣下安源に至る、全長約六十二哩、單線廣軌(四呎八吋半)を用ゐ、毎日上下各一回列車あり。而して株州に於て粵漢鐵路と連絡し、長沙に通ず。即ち長沙安源間約六時間半の行程なり。

沿線概況 株州より東方醴陵に至るまでは湖南省界に屬する平圃綿瓦地帯を貫き、其間白關舖 Pai-kwan-pu

(從株州也、姚家壩 Yan-kia-pa (二哩)、版杉舖 Pan-shan-pu (三哩)の諸站あり。

醴陵 Li-ling (四哩) 一名陽三石と云ふ。縣城は車站を距る一哩に在り。城は渌水に圍繞せらるゝを以て、之に至るには渡船に由らざる可らず。當地方の産物は米を大宗とし、夏布、紅茶、爆竹之に亞ぐ。【醴陵磁業公司】陶磁器の製出を以て有名なり。

醴陵以東湖南、江西省の交界地點老關 Lau-kwan (三七哩)を越れば是より江西省の山地に入りてゆく矚目一新するを覺ゆ。その蜿蜒たる丘陵には茶油の原料たる山茶花樹多く栽培せられ、爲めに十一月、二月の交には満山紅白

三二哩八の標準軌幅線(四呎八吋半單線)にして、毎日往復各二回の列車あり。又株州に於て株萍鐵路と連絡運輸の便あり。

沿線概観 新河 Hsin-ho 車站は長沙北門外約一哩に在り。元と碧浪湖と稱せし沼地の一部を埋立て、本鐵路の敷地に當てたるもの、此に新開鑿の河道を通じ、數基の碼頭を設け貨物積卸の便に資せり。又構内に諸設備ありて所謂中央停車場たりと雖、土地偏僻なるを以て、旅客の乗降は重にそれより二哩を距る長沙 Chang-sha 車站に於て行はる。

是より汽車は湘江の右岸に沿うて進み、猴子石、豹子嶺二山の崖壁下を過り、大托舖 Ta-to-pu、易河灣 I-ho-wan の二車站を経、斯くて湘江の一支流白石河に架せる構築完美の一鐵橋(全長一二〇呎)を渡れば程なく株州に達す。

株州 Chuchow 車站は湘江の右岸に沿ひ、之を距る一哩に市街あり。湘潭は其の西北十餘哩の下流左岸に相對せり。又當車站に近く株萍鐵路の終端(株萍車站)ありて各等旅客待合室を設置せり。萍鄉産の石炭は此の地より長沙、漢口方面に輸出せらる。

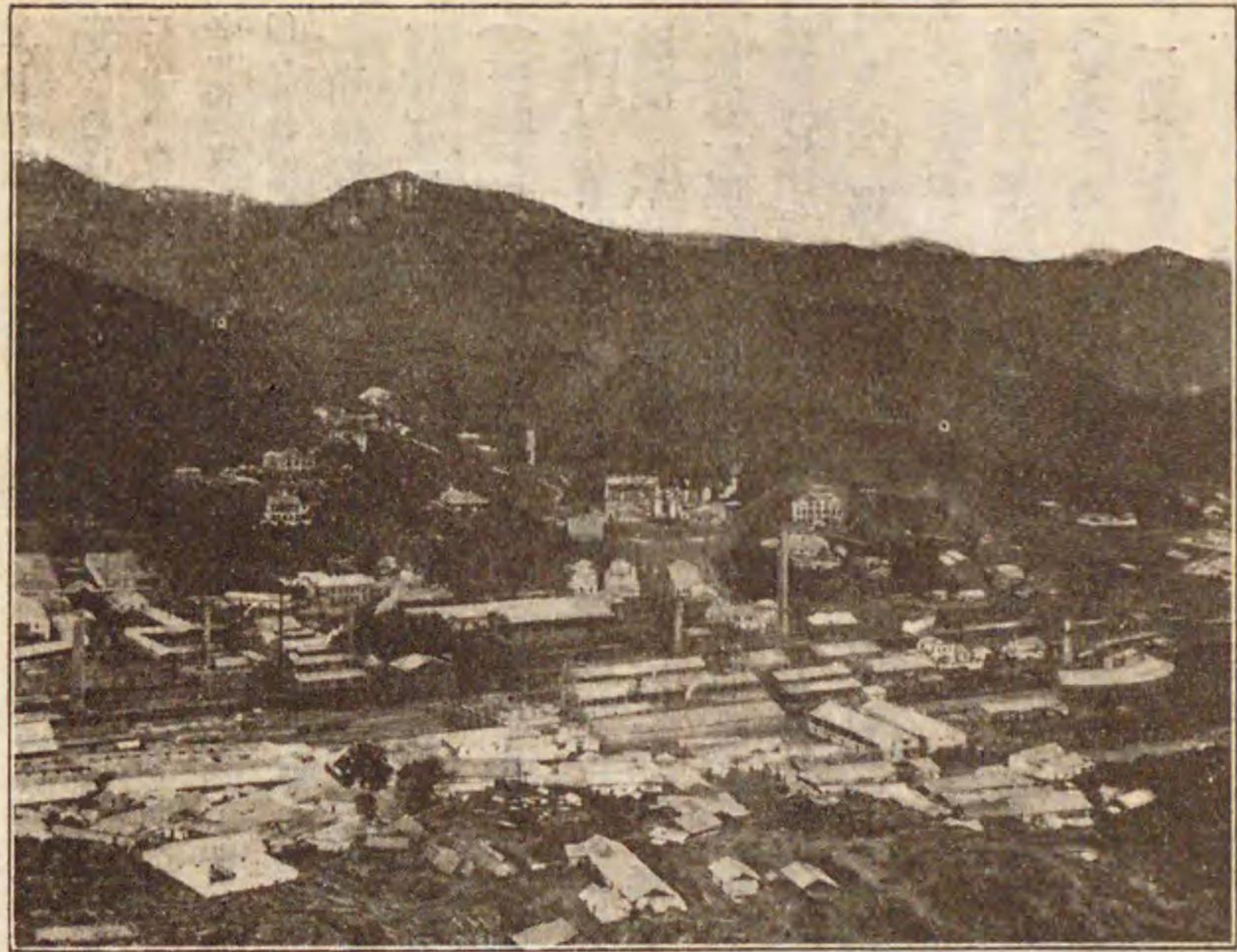
を競ひて野景頗る觀るべきものあり。

峽山口 Hsia-shan-kow (四七哩) 一名湘東市と云ふ。附近に湘東河ありて渌水に通じ舟楫の便あり。山間柑橘樹、山茶花樹等多く栽培せらる。

萍鄉 Ping-siang (五六哩) 縣城の所在地たり。此地の主要産物に茶油、爆竹、猪油あり、磁業公司の製出せる煉瓦、茶器、食器等亦名あり。

安源 An-yuan (六七哩) 萍鄉炭坑の所在地にして、洋式建物の丘上山腹に聳立し、煙突の黒煙は炎々として天を焦し、夜間は電燈の燦然たる等、新興都市の面目躍如たるものあり。株萍鐵路總局の運輸課、計理課、材料處及車輛修繕工場等亦此に在り。

【萍鄉炭礦】 目下採掘中の礦區は縣城を距る東南約五哩、安源山を以て其の中心とす。直隸省の開灤、山東省の博山と共に支那三大炭礦の一なり。漢冶萍煤鐵廠有限股份公司支局萍鄉礦務局之を管理す。該礦區は延長約七哩幅員約三哩に互り、其含炭區域は東北六十哩、蓄炭數量は毎年百萬噸宛採收して優に五百年を支持するに足ると稱せら



景全礦炭鄉萍

る。西紀一九一三年度の出炭量六十九萬噸、價額二百萬
兩に達せりと。萍鄉 礦務局には總辦一名の下に、提調正副二
名、工務長一名あり。各係員を指揮して事務を分掌す。採掘
事業に従事せる坑夫職工の數九千名の多きに上り、附屬病院
其の他一般衛生に關しても亦細心の注意を拂へり。又炭礦に
必要なる人材養成の爲め學校を設立し、獨逸人及支那人之
が教師たり。修學期を二期に分ち、三年を以て卒業とす。

漢口湘潭線

本航路は漢口より長江本流を溯り、岳州を経て洞庭湖を横り、更に
湘江を溯りて長沙、湘潭に至る二二九浬間に於て、毎年十二月乃至翌
年三月間の減水期を除けば概ね一千噸級以上の汽船を通すべく、左記
諸會社の定期船便あり。

【定期汽船便】 日清汽船(毎週二回)、怡和及太古洋行(各毎週一乃
至二回)の外支那人經營のものもあり。我日清汽船の例に依れば、漢
口湘潭間上下航とも約三日を要すべく、賃金―特等漢口長沙間三〇弗
岳州長沙間一三弗、岳州湘潭間四弗半。官船(即支那人一等)は漢口湘
潭間上航一〇弗八〇、下航九弗とす。

【寄港及停船地】 漢口より岳州(城陵磯)迄は既記漢口宜昌線と同じ
く其の以南は岳州、長沙に寄港する外、蘆林潭、湘陰、陵吉口、靖港
の各地に停船す。

沿途概観 漢口碼頭を朝靄の裡に解纜したる本航路汽
船は例の如く揚子江本流を溯航して其の日の午後城陵磯

(二三浬以下皆準之)に至り、此處より針路一轉左に折れ、岳州
府城(第三二三二頁参照)を左舷に望みつ、南の方湘江河口
を指して洞庭湖東邊の水路を横ぎるなり。

洞庭湖 Tung-ting-hu 支那に於ける最大湖にして、面
積三千五百乃至四千方浬、その最廣處は東西約八〇浬南
北約七〇浬、湖南の諸水皆之に注ぐ。毎夏揚子江の増水
期に際せば湖水漲溢、四邊の洲渚悉く没し一望渺茫たる無
邊の大洋となる。されど冬季の減水期に入れば湖面全く變じ、
洲汀縱横に現はれ、纔に幾條の水道網状をなして民船の交通
するを見るのみ。【君山】一名湘山と云ふ、湖中風光明
媚の一小島にして山上祠堂あり、堯の女娥皇、女英二娘を祭
る。山容亦頗る奇なり。

蘆林潭 Lu-lin-tan (一七三浬)、湘水の洞庭湖に注がんとす
る又頭に位し、常德行貨客接續の最便地點として埠頭最も
熱鬧を極む。

湘陰 Siang-yin 長沙より四十浬の下流に在り、人口約

【汨水】 縣

二萬、湘江沿岸主要の一都邑たるを失はず。【汨水】 縣
城の北方にあり、彼の史上有名なる屈原の投水せる汨羅は則ち
是れ。靖港 Tsing-kang は湘陰と長沙の中間に位す。人口
約一萬三千、附近各地方に至るべき貨客の集散地として市
況頗る繁盛なり。

長沙 Chang-sha (三一三浬特等運賃) 粵漢鐵路北段第三
三三三頁参照。

湘潭 Siang-tan (漢口より二二九浬) 漢口湘潭線の終端に
して湘江の左岸に在り。人口三十萬、往時汽船業の發達せ
ざりし時代には廣東、漢口間を連絡して南北交易の中心市場た
りし處、その江岸は水勢緩漫にして且水深八尋乃至四十尋に
達するを以て、碇舶に至便なり。此の地の主要輸出品として
米、竹紙、茶油、爆竹等あり。

【湘江上流】 湘江は源を廣西省海陽山に發し、北流し
て湖南省永州府城に至り永明江を合せ、衡州府内に入りて
歸水、耒河の二水を收めつ、更に衡山の麓を繞りて沅江に
會し株州に出で、それより西折漣水を容れて湘潭を過り、遂
に洞庭湖に注ぐ。湘潭の上流凡そ四六八浬、廣西省桂林に

至る迄民船水運を利用し得べく、上航二十二日、下航十三日を要す。此間湘江本流に於て衡州 Heng-chow 永州 Yung-chow の兩府城あり。支流耒河に郴州 Chen-chow あり。就中【衡州】は湘潭より一四〇哩、湘江の上流左岸に位し、人口約二萬、湖南省より廣東、廣西兩省に通ずる大路の分岐點に當る。即ち廣西に行くものは本流を溯り、廣東に赴くものは耒河に由る。物産は穀物、煙草、石炭を最とす。

【衡山】一名南岳と稱し、支那五岳の一にして海拔三千呎、衡州の西北約四〇哩の下流に方つて屹立す。山上寺祠多く天台、禪兩宗の巨刹ありて、佛教史上著名の靈蹟たり。

漢口常德線 (二三運)

漢口より長江を溯り岳州迄は前記相潭線と同一航路を取り、是より洞庭湖を横斷して其西部に朝宗する沅江を溯航し、龍陽を経て常德に達するものにして、常德の開港と共に我日清汽船會社の開始せし新航路なり。毎年減水期間を除く外、毎週一回兩地より發航し、上航三日、下航二日を要す。運賃外人特等三五弗(洋食付)なり。

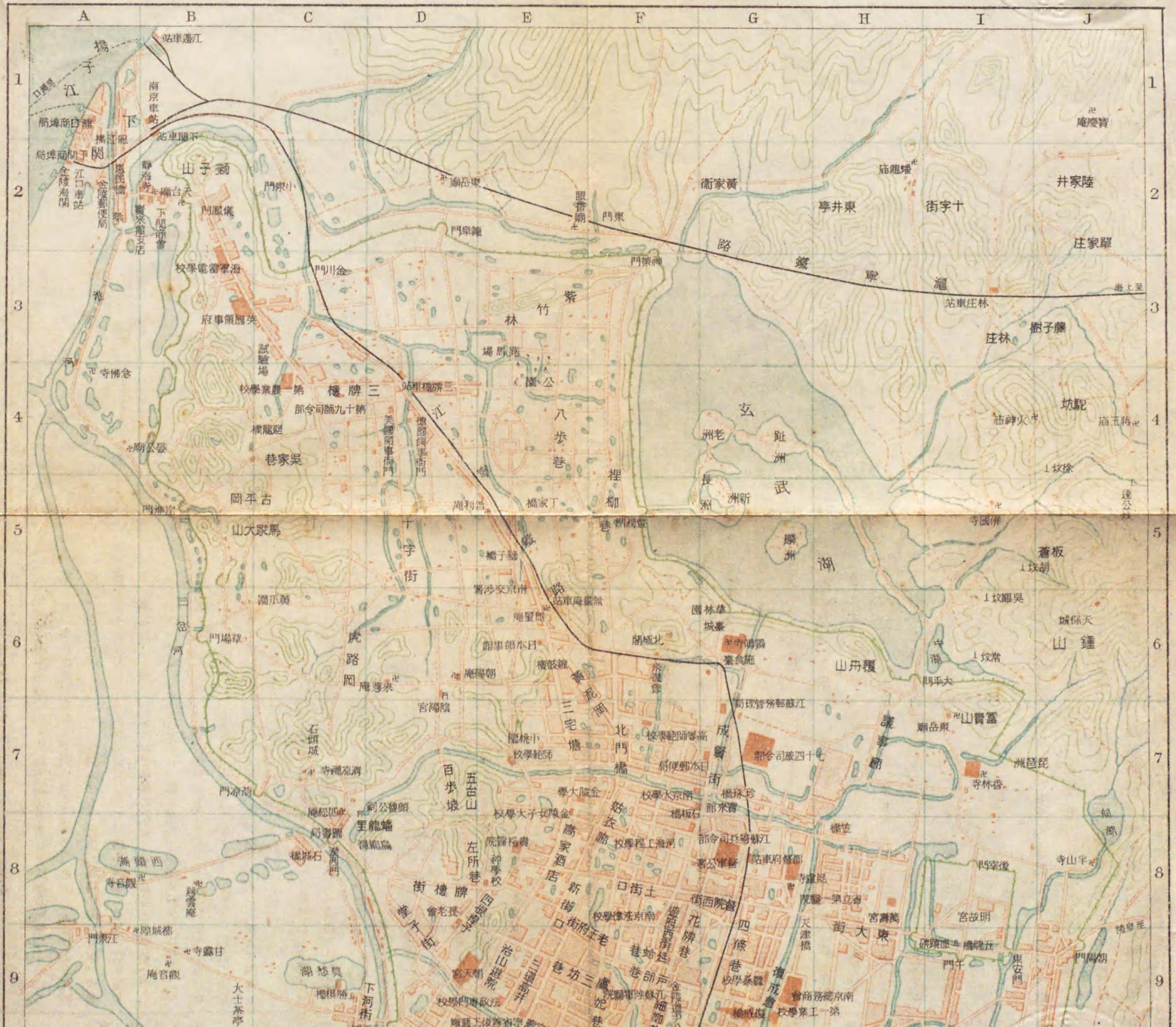


常德 Chang-teh 漢代の所謂武陵郡にして、常德縣と稱す、沅江の下流北岸に在り。西方山岳を負ひ東方平野に面す。貴州省並に四川省の一部に對する貨物輸出入の門戶にして、人口約二十五萬と註せらる。常德より上流は淺灘急灘各處に散在するを以て、其の航行は淺吃水の民船に頼るの外なし。隨て上流各地(貴州省並に四川省の一部)よりの輸出貨物は常德に於て汽船或は大民船に轉載するを要す。その貿易の盛況實に湘潭を凌ぐものあり。又此地方より産する桐油は其の供給全國に及ぶと云へり。

【武陵桃源洞】城西にあり、陶淵明の詩に依て著名なる處、林谷の景幽雅にして巖壑の致頗る深遠なり。

【滄浪水】沅江河口の龍陽縣にあり。昔漁父濯纓の處と稱す。

【沅江沿岸】沅江は貴州の都勻府及平越州に其源を發し、北流して通商の要區鎮遠府を過り、やがて湖南省に入り、晃州、沅州、辰州の諸要地を経て常德に達す。此の水路中民船を通ずるは常德、鎮遠府間(約四三運)にして、湖南、貴州の交通を助くること甚大なるものあり。



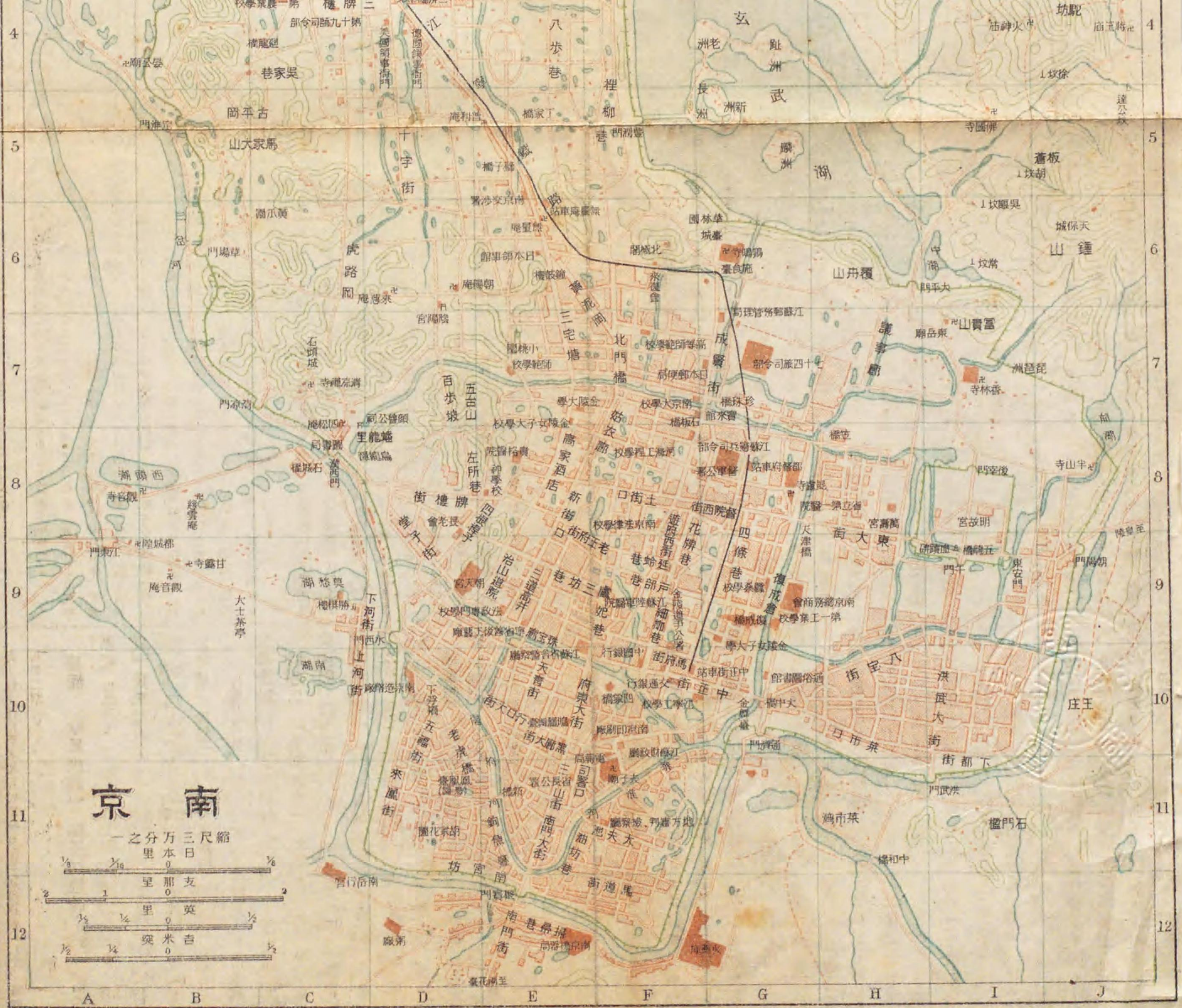
途路 32 南京 Nan-king

【到着】 滬寧鐵路に由り上海方面より来る者は南京車站(A1)に下車して、其の南方對面なる下關 Hsia-kwan 車站(A1)より江寧鐵路に由り城内(八哩半)に向ふべく、又津浦鐵路に由り天津、濟南方面より来る者は、其の極端浦口に於て連絡小汽艇に乘換、江を横りて下關埠頭に上陸し、更に江寧鐵路の江口 Kiang-kow 車站(A2)より城内まで乗行するを得べし。但し滬寧、津浦兩線の連絡列車(特別急行或は急行列車)に頼る場合は對岸浦口との接續點を南京車站の北方江岸なる江邊 Kiang-shien 車站(B1)に置き、同處に於て船車乗客の轉乘連絡行はる、を以て、此の場合の南京入城者は孰れも南京車站に下車して可なり。

長江航路汽船に頼り上海若は漢口方面より来る者は孰れも下關江岸

京 南

問 交 〇 全 五 至 館 東 ホ



途路 32 南京 Nan-king

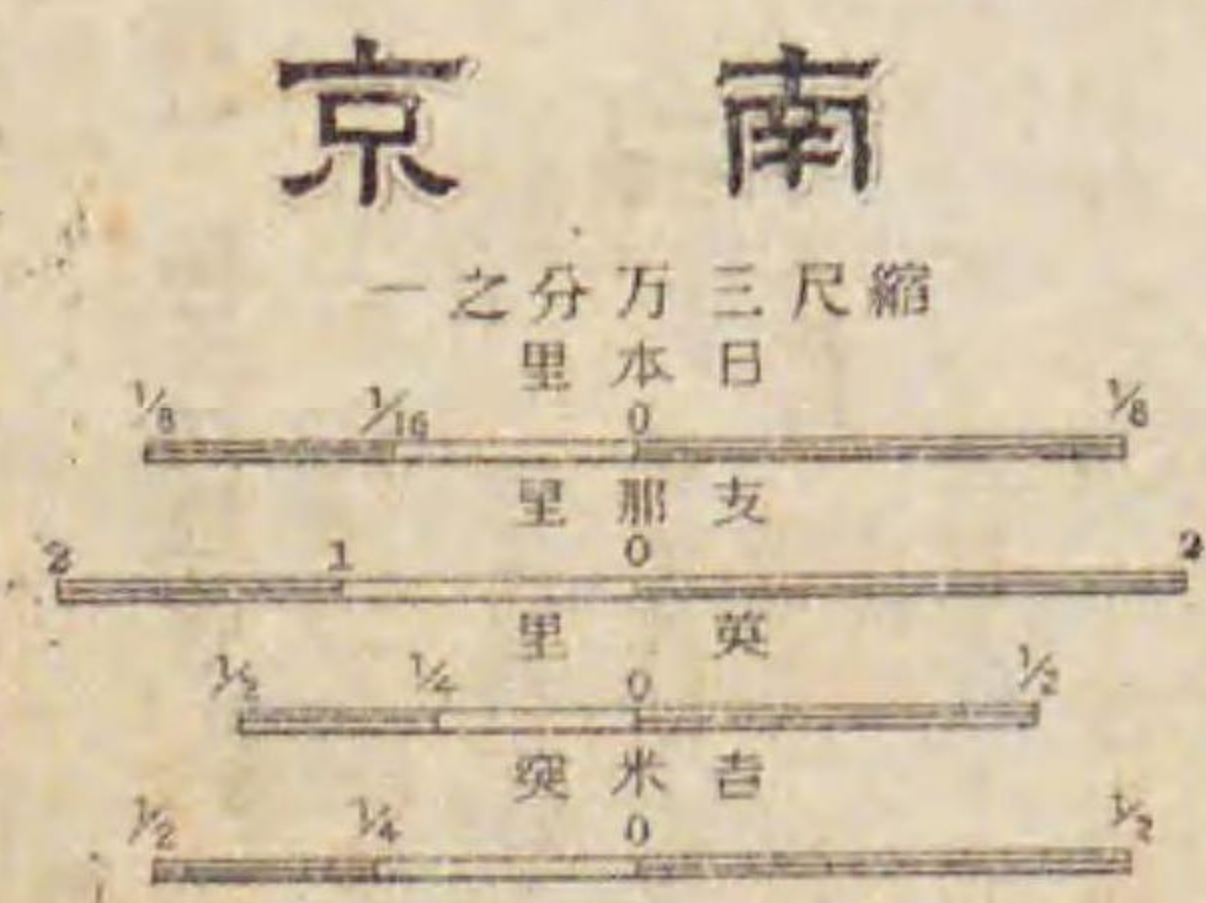
京 南

【到着】 滬寧鐵路に由り上海方面より来る者は南京車站(A1)に下車して、其の南方對面なる下關 Hsia-kwan 車站(A1)より江寧鐵路に由り城内(八哩半)に向ふべく、又津浦鐵路に由り天津、濟南方面より来る者は、其の極端浦口に於て連絡小汽艇に乗換、江を横りて下關埠頭に上陸し、更に江寧鐵路の江口 Kiang-kow 車站(A2)より城内まで乗行するを得べし。但し滬寧、津浦兩線の連絡列車(特別急行或は急行列車)に頼る場合は對岸浦口との接續點を南京車站の北方江岸なる江邊 Kiang-pien 車站(B1)に置き、同處に於て船車乗客の轉乘連絡行はる、を以て、此の場合の南京入城者は孰れも南京車站に下車して可なり。

長江航路汽船に頼り上海若は漢口方面より来る者は孰れも下關江岸に於ける各社所屬の渡船に依り上陸すべく、其れより城内へは江寧鐵路(江口車站)に由るか、爾餘の乗物を用ふるとも任意なり。

二弗五〇仙、一日五弗。人力車賃一時間一〇仙、半日五〇仙、一日一弗一以上は營業者相互の取極めたる普通賃金にして、降雪降雨の際は其の二割高とす。

旅館 【歐風旅館】 揚子江旅館(下關新橋)、宿泊料五弗乃至七弗、
 惠龍 Bridge House Hotel(下關儀鳳門外)、宿料六弗以上。【日本旅館】 寶來館本店(F7板橋)、宿泊料乃至四弗。中食仙乃五〇仙。同支店(B2下關永寧橋)、宿泊料同上。【支那飯店】 金陵第一旅館(城內利濟橋)、大觀樓(城內門)、宿泊料一弗四〇仙。孟淵旅館(正街)、泰來旅館(上)、宿泊料一弗。交通旅館(上)、華洋旅館(城內大行宮)、中西旅館(下關滬寧車站等)。料理店 【支那飯店】 金陵春、第一春、長春東號、問柳園、海洞春(以上貴院)、小樂居(西院)、嘉賓樓(奇望)、聚慶樓(府東)。【同々教席館】 宴樂春(東牌樓)、寶新(利涉橋)。



途路 32 南京 Nan-king

【到着】 滬寧鐵路に由り上海方面より来る者は南京車站(A1)に下車して、其の南方對面なる下關 Hsia-kwan 車站(A1)より江寧鐵路に由り城内(八哩半)に向ふべく、又津浦鐵路に由り天津、濟南方面より来る者は、其の極端浦口に於て連絡小汽艇に乘換、江を横りて下關埠頭に上陸し、更に江寧鐵路の江口 Kiang-kow 車站(A2)より城内まで乗行するを得べし。但し滬寧、津浦兩線の連絡列車(特別急行或は急行列車)に頼る場合は對岸浦口との接續點を南京車站の北方江岸なる江邊 Kiang-pien 車站(B1)に置き、同處に於て船車乗客の轉乘連絡行はる、を以て、此の場合の南京入城者は孰れも南京車站に下車して可なり。

長江航路汽船に頼り上海若は漢口方面より来る者は孰れも下關江岸に於ける各社所屬の躉船に依て上陸すべく、其れより城内へは江寧鐵路(江口車站)に由るか、爾餘の乗物を用ふるも任意なり。

【江寧鐵路】 南京城内中正街 Chung-sen-kai より發し、都督府 Tun-tu を過ぎ北極閣の南麓を繞り、無量庵 Wu-liang-an、三牌樓 San-pai-liou を經て城の北部金川門外に出で、獅子山の東北を迂回し下關 Hsia-kwan に至り、更に長江沿岸江口 Kiang-kou に達す。全長八哩半、毎日往復二十二回運轉す。賃金一等六〇仙、二等四〇仙。【車馬賃】 自働車賃一時間四弗乃至五弗。馬車賃一時間五〇仙、半日



二弗五〇仙、一日五弗。人力車賃一時間一〇仙、半日五〇仙、一日一弗以上は營業者相互の取極めたる普通賃金にして、降雪降雨の際は其の二割高とす。

- 旅館** 【歐風旅館】 揚子江旅館(下關新橋)、宿泊料五弗乃至七弗、
 惠龍 Bridge House Hotel(下關儀鳳門外)、宿料六弗以上。【日本旅館】 寶來館本店(F7 城内石板橋)、宿泊料一弗五〇仙。中食六〇至一弗。同支店(B2 下關永寧橋)、宿泊料同上。【支那飯店】 金陵第一旅館(城内利沙橋)、大觀樓(城内門)、宿泊料一弗四〇仙。孟淵旅館(正街)、泰來旅館(上)、宿泊料四〇仙乃至一弗。交通旅館(上)、華洋旅館(行宮)、中西旅館(下關滬寧車站)等。
- 料理店** 【支那飯莊】 金陵春、第一春、長春東號、問柳園、海洞春(以上貢院東街)、小樂居(貢院西街)、嘉賓樓(奇望街)、聚慶樓(府東)。
- 【茶樓】 昇江第一樓(下關大馬路)、湧源茶社(北門)、三元茶社(唱經)、得月臺、德星茶樓、奎光閣(廟)、奇芳閣(街口)。
- 領事館** 日本領事館(E6 鐘鼓樓)、英國 British 領事府(B3 儀鳳門內)、美國 American 領事衙門(D4 三牌樓)、德國 German 領事衙門(上)。

銀行 中國銀行(F 10 珠寶)、交通銀行、殖邊銀行(F 10 中正)、華通銀行(卷)、江蘇銀行(黑龍街)、中國銀行(分、浦口交通銀行、鹽業銀行(下關、魚巷))。

通信官署 日本郵便局(G 7 成賢)、日本郵便局下關出張所(下關、橋)、獨逸國郵便取扱所(關)、江蘇郵務管理局(G 7 成賢)、南京電報局(E 10 杖元)、南京電話局(王府、金陵郵政局(A 2 關))。

城市概観 南京は明代創建の故都城にして、名勝舊蹟に富み、現に江蘇省の首府たり。又揚子江沿岸通商港の一として著はれ、人口三十七萬八千餘、在留外人五百六十餘を算す。

城は南東鐘(ツオスシヤン)山の麓より西北揚子江岸に互り高約三十尺乃至五十尺、周圍約三十二哩の磚壁を繞らし、市街は其の東南半部一帯に展開す。凡て十三箇の城門あるも防衛上現に其の四門を閉ぢ、他の九門を以て通路とす。即ち其の西邊には下關より通ずる儀鳳門(B 2)を首め、定淮門(B 5)、草場門(B 6)、漢西門(C 8)、水西門(D 9)の五門あり。其の間廓内に清涼山(清涼門附近)の諸



秦淮河畔夫子廟(三一頁)

丘阜連互し、廓外に有名なる莫愁湖(水西門附近)を湛ふ。又城の南面には聚寶門(E 12)、通濟門(G 10)、洪武門(I 11)の三門あり。聚寶門内は現下南京に於ける最も殷賑なる商業區を占め、洪武門を入れば有名なる明故宮に達する街路あり。更に城の東面には朝陽門(J 9)あり、門外の一光明孝陵に至る。北面東部の太平門(H 6)内には富貴山砲臺を收め、門を出れば鐘山に天保城聳え、その西北に玄武湖の水漾々たり。又城の北方に於ては神策門(F 2)、鐘阜門(D 2)、金川門(C 3)の三門を數ふべし。

道路は大別して四條となす。即ち儀鳳門より水西門に至るもの、並に神策門より聚寶門に至るものは市街を南北に縦斷し、又朝陽門より漢西門に、洪武門より水西門に至るものは之を東西に横斷せり。而して無數の岐路之より四通八達せるを見る。其の街路城の中央に位せる鐘鼓樓以北は概して平坦且清潔なれども、鐘鼓樓以南は狹隘にして凹凸甚し。

若し夫れ下關より江寧鐵路に依らんか、獅子山の北東を迂回して金川門を入り、英米獨の領事館を車窓の左右に點檢しつ、三牌樓を經、無量庵(江寧鐵路局所在地)に至る數

哩の間、田畝綠篔と相交りて幾座の古刹點在し、或は荒草離々たる處大厦の殘礎を認むべし。是れ即ち明朝當年の繁榮を語るものか、乃至は彼の長髮賊入城當時の慘害を想見せしむるものにして、是より更に進めば北極閣、鐘鼓樓の雅觀を左顧右眄しつ、都督府に至る。附近一帯地は革命前滿洲八旗の官衙邸宅ありし所、革命の役に於て滿漢兩族の修羅場を演ぜし痕歴々たるを見るべし。此を過れば聽て中正街に達す。

市街交通の便は右の江寧鐵路に依る外、全市を環流する秦淮の運河あれど、是れ唯閑人の遊覽に適するのみ。

【沿革】 南京は六朝の舊都にして明初亦帝王の都城をトせし處、歴朝其の名を異にし、即ち金陵、秣陵、建業、建康、應天府等の呼稱ありしが、清朝に至て江寧府と稱して江蘇、安徽、江西三省の首府たりしめ、此に兩江總督を駐紮し、又當國軍務の要地として清朝將軍分駐の所とせり。其の南京の稱あるは明の第三世永樂帝都を北京に遷し、此の地を留都とせしに始まり。西紀一八五三年に至り長髮賊の占據に歸し、太平王洪秀全の居城たること十一年間、又近くは革命の役、蘇浙、贛粵の諸軍此の地を占領し(西紀一九一一年二月)、東南諸省を合せ此に臨時政府を組織せり。事定るや之を北京に移して此の地を留守府に改め、更に江蘇省會に改めて江蘇都督の駐紮地たり。然るに西紀一九一四年新地方官制の改定ありて此に將軍府巡按使等を置き、



(頁〇五三) 湖 愁 莫

病院 基督醫院(街花市)、馬林醫院(倉平)、貴格醫院(巷井)、五會醫院(山五等)、金陵醫院(巷黃泥)——以上米人經營。須藤醫院(街府)、栗林醫院(王廟)——以上邦人經營。海軍療病院、商辦醫院(關下)、共和病院(巷碑亭)、金陵博愛醫院(街中正)、仁育醫院(巷虛妃)、杏林醫院(區中)、江蘇陸軍醫院(巷細柳)、省立第一醫院(巷見虛)——以上支那人經營。

商業 【貿易額】南京は由來通商港なりと雖、直接外國より輸入せらるゝは單に日本よりの石炭あるに止まり、其他對外輸出入品の大部分は之が仕向地及仕出地を上海とし、鎮江、蕪湖、漢口等之に亞ける有様なりき。又南京は元來其の商業圈たるべき安徽省に於て、その北部の産物は淮河の本支流に由り洪澤湖を経て大運河に出で竟に鎮江に集り、その東部よりする貨物の集散は蕪湖を中心とする例なりしを以て、國內に於ける貿易も亦甚だ不振の状態に在り、隨て其の總貿易額の如きも鎮江蕪湖の下にありしが、輓近に至り對岸浦口より天津に通ずる津浦鐵路開設後、從來大運河によりて鎮江に出でし貨物の大部分は同鐵路便に依り南京に出ることとなり、其の輸出貿易は著しく膨脹を來せり。即ち最近(一九一七年)

以て今日に及べり。

官公署 督軍公署(G8街督署)、省長公署(E11口司署)、南京交涉署(E6橋獅子)、金陵道尹公署(F9街中正)、江蘇政務廳(口署)、江蘇財政廳(F10街奇望)、江寧鎮守使署(營本)、江蘇提學使署(橋淮清)、江蘇省會警察廳(街珠寶)、江寧地方審判檢察廳(F11池太夫)、江寧縣公署(江寧府大街)、金陵海關(A2下關大馬路)、下關商埠局(A2下關河西街)、浦口商埠局(A1下關龍江橋)、禁衛軍司令部(街大演)、第七十四旅司令部(G11珍珠)、江蘇憲兵司令部(G8巷碑亭)、第四百四十七團司令部(山巴斗)、第十九師司令部(C4三牌樓)。

教會寺廟 聖公會(街中正)、基督堂(街花市)、福音堂(坊顏料)、長老會(D8四棍桿子)、來復會(F6北極閣)、天主堂(路大馬)、基督會(坡百步)、毘盧寺(G8西督院)、靜海寺(B2)、天后廟、念佛寺(A4)、晏公廟(A4)——以上儀鳳門外。將軍廟、淨界寺、觀音庵(B9)、普司庵、普利庵(E5)、省三庵、華嚴庵、百子亭、無量庵(E6)、三君寺、鷄鳴寺(G6)——以上城內北部に點在す。東岳廟、香林寺(I7富貴山砲臺附近)。文昌廟、萬壽宮(H8)、夫子廟(F11)——以

上南門大街東邊に在り。府城隍鳳遊寺、禮拜寺(街南門大)、朝天宮(D9)、清涼禪寺(C7)、朝陽庵(D6)、陰陽宮(D7)、五臺山寺、四松庵(C8)、來慈庵(D6)——以上漢西門内。觀音寺(A8)、慈雲庵(B8)、甘露寺(B9)、觀音庵(B9)、都城隍(A9)——以上水西門外に在り。

學校 金陵大學(E7沿乾河)、金陵女子大學(G9申家、師範學校(E7小桃園)、神學校(E8巷調銀)、赫德女學(巷韓家)、聖道明育女學校(街花市)、基督學堂(同上)、明德女學(四根)——以上米國人の經營に係る。南京大學校(F7石板橋)、金陵女子大學校(E7沿乾河)、高等師範學校(F7大石橋)、江蘇省立政專門學校(E9朝天官)、江寧公學(江蘇省立第一中學校、安徽旅寧中學校、江寧工學(府塘)、蠶桑學堂(G9復成)、純志女學校(街驢子)、南京法律學校(F8游府街)、江蘇第四師範學校(橋門前)、第一農業學校(C4三牌樓)、錐英中學校(區中)、公立法政學校(街紅紙)、海軍雷電學校(B3儀鳳門内)、第一工業學校(H9復成橋)、河海工程學校(F8丁家橋)、暨南學校(巷薛家)、中西學塾(下關江口)。

の總貿易年額約二千三百萬兩にして、其の中直接貿易に係るもの約五百三十餘萬兩を算し、輸出品價額は其の三分の二以上を占めたり。

【輸出入品】 主なる輸出品は絹織物を第一とし羊毛皮、

犬毛皮、その他豌豆、大豆、團扇、牛皮、水牛皮、藥材、燕青(鹽漬)等とす。輸入品は外國産綿製品を大宗とし、毛織品、各種煙草、石油、砂糖等之に亞げり。

商業機關 南京商務總會(李府)、下關商會(關)の外二十餘種の同業組合ありて各其の營業上の公益を圖れり。

主要店舗 【外國商】 美孚洋行、英美煙公司、人壽

保險公司、亞細亞火油公司、祥泰木行(以上)。

【日本商】 一二洋行(南門)、吉村洋行(府東)、庄利公司(花牌)、物産

館(同上)以上雜貨商。【支那商】 綬業—廣興(高門)、啓泰

(九兒)、錦昌(三坊)、張裕泰(李府)、綢莊—厚康祥(關)、裕

豐祥(府東)、同昌恒(望鶴)。綢布莊—庚大(黑廓)、天祥

(水西)、全和(黑廓)、天成(關)、大成(坊)、大康(司署)。銀

樓—慶華(花市)、慶和(驢子)、新慶和(花市)、寶慶(承恩寺)。

雜貨—永大(水西門)、協興和(街口)、福源永(彩霞)。衣業

—庚源(三山)、天成(大功)。金德新(醬油、羊市)、同泰新(茶、南門)、仁昌(米、彩霞)、李光明(書業、秦林)、傳義和(煙業、外)、源大(糸、沙)、德泰永(藥、油市)、孫德興(煤炭、坊口)、公濟(典業、珠寶)。

工業 南京に於ける在來工業の著名なるものは陶磁器、絹

織物、團扇等にして、陶磁器は古來南京焼と稱して精巧雅

致を極め、夫の景德鎮(江西省)の製品と共に其の名高し。

絹織物には綢緞あり、南京輸出品の第一位を占むるも、之が

製出品には在來の機臺を用ゐる、規模小にして産額亦隨て多か

ら。團扇、扇子の製造にも未だ特設の工場なし。若し夫れ

新式の工場として主要なるものを擧ぐれば左の如し。

【南京機器局】 俗稱製造局と云ふ。聚寶門外掃帚巷

(E 12)に在り。蒸汽力に依り砲彈、銃丸並に各種機械を製

造す。【南京造幣廠】 下浮橋(D 10)に在り。最近の建築法

に則りて局内の設備完全し、目下銅貨銀貨を鑄造しつゝあり。

【江蘇省立第一一七工場】 各處に在り。椅子、卓子其他

の家具を製造し、局内に陳列販賣す。又綿布の織業をも營め

り。【南京印刷廠】 奇望街(F 10)に在り。内部の組織は製

版部、活版部、印刷部の三部に分れ、紙幣、株券其他一般の印刷業を營めり。

農業 南京附近一帶は所々水利に富み、稻田廣きを以て

米穀は此の地方農産物の第一位を占め、棉花、大豆、茶、

麻、落花生、豆類等之に亞きて産額尠からず。其他農家の

副業として鴨鶩の放飼盛に行はれ、その鹽漬として他埠へ輸出

せらる、數量は毎年五百擔を越ゆと云ふ。

漁業 南京の漁業は主として長江に於て行はれ、其の漁獲

する魚族は鯉鰱魚等孰れも美味なるあり。其他城外數箇所

の養魚地ありて各種の魚介を産し、鯉、草魚、青魚等その主な

るものとす。

圖書館新聞 圖書館(C 8 龍蟠)、江蘇省立通俗圖書館

(G 10 大中)。大江南日報、金陵話報、南方報(以上漢文)。

娛樂場 【劇場】 金舞臺(G 10 大中)、鳴鳳臺(E 10 府東)、

新舞臺(彩霞)、大舞臺(燈籠)、第一舞臺(關)。

【華瀛俱樂部】 大倉園に在り。日支兩國人の經營に係

り、球戲臺等の設備を有せり。【畫舫】 城内秦淮河に泛

べる家形船の一種にして、船内に卓子、椅子、寢臺を設備し、

風流人士の置酒燕遊に資す。河畔には茶館、料理店等櫛比し、城内唯一の歡樂の巷なり。

明故宮(I 8) 朝陽門内に在り。明初洪武帝の宮城

たりしも、今や宮殿、城壁悉く太平賊及革命軍の兵火に罹りて

灰燼に歸せり。但城址の一小流に架せる【五龍橋】、【冷宮】

と稱する房屋及方孝儒の【血碑亭】等纔に遺存するありて、

訪者をして轉々懷古の感に禁へざらしむ。

【方孝儒】 字は希直又希古と稱す。寧海の人にして幼時より學を好

み、進境人を驚かしむ。長じて建文帝に召され、侍講となり國家の大

事に參與す。偶々帝の叔父燕王、帝位を覬覦し兵を起して遂に之を篡

奪す。時に孝儒を召して登極の詔を草せしむ。孝儒筆を地に投じ、慟

哭順逆を論じて大に燕王を罵る。此に於て王赫怒し直に彼を磔刑に處

せり。其の親故坐死する者八百餘人、又門下の或は身を以て殉じ、或

は流刑に處せる、者尠からざりしと云ふ。孝儒享年四十六歳、遺骸は

今の南門外雨花臺の山腹に葬らる。血碑亭は即ち當時の遺物にして、

彼が壯烈の死を偲ぶに足る。神宗の朝に至り文忠と諡し又表忠祠を宮

城内に建つ。現下故宮の午門を入れ一構内の八角堂即ち是れなり。

明孝陵 朝陽門外約三哩、鐘山の南西麓獨龍阜

靈谷寺址に在り。明の太祖洪武帝の山陵にして、馬皇后を

業 工 商

合葬す。山陵は周圍に磚壁を繞らして規模宏大なれど、その廓外に在りし殿樓は夫の長髮賊の兵火に罹りて悉く烏有に歸し、今や荒草離々滿目轉々寂寥たるに至れり。但その廓門の前面に残存せる大建築物の址礎は以て往時の結構壯麗なりしを偲ぼしめ、又技工雅趣に富める石人石馬の陵道に對立するありて、明朝當年の盛時を語るに似たり。陵道は石疊にして、起伏せる丘波の間を上下するを以て馬車人力車を通ぜざるも、朝陽門に至れば賃賃の驢あり。之を驅れば以て郊外半日の清遊に妙なるべし。その賃金半日約三十仙、一日約六十仙を要す。

爾餘の皇陵

【吳大帝陵】

朝陽門より東方約八哩、麒麟門に至る間十三陵あり。其の第三陵を吳大帝の陵とす。

【晉四帝陵】 鐘山の南麓鷄籠山に在り。元帝の建平陵、明帝の武平陵、成帝の興平陵及哀帝の平安陵の四帝陵を云ふ。【梁武帝陵】 太平門外石碎邪に在り。一に里山と名く。梁の武帝の山陵なり。

李文忠の墓 鐘山の北麓、王徐達の墓側に在り。文忠は明の太祖の甥なり。太祖撫育して嗣子と爲す。太祖元軍を

臺城(G6)

鷄鳴寺背後の小高き地にあり。梁武帝の創建に係る古城址にして、今尙ほ石壁及城門の常時を偲ぼしむるものあり。俗稱臺城門を入れば【華林園】に到る、園中景陽山の勝あり。

幕府山

神策門外長江に沿うて下ること約二哩の地點に在り。晋初、王導幕府を此に開きしに因て此の名ありと。山上に仙人臺及宋帝の高寧陵あり。

【王導】 字は茂弘、少壯より高識遠見あり。晋の元帝未だ琅琊王たりし時、導は將に天下擾亂の兆あるを察知し、王に勸めて天下の賢俊を集む。既にして王帝位に即くや、益々克己勵節せしめ、遂に朝野の人望を蒐め仲父の名を以て呼ばる。其性寡慾にして倉に積儲なく、粗衣簡居に安ず。晋の中興は實に導に俟つ所多しと爲す。而かも元、明成三帝を輔佐して入將相たりき。

獅子山(B2)

儀鳳門内に在り。晋の元帝初めて江を渡り此の山を觀て塞北の盧龍山に似たりとなし、爾來盧龍山と呼びしが、明初に至り今の名に改む。山上に砲臺あり、又附近に税關の信號所あり。【三宿巖】獅子山麓の靜海寺(B2)内に在り。宋の丞相虞允文が金軍を采石(第二八八頁参照)に破り、歸途此の巖窟に三宿せり、因て此の名ありと。

敗り浙閩を平定せしは皆文忠の功なりとす。洪武二年副將軍を拜し、塞外に出で、元順帝の孫、后妃、諸王、將相及宋、元の玉璽玉册、金寶等を捕獲する處多し。功を以て曹國公に封ぜられ、卒して岐陽王に封じ武靖と諡す。

北極閣(F6)

城内北廓に近く聳立せる鷄鳴寺山上に在り。元の至正元年觀衆臺の創建あり、後欽天臺と稱す。清の太祖此に臨幸するや、其の眺望絶佳なるを以て曠觀亭を建つ。現時此處に於て午砲を放つ。

鷄鳴寺(G6)

北極閣の東面稍低き所に建立せらる。是れ六朝累代居城の遺址にして、二層樓より成り、近くは玄武湖の濼々たるを俯瞰すべく、遠くは明孝陵及鐘山の風光を一眸の裡に收むべし。此處に遊客登臨の席を設け、寺僧若若を煮て款待す。

施食臺(G6)

鷄鳴寺前に在り。石を積みて其の上の小屋を建てたるもの、是れ即ち施食臺なり。傳へ言ふ、元代此の地に於て罪人を刑せし爲、陰魅崇りて人を惱ますあり。是れを以て明初洪武帝此處に鷄鳴寺及國學を建て、勅令を以て西藏僧を招き、乃ち施食壇を築きて幽鬼を濟度せしめたりと。

清凉山(C7)

漢西門内約一哩の北方に在り。北極閣と相對せる城内西部の高丘とす。西に面せる半腹に古掃葉樓及清凉禪寺あり、建築頗る雅致を極む。之に登臨せば金陵田野の光景を双眸に蒐めて清趣窮りなきの感あらしむ。

石頭城(C7)

一名鬼臉 城と云ふ。城内漢西門を北に距る約一哩に過ぎず。城外より之を望めば天然の巖石城壁の半腹に斗出し、其の形狀恰も鬼面の如し、因て此の名ありと。曾て吳王孫權初めて此處に都城を築き建業と稱す。古來金陵(南京)の要害にして、晋以降百戰攻守の地點たりし處、諸葛亮之を評して、「鐘山は龍蟠し石頭は虎踞す、眞に帝王の宅なり」と。現に廢垣斷礎の往事を偲ぶべきものあり。

烏龍潭(D8)

漢西門内に在り、顔魯公の放生池として知らる。顔魯公は唐朝屈指の碩學にして太師となり、元宗、肅宗及代宗の三代に歴仕す。夙に忠節を以て聞え、其の性亦公明正大を尙ぶ。加ふるに書を能くし、筆力道勁、その爲人を想見せしむ。齡七十六にして遂に奸臣李希烈の爲めに害せらる。後文忠公と諡す。顔魯公祠は潭の附近に在り。

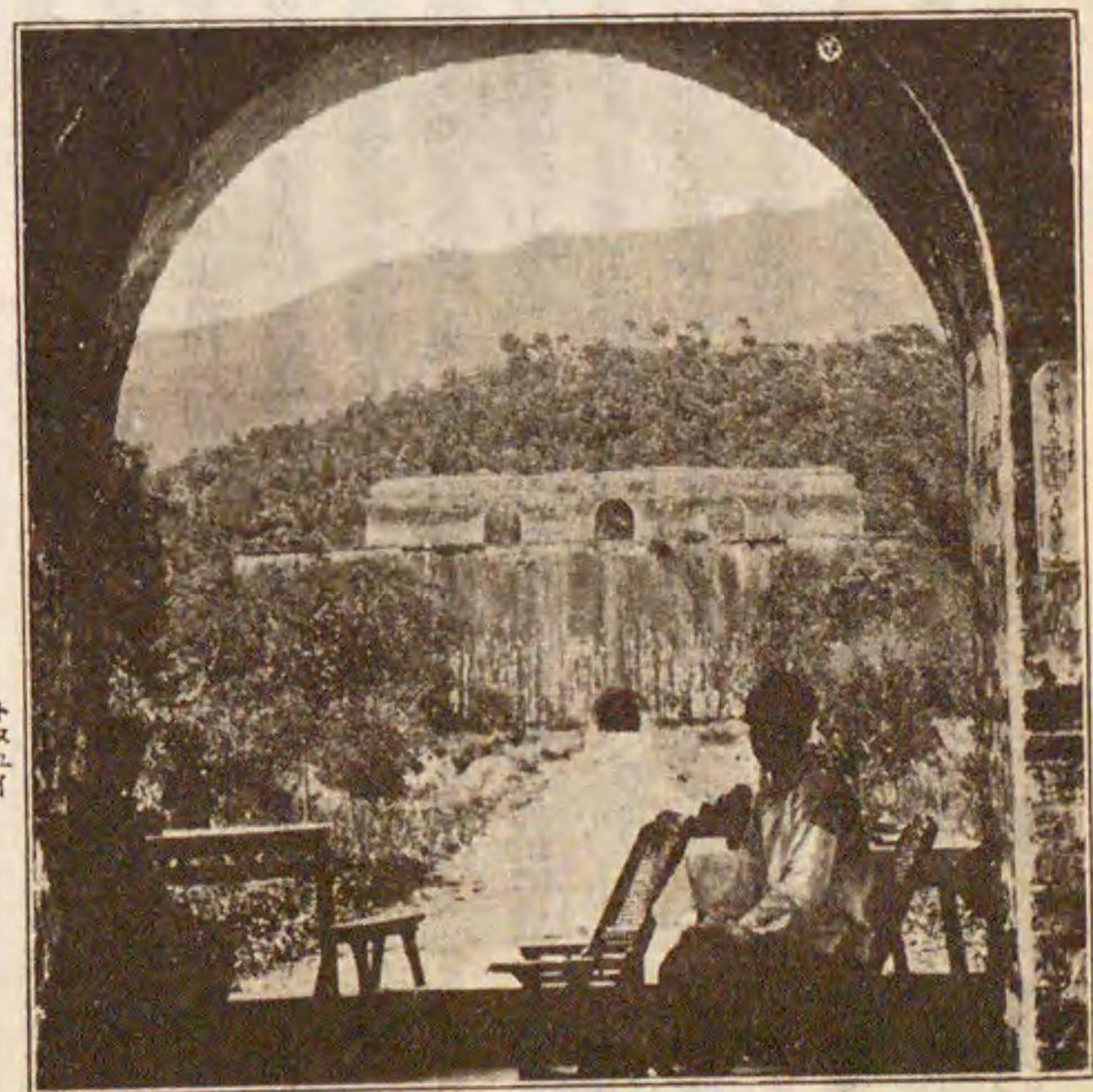
朝天宮(D9)

城内水西門附近にあり、周圍廓壁を

以て繞したる輪奐宏壯の建築にして、正門（朝天門）は常に鎖されて出入を許さず。來訪者は傍の一門（持敬門）より入るを例とす、（普通開門錢として十仙乃至二十仙を門丁に投與す）。宮は往昔吳王の佩劍を鍛冶せし所と傳ふる冶城の遺址なり。又後代の所謂紫極宮、宋代の天慶觀、元代の玄妙觀にして、明の洪武年間重修して今の名に改む。清朝康熙年間、皇帝南巡の際臨幸せられしを以て聞ゆ。目下構内に孔子を奉祀せり。

莫愁湖 (C 9) 水西門外近距離に在り。周圍約二哩の池塘にして、水頗る清澄、湖中蓮花を植ゑ、岸柳汀蘆と相映じて南京第一の勝境なり。莫愁湖志に曰く、六朝劉宗の時佳人莫愁此に居りしを以て斯く名けたりと。【勝棋樓】湖畔にあり。傳へ言ふ、明の太祖曾て此所に於て中山王徐達と棋を圍み、徐勝つ、故に此名ありと。樓内に莫愁の像あり、印出して遊覽者の需に應ず、一枚十仙。

雨花臺 聚寶門外聚寶山（一名梅岡）上に在り。之に登れば城市は一瞬の下に收りて眺望絶佳なり。傳説に曰く、梁代雲光法師山頂に坐して法を説くや、天花雨の如く降り、



明 孝 陵

唐の盧裏公因て此の名を命ぜりと。【鄧愈の墓】雨花臺に在り。幼名友德、年十六にして明太祖の軍に従ひ屢々武勇を表はす。太祖が集慶を降し鎮江を略せしは愈の功に俟つ所最も多しとす。洪武十年征西將軍を拜し、西北諸蠻を征討して歸途病歿す。享年四十一、寧河王に追封し武順と諡す。

鳳凰臺 南門内新橋 (E 11) の西に在り。往昔此地を秣陵と稱せし頃、文彩五色の靈鳥鳳凰を見出せしに因り此の名ありとの傳説あり。元朝此に觀象臺を置き、明朝に至り之を順天臺と名く。今は一小園に化し、愚園と稱す。

舊王府 城内奇望街 (F 10) に在り。今纔に城門を存す。是れ宋の建康府にして南唐時代より久しく府治を置きしが、南宋の紹興三年高宗曾て此に駐蹕せしより行宮を設け、政廳は之を東錦繡坊に移せり。

夫子廟 (F 11) 秦淮河畔に在り。規模の宏壯なる朝天宮に亞ぐ建物にして孔子以下の聖賢を祀れり。廟前の大脾樓秦淮の水に映じ、畫舫其の附近に輻湊す。

貢院 (F 11) 同じく秦淮河畔にあり。明の永樂年間の建設に係り、歷朝科擧の試験場たり。號舎二萬六百餘、清の同治十二年之を重修せり。明代に於ける唯一の遺跡なりとす。

公園 (E 4) 城内の北部三牌樓附近に在り。面積約十萬坪、敷地内の北部に綠筠園と稱するあり、此に池を湛え、桃李其の他の百花を栽培し、春時最も遊覽に適せり。曾て此の公園には有名なる水晶堂ありて、堂内に高約五呎、大

さ亦之と相應せる水晶塊を裝置せしが、輓近革命の際破壊せられて今は其の痕を見ず。又西紀一九一一年五月開會せし南洋勸業博覽會の場址はその南隣に在り。

胡家花園 (D 11) 聚寶門内小王府巷に在り。私人の庭園に屬するも之を公開して入門料十仙を徴す。園内には蓮池、假山、篁林、亭榭等ありて熱鬧場裡別に一寰區を成せり。

樓霞禪寺 太平門外約十五哩を距る樓霞山上に在り。齊の名僧紹、曾て此の山に遊び庵を結びて住す。唐朝に至り高宗此に寺を建て、碑文竝に寺額を賜ふ。武帝の時全く頽廢せしも、宣宗に至り之を再建せり。【舍利塔】寺中にあり、

隋の文帝の舍利を藏す。塔身は石造の五層樓にして高約五十呎、その技工極めて精妙なり。【千佛嶺】舍利塔の左傍にあり。磊々たる巖石に千體の佛像を刻し、老松其間に蟠屈して綠翠を滴し、景情頗る幽雅なり。更に其の後方には天開巖、碧蘇亭、白雪庵、迎賢石、醒石寺竝に中峯幽洞の石房白雲泉等の名勝應接に遑あらず。同處への觀光には南京車站よりの滬寧鐵路に依り、龍潭（南京三壩）に於て下車するを便とす。

途路 33 南京上海間 (滬寧鐵路)

附 蘇州

滬寧鐵路 上海より南京迄の本線一九三哩の外、上海吳淞間支線一〇哩及江寧城内線八哩五を包括せる支那官營鐵道の一なり。本線の西端南京車站は南京城外下關の地に在りて、江寧線の下關車站と近く相對し、城内及下關碼頭への接續至便にして、且對岸浦口との間には渡江小汽艇の往復頻回あり。津浦鐵路との連絡に便なり(第二五〇頁參照)。又本線東端は即ち上海北站にして吳淞支線との接續及滬杭甬鐵路(上海杭州線)との連絡あり。

【列車便】 南京上海間—急行列車晝夜二回(所要時間六時間半乃至八時間)、準急行毎日二回(所要時間七時間至七時間半)、以上兩種の列車には食堂車、寢臺車(夜行に限り)の連結ありて、設備萬端申分なく、支那鐵道中最優秀の營業振を發揮せるものとして噴々せらる。外に三、四等直通列車一回及區間列車三回あり。吳淞支線(上海北站、炮臺灣間)毎日九回(所要時間三五分)。江寧線(第三四一頁參照)。

【旅客賃金】 南京上海間一等八弗四〇(急行料四〇仙)、二等四弗二〇(急行料二〇仙)、寢臺料二弗。上海吳淞間二等二〇仙(一等車

望むべし。聽て荷花の勝ある玄武湖の北端附近に於て左折し

江岸に沿う神策門 Shun-tseh-men (三哩、從南京車站、

太平門 Tai-ping-men (EKK)、堯化門 Yao-hwa-

men (EKK)、孤樹村 Lone Tree Hill (四哩) を經り

龍潭 Lung-tan (四哩) に至れば此處より棲霞禪寺(第

三五二頁參照)、千佛嶺等探勝の捷路あり。斯くして下蜀

Gia-shu (四哩)、高資 Kao-tze (三哩) の二站を過ぐ

れば鎮江なり。

鎮江 Chin-kiang (EKK)、客棧—大觀樓、萬全樓、大

慶樓、佛照樓) 劉宋の南徐州、隋の潤州の地にして、揚

子江の南岸上海より一六五哩の上流に在り。人口約十七萬

を有し、西紀一八六一年天津條約に基き開港せられし處、北

面長江に瀦みて瓜州と相對し、東西南の三面山岳を負ふも附

近一帶平野を成し、殊に揚子江と大運河との交叉點に位置

するを以て水路交通至便にして、其貿易額の如きも長江沿岸

諸港中漢口、南京の次位にあり。府城は内外二城及城外の

三區に分たれ、城内には纔に官衙住宅等の點を見るに過ぎ

ざれども、城外には外人居留地及支那人街ありて商況殷盛な

なし。【手荷物】 無賃制限量一等二百斤、二等百五十斤、但日支連絡切符に依る場合は本邦の例に同じ。

【沿革】 滬寧鐵道本線は元英清シンヂケートの經營に係り、資本金三百二十五萬磅を以て一九〇五年に起工し、一九〇八年中全線の竣工を見たる所にして、其の後吳淞支線と共に政府に買収せられて以て今日に至る。吳淞支線(滬淞線)は一八九七年起工、翌年の開通に係るものなれども、その起原を尋ねれば最初一八七六年中怡和洋行經營の下に輕便鐵道として一度開通を見たるも、支那官民の猛烈なる反對を受け遂に政府は之を買収して軌條を撤去したる事あり、沿革より見れば支那最古の鐵道なり。又江寧線は初め寧省鐵路と稱し、端方氏の兩江總督たりし際官費を以て敷設經營せしを、最近に至り買収併合せられたるなり。

沿途概観 滬寧本線の沿途は所謂江南の沃野を東西に横過するものにして、纔に南京附近に於て丘崗の起伏を見る外概ね一望千里の耕野連亘し、その間大小の運河、湖沼を點綴する處鎮江、丹陽、常州、無錫、蘇州等の諸城市を連ぬ。

南京鎮江間は本線中最も地形の變化に富む區間にして、南京車站を出で、駛走すること須臾、津浦線船車連絡驛たる江邊站に至る支線の分岐點を過ぐれば、右窓鷓鴣山、富貴山、鐘山に對し、左窓池塘を隔て、揚子江上の帆影を

り。一九一七年度鎮江貿易總額は一千八百萬餘兩を算す。

【外國居留地】 江岸に沿ひ城西の金山を負ふ形勝の地域

を占め、英、佛、獨、奧各國領事館及本邦郵便局等あり。碼頭

には各汽船會社の躉船並列して貨客の昇降に便なり。【官

衙其他】 鎮江海關、郵政局、電報局、日清汽船會社、三井

物產會社、太古洋行、怡和洋行、中國銀行、英美煙公

司等。【蕉山島】 站東約五哩の下流江中に在り、島

上樹木繁茂し宛然我松島の一島に似て舟遊に適す。【金山

寺】 站西一哩弱の金山に在り、詩賦に名高き古刹なり。【甘

露寺】 站東二哩餘、北固山頂に在り、多景樓最も名高し。

【鎮江清江浦間航路】 鎮江より揚子江を横り瓜州、揚

州を經て清江浦に至る(約五運) 大運河水路の一部にして、

日清汽船會社、戴生昌公司及招商局三社合同經營に係

る曳船便毎日一回あり貨客の交通に便す。賃金は一等三弗

一二仙、二等一弗二〇仙。

【清江浦】 此の地は淮河の朝宗する洪澤湖の咽喉を

扼し、小汽艇及大小民船の貨客積換場に當り、人口約五

萬を有する繁榮なる戎克貿易港なり。而して淮河本流の舟楫

は遠く河南に達し、又その支流は安徽省に至るべく、更に陸面に於ては有名なる淮北鹽の運搬に資する目的にて計畫せられたる清海鐵道の一部開通して貨客の輸送に任ず。

【清海鐵路】 蘇路公司の經營に係り清江浦より北方海州に至る約六二哩の線定線なるが、最近清江浦より西、シバ 壩 ハム (四哩) を經て ヤスチユアス 楊 莊 Yang-chuan (九哩五) 迄開通せり。目下兩端驛より毎日一回の列車便あり、賃金は一等四二仙、二等二八仙とす。

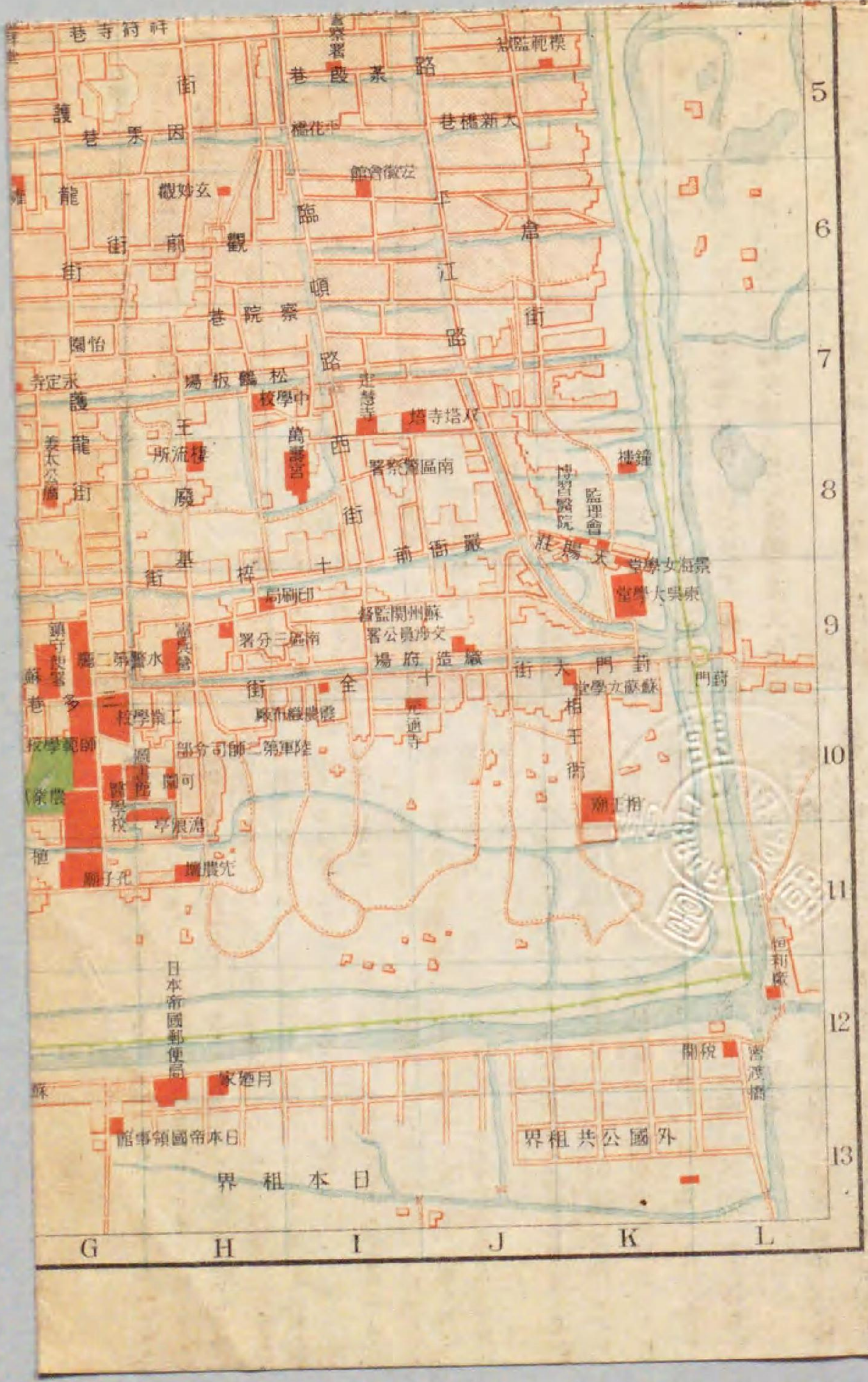
【大運河】 支那内陸に於ける主要水路中一大系路を成すものにして、その規模の宏大なる點に於ては萬里長城と共に支那大工事の雙壁たるべし。即ち南方浙江省の杭州に起り江蘇、山東の二省を横斷し北方直隸省天津に達す。總延長約九百哩と註せられ、途中幾多の都邑を連ね揚子江及黄河の二大水と交叉し、尙天津に於ては白河を介してその上流約一二〇哩の通州 (第二一七頁參照) に達す。軌近鐵道及海運の發達に伴ひ該運河の價値亦昔日の如くならずと雖、減水期を除き各地方貨客の運輸交通に資する所頗る多大なるものあり。

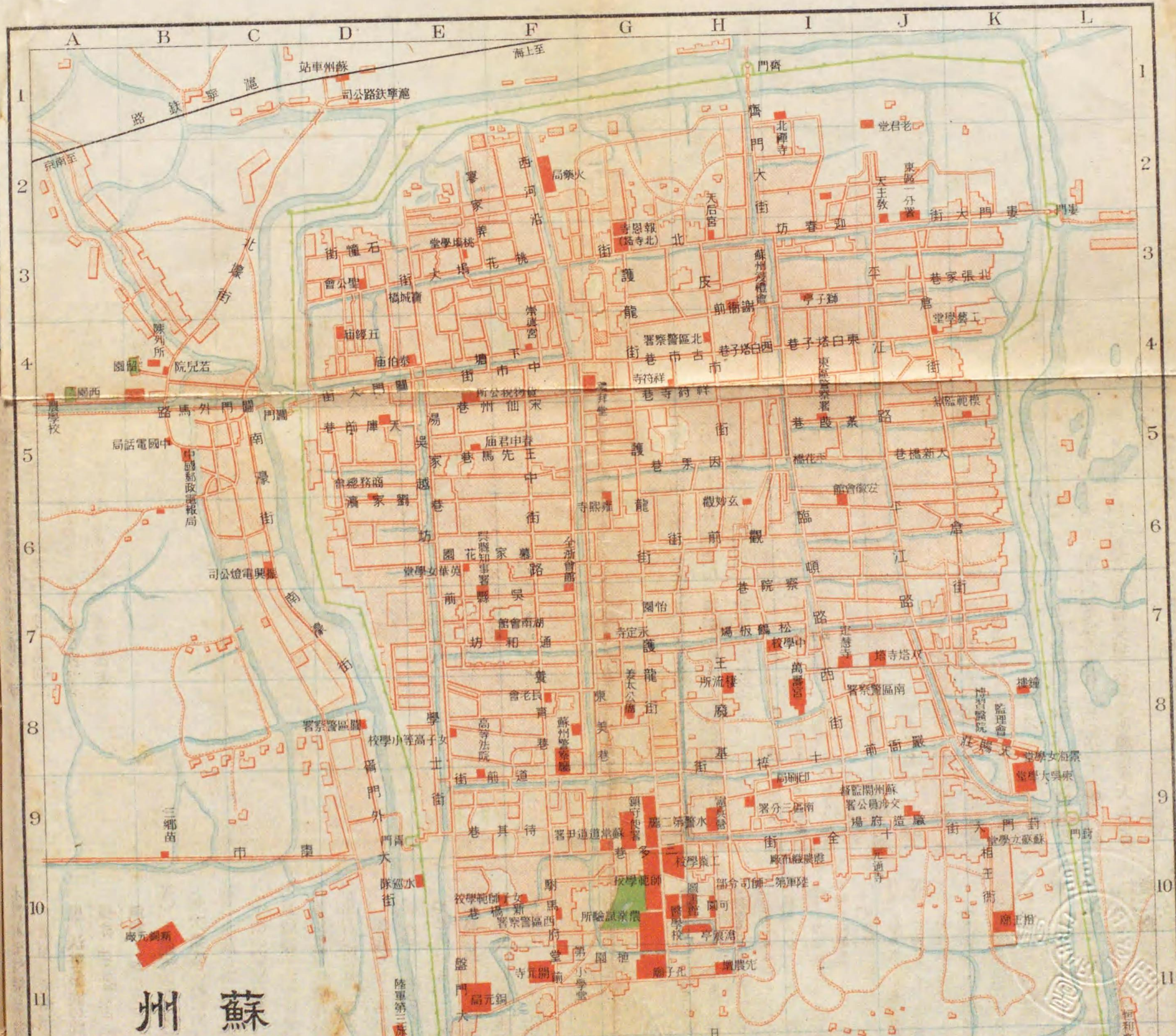
杭州より揚子江岸の鎮江に至る水路 (全長約二百哩) は西紀六〇五年乃至六一八年の開穿に係り、後杭州の地に都を奠めたる南宋帝王の

修理を加へたる處、沿途には嘉興、蘇州、無錫、常州等の都城を過り、嘉興に於ては黃浦江又蘇州附近に於ては吳淞江と相通じ、其上海に至る間手漕民船は勿論曳船小汽艇の定期運航あり。鎮江以北揚州を経て清江浦に至る區間 (約百哩) は西紀前四八六年頃の開穿にして全區間中最古の部分に屬し、途中高郵湖、寶應湖、洪澤湖を連ね小汽艇の便あり。清江浦以北天津に至る區間は元初 (西紀一二六〇—一二九〇年) の開修に係り、山東省内に入るや ハンチユアス 莊附近に於て津浦鐵道と交叉す。又黄河々畔に近き東平 (鎮江を距る約四五哩) に至る迄は沿途の地形波狀を成し、處々水準を異にせるを以て支那特有の水壩を設けて民船の交通に便す。更に東平以北約二五〇哩の間は黄河を横り衛河の水路と相合して天津に入る。

鎮江常州間 (四哩) は大運河の東岸に沿うて東走し右窓には絶えず白帆の去來を眺むべく、その間鎮江旗站 チンキヤスチヤン Ching City (G三)、鎮江城市東南門方面行旅客の下車驛)、新豐 シンフオス Sin-feng (五哩一)、丹陽 タンヤス Tan-yang (六哩一)、陵口 リンクウ Ling-kow (六哩)、呂城 ルチオス Lu-cheng (七哩三) 外一站を連ねて常州に入る。

常州 Chang-chow (八九哩) 客棧—連陞、昇平、安裕、長發) 此地は古の延陵邑にして、戰國に楚、秦に會稽郡と稱せし處、後隋宋に常州を置き明に常州府と爲し清朝亦之を





蘇州

蘇州の塔

襲へり。府城は線路の南側に在り、明代の改築に係り周圍約四哩、高約二〇呎の城壁を繞らし七門、四水關を有す。人口約五萬を算し、現今市街の

本筏前後相接して殆ど

常州以東蘇州に

里の沃野桑園の間を

横林 Heng-lin (Cantonese)

無錫 Wu-sih (Cantonese)

等) 大運河の西岸に

て漸次繁盛の域に向ひ

約二十萬と稱せられ宋

二十呎の廓壁を繞らし

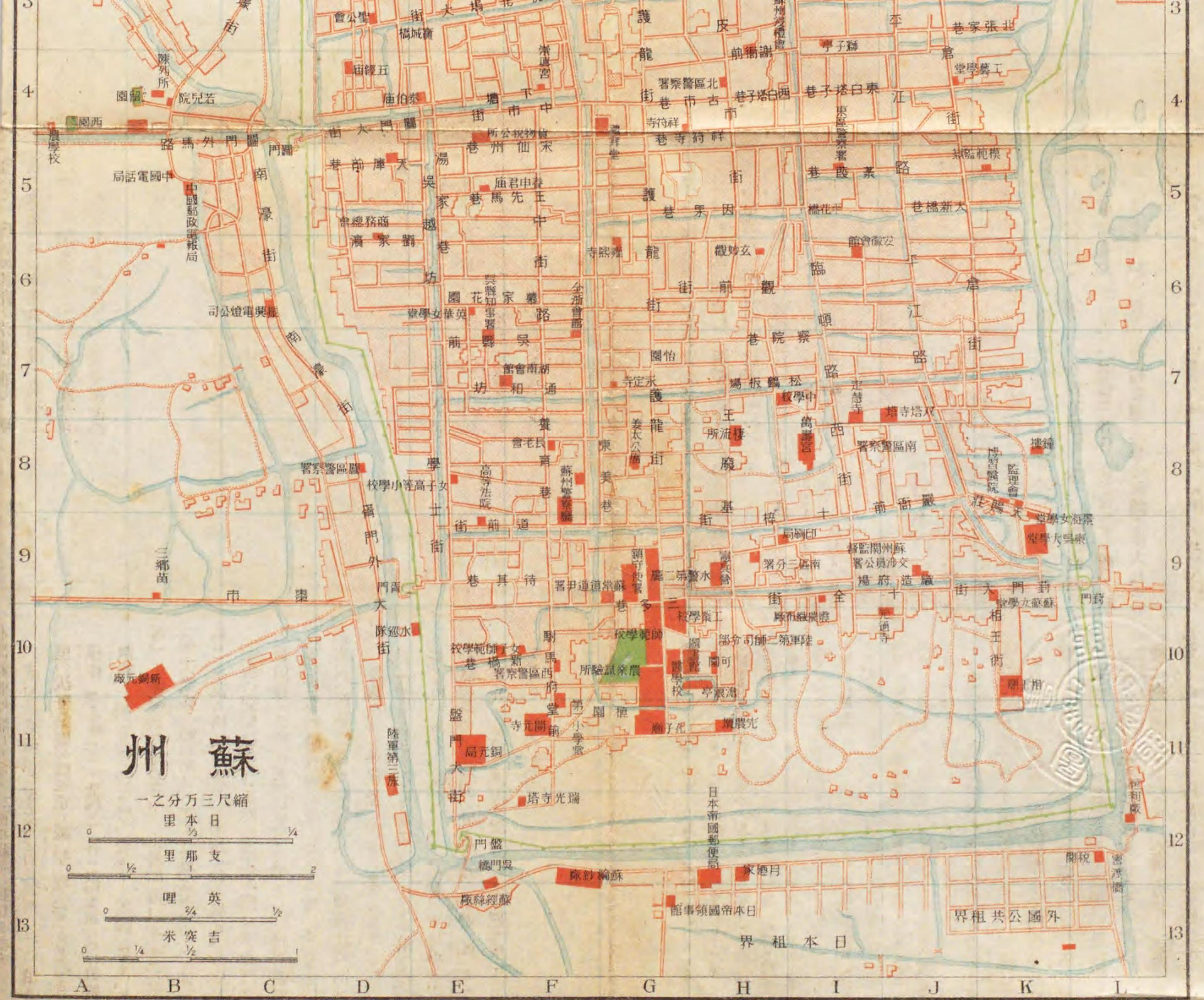
無



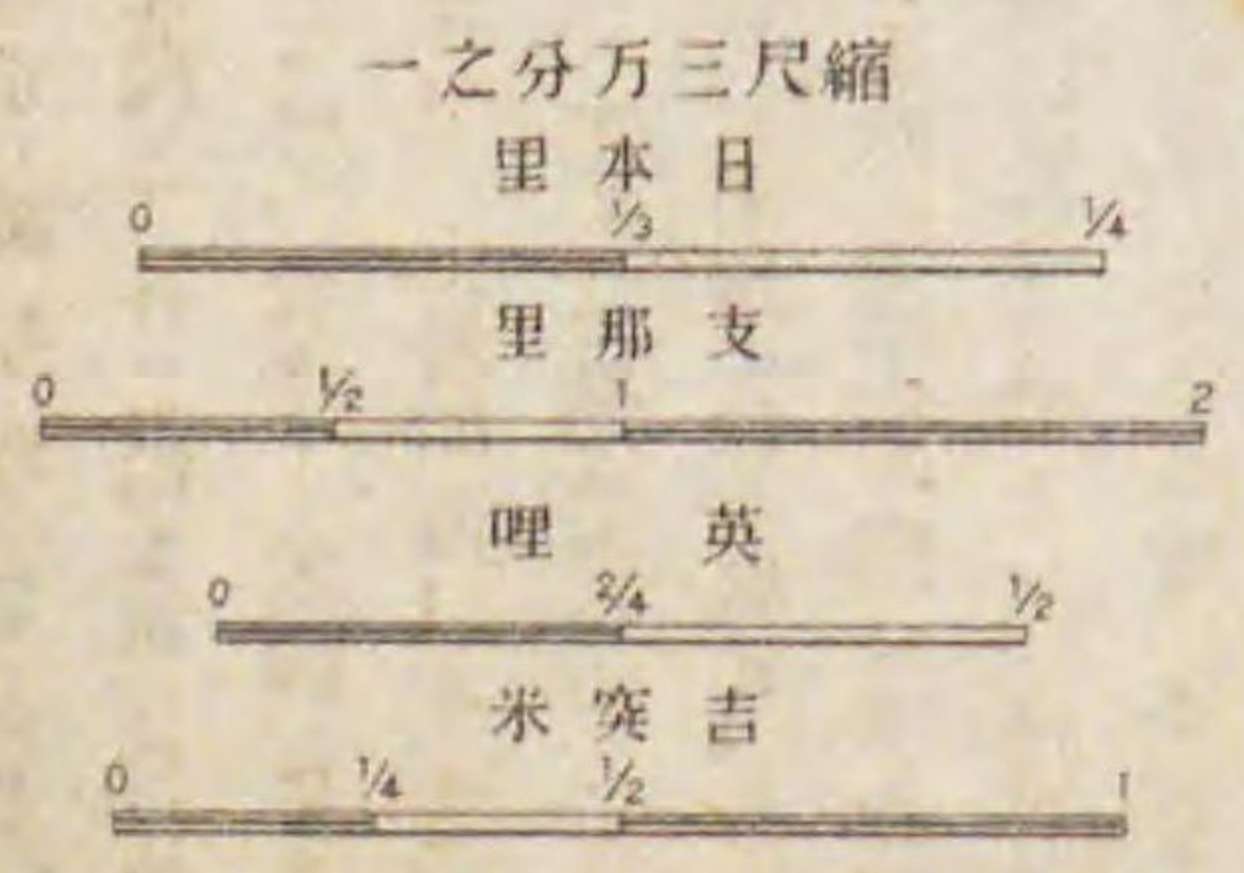
無

襲へり。府城は線路の南側に在り、明代の改築に係り周圍約四哩、高約二〇呎の城壁を繞らし七門、四水關を有す。人口約五萬を算し、現今市街の

蘇州北寺の塔



蘇州



本筏前後相接して殆ど水面を蔽ふの盛觀を呈す。

常州以東蘇州に至る迄は尙ほ運河の岸に沿うて一望千里の沃野桑園の間を走り威墅堰 (Tsishu-yen (九六哩))、

橫林 (Heng-lin (九七哩)) 外二站を過ぐれば無錫なり。

無錫 (Wu-sih (一二三哩)) 客棧—孟淵、惠中、義和、無錫等) 大運河の西岸に在り、上海開港以來その好影響を受け

て漸次繁盛の域に向ひ、正に江蘇富源の中心地たり。人口約二十萬と稱せられ宋代の築造に係る城市は周圍約五哩、高

二十呎の廓壁を繞らし東西南北の四門及三水門を備ふ。城内最殷賑の街衢は北門に亙る一帶とし、此界限に米行、糸

行等の巨賈比隣相連れり。毎年此地に集散する貨物は米穀

蘇州 Soo-chow (從南京一三九哩五至上海 五三哩五)

【到著】蘇州車站(D1)は閩門外約一哩、外國公共租界へ三哩餘の處に在り、急行列車にて南京より約五時間(賃金一等六弗、二等三弗)、上海へは約一時間四十分(賃金一等三弗、二等一弗五〇)を要す。又水路蘇州に入る旅客の上陸地點は盤門外埠頭(E12)にして日本租界に接す。【車馬賃】馬車一車站より閩門へ四〇仙、胥門又は盤門へ二弗、海關へ四弗、人力車一閩門へ一〇仙、胥門又は盤門へ六〇仙、海關へ一弗。但城内は街路狹隘、且處々に鼓橋あるを以て轎子或は騾背に頼るの外なし。

旅館 【歐風旅館】 惟孟旅館(車站附近)、宿泊料二弗乃至。【日本旅館】 月廼家(H12 盤門外)、宿泊料一弗五〇。【支那客棧】 惠中、蘇臺、利昌、蘇州(孰れも閩門外に在り、宿泊料三〇)、以上は皆上等客棧にして此外中等客棧は城の内外に多數あり。

料理店 歐風料理店一萬年青(閩門外)、一品香(閩門外)、日本料理店一月廼家(兼營)。【支那飯莊】 久華樓(鴨蛋橋)、九華樓(同上)、義昌福(同上)、奎和祥(城內東)、西德福(城內中)、天和祥(蓮花橋)、三雅園(城內道)等著名

六百橋、水市たるの面目此に在り。途上到處殷賑なる市街を成し、殊に閩門大街に連なる中市大街には絹織物、絹糸其の他の巨舗多く、又城内稍中央に位する觀前大街(一名玄妙觀通)は城中最繁華なる街區にして、各種の店舖比隣相接して熱鬧を極め、附近に在る玄妙觀は朝夕賽者絡繹として絶えず。城の西南隅なる盤門内一帶の區域は官衙、學校、庭園等多く散在して官衙區の觀あり。

【城外】 蘇州車站より閩、胥、盤の三門外を経て城の東南廓外なる外國公共租界に至る迄運河に沿うて廣濶なる馬路通じ車行至便なり。閩門外及胥門外も亦一街衢を形成し、特に車站に最も近き前者には商店、旅館、料理店、劇場等多く城外最繁榮の區たり。日本租界は盤門外東方河沿に在りて一區を爲し、本邦官衙、旅館等あり。更にその東方に隣接して外國公共租界地あれど、其處には唯三、四の住宅、海關、絲廠等の點在を見るに過ぎず。

【沿革】 蘇州の地は春秋の吳の國都姑蘇にして、吳王闔閭及其子夫差が據りて以て越と覇を争ひし處、秦漢に會稽郡、後漢に吳郡を置き、隋未始めて蘇州と稱せり。而して姑蘇時代より約二千五百餘年の

にして、一卓料金(六人乃至八人分)六弗乃至十三弗位。【茶樓】 福安、五雲、日昇樓(以上孰れも閩門外馬路)、英苑(城內支)、雲露閣(上)、鳳翔春(城內道)等。

領事館 日本領事館(G13 盤門外日)、郵便電信 日本郵便局(H12 日本租界)、支那郵政局(B5 閩門外)分局は城内六個所、城外一個所あり。中國電報局(B5上)、電話局(B5上) 市内通話料一通話五仙。

市街概観 蘇州は大運河と蘇州河との會流點に位し、近く西南に太湖を控ゆる江蘇屈指の大都市にして、現在人口約五十萬(内本邦人約八〇人)と稱せらる。府城は不整長方形を成し、南北三哩半、東西二哩半、高二十呎の廓壁を繞らし、東に婁門、葑門、西に閩門、胥門、北に齊門、西南隅に盤門の六門を備ふ。又城の外周には運河を開穿し、五個の水關を設けて城内外の水運に資せり。

【城内】 市街は前記各門より通ずる同名の大街を某幹として幾多の大小街路と用水路と縱横相交錯し、其の水溝を跨ぐ通路には到る處石造穹窿狀の鼓橋を架して之を連続す(隨て城内には轎子を通ずる外車行不可能なり)。所謂姑蘇三千星霜を経たる古都として、古來杭州と共に「上有天堂、下有蘇杭」と讃はれ、清楚なる市街の美觀を以て稱せられし處なるも、長髮賊の亂後その慘禍今に全く恢復せずして昔日の榮なし。西紀一八九六年馬關條約に基き沙市杭州と共に外國互市場として開放せられ以て今日に至る。

官公署 蘇州鎮守使署(G9 卷三多)、蘇常道尹公署(G9上)、吳縣知事公署(E7 前街)、蘇州關監督兼交涉員公署(J9 府內)、江蘇陸軍第二師司令部(H10 道前)、江蘇水警第二廳(G9 卷三多)、蘇州警察廳(F89 道前)、江蘇高等法院(E9上)、貨物稅公所(E4 州卷)、印刷局(H9)、監獄(K5)。

主要店舖 【外商】 東洋堂(邦紙類)、丸三藥品株式會社(同)、美孚火油公司、亞細亞火油公司一以上閩門外馬路。【支那商】 老萬年樓(城內道)、天豐恒(同)、東恒孚(銀同、前街)、同仁和緞庄(同、中)、振源永緞庄(同、觀)、怡和祥(同)、徐源茂(外)、揚洪源珠寶店(道前)、雷誦芬堂(藥中市)。【銀行】 江蘇銀行(城內中)、中國銀行(支同)。

工場 振興電燈公司(C6 南濠街)、蘇綸紗廠(F12 盤外)、延昌恒廠(燈草橋)、恒利廠(L12 渡橋)、蘇經絲廠(E

13 外) 隆盛麵粉公司(胥門)、震豐織布廠(I 9 城內十街外)、商業機關 商縣總會(D 5 劉家濱)、錢業公所(閶門內)、雲錦公所(寺巷)、五豐公所(同、萊)、玉業公所(同、周)、尙始公所(街路)、典當公所(嘉坊)。

學校 【外人經營】東吳大學堂(K 9 城內天賜莊)、景海女學堂(同)、英華女學堂(E 6 城內慕家花園)、英華男學堂(同)、桃塢學堂(E 3 同、桃塢)、頭道女學堂(同)、慧靈女學堂(謝衙)。

【支那人經營】蘇州醫學校(G 10 盤門內滄浪亭)、農學校(A 5 閶門外上)、工業學校(G 10 三元坊)、師範學校(G 10 同)、女子師範學校(F 10 同、新橋巷)、中學校(I 7 城內草橋)、蠶絲女學校(城外關)。

教會寺廟 【教會堂】長老會(F 8 養育巷、外)、浸禮會(蘇苑)、蘇州浸禮會(H 3 謝衙)、使徒信心會(西街)、監理會(K 8 天賜莊、外)、聖公會(D 3 寶城)、天主教會堂(J 2 門外大街外)。

【寺廟】虎丘禪寺(城外西北三里)、寒山寺(城西三哩)、報恩寺(G 3 北街)、開元寺(F 11 盤門內)、雍熙寺(G 6 雙成巷)、元通寺(J 10 十全街)、北禪寺(I 1 內)、孔子廟(G 10 11 街東)、玄妙觀(H 6 觀前街)、天后宮(H 3 齊門大街)、五經廟(D 4 門內)、相王廟(K 10 相王街)。

病院 福音病院(齊門外)、博習醫院(K 8 天賜莊)、婦孺醫院(同) 以上外人經營。省立醫院(盤門內)、同上分院(外馬路) 以上支那人經營。

【天賜莊】 蘇門內在り、米國宣教師の占居する一地區にして、彼等は此に教會堂、病院、學校等を經營し、大小の洋樓美々しく立並べらば正に蘇州城内の一異觀たり。

劇場其他 民興新劇社、春仙第一舞臺、鳳舞臺 以上孰れも閶門外馬路に在り。【圖書館】(H 10 滄浪亭)。

【畫舫】 所謂遊山舟にして、閶門外に多く繫留す。船内清潔にして卓子、寢臺等の設備あり。春秋、夏時附近勝地に舟遊を試むるに便なり。賃金は一日三弗位なり。

貿易 一九一七年度蘇州貿易總額は約千八百萬海關兩に達し、輸入品の主なるものは綿織物、石油、石炭、砂糖等、輸出品は絹織物、繭絲等を大宗とす。

水路交通 蘇州の地は水路四通八達、古來南船の中心地たるを以て東は上海に、西は太湖に、北方鎮江に、南方杭州に小蒸汽船又は民船を通すべし。【蘇州鎮江間】約一二〇

蘇州玄妙觀



内側には平江圖あり、蓋し宋代の蘇州圖なるべし。門の正面に明倫堂あれども此門は平常開放せざるを以て省牲所の背後より左に進むべし。又省牲門より右に入れば戟門あり、門下に有名なる天文圖及本廟重建碑を見るべく、門内に、巍然たるは即ち本廟の正殿大成殿なり。

【滄浪亭】(H10) 孔子廟の東方に在り、宋の蘇子美の居を卜せし處、爾來重修を加ふること數次以て今日に至る。園内祠宇、臺榭、樹石等の布置その妙を極め景致頗る幽雅なり。園内又百五名賢祠あり。其の壁面には清朝以前に於ける蘇州の大官五百六十名の遺像及題贊を刻せり。

【玄妙觀】(H6) 又圓妙觀とも書す。觀前街に在り、唐代には開元宮と稱せしも元代に至り玄妙觀と改む。巍然たる大伽藍にして樓門内三清殿、彌羅寶閣、東嶽殿等あり。彌羅寶閣は三層の巨宇にして、登臨すれば西山一帶双眸に入る。境内頗る廣濶にして各種露店、茶樓、寫真店、興行物等櫛比し、賽者絡繹の状恰も我淺草寺境内に似たり。

【雙塔寺塔】(J7) 玄妙觀の東南定慧寺巷に在り、唐の咸通二年の開基に係り、後宋の雍熙年間磚塔二基を建て

て雙塔寺と稱せり。寺堂は長髮賊の兵燹に罹り唯雙塔を遺すのみなるが、其の形状奇巧にして雅趣に富み、他に多く類を見ず。

【北寺塔】(G3) 寺は報恩寺と稱し城内北街に在り、吳の孫權が赤烏年間乳母陳氏の爲に創建せし處と傳へらる。寺内の殿堂は長髮賊の亂に焼失し纔に殘礎を存するに止まるも、有名なる寺塔は今尚ほ轟々として聳ゆ。塔は明の萬曆年間築造に係り、高二五〇呎、基底の直径六〇呎、九層の石骨木構にして、塔頂の展望極めて雄大なり。

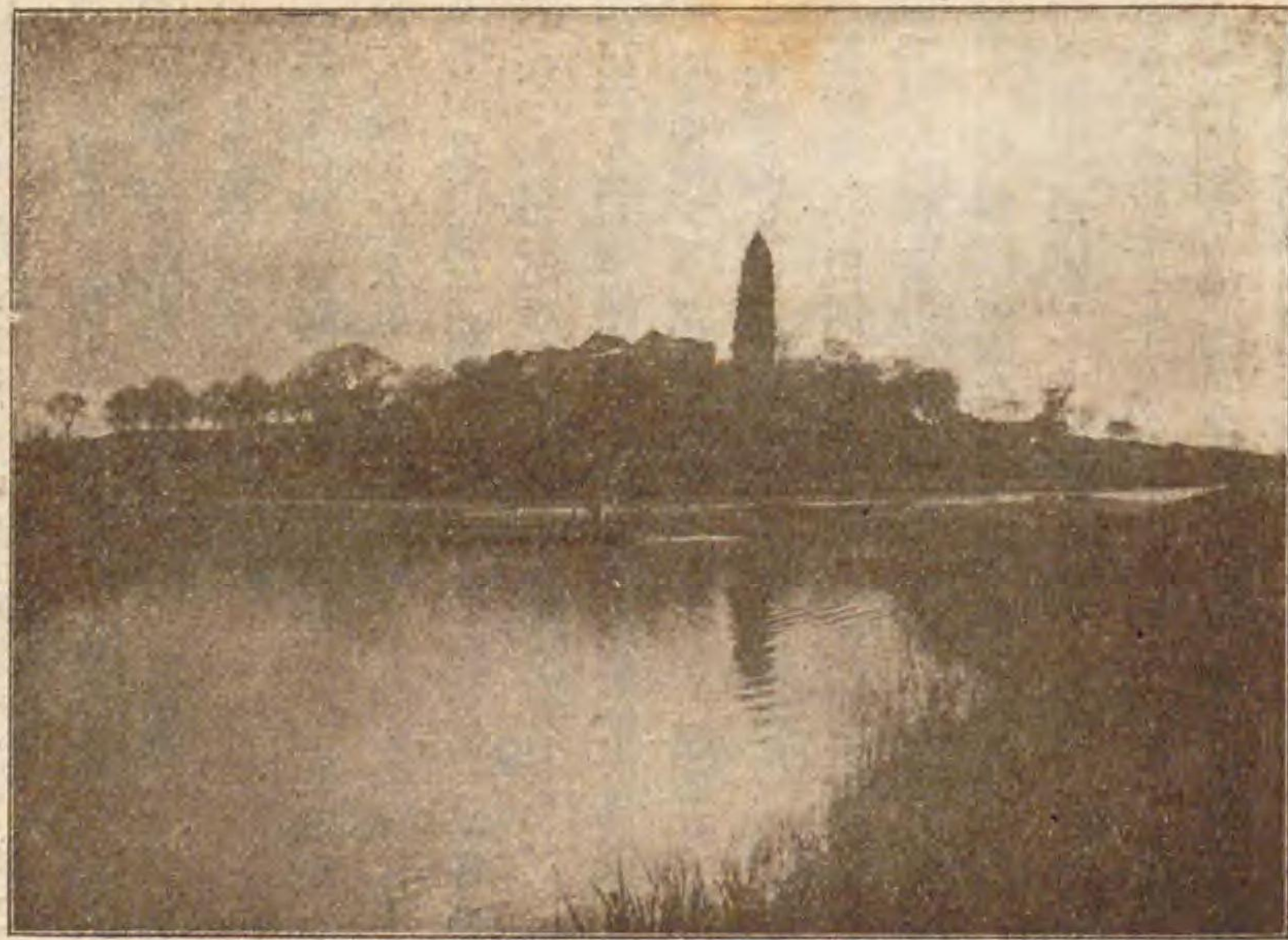
【留園】(B4) 閶門外約一哩に在り、入園料十仙を徴して公衆に觀覽せしむ。園は故盛宣懷の私庭たりしもの、綠樹花卉に配するに池塘、假山、亭榭を以てし、閑雅幽邃正に支那造園の粹を鍾む。

【虎丘禪寺】 府城の西北約三哩、虎丘山上に在り。吳王闔閭を祀る處にして、境内幽邃加ふるに府城を俯瞰する眺望絶佳なり。傳説に云ふ、春秋の世吳王闔閭を此に葬るに際し、十萬人を殺して之を埋むるや三日の後悉く白虎と化して陵上に蹲踞せり、因て虎丘の稱ありと。山内古蹟多し。

【寒山寺】 府城の西方約三哩、楓橋に在り、唐代の開基に係り荒廢の結果現在の堂宇は近時再建したるものなり。楓橋は唐張繼が夜泊の詩を以て名高き處、寺内には明朝の書家文徵明の筆蹟を刻せる夜泊詩の古碑あれども、碑面破碎して字體殆ど讀むべからず。近代の書家愈越の書を以て之に代へ、其の石摺を備へて遊覽客の需めに應ず。一枚の價五十仙なり。

楓橋夜泊
張繼
月落烏啼霜滿天。
紅楓漁火對愁眠。
姑蘇城外寒山寺。
夜半鐘聲到客船。
【寶帶橋】 盤門外東南約二哩、大運河と澹臺湖とに架せられたる一大石橋にして、穹窿形の橋脚五十三、長千二百丈と註せらる。遠く之を望めば蜿蜒龍蛇の横はるが如く、眞に天工を奪ふの概あり。漢の武帝の時始めて架設せられ、後唐代に至り再建せらるゝや、刺史王仲舒自己の束帶を賣つて以て工費を援けしと、因て寶帶橋の名あり。

【靈巖山】 府城の西北約十二哩に在り、畫舫を備うて盤門外吳門橋(E12)下を發し胥塘水路に沿ひて進めば、約四時間にして木瀆鎮に達すべく、此處より山麓迄は極めて近し。靈巖山は一名硯石山と稱し、山骨露出して奇石怪石、



山 丘 虎 州 蘇

千態萬状をなせる岩山なり。中腹に靈巖寺あり、夫れより攀登すること少時にして圓形及八角形の二塘池に會す。更に進みて頂上に達すれば越の美人西施彈琴の故址と傳へらる、琴臺ありて、山上の展望絶佳なり。

【天平山】^{テンピンサン} 靈巖山の北面に對峙す。山態巍峩として奇岩怪石全山を蔽ふ處、參差たる綠林の間に朱欄白堊の隱見するあり、又南麓には范文正公の功德院たる白雲寺あり。乾隆帝嘗て此地に巡幸ありし時高義園と命名せられしと云ふ。

園内に亭々たる老楓樹數十株あり、晚秋杖を曳かば紅葉の美觀に飽くを得べし。楓林中御碑亭及范公祠あり、更に十歩一折急坂を登れば白雲亭に達す、傍に白雲泉あり。僧堂は高義園を俯瞰し、田園を隔て、七子山に對す。白雲亭よ龍門を経て山の中腹に出れば中白雲寺あり、夫より登るに隨て巨巖累々、岩角愈々奇態を盡し、聽て絶頂に達す。

【太湖】^{タイホウ} 面積約一千方哩、南北三十哩、東西四十哩、蘇浙兩省に跨る支那有數の大湖にして、四周大小幾多の湖沼と脈絡相通じて灌漑、舟楫の利便を極め、又その水域附近には支那海外貿易品の大宗たる絹糸の産地無錫、震澤、平

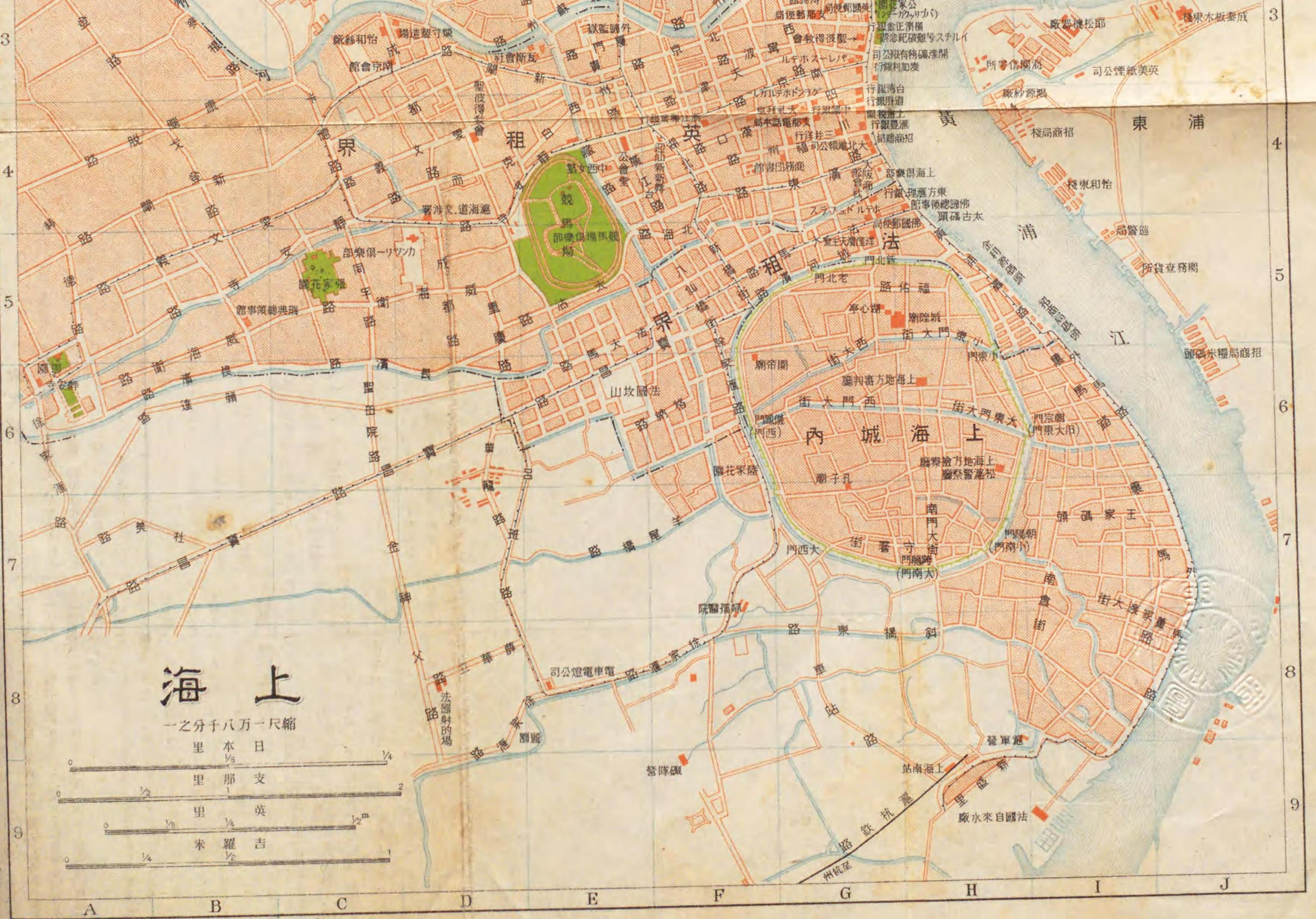


望、南潯、湖州等點在して江南の富源を爲せり。又湖上には東西兩洞庭山を首め馬蹟山、大雷山、小雷山、大貢山、小貢山等の島嶼甚布し、孤帆その島影を縫うて走る處自然の風光宛然畫圖の如く、古來三伏炎暑の交に至れば支那官紳の畫舫(第三五九頁參照)を賃して悠遊するもの多し。湖中魚族の産に富み鯉魚、白魚、鱸魚、銀魚等の漁獲高年々多額に達す。

蘇州以東に於ける本線の沿途は廣濶なる稻田の間大小の運河蛛網の如く四通し、或は運河に泛べる帆影を眺め、或は古雅なる寺塔を戴する孤峯を遠望する等雅觀盡くるを知らず。其間官濱里 Kwau-tu-li (四哩)、外跨塘 Wai-kwa-tang (一四哩七寸)、唯亭 Wei-ting (一五哩三寸)、正儀 Chen-i (一五哩三寸)の各小驛を連ねて崑山 Kun-shan (一六哩)に出づ。崑山以往線路は稍南東に偏し恒利 Hen-li (一六哩)、陸家濱 Lu-kia-pang (一六哩七寸)、安亭 An-ting (一七哩三寸)、黄渡 Hwang-tu (一七哩五寸)、南翔 Nan-siang (一八哩三寸)外一站を過ぎて本線の極端驛上海北站 Shang-hai North (第三六三頁以下參照)に達す。

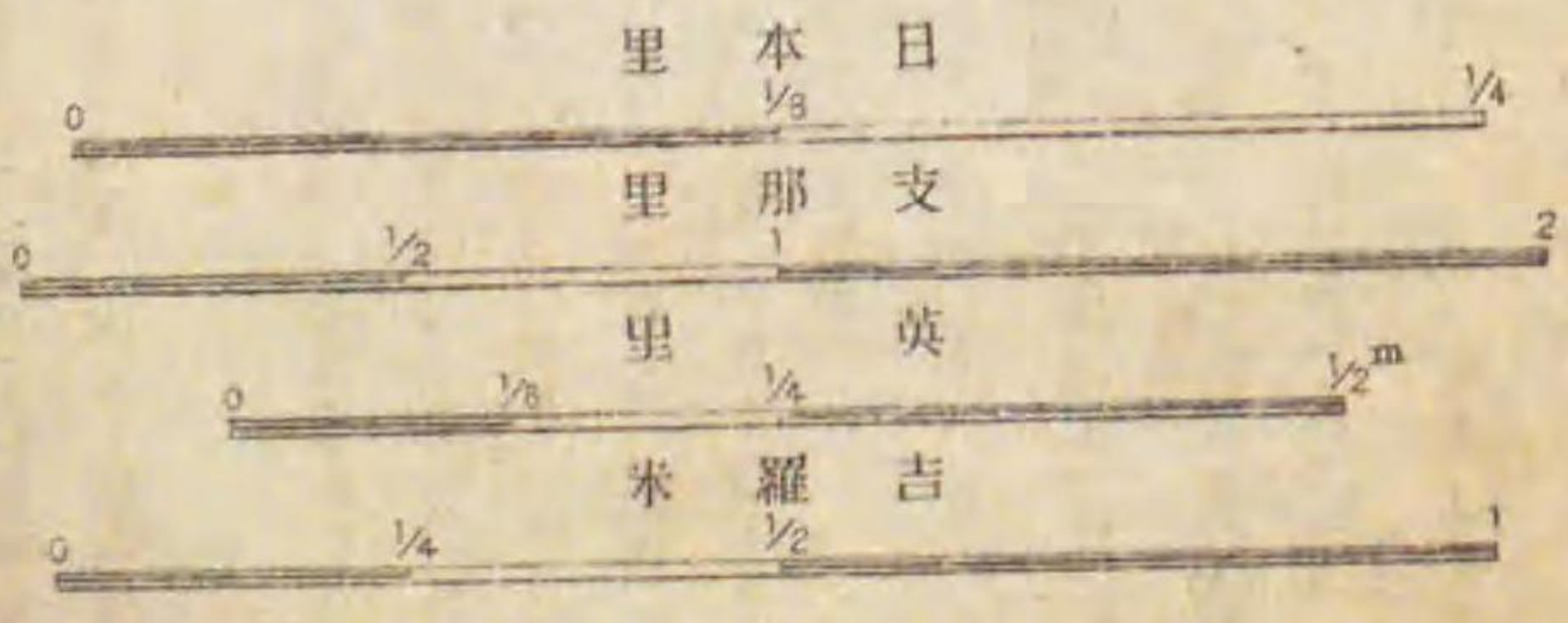






上海

縮尺一萬八千分之一



期航路上海漢口線により南京まで下航し、是より滬寧鐵路に移乗し
て、以下前記の順路に由るべく、又杭州方面より滬杭甬鐵路(第三八
〇頁参照)に由る旅客は、全長一二二哩六、行程約八時間(普通列車)

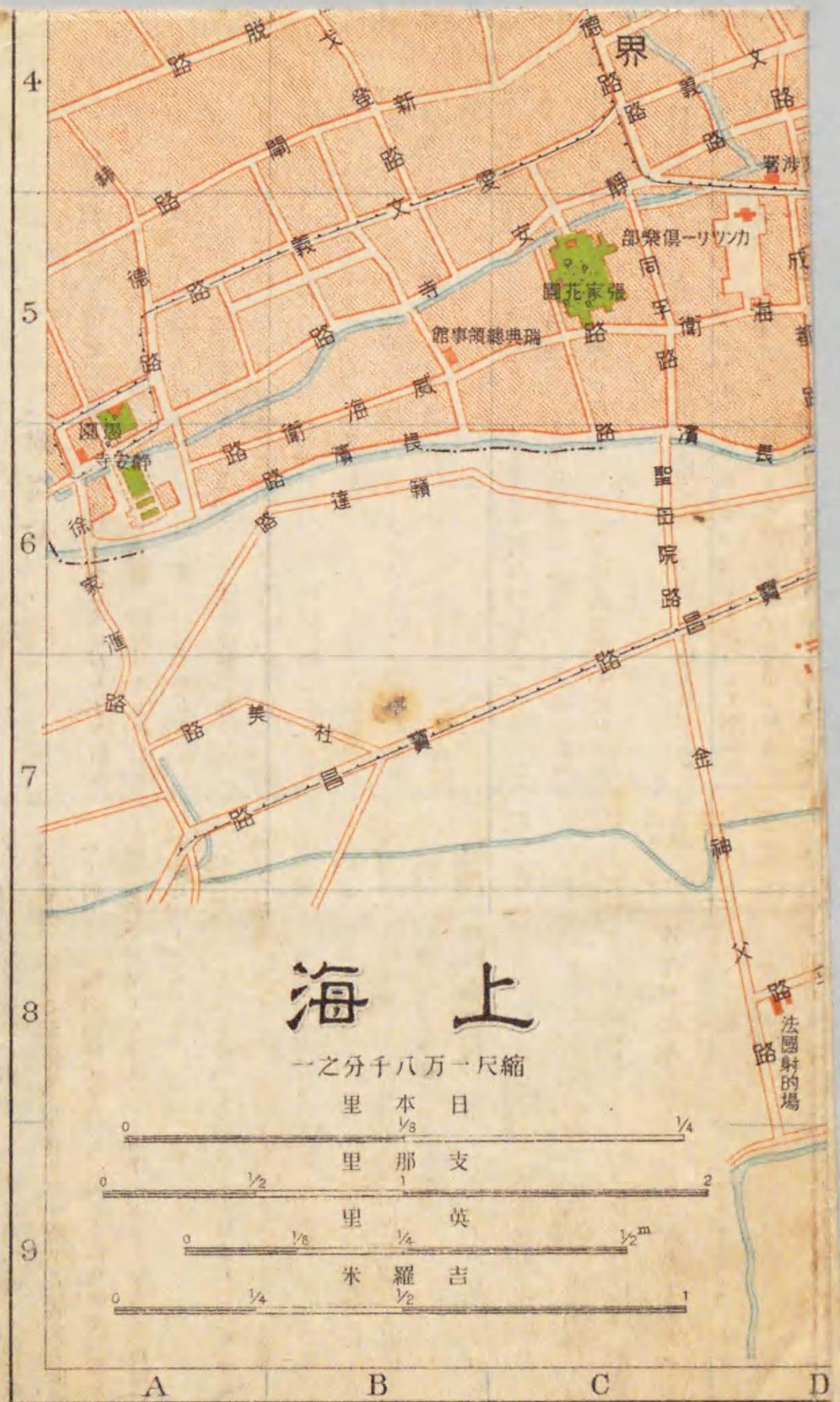
途路 34 上海 Shang-hai

附 吳 淞

【水路到着】 日本及南北支那諸港より海路上海に入らむとする船客は長崎の西方約三九四哩、大連の南方約四六六哩、香港の北方約七五七哩にして濁流滔々大海に奔注する揚子江口に達すべし。是より江を溯り、右舷に崇明島(三七九頁参照)を望みつゝ、進めは艤て揚子江下流の一支流黄浦江に至る。爰に吳淞市街あり(三七九頁参照)、是より旅客の上海到着は船車何れを選むも可なり。前者に頼らんとせばその所屬小汽艇に移乗して黄浦江を溯航すること一三哩、行程約一時間にして上海租界の各碼頭に上陸すべく、又後者を選めば滬 鐵路吳淞支線の北端驛炮臺灣より一〇哩一九、行程約三十五分にして上海北站到達すべし。

又近海及揚子江上流の各港より來りて一直黄浦江を溯航するものは上海市の東面海岸(黄浦灘)の各所屬碼頭に上陸すべし。其他蘇州若くは杭州方面より内河航路に頼らんか、その到着點は蘇州河々畔の碼頭とす。

【鐵路到着】 一方鐵路により北部支那天津、濟南、青島方面よりする乗客は津浦線により浦口に出で、それより南京に渡江して滬寧線(第三五二頁参照)に乗継げば、全長一九三哩、行程約七時間(普通急行)にして上海北站に達すべし。又漢口、武昌方面よりせば揚子江定



期航路上海漢口線により南京まで下航し、是より滬寧鐵路に移乗して、以下前記の順路に由るべく、又杭州方面より滬杭甬鐵路(第三八〇頁参照)に由る旅客は、全長一二二哩六、行程約八時間(普通列車)にて同じく上海北站に達すべし。但し上海舊城及南市方面の旅客は途中新龍華車站より分岐する線路に由り上海南站(新龍華より四哩四)に下車するを可とす。

【車馬賃】 以上の各碼頭及車站よりは直に市内電車(三六五頁参照)或は自働車、馬車、人力車を利用する便あり。自働車一時間三弗乃至五弗、一時間以上毎時一弗を加ふ。馬車一半日二弗、正午より夜十二時迄二弗半、一日三弗(以上の外馬夫に酒代として五十仙乃至一弗を要す)。人力車一哩以内十仙、一哩を加ふる毎に十仙。一時間五十仙、二時間以上は毎時二十仙を加ふ。

- 旅館 【歐風旅館】 *
- House Hotel (H 2 黄浦灘) 宿泊料七弗以上、パレース。
 - ホテル Palace Hotel (G 3 黄浦灘) 宿泊料八弗以上、
 - グランド・ホテル・カレー Grand Hotel Kalee (G 4 江西路A二) 宿泊料六弗以上、
 - サボーイ・ホテル Savoy Hotel (H 2 百老匯路) 、
 - オテル・ド・フランス Hotel de France (G 4 天主堂街)。
- * 【アスター・ハウス・ホテル】 はその建築頗る宏大にして、寢室と浴

室を具備せる客室二百を有し、食堂は華麗なる裝飾を施せる廣間にし
て優に三百人を收容するに足り、其の他貴女専用の應接室並に讀書
室、喫煙室、遊戯室等あり。且冬期は蒸氣暖房、夏期は電氣扇を備ふる
等諸設備殆ど周然する所なし。又旅館専用の花園その對面蘇州河々畔
にありて、夏秋の夕音楽、活動寫眞等を開催す。

【パレリス・ホテル】も亦上海屈指の大旅館にして、設備の完全せる
こと、前記アスター・ハウス・ホテルと伯仲の間にある。

【日本旅館】 豐陽館(12 西華路)、東和洋行(F3 北蘇州路)、
萬歲館、勝田館(西華路)、常盤舍(南潯路)——以上宿泊料二弗
乃至五弗、中食七〇仙乃至一弗半。

【支那客棧】 孟淵旅館(浙江路漢口路角)、旅泰(西藏路漢口路角)——以
上宿泊料五〇仙乃至五弗。泰安棧(松江路)、華商旅館(海州路)
——宿泊料五〇仙乃至三弗。惠中旅館(山東路)、宿泊料
八〇仙乃至二弗四〇仙。

料理店 【歐風料理店】 前記歐風旅館にて之を兼業する
外、有名なる料理店としては、カールトン・カフェー Carlton
Cafe (F3 寧波路)、アウル・ケリル・アンド・レスト
ーラント Owl Grill & Restaurant (G3 江西路) 等あり。
【日本料理店】 六三亭(文路)、六三園(寶山路)、月廼家(乍浦路)、



頭 碼 界 租 同 共

南下して上海南站に達す。

銀行 【邦人銀行】 橫濱正金銀行(G3 三浦灘)、臺灣
銀行(G4 黃浦灘)、住友銀行(九江路)。

【外國銀行】 滙豐銀行 Hongkong & Shanghai
Banking Corporation (G4 黃浦灘)、同支店(H2 百老匯路九號)、
麥加利銀行 Chartered Bank of India, Australia &
China (G4 黃浦灘)、德華銀行 Deutsch-Asiatische
Bank (黃浦灘)、道勝銀行 Russo-Asiatic Bank (G4 浦
灘)、花旗銀行 International Banking Corporation
(九江路)、東方滙理銀行 Banque de l'Indo-Chine (H4
A一號)、華比銀行 Sinc-Belgian Bank (黃浦灘)、和蘭銀
行 Nederlandsche Handel Maatschappij (黃浦灘)、中
法實業銀行 Banque Industrielle de Chine (法租界外、
灘一號)。

有利銀行 Merchantile Bank of India (南京路)。
【支那銀行】 中國銀行(G4 漢口路)、中國通商銀行(浦
灘六)、四明銀行(寧波路)、交通銀行(四川路)、江蘇銀行(西
路五)、浙江銀行(北京路)、浙江興業銀行(F4 南京路四
一號)。

通信官署 【日本】 日本郵便局(H2 天潼路)、內地電

月廼家花園(威路)、藤村家(乍浦路)、三宅(乍浦路)。
【支那料理店】 一品香、小有天(以上漢口路)、杏花樓(福州路)、
馥興園(廣東路)、華慶園(九江路)。

【茶館】 滬江第一樓、五層樓、青蓮閣、大觀樓(以上四馬路)。

【市内電車】 上海の電車は上海電車公司、法界電車公司及南市電車
公司の三公司に屬し、相互に交通連絡せり。

(一) 上海電車公司是共同租界に在り。その線路全長一九哩(複線七
哩半、單線一一哩半)、共同租界内を縱横に馳騁せり。即ち黃浦灘よ
りすれば東方は百老匯路及西華德路を経て楊樹浦(東區)迄、北西方
は吳淞路、四川路及浙江路を経て射的場或は上海北站(中央區)迄、
西方は南京路、廣東路、靜安寺路、新開路、愛文義路等を経て愚園(西
區)迄通ず。賃金一等——一站乃至三站は三仙、七站迄は六仙、二等——
一站二仙、三站迄二仙、四站迄三仙、七站迄四仙とす。月極切符一等
八弗、小供(十六歲未満)五弗。

(二) 法界電車公司是法租界に在り。西紀一九一四年(大正三年)七
月より共同租界電車と、同年十月南市電車との連絡を開始せり。其
の線路全長約一〇哩、黃浦灘を發し、法大馬路、寶昌路を一直西走し
て徐家匯に至るもの、並に其の途中分岐して斜橋或は羅家灣に至る
ものあり。賃金一等——一站迄三仙、四站迄六仙、六站迄九仙、八站迄
一二仙、全路一五仙とし、二等——一站一仙の割にて全路一二仙なり。
(三) 南市電車公司是南市十六舖に在り。其の線路は江岸通りを一直

報をも取扱へり。【外國】英國郵便局(G 3 北京路)を首め、佛國(G 5 新北門外天主堂街四八號)、獨逸(福州路七號)、米國(黃浦路一五號)、露國(G 2 吳淞路北蘇州路角)各郵便局あり。又、大北電信會社(Great Northern Telegraph Co. 大東電信會社 Eastern Extension, Australia and China Telegraph Co. 太平洋商務電信會社 Commercial Pacific Cable Co. 以上(G 4 黃浦灘)・德和電報公司 Deutsch-Nederlandische Telegrapher Gesellschaft (四川路五一號)・並に佛蘭西無線電局(法租界)あり。【支那】中國郵政局(北京路九號)・支局は市内各所に在り。中國電報局(黃浦灘八號)・中國電話局本局(G 4 江西路A)・同東局(楊樹浦路北)・同西局(靜安寺路二四號)。

領事館 日本總領事館(H 2 北揚子路一號)・英國 British 總領事衙門(G 3 黃浦灘三三號)・美國 American (H 3 黃浦路一二號)・德國 German (九號)・法國 French (H 4 法租界公館馬路)・俄國 Russian (G 3 國橋路)・比國 Belgian (E 4 靜安寺路一〇一號)・瑞國 Swedish (B 5 威海衛路五號)・哪國 Norwegian (圓明園路二號)・丹國 Danish (D 7 呂班路一號)・日斯國 Spanish (靜安寺路四六號)・和國 Dutch (聖母院路一七號)・義國 Italian (靜安寺路一一二號)・西國

Portuguese (斜橋路一號)・奧國 Austro-Hungarian (麥特赫司路二九號)・古國 Cuban (長濱路)各總領事衙門あり。

上海概観 上海は揚子江流末の一支水黃浦江を溯ること十三哩の上流左岸に在り。東洋最大の貿易市場にして支那全國商業上の樞軸たり。人口六十九萬八千餘(一九一五年調)にして、在留外國人約二萬五千(其の約半數は本邦人なり)を含む。市街は之を大別して共同租界、法租界、上海縣城、南市及黃浦江の對岸浦東とす。

【共同租界】 現今上海の外國租界は二大別して共同租界及法租界となし、各々其の管理を異にせり。共同租界は又東區・北區(美租界)・中央區(英租界)及西區(新租界)の四區に分かれ、南方は洋涇濱と稱する一小濠を隔て、法租界と相對す。

中央區は實に上海目抜き商業區域とも稱すべき處、その江岸通なる黃浦灘路は市内電車の發着點にして、南方は法租界の江岸に接續し、北方は蘇州河に架せる白渡橋 Garden Bridge を渡りて北區と相通ず。その西側には英國總領事衙門を首め銀行、旅館、俱樂部等の大厦高樓鱗次するあり。又

東側江岸に沿うては樹木芝生を植ゑて散步區域を設け、此に故英國公使ハリ・パークス氏の銅像及獨逸砲艦イルチス號難破の記念碑等を訪ふべし。中央區の主要街路には黃浦灘路を首め、之と垂直に連る蘇州路、北京路、南京路(大馬路)、九江路(二馬路)、漢口路(三馬路)、福州路(四馬路)、廣東路(五馬路)あり。又之と並行して南北に貫通せる四川路、江西路、河南路、山西路、福建路、湖北路等あり。就中南京路は上海第一の大街路にして、内外巨賈の店舗左右に連檐し、又福州路の如きは上海支那人の銷金窟とも稱すべき處、即ち茶園、酒館、書場、茶館等金色の招牌燦爛として人目を眩し、日没後の熱鬧は輿の絡繹、衣香の氤氳人をして殆ど應接に遑なからしむ。

南京路を西すれば廳て西區に入りて靜安寺路に至る。此處に外國人競馬場、支那式花園等あれど、爾餘の多くは外人の住宅にあつられ、庭園樹木の配置閑雅にして自ら市塵を離れたる別寰區を成せり。

中央區の北方蘇州河に架せる白渡橋を渡れば即ち北區に入る。白渡橋北首より蘇州河に沿ひて左折西走する北蘇州路

は水陸兩面の貨客出入する處、之と交叉する吳淞路、北四川路、北浙江路等主要街路の南端は各々蘇州河に架せる鐵橋を以て中央區の各街と交通連絡せり。又白渡橋北首より右折東北走する黃浦路、百老匯路、西華德路及此等と交叉せる文路、武昌路、天潼路等の各街には日、米、獨公館を首め、病院、旅館、店舗、郵船會社等の建物櫛比して頗る殷賑を極む。

百老匯路及西華德路の二線は一直東走し、虹口河 Hong-Kew Creek を渡りて東區なる楊樹浦路と相會す。此處には紡績、製糸、船渠、鐵廠等の各種工場相集り、今や蘇州河上流地方と共に上海の工業區たる盛觀を呈せり。

【法租界】 恰も長靴の如き形狀を成して上海縣城及共同租界の中間に介在し、其の脚部即ち江岸に沿へる黃浦灘路の南端は南市に接す。租界の中央地帯を東西に貫通する大街を法大馬路と稱し、最も繁華の區にして佛國各公館を首め、内外巨商の店舗等其の界限に集中せり。又爾餘の街衢にも支那商舖等相連り市況頗る見るべきものあれど、之を共同租界に比すれば幾段の遜色あり。但し其の西南一帶の新租界地は今

や共同租界の西區と同じく内外富紳の住宅地に擬せられ、大
厦巨屋の新築日々増加するに至れり。
【上海縣城及南市】 別名滬城或は申城と稱す。明末
(西紀一五五四年) 倭寇防禦の爲周圍約三哩の城壁を築
き、七門(新北門、老北門、大東門、小東門、大南門、小南
門、西門)を設けたりしが、最近之を撤去してその牆址は一部
を道路とし、他を貸地とせり。外國租界より舊城内に入らんと
する者は法租界天主堂街の南端、城濠に架せる木橋を渡りて
新北門より入るを便とす。



黄浦灘バドン

城内は外國租界の歐風なるに反し、純然たる支那式にして街
路狹隘、而かも路面は寧波石を以て敷詰め、官衙、寺廟等の
建物頗る雅致に富めり。其の最も繁華なるは新北門、大東門、
小東門の各門に通ずる大街にして、此には綢緞、雜貨、骨董、
象牙細工、玉器等の商店簷を連ね、顧客常に絶えず。
【南市】 是縣城の東南、黄浦江に沿へる狹長なる新開地にし
て、其の南端に上海南站あり。江岸の街路を外馬路と稱し、
之に電車を通じて法租界黄浦灘路との來往至便なり。
【浦東】 黄浦江の東岸に在り、江を隔て、上海市街と相
對す。此の地往時は田圃相連り、江岸には蘆荻叢生せる所な
りしも、輒近上海の發展に伴ひて次第に工場倉庫等の建設せ
らるゝあり、又揚子江其他沿岸諸航路汽船の碼頭多くして
目下共同租界稅關碼頭より小蒸汽船の無賃渡航便あり。又
舢舨に賴れば一人五仙乃至十仙を要す。

【沿革】 往昔宋代(九世紀)以前に於ける上海は寂寥たる一小村にし
て、纔に江南民船の投錨地たるに過ぎざりしが、その上海縣治を置き
しは元朝至元二十九年(西紀一二九二年)なりとす。爾後清朝道元二十
二年(西紀一八四二年)鴉片戰爭の結果、所謂南京條約の定款に基きて
五港の一となるや、英國此に專管居留地を設定せり。西紀一八五三年

長髮賊の亂に際し、該租界は精銳なる英軍及義勇兵の守備に賴りて、
城内在住支那人の避難所となり、殊に其の動亂の波及せる蘇州杭州各
地の富豪亦此處に居を移すに至り、頗に市街の發達を促進せり。加之、
佛米二國亦その英租界南北兩隣の地を經營するに及び、各國の商民續
續集し來れり。斯くて西紀一八六三年に於ける英米二租界の併合
(共同租界の制度に改め、英租界を中央區、美租界を北區と改稱す)は
又上海の發展上に與て力ありしものと云ふべく、爾來該市繁榮の趨勢
は漸次租界區域の狹隘を訴へ、竟に西紀一八九三年(光緒十九年)、共
同租界をその東西兩面に、法租界を西南面に擴張しつゝ、益々其經營の
歩武を進むるに至れり。

官公署 共同租界工部局(九江路)、附屬警察署十數箇所
あり。法租界工部局(法大馬路)、附屬警察署六箇所あり。共同
租界會審衙門(E2 北浙江路)、法租界會審衙門(法租界公館
領事館内)、上海居留民團(文海路)、滬海道尹公署(G4 靜安寺路)、交
涉署(同上)、上海地方審判廳(H6 城內黃家關路)、上海地方檢察
廳(H6 城內舊大東門内)、淞滬警察廳(同上)、江海關監廳(漢口上
海知縣署(城內西部)、稅關(G4 黃浦灘A)。
教會寺院 徐家滙天主堂 Zi-Ka-Wei Church (北四川路林家
花園)、洋涇濱天主堂 St. Joseph's Church (G4 法租界天
堂街)、虹口天主堂 Church of Sacred Heart (南淞路一二一號)、虹口救

主堂 Church of Our Saviour (百老匯路一二一號)、聖安得烈堂
Church of St. Andrew (百老匯路三一號)、聖公會 American
Church Mission (德路)、基督復臨安息日會 Seventh
Day Adventist Mission (文路吳淞路角)、大禮拜堂 Holy Trin-
ity Cathedral Church of England (G4 九江路一二一號)、官話
合會 Mandarin Union Church (河南路)、新天安堂 Un-
ion Church (蘇州路)、其他日本基督教會(北四川路)、東本
願寺(G2 武昌路)、西本願寺(文路三三號)、本願寺(南淞路一二一號)等。
學校 【邦人經營】東亞同文書院(徐家滙)、滬上青年會
夜學部(G2 武昌路)、上海商業學校(花園山)、上海女學校
(文路三三號)【外人經營】聖約翰大學 St. John's University
(文路三三號)、外人經營【聖約翰大學】聖約翰大學 St. John's University
(文路三三號)、震旦大學 Université d'Aurore
(文路五五號)、滬江大學 Shanghai Baptist College and
Theological Seminary (楊橋路)、哈佛大學 Harvard Me-
dical School for China (徐家滙)、英華書院 Anglo-Chine-
se School (滬子路九〇號)、中西女塾 McTear's High School
(E4 漢口路一二一號)、聖芳濟學校 St. Francis Xavier College
(文路南淞路角)。

圖書館博物館 洋文書院 Municipal Library (南京路)
 會) 天主堂藏書樓 Zi-Ka-Wei Library (滬家) 博物院
 藏書樓 Library of the Royal Asiatic Society (院博)
 五) 尙賢堂圖書館 Library of the International
 Institute of China (法租界) 廣文會圖書館 Library of
 the Christian Literature Society (北四) 滬上青年會圖
 書館(G2 滬上青) 亞細亞協會博物院 Museum of the
 Royal Asiatic Society (博物院) 徐家滙博物院 Zi-ka-wei
 Museum (滬家) 尙賢堂華品陳列場 Museum of the
 International Institute (法租界) 寶昌路)。
 新聞 【漢字新聞】 申報、新聞報、時報、神州日報、時
 事新報、商務日報、中華新報、亞細亞日報、華報、民信日
 報、民國日報、民意報。【邦文】 上海日報、上海日々新
 聞、週報「上海」。【英文】 字林西報 North China Daily
 News. 泰悟士報 Shanghai Times. 文滙報 Shanghai
 Mercury. 大陸報 China Press. 中華公論 The National
 Review. 遠東時論 Far Eastern Review. 【佛文】 中法
 新彙報 L'Echo de Chine. 【獨文】 獨華日報 Deu-

tsche Zeitung für China. 德文新報 Der Ostasiatische
 Loyd.
 病院 佐々木病院(繩子路一)、篠崎病院(文路二)、上海
 公濟病院(北蘇州路八號)、仁濟病院(山東路六號)、同仁病院(西華德路)、
 廣仁病院(愛文義路四號)、中國公立病院(北河路)。
 商業【貿易額】 上海の内外貿易は近來年毎に増進の趨
 勢を示し、前途愈々多望なるの感あり。即ち最近一九一七
 年度の貿易價額二億七千六百餘萬兩(輸出入額殆ど均衡
 を得て纔に四百萬兩内外の出超を示すのみ)にして、前年度に
 比し約三千六百萬兩の増進あり。又同年度支那各港の總
 貿易額約十二億五千萬兩なりしに比し上海の貿易額は其の
 約二割に當れり。但し右は上海の中繼價額を沿岸各港に分
 賦したる場合の計數にして、若し代ふるに諸外國との直接輸出
 入價額を以てせば上海の貿易年額は一躍四億兩以上を算し、
 實に支那全土貿易總價額の約四割を占むる割合なり。
 【輸出品】 輸出品は綿糸、綿布類を第一とし、その他
 阿片、石油、金屬類、砂糖、石炭、染料、材木、藥材、燐寸、
 紙類、海產物、諸雜貨等あり。又輸出品には生糸、柞蠶

糸、棉花、製茶、其他各種豆類、生卵、牛皮、羊毛等を主と
 す。而して此等内外貨物の一部は香港仲繼のものあれど、大
 多數は直接貿易に係るものなり。

商業機關 【商業會議所】 上海日本人實業協會(G2
 文路日本人) 上海貯蓄組合(文) 上海商務總會(F、北河
 俱樂部內) 【會館】 同郷の商賈全體を連絡して組織せるもの、寧
 波會館、徽州會館、潮州會館等。【公所】 同業組合として
 油麻、木材、茶、燭、玉器、杭綢等各業名を冠せるもの、概
 て縣城の内外に在り。

主要店舖 【外國商】 雜貨—福利公司 Hall & Holtz
 (G、南京路) 惠羅公司 Whiteaway, Laidlaw & Co.
 (南京路) 泰興公司 Lane, Crawford & Co. (南京路A)
 代理業—茂生 American Trading Co. (四川路) 瑞生
 Bucheister & Co. (寧波路) 天祥 Dodwell & Co. (川
 路四) 保衆火險公司 General accident, Fire and Life
 Assurance Corporation (北京路) 仁記 Gibb, Living-
 ston & Co. (仁記路) 老公茂 Ilbert & Co. (江西路) 公
 平 Probst, Hanbury & Co. (南京路) 老沙孫 Sassoon

& Co. (黃浦灘) 滙通 Wattie & Co. (廣東路) 貿易業—
 太古 Butterfield & Swire (法租界) 美最時 Melchers
 & Co. (法租界) 石油—亞細亞火油公司 Asiatic Pe-
 troleum Co. (九江路) 美孚 Standard Oil Co. of New
 York (廣東路) 材木—祥泰木行公司 China Import
 & Export Lumber Co. (九江路) 輸出入業—禪臣 Sie-
 nssen & Co. (黃浦灘) 書籍—別發 Kelly & Walsh
 (英租界) 普魯華 Brewer & Co. (南京路) 壁恒 Noessler
 & Co. (南京路) 絹織物—祥茂 Burkhill & Sons (九江路)
 怡和茶廠 Jardine, Matheson & Co. (成都路) 酒—正廣
 和 Caldwell, Macgregor & Co. (福州路) 車馬—龍飛
 Horse Bazaar & Motor Co. (靜安寺路) 機械類—怡大
 Samuel, Samuel & Co. (四川路) 煙草—大英烟公司
 British Cigarette Co. (博物院路) 藥劑—屈臣氏大藥房
 Watson & Co. (南京路) 貴金屬類—烏利文 Ullmann
 & Co. (南京路) 威林士 K. J. Williams Jaels & Co.
 (百老匯路) 【邦商】 安部洋行(砂糖、雜貨) 武林洋行(雜

貨、輸出業漢口路、大連商會紙、絹織物泗涇、古川公
司銅、石炭北京路、半田綿行棉、綿糸北蘇州路、茂木洋行
(輸出入業)九江路、三菱公司棉、石炭、礦物五五號、三井
物産會社輸出入業四川路、永井分行輸出入業洋涇濱路、
申桐洋行機械、雜貨北蘇州路、日清洋行綿糸四川、日華洋
行織物漢口路、大倉組材木、雜貨九江路一七、新利洋
行輸出業密勒路、高田商會機械類博物院路八號、東亞公司書
籍河南路、吉田洋行雜貨洋涇濱路、鈴木洋行砂糠、輸
出入洋涇濱路、清水組土木建築有恒路。

【支那商】 織物(緞子、綢、縐等)—大綸、裕綸、嘉綸、
老九章、老今福、天成(以上河南路)、綸嘉、景綸、鴻昌(以上南
京路)。
書籍—商務印書館(河南路)、其の他廣東製の象牙細工、黒紫
檀細工、陶器並に寧波製の木竹細工等を賣ぐ店に鴻昌、聯
和、和盛等あり。

【市場】 日用食料品賣買の市場なるもの共同租界に八箇
所、法租界内に三箇所、其の他小規模のもの數多あり。各
工部局の經營に係り、悉く小賣に從事する小商人集合して毎
日午前六時より正午迄開場す。就中共同租界内文監師路

及南京路に於ける二市場は其の規模最も大にして有名なり。
工業 上海に於ける工業の大規模なるものは其の種類未だ
多からず、現今最も盛大なるを綿糸及絹糸紡績業、造船業、
機械業とし、金巾製織、製粉、製煙及製紙等の各業之に亞け
り。而して此等各工場の所在地は概ね百老滙路、楊樹浦路
及蘇州河、虹口河一帶の地とす。

【綿糸紡績】 内外紡績(宜昌路)、鴻源紗廠(江東)、
上海紡績(楊樹六八號)、怡和(同四六)、三立新(同八七)、瑞
記(同三六)等—以上各工場使用の原料は之を上海附近、
通州及寧波より供給し、其製品の需用先は主として上海附
近なりとす。

【絹絲紡績】 上海製造絹絲紡績廠(極司非而路二八號)、信昌絲
廠(C2 租界外曹家渡三五號)、怡和絲廠(C3 成都路一四號)、瑞綸絲廠(密勒
路二五)、聚綸絲廠(文祿司)—以上の原料は蕪錫、湖州、紹興等の
養蠶地より購入するものにして、各工場の總製絲量は毎年約
八千擔乃至一萬二千擔に達すと云ふ。

【造船造機】 江南製造總局 Kiangnan Arsenal、江
南船塢機器廠 Kiangnan Dock & Engineering Works、

耶松船塢廠 Shanghai Dock and Engineering Co.
(本社百老滙路二六號)、同工廠(東浦)、瑞塔機器廠 New Engin-
eering & Shipbuilding Works(楊樹浦路三七號)、東鐵廠 East-
ern Iron Works。

【製粉】 福新工廠(莫干山路)、阜豐(麥根路一號)、華興(北蘇州路
五三號)。
其の他製紙には華章公司、龍章公司等、石鹼には祥盛、祥
和等、燐寸には榮昌公司、燐昌公司等の諸工場あり。

【農牧漁業】 【農業】 上海附近は廣漠たる沃野數十里に亘
り、沼澤湖川其の間に介在して灌溉の便頗る好良なり。耕地
は米田七分、畑地三分の割合にして、米田の後作には麥、菜
種、大豆、落花生等を栽培す。畑地には棉の培養甚だ盛なり。
米田の收穫量は地方に依りて多少の差あれども、平年に於ける
一畝(約我五分の三反)の粗量は上田三石乃至四石、中田
二石乃至三石、下田一石乃至二石、(但し一石は我約五
斗七升餘に當るとす)。

【牧畜】 未だ大規模の牧業を見るに至らず、僅に農家の副
業として牛、羊、山羊、豚、鶏、鶩等を飼育するのみ。尤も居留
外人の需要に供する爲、乳牛の飼養は比較的盛にして、内外



(頁六七三第) 圖 愚 海 上

人經營の搾乳場數十ヶ所あり。最多きは一箇所にて百頭を飼養せるあり。本邦人經營の愛光舎の如きも約六十頭の乳牛を有すと云ふ。食牛は安徽方面より輸入せられ一頭の價格二〇弗乃至四〇弗にして、其の肉は美味ならず。山羊は内外人一般の食用に供せられ、附近の田野に放牧せらるゝもの多し。一頭の價格一〇弗内外。羊は外人の需要を充すに足り、豚は農家に限らず支那街に在りては往々市中にて飼育す。一頭一五弗乃至二〇弗。鶏は産卵及食用の目的を以て農家一般に飼養し、産卵の如きは日本に輸出せらるゝもの尠からず。鵞は水路のある場所にては一家五、六十羽乃至數百羽を養ひ、其の産額亦大なりとす。

【漁業】 上海の近海は長江の濁流を受けて溷濁せる爲漁業には有望ならず。上海に出入する漁船の主要漁業區は浙江沿岸(寧波近海)とし、此にありては大刀魚、黃魚、烏賊、鯛、沙魚等を産す。又長江の淡水魚には鯉、時魚、鰻魚、鰻等あり、就中時魚及鰻魚は頗る美味にして、内外人の嗜好に適す。

汽船會社 上海は外洋、近海乃至長江、内河諸航路の集中する處、隨て各種汽船運航業者の此に店舗或は代理店

を設くるもの多し、而して乗船碼頭は各其の航路に依り黃浦灘一帶より浦東方面に亙りて點在せり。左に主なる當業者を摘示すべし。

日本郵船會社支店(H 2 北揚子路三號)、東洋汽船會社(英租界九江路)、大阪商船會社(G 4 黃浦灘五號)、日清汽船會社(G 4 同上)、大英公司行 P. & O. S. N. Co. (G 3 黃浦灘二四號)、大法國火輪船公司 M. M. Co. (法租界黃浦灘九號)、昌興火輪船公司 Cana-dian Pacific Ocean Service (北京路及圓明園路の角)、支那航業 China Navigation Co. 代理店(H 4 5 法租界黃浦灘)、印度支那航業 Indo-China S. N. Co. 代理店(英租界黃浦灘)、輪船招商總局(英租界福州路)、同上航業事務所(G 4 英租界黃浦灘)、南滿鐵道船務(黃浦灘一號)、鴻安 Geddés & Co. (北京路五號)、開灤礦務局(仁記路一號)、通濟隆 Thomas Cook & Sons (福州路一二三號)。

娛樂場【劇場】ライシヤム・シヤター Lyceum Theatre (博物院)、上海唯一の西洋劇場にして、觀客優に七百人を容るゝに足る。演舞場(文) 敷島俱樂部(吳淞路)、以上は日本人の經營に係る。迎仙新々舞臺(E 4 九江路)、丹桂第一舞臺(福州路)、新舞臺(城內九路)、大舞臺(漢口路)、民鳴新劇社(浙江路)。

妙舞臺(南市十路六號)、朝陽鳳舞臺(法租界公館馬路)、丹鳳舞臺(南市十路六號)、以上支那人經營。【活動寫眞】東和活動寫眞館(G 2 武昌路)、ヴィクトリア・ホール Victoria Hall (海寧路)、アポロ・シヤター Appollo Theatre (北四川路)、虹口「ギネ」(乍浦路)、愛倫活動寫眞館(海寧路)。

【競馬場】競馬場 Public Recreation Ground (E 4 靜安寺路、泥城橋路)。

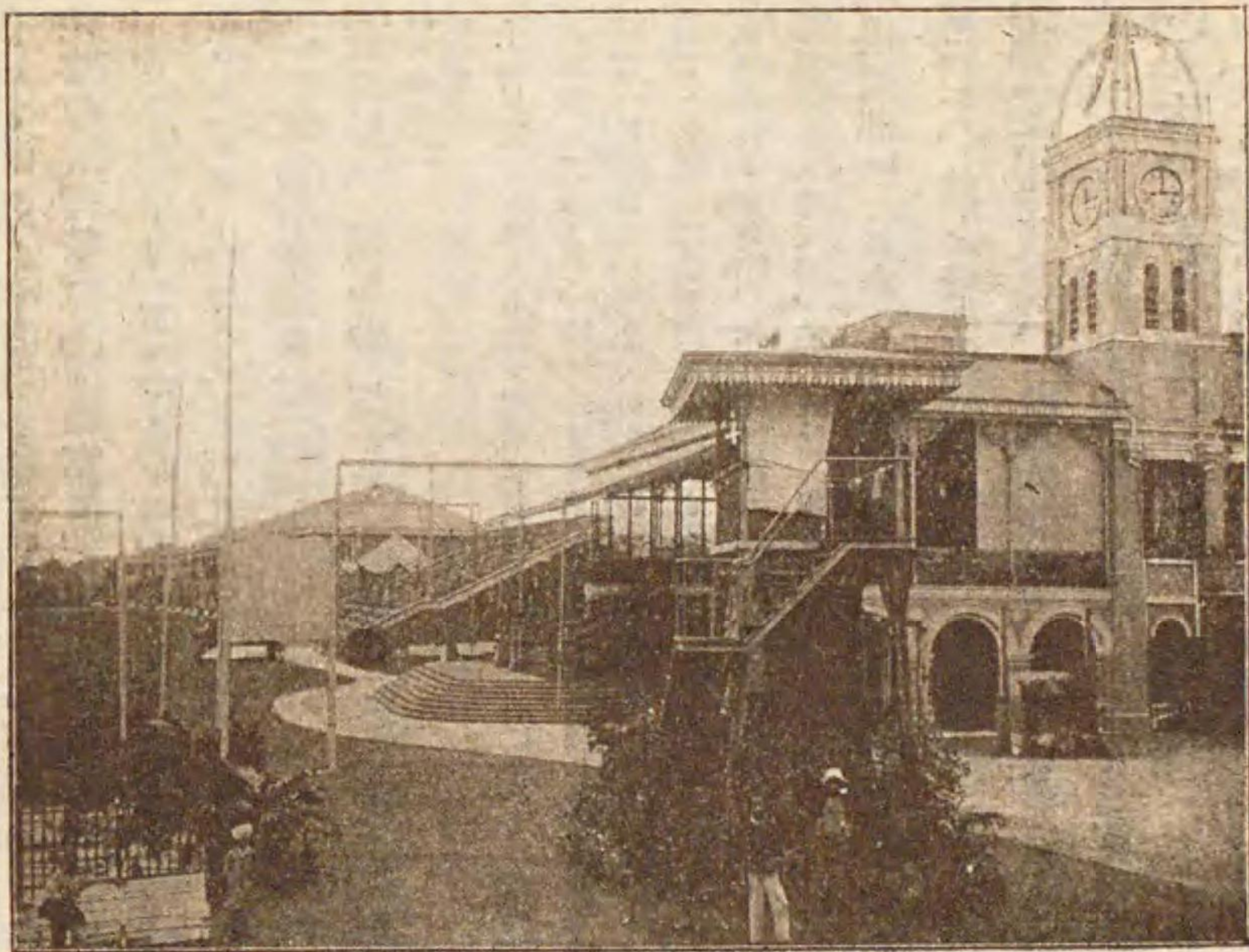
上海に於ける外人の最大娛樂は競馬を描きて他になし。其日取りは毎年春秋の二季とし、春季は五月第一日曜日より四日間、秋季は十一月の第一日曜日より四日間なり、兩季とも第四日目は木金曜の中日を隔て、土曜日に選手競走を行ふ。其四日間は上海の外國商館及日本の重立ちたる會社悉く休業す。外人の熱狂思半ばに過ぐるものあり。入場料は外人席五弗、支那人席一弗とす。

【俱樂部】 日本人俱樂部(G 2 美租界文路)、規模宏壯なる四階建にして、階下は球戲場、バア、二階食堂、三階演劇場、四階寄宿室等に分ち、日本人相互間唯一の社交及娛樂機關として利用せらる。其の他には正濱會 Catholic Circle (南濠路二號)、大德總會 Club Concordia (黃浦灘二二號)、Country Club (E 5 靜安寺路)、新關總會 Customs Club (乍浦路八九號)、大

副總會 Merchant Service Club (北蘇州路六號)、Paper Hunt Club (競馬場內)、Race Club (E 5 競馬場內)、Recreation Club (同上)、Rowing Club (蘇州路二號)、上海俱樂部 Shanghai Club (黃浦灘三號)、跑馬城內拋球場 Shanghai Cricket Club (安靜寺路競馬場內)、Shanghai Golf Club (虹口公園)、Shanghai Min-ature Rifle Club (徐家匯路)、Shanghai Revolver Club (同上)、Shanghai Rugby Football Club (四川路三三一四)、Shanghai Yacht Club (北京路碼頭)、瑞士國洋鎗打靶會 Swiss Rifle Club (漢口路)等。

公園【公家花園】Public Garden (G 2)、蘇州河の黃浦江に合する所、右岸に三角形をなして突出す。在留外人専用の公園にして中央に綠彩の音樂堂あり、夏時新公園と隔日に夕刻奏演する例にして晚涼を逐ふに適す。又四周には芝生、花壇、噴水、紀念碑等を設けて頗る遊目を娛しましむ。附近江岸一帶は旅館領事館等の宏壯なる建物半空に聳え、對岸に浦東を望み、南方迥に十六鋪に林立せる船橋を認むる等最も眺望風致に富む。

【新公園】New Garden 白渡橋 Garden Bridge 460



(頁五七三) 場馬競海上

二哩¹/₄、北河南路或は北四川路を一直北行して達すべし。是れ亦外人専用の公園にして、其の廣表は上海公園中第一とす。花壇、芝生、池、音樂堂の設備あり。又四時外人のクリケット及野球のグラウンドに使用せらる。

【虹口花園】 Baby Garden (G2)、文監師路と乍浦路の交角に在り。専ら外人兒童の遊歩場に供せらる。

【共同公園】 Public Garden 法租界呂班路の右側に在り。諸設備の完成せること公家花園に劣らず。是れ亦外人專屬の公園なりとす。

【六三園】 新公園の西方寶山路に在り、六三亭主人白石六三郎の經營に係る。日本式の花園にして、園内に櫻樹多く、泉水、芝生等竝に滬上神社あり。又園内に茶席の設けありて宴會又は會席料理の需に應ず。

【張園】 (C5) 靜安寺路に在り。張氏の園にして園内に一高樓あり、茶を點じ酒を命ずべし。隨て此に外人及支那人の妓を伴ひ車馬を驅るもの頗る多し。又夏期夜間には支那煙花の餘興等ありて雜踏を極む。

【愚園】 (A5) 靜安寺路の西端に在り。純支那式花園

にして之を東西に分ち東に臺榭、西に花園あり。園の中央に敦

雅堂あり、東西の珍器を以て裝飾し頗る雅致に富む。又遊客を待ちて茶を點じ酒を售り、以て一夕の快を盡さしむるもの、飛雲樓、湖心亭、鴛鴦廳、倚翠軒等尤も名あり。園は市塵を離る、こと遠く、而も電車軌道に臨みて往來容易なり。張園と並びて上海の二名園と稱せらる。入場料十仙。

【徐園】 老圃の北、康惱脫路五號に在り。一に雙清別墅と稱す。規模稍小なれども榭亭優雅、花木清幽、以て夏日消暑に好適なり。又春季に蘭花會、秋季に菊花會を開催して頗る觀るべきものあり。

【常勝軍記念碑】 公家花園の西門附近にあり。是れ道光年間長髮賊征討の際陣歿せる外國將校の記念碑にして、彼の李鴻章が曾て江蘇巡撫たりし時建設せるもの。

【イルチス號遭難記念碑】 (G3) 黃浦灘路に在り。西紀一八九六年八月二十三日、上海近海に於て颶風の爲め難破せし獨逸砲艦の記念碑にして、當時其の乗組員中七十七人を不歸の客たらしめたりと云ふ。碑は風折せる橋を模造せるもの、其の景情眞を寫し得て轉々慘憺、觀る者をして感慨

之を久しうせしむ。

【湖心亭】 (G5) 上海縣城新北門内に在り。湖心亭は池の中の一茶館にして、石柱上に建てる層樓なり。その破風造の技工頗る精妙を極む。亭に至るには之字形に曲折せる木橋を渡る、雅觀宛ら畫圖に似たるものあり。又其の池の附近は城内隨一の歡樂境として知られ、茶館、骨董店等簷を連ね、午下殊に黃昏の頃には殆ど肩摩轂擊の賑を呈す。

【龍華寺】 城南約六哩に在り。寺は吳の赤烏五年の建立に係り、爾後屢々兵火に罹りて幾變遷せしも、今尙莊嚴なる古刹なり。門前に七層の塔あり、是れ即ち幾代の兵火を免れたる古塔にして、結構頗る幽雅、而かも其の附近一帶の桃林と相俟ちて、陽春四月の候著しく江南の風光を浮立たしめ、滿都の士女をして狂醉せしむるも宜なり。同季節には滬杭鐵路上海

南站(日9)より臨時列車を仕立て、觀桃の便に資す。

靜安寺チヤンアンシー(A6) 靜安寺路の西端に在り。吳の赤烏年間チヤンアンの創建に係り重圓寺と稱せしもの、宋代に至り今の名に改む。寺前に一泉あり、晝夜沸々湧出して息ます。斯くて乾隆四十三年、此に石を鑿み亭を築きて運天湧泉と名けしも、今や亭は頽廢に歸し、纔に石欄を以て之を護れるを見るのみ。

李文忠公祠 法租界寶昌路の西端に位す。清國近世の偉人李鴻章少筮の祠なり。蓋し此の地は氏が長髮賊征討の際一時駐營せし緣故に基くものにして、氏の門下の士及招商電報二局の士等力を致し、此に建てたる銅像は獨逸エツセンなるクルツプ廠の製造に係り、李氏の遺族に贈れるものなり。境内亭あり、又假山、池塘を設けて夏時の清遊に適す。

【李鴻章】 字は少筮又漸甫と稱す。道光三年安徽省合肥縣に生れ、二十五歳にして進士に及第す。道光三十年(西紀一八五〇年)長髮賊の動亂起りて上海亦其餘殃を被るや、同治元年(西紀一八六二年)氏は江蘇省巡撫を拜して任に上海に赴き、米人ワードと共に常勝軍を指揮して大に賊と戦ひ、ワード戦死するに及び、英國大佐ゴルドンの助勢を得て遂に之を平定し、越て九年に至り天津の暴徒起るや氏は直隸總督として管下の治平に努め、爾來二十餘年間絶えず外國使臣と相接

して多く籌畫經營する所あり。乃ち世界的智識を有する政治家として外人に認知せられ、一旦總理衙門に入るや清國の外交は常に氏に依て折衝せらるゝに至れり。國歩の艱難に處し、外列強の壓迫に耐へ、内頭迷陋固の國民を綏撫して能く清國全土の平和を維持し、主權を失墜せしめざりし功は實に偉なりと云ふべし。直隸總督北洋大臣、内閣大學士を以て光緒二十七年(西紀一九〇一年一月七日)薨す。享年七十九。朝廷特に侯爵を贈り、文忠と諡し國葬を賜へり。

徐家滙天主堂 滬杭甬鐵路の徐家滙車站(上海北七哩七)附近に在り、黃浦灘路より市内電車の便あり。明の神宗萬曆年間(十六世紀後半)土豪徐氏の創建になる。徐氏は夙に加特力教に歸依すること篤く、其の財産及土地を寄附し、熱心に教義を傳へて其の感化大なるものありき。然るに西紀一七二二年清の雍正年間教徒迫害の事ありて以來一時殆ど其の跡を滅せしが、後、西紀一八四〇年再び熱心なる宣教師之が傳道に盡瘁せしより遂に今日の盛大を見るに到れり。

【天文臺】 天主堂内に在り。同治十一年の創設に係り、光緒二十七年復之を建つ。新臺は舊臺の西に在り、現今觀象臺と稱するもの即ち是れ也。此の天文臺は毎日世界各地の天文臺及氣象臺約六十個所と通信して、東亞一帶の氣象

報告を掌れり。又法租界江岸通に設くる上海正午の報時信號も同天文臺の所管たり。

【孤兒院】 同じく天主堂に屬す。男女約二百人を收容すべく、嚴正なる學校教育を施せり。就中其工藝部の如きは大に見るべき設備あり。その他繪畫室、印刷場、音樂室等を有す。其他天主堂所屬のものとして、徐家滙博物院及天主堂藏書樓等著名なりとす。

吳淞 Woo-sung

【到著】 滬寧鐵路吳淞支線に由り、上海北站を發すれば一望際涯なき田園の間を過り、途中江灣 キヤンワン (三哩四六)、張華浜 チヤンフアルバシ Chang-wat-pang (七哩三九)、蕪藻浜 ワンアオバシ Wan-isao-pang (八哩七五)、吳淞鎮 ウンスウツヒク Woo-sung-town (九哩四九) の諸站を経て吳淞砲臺 ウンスウツヒク Woo-sung Forts (一〇哩一九) に到る。行程約三十五分、毎日九回の列車便あり。

吳淞は戸數僅に三百を算する一小市街に過ぎざるも、由來此の地は黃浦江の咽喉を扼し、遠洋航行汽船の碇泊地たるを以て其の名夙に著はる。而して之を開放して諸外國との通商を營むに至りし以來、曾て沙灘たりし沿岸一帯の地には新市街の

基礎工事を完成し、車道及排水等の施設を整備し、漸次發展の域に向へり。上海稅關出張所、大北電信會社出張所並に吳淞ホテル(隨時歐風小料理の需に應ず)等あり。

【燈臺附近】 阿片戦役の舊跡にして、當時泥土を堆積して之に白色の石灰を撒被し、遠く之を望めば恰も百萬の精銳屯集せりとも見らるべき天幕に擬したりと云ふ。清將軍當年の奇計を偲ぶべき土壘の殘址を見る。

【寶山】 吳淞新砲臺附近より長江の水患に備へたる堤防上を北西に進むと約一時間、途中濁流滔々たる長江及曠望千里なる江南の沃野を眺めつ、寶山に達す。此に吳淞主營廳あり。又城内には構築の古雅なる門樓及牌樓あり。

崇明島 Tsung-ming-tan 揚子江口に横はる一島にして江流之によりて南北の二流に分たれ、此に所謂三稜洲を形成せり。長約四十哩、幅員五哩乃至十哩、人口約二十萬を算す。崇明縣衙門あり。又棉花は此島第一の産物として聞ゆ。

【沿革】 崇明島は其初五代の頃(十世紀)既に崇明鎮を置きしが、南宋(十二世紀當初)に至りて天賜鹽場を設け、元代(十二世紀末葉)昇して崇明州と爲し、明代縣に改め、清朝之を襲ひ以て今日に追べり。

途路 35 上海杭州寧波間 (滬杭甬線)

附紹興

滬杭甬鐵路は借款官辦組織に係る廣軌式鐵道にして、本線は上海北站を起點とし杭州車站(清泰門)を経て開口車站に至る一二哩六及寧波に起りて曹娥江車站に達する四八哩三(曹娥江、杭州間)なり。その外上海に近き新龍華站より分岐して上海南站に至る四哩四の支線及良山門站(杭州城外)より分岐して拱宸橋站に至る所謂江墅支線三哩五あり。

【列車便】 上海北站(及南站)開口間一兩端より急行列車(五時間餘)毎日一回、直通列車(六時間半乃至八時間)三回、上海南站嘉興間及嘉興開口間に各二回宛の區間列車あり、但上海南站發列車は新龍華站に於て本線列車と聯結せられ、復路又同站より分離して南站に歸著するものとす。寧波曹娥江間一直通車(二時間半乃至三時間)毎日一回、拱宸橋開口間一前記以外に該區間運轉列車毎日三回あり。

【旅客賃金】 上海北站杭州間一等五弗一〇(急行)、上海南站杭州間一等四弗七〇、上海北站嘉興間一等二弗九〇、嘉興杭州間二弗七〇、二等料金は各一等の半額。寧波曹娥江間一等二弗、二等一弗、拱宸橋開口間一等五〇仙、二等二五仙。【手荷物】無賃制限量は一等二〇〇

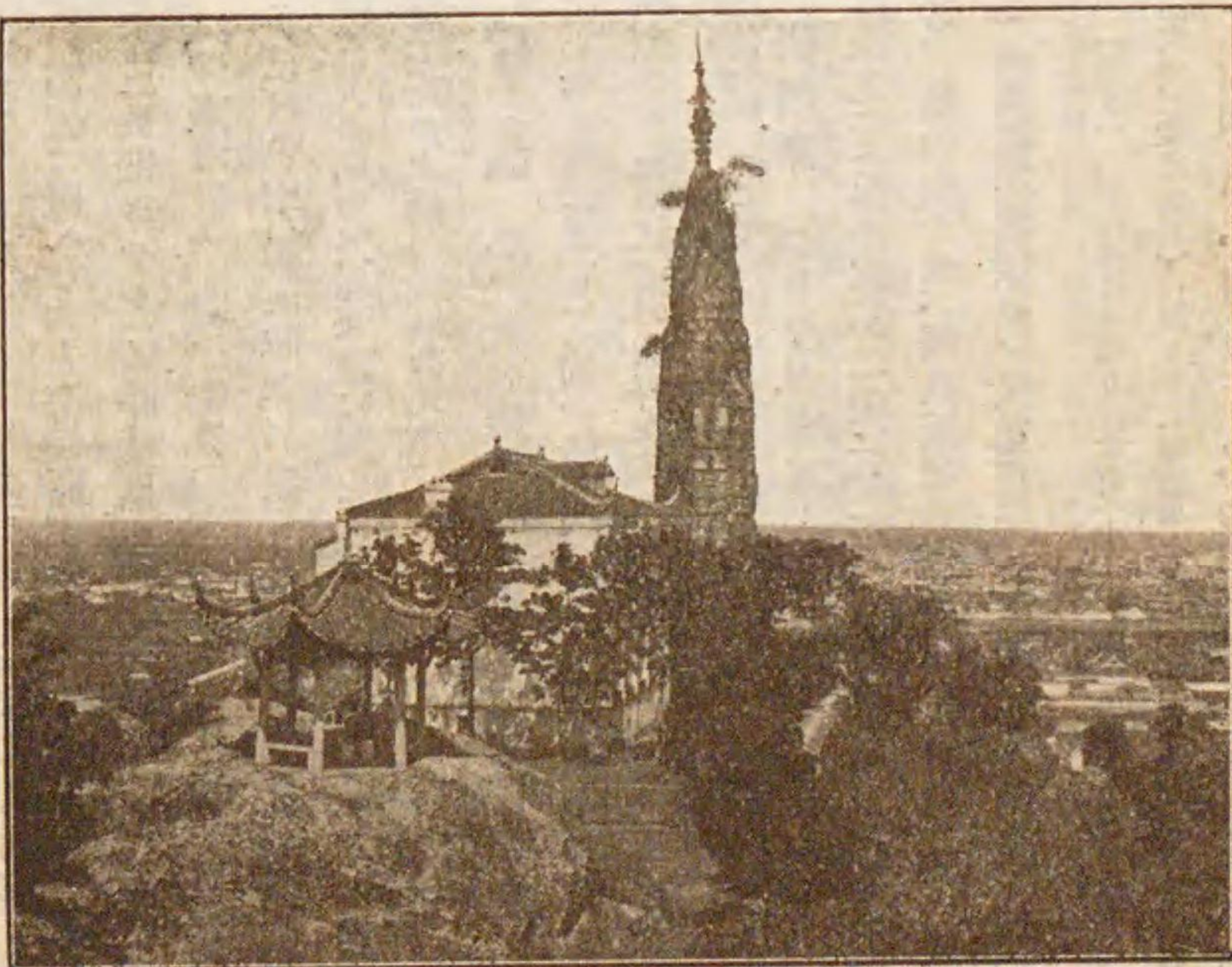
斤、二等一五〇斤、超過斤量一〇〇斤毎に二哩一仙。

【沿革】 滬杭甬鐵路は光緒二十四年(西紀一八九八年)英商怡和洋行が中國鐵路總公司督辦大臣盛宣懷と假契約を結び、蘇州寧波間の鐵道敷設權を得たるに始まり、其の後官民中に利權回收問題起り、多少の曲折を経たるも、一九〇八年中途に本契約の締結を見るに至り、起點蘇州を上海に改め滬杭甬線と稱したり。而して支那政府は鐵道管理權を掌握し、其の經營を蘇路公司及浙路公司に委託したり。斯くて蘇路公司は五百萬兩を以て上海嘉興間を、浙路公司は八百五十萬兩を以て開口嘉興間の敷設に従事し、一九一〇年上海杭州間の全通を見、輓近國有線に編入せらる。又杭州寧波間は浙路公司の手に依り目下寧波より曹娥江迄開通し、漸次杭州迄延長せらる、ものなり。

上海杭州間

沿途概観 本線の通過する處は大部分浙江の沃野にして、渺茫として際涯なき水田の間、左方纔に數個の山影點々たるを望む外特筆すべき景致に乏しきも、沿途到處水利縱横に通じ棉花、大豆、桑等の耕圃水田の間に點在し、村落、都邑悉く豊裕の色あり。沿線中松江及嘉興の二府城は一顧の價値あり。

上海北站 Shanghai North 滬寧線、滬杭甬線及吳



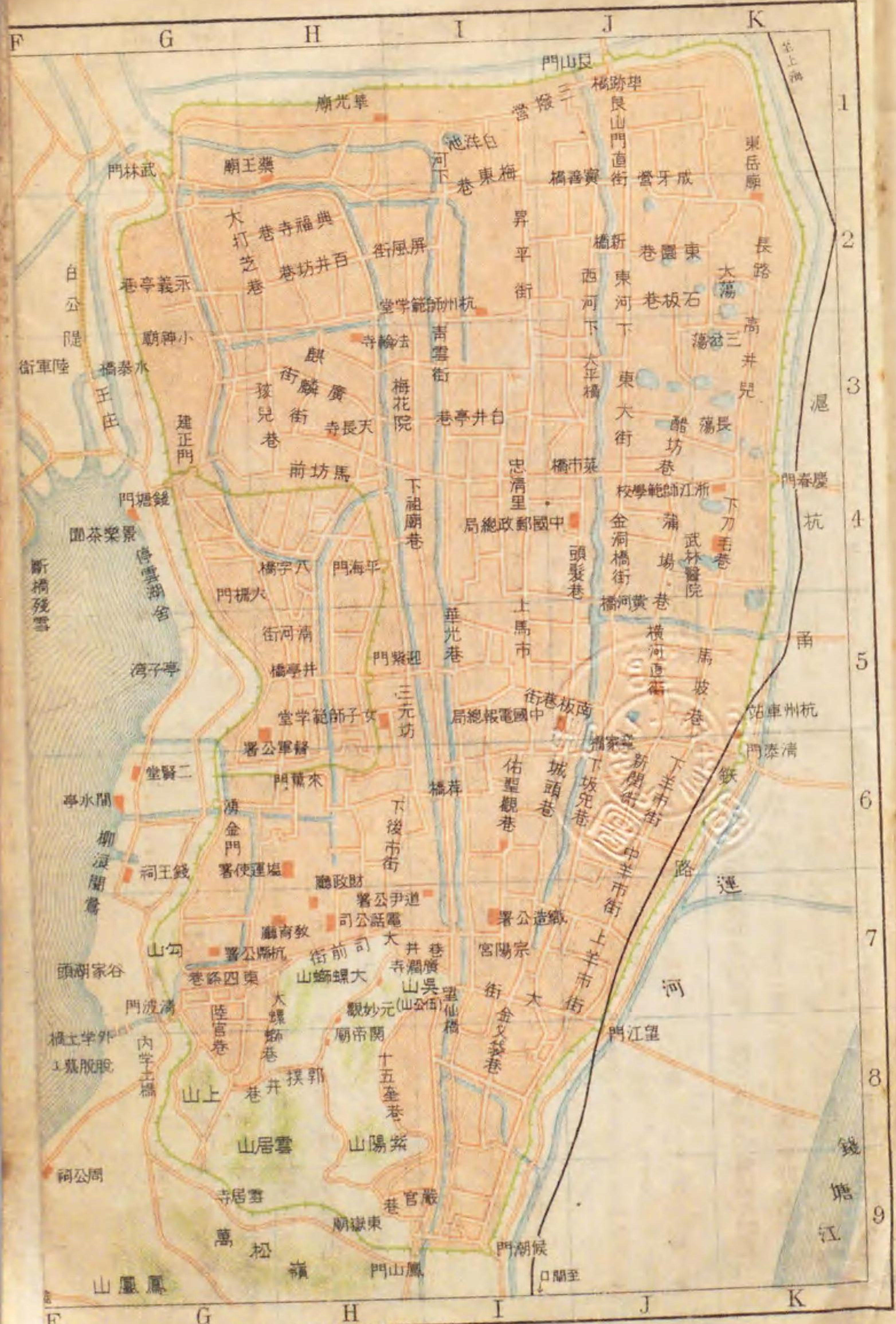
寶叔塔と杭州城内

淞支線の連絡驛なり。當站を出て蘇州河及上海市街を左窓に望みつ、滬寧線の第二次驛眞茹站(北站より約五)の稍々手前より分岐して西南に進み、梵王渡 Jessfield (五哩七) 以下皆率之、徐家匯 Sic-ca-wei (七哩) 第三七八頁參照)の小驛を過ぐれば新龍華站なり。

新龍華 Lung-hwa Junction (北站より一〇哩一) 上海北站及南站的連絡驛にして、兩端發の列車は當站にて二聯結編成を爲して杭州に向ひ、又杭州よりの列車は此に於て二分せられて兩站に向ふを例とす。杭州方面よりの旅客にして上海北站に下車せんとする者は前部、南站に至らんと欲する者は後部に乗車するを要す。

新龍華と上海南站との中間には龍華 Lung-hwa (二哩) あり、桃花及龍華寺(第三七七頁參照)を以て其名著はる。新龍華より更に西南走し梅家街 Mei-kai-lung (三哩) 莘 莊 Hsin-chuang (一哩) 新橋 Hsin-chiao (一〇哩七) 及明星橋 Ming-hsin-chiao (一哩一) の諸小驛を過ぐれば松江なり。

滬杭甬線

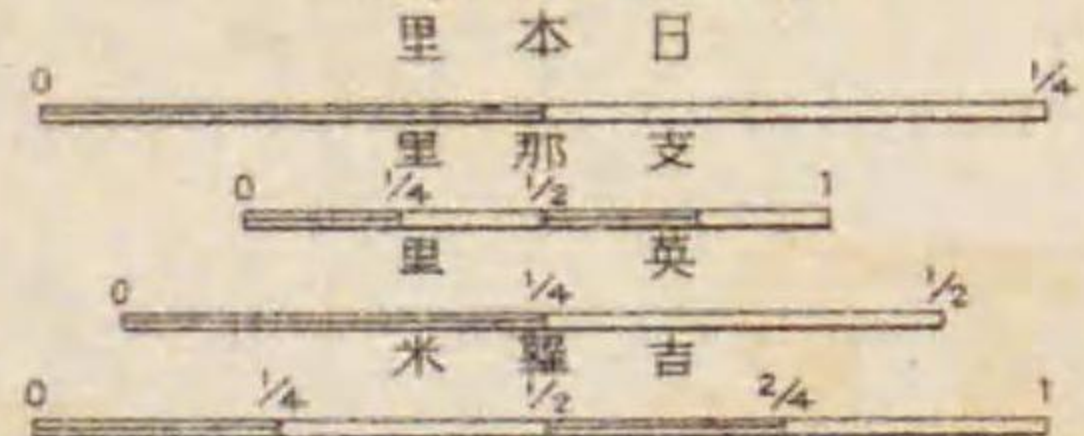


松江 ソウキヤス Sung-kiang (八哩) 旅館—大陸、高悦來、品陞、大通) 松江縣の所在地にして、車站は縣城の南門外に在り。人口約五萬を有し縣知事公署、中學堂、郵政局、電報局等あり。物産は米穀、棉花を大宗とし、蠶桑及染色の業盛にして、魚族中松江鱸最も名高し。此地亦水路四通八達し、上海及平湖へは汽艇、蘇州、杭州、嘉興等へは民船を通ず。
【余山】 車站の西北約七哩に在り、高八〇〇尺、周圍十六哩、梅花の名所にして山上には有名なる天文臺あり、その觀天鏡は徐家滙天文臺(第三七八頁參照)より移したるものなりと。その他耶蘇一代記碑石及靈像等あり風光明媚なり。
 松江より石湖蕩 シーホウタス Shih-hu-tang (三四哩) を經て楓涇 フオスチヌ Fung-ching (四五哩) に至れば、地は松江、嘉善兩縣の交界にして、即ち又蘇、浙の省界たり。次で到る嘉善 カシヤイ Kai-shai (五〇哩) は同名縣の首邑にして、夫れより運河の北岸に沿うて南走すれば聽て嘉興に達す。
嘉興 カシス Kai-shing (六二哩) 旅館—寄園、寶和、嘉泰、嘉發) 嘉興縣の所在地にして車站は其の東廓外に在り。此地は春秋に楊李、秦に由拳と稱せし處、大運河の水運を擁し本區

間に於ける水陸兩面の要衝を占む。人口約六萬を有し、城外には大賈巨商櫛比し商況殷盛なり。城の東門外には小輪船碼頭及民船碼頭ありて貨客常に輻輳し、河上民船の往來頻繁なり。物産の主なるものは繭、米穀、菓子、銅器等にして、近くは杭州、蘇州、湖州方面に、遠くは陝石を經て海寧に出で更に錢塘江を介して浙江上游各地に移出せらる。その他當地の名産として鶏、鴨及皮蛋を擧ぐべし。皮蛋は支那料理に缺くべからざる珍味にして、此地産のものは品質の優良を以て知らる。
【南湖】 ナンウ 車站の南方約半哩に在り、湖上鴛鴦多きを以て俗に鴛鴦湖とも稱す。湖中恰も浮ぶが如き一孤島存し、島上に煙雨樓あり風致清麗、眺望絶佳なり。
【皮蛋】 ピタン 其の製法は石灰、粘土、食鹽及通常の灰とを糲穀に混和したるものを新鮮なる鴨蛋の外面に塗布、密閉して之を保存すれば蛋黃は自然に綠色に變し、尚ほ保存久しきに及べばその色漸次黝色を帯び益々風味を加ふるに至ると。
 嘉興より前途線路は南折して暫く運河の流域を離れ、小驛王店 ワスチエン Wang-tien (七哩) を連ねて海寧縣境に入り、破石 シヤチアオ Yeh-zah (七哩) に至り、更に西南走して斜橋 シヤチアオ Chia-chiao (八哩) 周王廟 チウワスヤオ Chow-wang-miao (九哩) の

杭州

縮尺三萬分之一



二驛を過ぐ。周王廟站の南方約五哩に海寧縣城在り、水陸共に交通至便なり。次で復大運河と相會し、之を渡れば長安 Chang-an (長安) に上り、更に許村 Shu-chung 村に至る。

上、湖濱旅館 Woo-ping Hotel (上) 宿泊料以上

【支那旅館】 滬杭、寧紹、大通、華興、迎賓、五和、武林、正泰、泰豐、望江、清泰第一館—以上孰れも城内に在り。清華、湖山、惠中、清泰第二館—以上孰れも湖濱に在り。

【支那料理店】 聚豐園(城内大)、共和春(橋直街)、四如館(車站附)、一枝春(上)、第一春(拱宸橋大馬路)。

領事館 日本帝國領事館(E3 鐘塘門外、寶石山麓)、英國領事館(拱宸橋日本租界對岸)。

郵便電信 日本郵便局(拱宸橋日本租界對岸)、中國郵政總局(車站附)、同分局(城内大)、同分局(碼頭附近)、中國電報總局(城内大)、同分局(頭附近)、電話公司(城内華)、電話零售處(公衆電話)城内外十餘個所。

市街概観 杭州は有名なる大運河(第三五四頁参照)の南端に位置し、浙江省の首府にして人口三十五萬餘を算する大都會なり。市街は城内及城外(湖墅)の二區に分れ、鐵路の外水路亦至便にして、府城の西郊に接する西湖の明媚なる風光は此地を以て支那の「瑞西」と稱せしむる亦故なきにあらず。物産の主なるものは絹絲及茶とす。

【府城】 南北に廣く東西に狭き不整長方形の磚壁を繞らし、慶春、清泰、望江、候潮(以上東面)、鳳山(南面)、清波、湧金、錢塘、武林(以上西面)、艮山(北面)の十門を開き、別に數個の水門ありて運河及西湖の水を通じ以て城内外に水利を馳す。又城の南隅には吳山、雲居山、紫陽山等丘崗蟠まり、其の西斜面は直に西湖の岸に接す。城内は之を三區に分ち、最南部を上城、中央部を中城、北部を下城と稱し、上城最も殷賑にして人家稠密し、諸官衙、大賈巨商等多く此に蟠まる。中城、下城之に亞ぐも、下城は寧ろ寂寥の感あり。

【湖墅】 府城武林門外約二哩、大運河の最南端に接する拱宸橋所在一帯地の稱にして、馬關條約に基き蘇州と共に開港せし處、此地と蘇州及上海間に往來する大小船舶の通航頻繁なり。運河の東西兩岸に沿へる支那市街は頗る殷盛にして、その北隣に各國租界及日本租界在り。各國租界の馬路は街衢整然、茶館、劇場、西洋雜貨店等多く、杭州新關及日清汽船碼頭亦此に在り。拱宸橋車站(艮山門站との間に毎日三回の列車便あり)より各國租界及碼頭迄は五、

六町なり。

【沿革】 禹貢の揚州、春秋の越國、隋唐の杭州餘杭郡、吳越の首都西府にして、南宋亦此に都して京師臨安府と稱へ久しくその國都たりしが、元に至りて杭州路と改め、明清之に倣ふて杭州府を置き現に浙江の省城たり。往昔マルコ、ポロ此地に遊び、景勝宮殿の莊麗世界に冠たりと贊嘆し、支那人亦「上有天堂、下有蘇杭」と其美を謳歌したる處、咸豐十一年以降四年間髮匪の亂により兵燹を蒙ること數次、今や舊觀完からずと雖、晚近鐵道の開通以來漸次繁榮に赴きつゝあり。

- 官公署 督軍公署(梅花)、省長公署(蒲場)、錢塘道尹署(同)、財政廳(同)、實業廳(柴木)、教育廳(古路)、高等審判廳(法院)、高等檢察廳(上)、地方審判廳(上)、地方檢察廳(上)、鹽運使署(金衙)、杭關監督署(蒲場)、省會警察廳(太平)、水上警察廳(蒲場)、交涉使公署(馬市)、杭縣公署(旗營迎)、菸酒公賣局(板兒)、印花稅處(郭通)、總商會(保坊)。

銀行 中國銀行(城内清)、交通銀行、浙江實業銀行(城内太平)、浙江興業銀行(上)、殖邊銀行、浙江商業銀行等。此外錢莊の主なるものを擧ぐれば晉泰、泰生、惟康、開泰、信昌等。會社商舖 【外商】 亞細亞火油公司、英美煙公司、永

年人壽保險公司、美孚洋行。【邦商】 大東藥房、丸三藥房。【支那商】 綢莊(絹織物)一悅昌文記、宋春源、馥記、崔震記、袁震和、金源泰、恒豐、瑞雲公記、吉祥恒。絹絲行—周泰興、東勝和、蔡興德、聚和。茶行—翁隆盛。扇子行—舒蓮記。雜貨行—天泰、文泰、益新、義泰祥、義順。以上孰れも城内に在り。

商業機關 商務總會(城内)、綢業公所(忠清)、絲業公所(長山門)、布業公所(柳翠)、衣業公所(上)、錢業公所(上)、藥業公所(望仙)、米業公所、肉業公所、洋貨公所等。貿易 當地最近一個年(一九一七年度)の貿易總額は二千百萬餘兩にして、輸出品としては生絲、絹織物、茶、扇子、藥材等、輸入に在りては綿絲布、石鹼、砂糖、銅、鐵、石油等をその主なるものとす。

工場 緯成公司、振新公司、日新公司、又新公司、虎林公司(邦人經營)、文記織綢廠、慶記織綢公司、天章織綢廠等—以上は絹織物工場。華利、廣生、平民工廠、六和、愛工布廠等—以上綿織物工場。當地工業の重鎮は前記の絹織物にして其品質佳良且強韌なるを以て其名著はる。

學校病院等

【學校】 浙江師範學校 (K 4 慶春門内)、女子師範學校 (H 5 三坊)、公立工業學堂、公立醫學堂、法政專門學校等の他外人經營の之江大學校、廣濟醫學堂、蕙蘭學堂等あり。【病院】 陸軍衛戍病院 (E 3 錢塘門外)、蕙慶醫院 (城内大)、浙江病院 (城内運、司橋下)、惠民醫院 (同上羊)、武林醫院 (J 4 同菴、場巷)、杭州大英教會廣濟醫院 (城内大) 等。

【寺廟】 夕照寺 (E 9)、圓覺寺 (F 9)、雲居寺 (G 9)、廣潤寺 (H 7)、雲林寺 (A 7)、鳳林寺 (D 4)、天長寺 (H 3)、法輪寺 (H 1)、藥王廟 (H 1)、東嶽廟 (H 9)、關帝廟 (H 8)、玄妙觀 (H 7) 等。

錢塘江の水運 錢塘江は二の水源を有す、即ち一は安徽省徽州に發し、徽江又は新安江と稱し、他は浙江省衢州府に起りて蘭港と唱へ、二者嚴州府に至りて相會し東北流して桐廬、富陽、杭州を經、府城の下流二十里にして錢塘灣に注ぐ。

杭州より下流は河水淺く、加ふるに潮嘯の危險を伴ふを以て通航の便に乏しきも、府城候潮門外江干より上流桐廬に至る間 (五〇餘里) には錢江輪船公司の小蒸汽船便あり、更に桐廬、蘭溪間 (約五里) には同公司の經營に係る駁船 (特殊構造) ありて



平湖秋月 (頁九八三)

貨客の輸送に任ぜり。民船の通航區域は極めて廣く一方徽州府他方常山縣迄通航するを得べし。

【潮嘯】 錢塘江の潮嘯はその現象極めて顯著なるを以て知らる。毎日上潮時に當り潮水上騰して江を瀾り流下する水勢と衝突すれば奔激一番、前途に一條の水壁を築き、白沫奔騰江岸を嘯み轟音雷の如し。白壁の高八尺乃至十一呎、速力は一時間十二、三里に及び其餘勢は遙に上流五〇里餘の桐廬に及ぶ。而して潮嘯の進行中船舶の航行不可能なるは勿論なるが、其の後と雖二時間餘は小船の航行危険なり。江岸には民船の爲避難所の設備あり。

吳山 (H I 7) 上城中央部に在り一名城隍山と稱す。曾て明の太祖が「提岳百萬西湖上、立馬吳山第一峰」と賦せし處、西湖の幽景、府城の盛觀を脚下に俯瞰し、北に江南萬頃の沃野、南に錢塘灣、錢塘江及江を越えて遠く紹興の山嶺を望むべし。山頂に大觀臺あり、錢塘江の潮嘯を觀るに佳し。山上又關帝廟、城隍廟、廣潤寺、玄妙觀、雲居寺等の寺廟多し。

西湖概観 杭州城の西背面を洗ふ湖水にして、四周連巒を繞らし湖上及湖畔には幾多の名勝、寺觀あり好個の遊覽地たり。支那の文人、墨客は古來或は十景を賦し、或は三十六

名蹟を擧げ、或は七十二勝を數へて其の勝景を賞する又故なきにあらず。蘇州太湖の雄大無しと雖、蒼翠參差、湖面清澄にして小島を浮べ、古雅典麗なる古塔、亭榭の倒影を見る等興趣殆ど盡くる處を知らず。

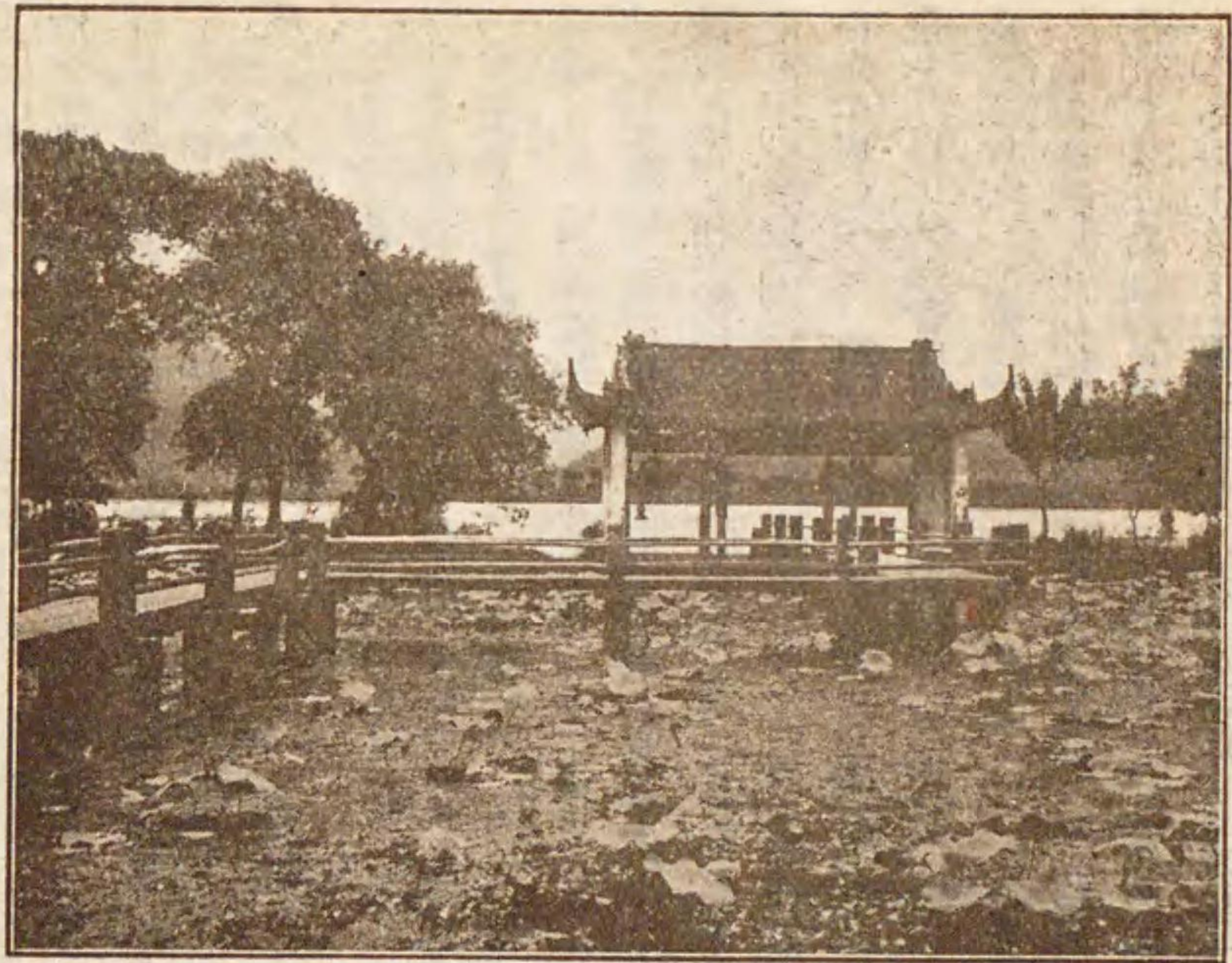
【西湖の船遊】 西湖の觀光は船遊を以て最も快適となす。畫舫は湖岸北面の孤山附近又は城の東邊湧金門外に於て雇ふを得べし。而して拱宸橋站に下車したる旅客は前者に、杭州站よりするものは後者に出づるを便とす。湖畔名勝の主なるもの左の如し。

【柳浪聞鶯】 (F 6) 清波門外湖畔の稱にして、湖面鏡の如く四周の風光宛然畫圖の如し。陽春垂柳靜に搖ぐ時、鶯の轉を聞くべし。

【雷峰夕照】 (E 9) 南岸長橋々畔より湖中に突出したる處に夕照山あり、山上に雷峰塔立てり。塔は吳越后妃の建立にして赤磚を以て築かるも、今や壞廢して殘骸を存するに止まりて、全面蔦を被むり夕陽之に映すれば詩趣更に深し。附近に夕照寺あり。

【南屏晚鐘】 (E 9) 夕照山の南方道路を隔て、南屏山あり、湖面の展望絶佳、晚鐘を聞くによし。

【蘇隄春曉】 (D 7) 湖の西邊に當り湖面を横りて南



三潭印月

北に連瓦する長堤あり、即ち謂ふ所の蘇隄にして途中斷絶して六橋を架す。宋代の詩人蘇東坡の築く處にして、堤上花卉楊柳を配し春曉の景致最も妙なりと。

【花港觀魚】(D9) 蘇隄の西側南基に在り、亭榭塘池の眺め佳く、池中には金魚、緋鯉の類を多く養へり。

【三潭印月】(D7) 蘇隄の稍中央、望山橋の正東に一小島あり。島上彭剛直の祠及退省庵あり、又島中更に池を設けて蓮花を植う。池中に三個の石塔鼎座し、月光潭に映すれば影を分ちて三となす、因て此名あり。三潭印月は西湖十景中の隨一と稱せらる。池畔に一茶亭あり、苦茗を供し蓮根製の澱粉、蓮實の砂糖漬等を售り、皆試味するに堪へたり。

【雙峰挿雲】 湖中より西方を望めば南高峰、北高峰の二峰竝立し、時に雙峰の間白雲來り懸りて妙景を呈す。雙峰挿雲の稱ある所以なり。

【湖心平眺】(E6) 孤山の南方小島上に湖心亭あり、西方雙峯と相對して風光絶佳なり。

【曲院風荷】 蘇隄の北端岳湖に蒞む處に一亭あり、康熙帝の建立に係り、附近に荷花多く、亭上薰風を容るべし。

建を見たり。寺の南方に飛來峯在り、巍峨たる岩石參差突兀し或は削立して情景頗る奇なり。又山中の石洞内には石刻佛像多數あり。

南星橋 Nan-shin-chiao (二九五) 車站は杭州城鳳山門外に在り、現に杭縣治下に屬す。此地より鳳山門を経て城内に通ずる水路あり、將來杭州寧波線の接續站たるべき重要なる地點にして、紹興方面旅客は當車站に下車し寧波運河の水路(第三九〇頁參照)を介して紹興曹娥江に至るべし。

閘口 Zeh-kou (二三六) 旅館江南、錢塘、江干(以上皆車站近附) 車站は杭州城外錢塘江(第三八六頁參照)の左岸に在り。滬杭鐵路の南端驛にして、杭州城市の咽喉を扼する水陸連絡の要衝なり。故に錢塘江上游各地方に出入する物資の積換港として市況旺盛なり。

【六和塔】 江干上流約二哩の江岸に突出せる丘陵角上に在り。周圍約二百呎、直徑約六十呎の十三層塔にして、登臨すれば江上點々たる白帆、洋々たる海灣悉く指顧の間に見えり、眺望極めて雄大なり。又錢塘江の潮嘯現象を觀望するに宜し。

【平湖秋月】(E5) 孤山の東麓に一亭あり、三水面水を繞らし中秋觀月の好適地たり。その他孤山の名勝舊蹟を擧ぐれば、島の西岸に俞樓(近代の文豪俞越の舊邸)あり、南岸に文瀾閣及聖因寺あり。文瀾閣は乾隆帝の行宮たりし處にして古書を藏し、聖因寺は康熙帝駐蹕の遺跡にして西湖四大寺の一に數へらる、古刹なり。

【斷橋殘雪】(F4) 孤山より裡湖を劃して陸に連らなる白沙隄に二橋あり、曰く錦帶橋、曰く斷橋。就中斷橋殘雪の景最も優ると、因て此稱あり。

【放鶴亭】 孤山の北麓に在り、往古宋の林和靖が鶴を飼つて閑居したる處、附近に古梅樹多く花時風流韻士の杖を曳くもの多し。

靈隱寺 (A7) 一名雲林寺と稱し靈隱山に在り。寺は咸和年中僧慧理の建立に係り、其後荒廢して順治年間僧宏禮の重建したる處、西湖四大寺の一にして境内には覺皇殿、直指堂、羅漢殿、金光明殿、輪藏閣、大樹堂、聯燈閣、青蓮閣、紫竹林、萬竹樓等ありたるも髮賊の亂に悉く炎上し纔に五百羅漢堂を残すに過ぎざりしが、清朝に至り宏大なる本堂の再

建を再興す。

杭州寧波間

杭州寧波間は未だ全路を鐵道に頼る能はず、即ち杭州より紹興を経て曹娥江に至る間は陸行及水路とし、曹娥江、寧波間は鐵路とし、但し近き將來に於ては全部鐵路に依るを得べし。

【運河水路】 滬杭甬鐵路の南星橋站より錢塘江を渡り陸行約四哩の西興に起り、廣漠たる沃野の間を縫うて走り、途中紹興を経て曹娥江に至る約五〇哩、民船二日以内の航程なり。

【紹興府】 Shao-hing-fu 杭州より三十餘哩、寧波より約六五哩、寧波運河の岸に蒞める大都會にして春秋には越王勾踐の都せし處、秦漢には會稽郡に屬し、南宋に至て紹興府の稱あり。府城は人口約二十萬を算し、堅牢なる城壁を繞らし街衢整然たり。物産には米穀、酒、棉花、絹織物、紙類、扇子等あり。就中當地特産の所謂紹興酒は最も著名にして殆ど支那全土に供給せられ、その一ヶ年の醸造高一億六千萬斤(約我六十四萬石)と稱せらる。杭州寧波間鐵道開通の曉には此地は沿途の主要驛たるべし。府城附近には有名なる

會稽山を首め其他名勝舊蹟多し。

【滬杭甬鐵路甬紹線】 現に開通せるものは寧波曹娥江間四八哩にして、兩站間直通列車(約二時間半乃至三時間) 毎日二回、寧波慈谿間區間列車二回あり。賃金一寧波曹娥江間一等二弗、二等一弗。

曹娥江 Tsao-ngo River 上虞縣に屬し現在の甬紹線西端驛なり。附近に舜廟、曹娥廟等の名勝あり。

曹娥江站より前途概ね運河の流域に沿うて東走し百官 Parkwan (一哩以下皆準之)、驛亭 Yi-ting (五夫

Wu-fu (四哩)、馬渚 Mo-tse (一哩七)を経て餘姚に至る。餘姚 Yu-yao (一八哩八) 車站は城の北廓外に在り、餘姚

縣の所在地にして慈谿と共に本線沿途の主要驛たり。此地は王陽明の生地として名あり、新舊二城は江を隔て、相對し通濟橋に依り相通ず。

餘姚に次び蜀山 Su-shan (三哩九) あり。それより慈谿縣界に入り丈亭 Chang-ting (三哩六)、葉家 Yi-kia (三哩三)、慈谿 Tse-ti (三哩一)、洪塘 Hung-tang (一哩一)、莊 Chwang-chiao (三哩)を過れば寧波なり。

寧波 Ning-po (五哩三)

【到着】 曹娥江方面よりする鐵路行客は甬江の北岸外國租界なる寧波車站に下車すべし。

【上海定期船便】 寧紹輪船(毎週六回)、太古 China Navigation Co. 汽船(毎週三回)、招商局輪船(毎週三回)等あり。賃金一等片道十弗、往復十五弗。上海よりする此等定期船客は杭州灣より甬江を溯ること約十三哩の租界碼頭に上陸するを例とす。

旅館 中村旅館(碼頭)、寧安、寧紹旅館(同興)、四明、甬江旅館(碼頭)、華安、甬安旅館(碼頭)等。

市街概観 甯波は杭州府城より約一〇〇哩、上海より海路一三〇哩、運河と甬江との會流點に位置し、支那沿岸に於ける外國貿易港中最も古き歴史を有するもの、一なり。人口約二十六萬を有し、市街は府城、外國租界及支那市街に分たる。【府城】甬江の左岸、運河を隔て、外國租界と相對し、周圍約五哩高二十五呎の卵形城牆を繞らし、五門(南—長春門、西—望京門、北—永豐門、和樂門、東—雲橋門)を有す。一名甬城と稱し、街衢壯麗にして支那諸官衙、學校等あり、商況亦殷盛なり。就中雲橋門外新江橋よる老江橋に通ずる街路最も繁華なり。又新江橋及老江橋は夫

夫對岸の支那市街及外國租界に通ずる唯一の橋梁たり。【外國租界】 運河を隔て、府城の東北に相對し、江岸通には英國領事館を首め外國商舖、海關、車站、各汽船會社碼頭及倉庫等相連なれり。

【沿革】 此地唐初に鄞州の地、後明州餘姚郡と改め、宋代明州慶元府と稱し、元に慶元路、明初に明州府と呼び、其後寧波府と改稱せらる。古來我國との關係極めて深く遣唐使の往來、唐船の來東等専ら此明州を經由せりと傳ふ。又西歐諸國との交渉も古くより開かれ、葡萄牙人は一五二二年來りて通商を始め、十七世紀末葉には英國東印度會社此



六和塔 (三九八頁)

地の占據を余て、一八四一年に至り阿片戦争勃發するや英軍は舟山列島(甬江口外)及寧波を占領し、翌年南京條約を以て廣東、厦門、福州、上海の四港と共に外國五市場として開放せられ以て今日に至れり。

官衙銀行等 鄞縣知事公署(内城)、英國領事館(租界)、法國郵便局(上)、中國郵政局(上)、中國電報局(上)、江北總會 (Campo Club)、浙海關、招商局、寧波商務總會、美益洋行、遂昌洋行、亞細亞火油公司、太古洋行、寧波商業銀行、中國銀行等。此他外人經營の教會、學校、病院等あり。

貿易 寧波の外國貿易は附近沿岸諸港の大發展に蠶食せられて曩日の如く隆盛ならずと雖、一面内國貿易は著しく發達せり。今一九一七年度の貿易總額を擧ぐれば二千五百萬兩(前年度二千九百六十萬兩)に達し、輸出品は石油、綿布、燐寸、砂糖、鐵、雜貨等を主とし、輸出品に在りては粗帽、蓆、扇子、傘、毛氈、茶、落花生油、魚類等を擧ぐべく、就中魚類は地方物産の大宗にして舟山列島附近を主要漁獲地とし年額七十萬兩を算すと。

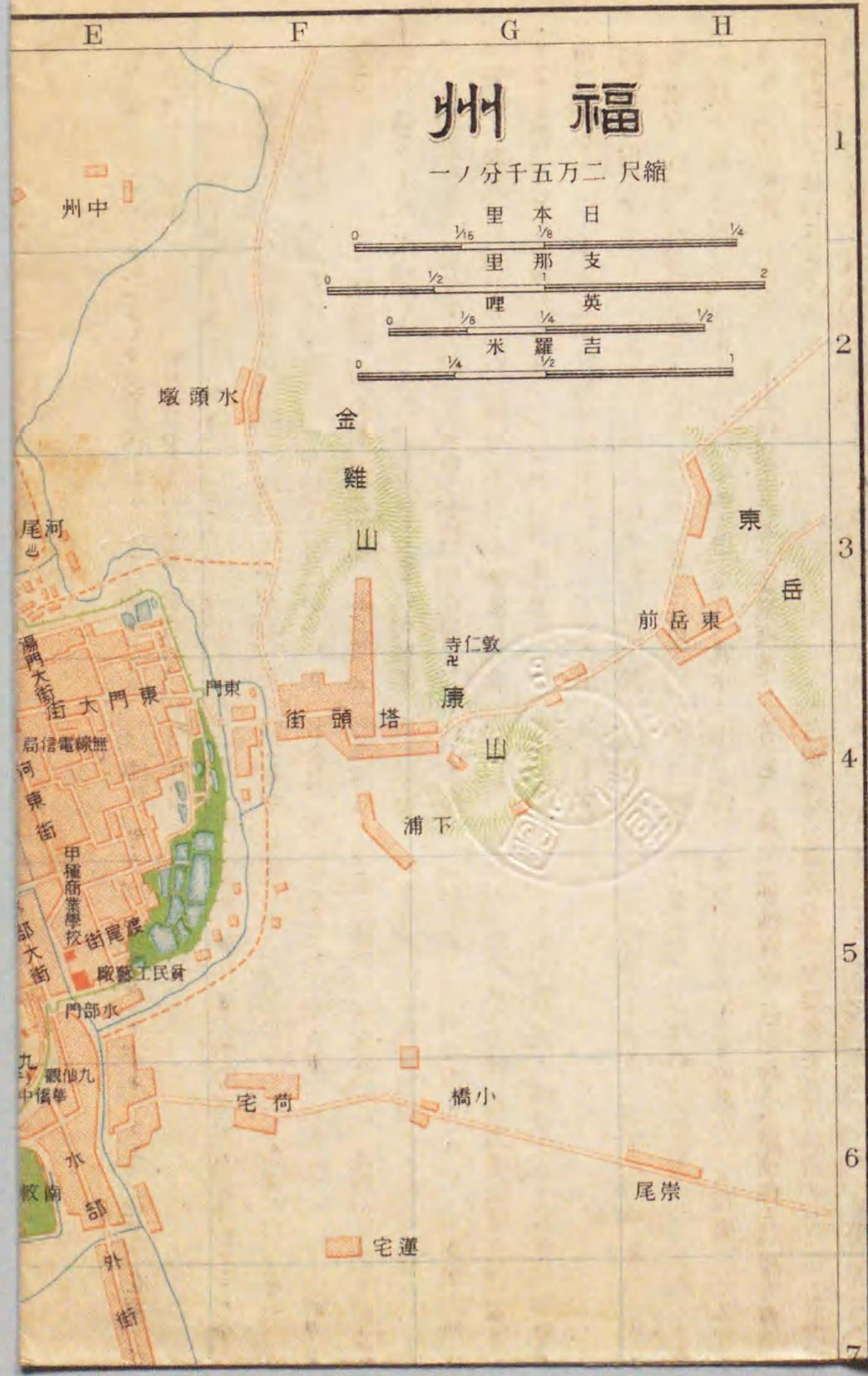
【月湖】 車站の西南約一哩半に在り、其形狀半月の如きを以て此名あり。周回約一哩四、風光明媚にして湖中に柳

汀、雪汀、芳草洲、芙蓉洲、菊花洲、月島、松島、花嶼、煙嶼、竹嶼の諸島點在す。

【舟山列島】 浙江海の殆んど全海面に基布する大小百餘の島嶼の總稱にして、其の第一島の形狀舟に似たるを以て此名あり。阿片戦争當時一時英軍之を占領し、後不割讓條件を附して支那に還附したる處なり。列島中の主島舟山島は長二五哩、幅六哩乃至十哩、周圍五〇哩餘を算す。

【定海】 Ting-hai 舟山島南岸に在り、定海廳の所在地にして、人口約三萬、良港を擁し商業稍繁盛なり。寧波より小汽船便あり。市内には佛國人經營の天主教堂、附屬病院、學校等あり。

【普陀山】 舟山島の東方約一哩半の海上に在り。周圍僅に三哩半の小島なれども古來觀音の靈地にして、山西の五臺山、四川の峨眉山と共に支那佛教の三大靈場として其の名著はる。島中に普濟禪寺、法雨禪寺、慧濟禪寺、隱秀禪寺、白華院等の伽藍あり、支那各地よりの參詣者多く、香煙纒々として絶えず。又大小幾多の寺閣、堂宇、僧房、碑碣等殆ど全島を蔽ひ、日々勤經の僧無慮二千名に上ると稱せらる。



途路 36 福州 Foo-chow

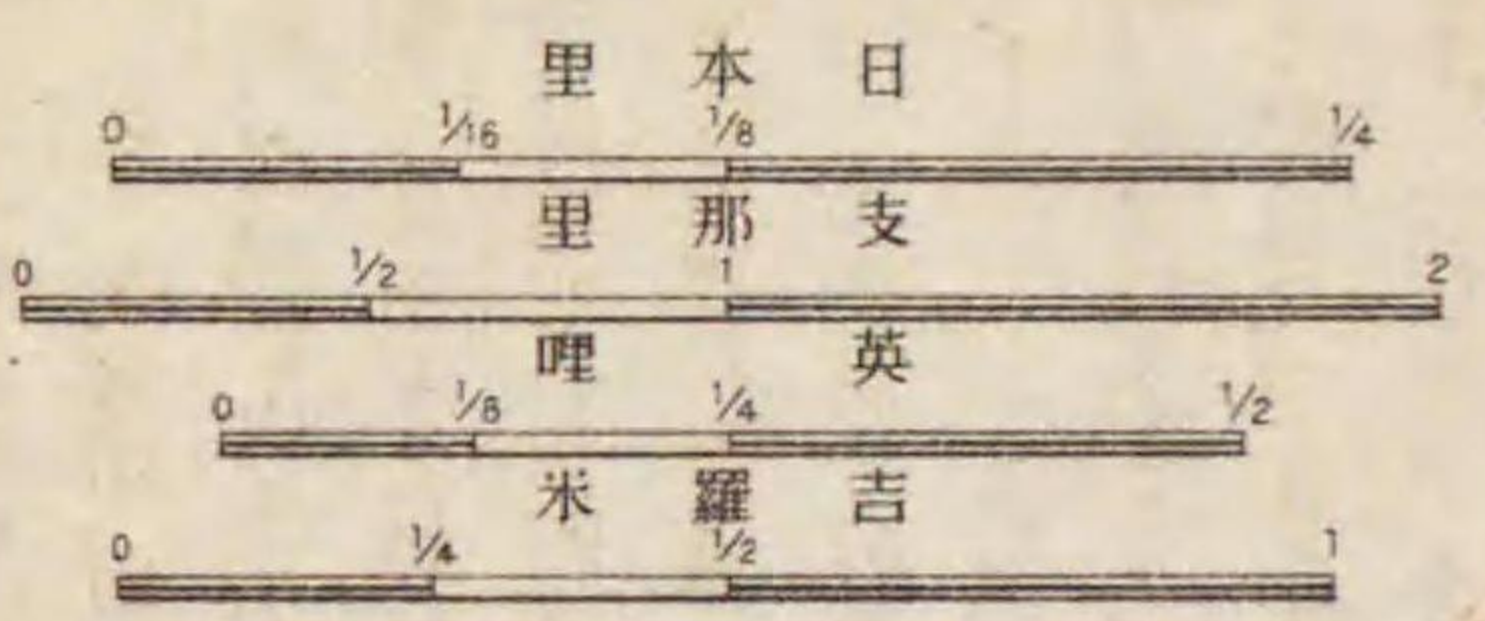
及其附近

【到着】福州は南支那海に朝宗する閩江の上流三四哩にあり。東方基隆より一二五哩、北方上海より四三三哩、南方香港より三八八哩にして、此等各方面よりする船客の福州到着は閩江を溯ること二五哩、馬尾 Pagoda Anchorage に於て一旦碇泊し、是より一二哩、南臺渡船浦なる海關碼頭或は各汽船會社碼頭に上陸す。此間約一時間半の行程なり。



福州

一ノ分千五万二尺縮



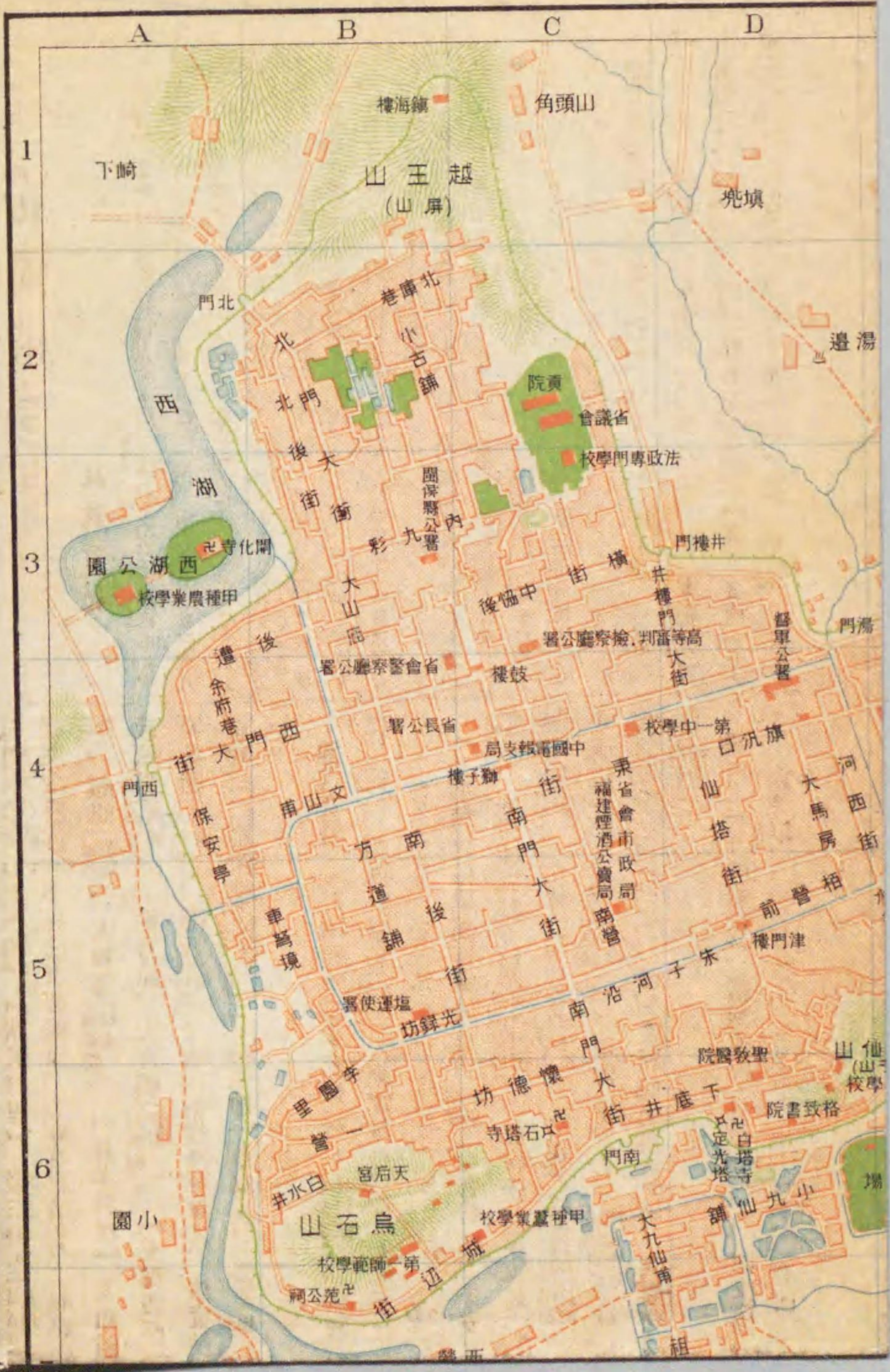
宿料三〇仙乃至一弗。【歐風料理】臺三山座(南臺新街)城三山座(東城街)共に支那飯莊、茶樓を兼業せり。順記(南臺)順記(城內)大和館(南臺)【日本料理】大和館、武藏野(南臺)笹乃屋、大吉樓(南臺)【支那飯莊】聚春園(南臺)南軒(南臺)共に茶樓を兼業す。廣資樓、廣復樓、廣陞樓(以上南臺)【茶樓】華清池、善其泉(南臺)通信官署【外國局】日本郵便局(G11南臺)佛國郵

途路 36 福州 Foo-chow

及其附近

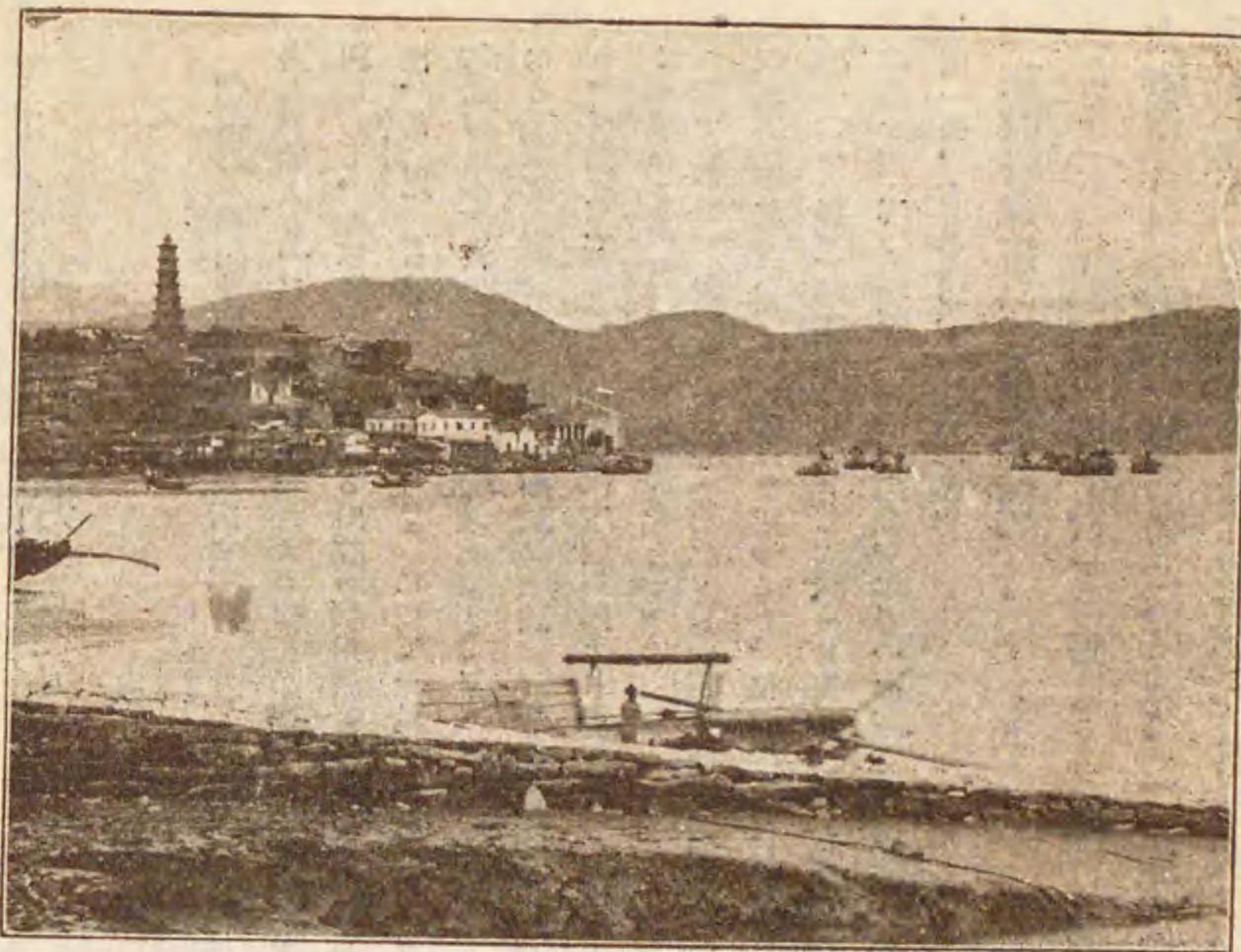
【到着】福州は南支那海に朝宗する閩江の上流三四哩にあり。東方基隆より一二五哩、北方上海より四三二哩、南方香港より三八八哩にして、此等各方面よりする船客の福州到着は閩江を溯ること二五哩、馬尾 Pagoda Anchorage に於て一旦碇泊し、是より一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百〇一、一百〇二、一百〇三、一百〇四、一百〇五、一百〇六、一百〇七、一百〇八、一百〇九、一百一〇、一百一〇弗、半日五弗、一日一〇弗。

【歐風旅館】ブランド・ホテル Brand Hotel (G 11 南臺) 宿泊料一〇弗以上。【日本旅館】大和館 (G 11 南臺) 同三弗乃至五弗。【支那客棧】于盧 (南臺) 南樓 (橋頭) 閩江樓 (江汛) 第一樓 (同上) 以上



宿料三〇仙乃至一弗。【歐風料理】臺三山座 (南臺) 城三山座 (東城) 共に支那飯莊、茶樓を兼業せり。順記 (南臺) 順記 (南臺) 大和館 (南臺) 武藏野 (南臺) 笹乃屋、大吉樓 (南臺) 聚春園 (南臺) 南軒 (南臺) 廣資樓、廣復樓、廣陞樓 (以上南臺) 【茶樓】華清池、善其泉 (南臺) 村。

通信官署 【外國局】日本郵便局 (G 11 南臺) 佛國郵便局 (同上) 獨逸郵便局 (同上) 大東電報局 Eastern Extension Australasia & China Telegraph Company (南臺) 【支那局】福建郵務總局 (G 11 南臺) 郵務城二等支局 (南臺) 郵務城三等支局 (南臺) 郵務臺三等支局 (南臺) 中國電報支局 (南臺) 無線電信局 (E 4 南臺) 福州電話城交換所 (同上) 同臺交換所 (南臺) 銀行 【外國銀行】臺灣銀行 (G 11 南臺) 同支店 (南臺) 滙豐銀行 Shanghai Hongkong Bank (F 12 南臺)



(頁三九三) 地 錨 尾 馬

【支那銀行】福
 舖井 渣打銀行 Chartered Bank (同前) 福建銀行 (同前)
 中國銀行 (同前) 同支店 (同前) 福建銀行 (同前)
 街、同支店 (同前) 同支店 (同前) 同支店 (同前)
 領事館 日本領事衙門 (E 12)、英國 British 領事衙
 門 (E 12)、美國 American 領事衙門 (同前)、法國 French
 領事 (E 13)、德國 German 領事館、和國 Dutch 名譽
 領事以上 (同前)、墨國 Mexican 名譽領事 (同前)。
 市街概観 福州市は之を二大別して城市及南臺となす。
 在任支那人約六十萬、居留外人千五百八十餘名を算す。
 【城市】 閩江左岸を北に距る約三哩に在り。南方烏石
 山及九仙山を擁し、北方越王山に跨りて周圍約五哩の高
 壁を繞し、壁上銃眼を穿ち百歩に一樓を築き、每樓必ず舊
 駁二門を備ふ。又東 (E 4)、西 (A 4)、南 (C 6)、北
 (A 2) 四門の外に井樓門 (D 3)、湯門 (E 3)、水部
 門 (E 5) の三門を設け、此等諸門を起點として東門大街、
 西門大街、南門大街、北門大街、其他井樓門、湯門、
 水部門の各大街等縱横に交錯せり。就中最繁華なるを南門
 大街とし、食料品、雜貨、錢莊等の店舗鱗次して四時熱鬧の

巷を成せり。特に鼓樓及獅子樓 (C 4) 附近には巨商の店舗
 並に大小官衙亦多く集中せるあり。其他南後街、督府街に
 は書畫骨董店多く、井樓門街、西門大街には藤椅子、行
 李及小禽類の商舖稠密なり。

又東門大街及湯門大街一帶の地は往昔所謂滿洲旗人の
 住宅區たりしが、革命の際兵火に罹りて全區殆ど烏有に歸し、
 今尙其の一半を回復するに至らず。

【南臺】 城市南門外より閩江々岸に到る街區並に對岸の
 蒼前山及泛船浦一帶を合稱して南臺と謂ふ。或は單に
 後者のみを斯く呼ぶとあり。

南門外より江岸萬壽橋畔に達する間は約三哩、狹長なる
 市街を成し、商取引極めて旺盛にして此に百貨の間屋檐を連
 ね、其の殷賑南門大街に譲らざるものあり。本街區と外人居留
 地間は一小島中洲 (E 11) を中繼點として、萬壽橋、蒼前橋
 一名江南橋の二石橋を架す。

外人居留地は之を二區分して蒼前山及泛船浦となす。前
 者には各國領事館を首め教會、病院、俱樂部、住宅等丘陵
 を負ひ、松樹の間に點在して白堊青松の美觀を呈せり。後者

は旅館、郵便局を首め汽船會社、銀行、商舖等の櫛比せる處、
 又其江岸には各碼頭ありて水陸出入の要衝に當れり。

【沿革】 福州は古來有名なる茶の産地として夙に外人の注目を惹き
 し處、漢代 (西紀前一〇六年) に所謂閩越、唐代 (西紀六一八年) に閩
 州の地なり。その福州府治を置き城市を創建せしは實に明朝の初代
 (西紀一三七一一年) に係れり。降て清朝 (十七世紀末葉) に至るや、地
 方動亂の鎮撫に任せむ爲滿州八旗の大軍此に駐屯することとなり、次
 で西紀一八六一年、英清締結の南京條約に基きて互市場の一に加へら
 れ、爾來漸次省城の繁榮を誘致し、今や市場は閩江の兩岸に擴大し、
 江面には帆檣林立の盛觀を呈するに至れり。

- 主要官公署 福建軍公署 (D 4 軍署)、福建省長公署 (C 4
 督理)、鹽運使署 (B 5 坊)、財政廳 (皇華)、閩侯縣公署
 (B 3 舊福州)、閩海道公署 (同前)、閩海關監督署 (G 11 南臺
 浦)、外交 特派交涉員公署 (G 12 上)、閩海關公署 (E 11 中)、
 水上警察廳 (南臺蒼)、福建 高軍檢察廳、上審判廳 (C 3 城內按
 閩侯 地方審判廳、同前)、省警察廳 (B 4 同前)、省
 市政局 (C 5 同前)、福建 煙酒公賣局 (C 4 上)、福建 禁煙總局
 (同前)、福建 通志局 (同前)、省議會 (C 2 同前)、省教育會
 (同前)。

主要學校 【外人經營】東瀛學校(南臺)、格致書院 Foochow College (D 6 內城)、英華書院 Anglo-Chinese College. 三一學校 Trinity College. (F 12)、建協和大學 Fukien Union College (以上南臺)、協和醫學學校 Foochow Union Medical College. 協和師範學校 Foochow Union Normal School. (內城)、協和道學校 Foochow Union Theological School (南) — 以上三校は協和大學の附屬なり。華英女塾 South China Women's College. 毓英女塾 Foochow Girls' School (南)。

【支那人經營】立法政專門學校(C 3 城內貢)、立工業專門學校(同前)、公立商業學校(E 5 尾街)、同農業學校(A 3 同西)、同蠶業學校(C 6 光寺)、立第一師範學校(B 6 烏石)、立第一中學校(C 4 同三)、同第二中學校(同府)、立女子師範職業學校(同布)、立法政專門學校(C 3 水井)、立女子中學校(同後)、華僑中學校(D 6 峯坊)。

圖書館新聞 省立第一圖書館、教育會附設閱書報社(城內)。福建公報、閩報、民生報、去毒鐘日報、The Foochow Daily Echo.

病院 柴井病院 Church Mission Hospital (英人經營、城內北門)、聖教醫院 Medical Missionary Hospital (D 6 柴井)、馬高愛女醫院 Magaw Memorial Hospital (經營、同太平街)、塔亭醫院 Foochow Native Hospital (英人經營、南臺塔亭街)、龍山醫院 Dragon Hill Hospital (同上)、博濟醫院 (F 12 邦人經營、同前山)、共和醫院(船浦)、仁民醫院(支那人經營、同前山)。

地方交通 【閩江水路】福州を中心として閩江の上下流各地に通ずる水運の便は其の範圍頗る大なるものあり。即ち南臺なる萬壽橋を起點として、下流は馬尾(約100里)、尙幹(約30里)、長樂(約20里)、瑄頭(4里)及長門(四里)の各地に至るもの、又上流は洪山橋を経て水口(約70里)に至るもの、以上孰れも毎日一回の小汽船便あり。

水口より上游延平(約70里)附近迄は江幅尙千二百尺を下らざるも、河身に岩石突出の箇所尠からず流勢亦不同にして小蒸汽船の通航不可能なり。乃ち水口以北の流域地方間には各其の水路に適應する大小民船ありて閩江本支流を縦横に來往せり。而して此等民船の通航區域は延平より以上中央、東、西の三方面に岐かれ一は洋口、邵武を経て光澤に至

る約一〇〇里。二は北東建寧を経て浦城(約140里)、松溪(100里)、崇安(約120里)に至り、三は西南永安を経て寧化に至る約二四〇里等其の包括せる地方實に四府、一州三十縣に跨り、二十七城市を連ぬ。而して上記永安、洋口、建寧を閩江上流に於ける水運上の三大中心となし、地方の物資は一度此等の都邑に集中して後福州に向ふものとす。

【福建陸路】福建省は所謂南嶺大山系の餘波連亘起伏する處にして、地勢頗る險峻、隨て其の陸路の如きも亦險惡言ふ可らず。されば福州を中心として南方興化、北方寧德及福寧に通ずる通路あれども、特に陸行を必要とする商旅の轎子、或は土貨を運搬する擔夫の外は常に水路を撰ぶを便とす。

商業 【貿易額】最近西紀一九一七年度に於ける輸入額一〇、五八五、五七六兩、輸出額九、五二九、〇三四兩、計二〇、一一四、六一〇兩を計上せり。

【輸出入品】輸出品は茶を大宗とし、木材、竹、紙等之に亞げり。輸入品は綿布、綿絲、石油、燐寸、砂糖、金屬類等とし、孰れも上海及香港より再輸入す。

【商業機關】商務總會(南臺上)、泰西商會 British



(頁九九三) 樓海鎮山玉瑤